RANGE ROVER

Owner's Handbook
取扱説明書

RANGE ROVER

取扱説明書

取扱説明書

この取扱説明書はレンジローバーを対象にしています。ハンドブック セットを構成する他の文書類とともに、レンジローバーを所有し、運転する上で、最大の歓びを引き出すために欠かせない情報を提供しています。

使いやすさを考えて、取扱説明書は複数の章で構成されています。各章ごとに車両のさまざまな側面を取り上げております。詳しい内容は、次ページの目次をご覧ください。お車を運転する前に、それぞれの章に目を通し、お客様のレンジローバーについて、できるだけ多くの予備知識を吸収しておくことをお勧めします。予備知識が豊かであればあるほど、実際に運転席に座り、ステアリング ホイールを握ったときにより大きな満足感を味わっていただけます。

重要事項

車両の仕様は、各国の規制やモデルにより異なる場合があります。本書に記載されている内容がお客様の車と若干異なる場合もありますので、ご了承ください。

ランドローバーの方針は、絶えず製品の改良をし続けることであり、そのため予告なく車両の仕様を変更する場合がありますので、ご了承ください。本書の内容については十分に注意を払い、万全を期しておりますが、万一、本書の内容に誤りがあったり、不正確だったりしたために生じた損失、破損、身体の傷害などを引き起こした場合につきましては、本書製作者または正規ディーラーは一切責任を負いませんので、ご了承ください。ただし、メーカーまたは正規ディーラーの過失により生じた傷害につきましては、この限りではありません。

目 次

はじめに iv

装置と計器類

装置と計器類. 3
ロック. 5
シート. 14
シートベルト. 22
チャイルド シート. 27
SRS エアバッグ. 30
ステアリング コラム. 37
ドア ミラー. 38
計器類. 40
トリップ コンピューター. 42
メッセージ センター. 43
警告灯. 50
警告音. 53
照明と方向指示器 54
ワイパーとウォッシャー 58
ホーン. 61
パワー ウィンドウ. 62
サンルーフ * 64
ヒーターと換気. 66
室内装備 75
荷室カバー 86
携帯電話 88
オーディオ システム. 89

運転操作

エンジンの始動と走行. 93
触媒コンバーター 99
燃料供給システム 101
パーク ディスタンス
コントロール * 104
オートマチック ギアボックス 106
トランスファ ギアボックス 112
クルーズ コントロール * 114
ブレーキ 116
ダイナミック スタビリティー
コントロールと
トラクション コントロール 120
ヒル ディセント コントロール. 122
電子制御エア サスペンション 124
けん引. 128
荷物の積載 133

オフロード走行

オフロード走行. 137
走行テクニック. 142

点検整備

点検整備. 151
ボンネットの開け方 155
エンジン ルーム 156
エンジン オイル 157
冷却システム 159
ブレーキ. 161
パワー ステアリング. 163
ウォッシャー 165
ワイパー ブレード 167
バッテリー. 168
タイヤ 170
車の清掃とお手入れ 173
パーツとアクセサリー. 176

緊急時の情報

タイヤ交換. 181
緊急時のエンジン始動. 189
非常時のけん引. 194
ヒューズ. 198
電球の交換. 204

テクニカル データ

テクニカル データ 219
サービス データ 228

さく引 231

はじめに

運転の前に

⚠ 警告

レンジローバーは、地上高を高めに設定してあり、したがって通常の乗用車に比べて重心が高い位置にあります。そのため、ハンドリング特性も通常の乗用車とは異なります。この種の車両の運転経験が浅い方は特に慎重に運転をするよう心がけ、とりわけオフロードを走行するときや、滑りやすい路面での急なステアリング操作は慎重に行ってください。

本書で使用している記号について

この取扱説明書では、お客様に注意を促すため、以下のような記号を使用しています。

- 安全に関する表示

運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあることを、下記の表示で記載してあります。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重要な傷害に至るもの

⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重要な傷害を受ける可能性があるもの

⚠ 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

- その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

車のために守っていただきたいこと（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています）

知識

知っておいていただきたいこと／知っておくと便利なこと

このリサイクル記号が表示されている部分には、環境に不必要な悪影響を及ぼさないために、安全に処理する必要のある部品、消耗品に関して記載されています。

この記号が表示されている部分は、ランドローバー正規ディーラーにて調整または解除や再設定の可能な機能であることを示しています。

***** この記号付きの機能および装備品は、オプション装備か、または装備できるモデルが限られていることを示します。

はじめに

安全に関する表示

この取扱説明書では、お客様の安全に関する警告が記載されています。この警告が表示されている部分は、乗員の怪我や車両に重大な損傷を与えることを防ぐため、必ず守っていただかなければならない手順や、細心の注意を払う必要のある事項が記載されています。

VIN（車両識別番号）

この番号はお車ごとに異なっており、これを手がかりに車両の重要な情報（仕様）を知ることができます。また、この番号はお車の前面ガラス左下隅の見える位置および右側フロント サスペンション タワーの前面に記載されています。

新車を購入された時

全てのオーナーと ドライバーに最適な運転をしていただくように、次の小冊子が車に添付されています。

1. **取扱説明書：**いまお読みになっているこの取扱説明書には、レンジローバーの一般的な説明をはじめ、サービス上の注意事項、日常のメンテナンスの方法等、大切なことが記載されています。
2. **メンテナンス ノート：**メンテナンスノートには、ランドローバーが提供する保証の詳しい説明、知っておくと便利なアドバイスが記載されています。中でも、点検整備に関する部分は重要で、必要な整備項目のほか、初回無料点検ならびに定期点検整備の記録簿が含まれています。定期的に点検整備をお受けになった場合、ランドローバー正規ディーラーによる署名、押印によって実施内容を証明します。
3. **ディーラー ネットワーク：**全国のランドローバーを取り扱っている正規ディーラーおよびサービス協力工場が記載されています。旅先などでお困りの際は、最寄りのランドローバー正規ディーラーおよびサービス協力工場にご相談ください。
4. **オーディオ システム取扱説明書：**オーディオの機能および操作方法を説明しています。
5. **ナビゲーション システム取扱説明書：**ナビゲーションの機能および操作方法を説明しています。

車両に貼られている警告ラベル

このマーク付きのラベルが貼られている部分では、手を触れたり、調整作業を行う前に、必ず取扱説明書の該当箇所をよくお読みください。

このマーク付きのラベルが貼られている部分は、高電圧のかかるイグニッション システムに関連する箇所であることを示しています。イグニッション スイッチをオンにしたまま、これらの構成部品に手を触れることは絶対にお止めください。

SRS エアバッグ / チャイルド シート ラベル

SRS エアバッグとチャイルド シートに関する詳しい情報は、当取扱説明書の関連セクションをご覧ください。

緊急時の対処

アドバイス

以下は、故障時の基本的な安全規則です。覚えておいてください。

走行中に故障が起きた場合

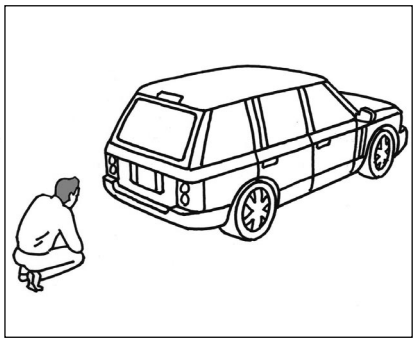
- 交通の安全および交通事情に配慮しながら、速やかに車両を安全な退避場所に移動します。高速道路で故障が起きた場合は、路肩に車両を退避させます。
- 非常点滅表示灯を作動させます。
- できれば、車両後方からある程度離れた後続車から良く見える位置に、非常停止表示板（三角表示板）を設置します。
- 後続の車両による追突事故に備え、乗員を最寄りのドアから路上に誘導し、道路際に避難させます。

Point 1　お出かけの前に

安全・快適ドライブの６ポイント

点検を忘れずに。〈メンテナンス ノート参照〉

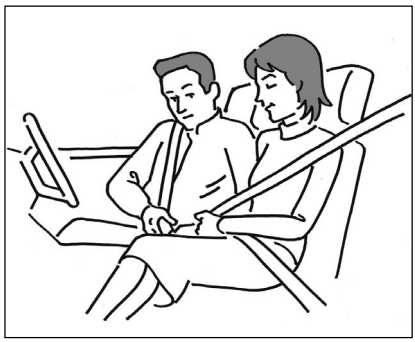
- 安全・快適にお使いいただくために、点検要領に従って必ず点検しましょう。
- 普段と違う点に気付いたら、ランドローバー正規ディーラーで点検を受けてください。（音、におい、ブレーキ液の不足、地面に油のあとが残っている時…）



- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚などを感じたら早めに点検しましょう。

シートベルトを正しく着用。〈22 ページ参照〉

- 運転する人はもちろん、同乗する人にも着用させましょう。
- シートに深く腰かけ、背もたれは必要以上に倒さないでください。

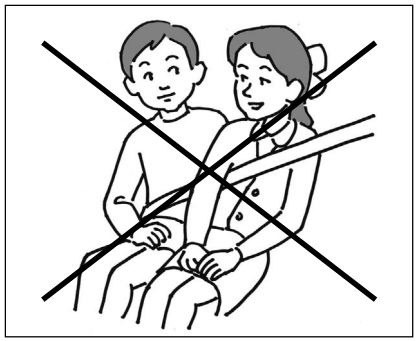


Point 1　お出かけの前に

- 腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。
- ベルトにねじれがないか確かめてください。

- ベルトが首、あご、顔などに当たらないようにしてください。

- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。



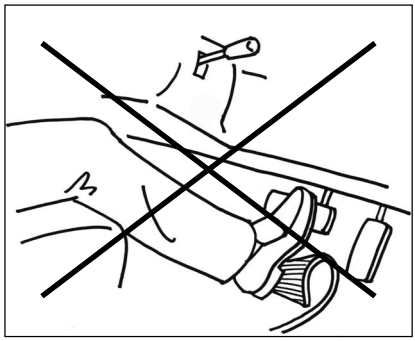
Point 1　お出かけの前に

燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

- **引火、爆発の恐れがあります。**

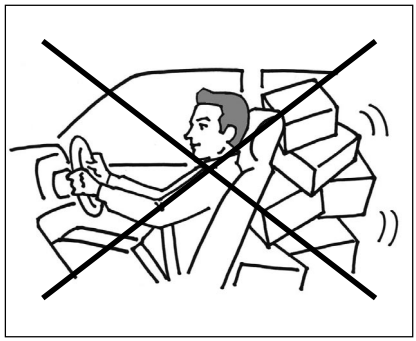
運転のさまたげになるものには注意を。

- 運転者の足もとに、物を置かないでください。
- フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。
  - **ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできない恐れがあります。**



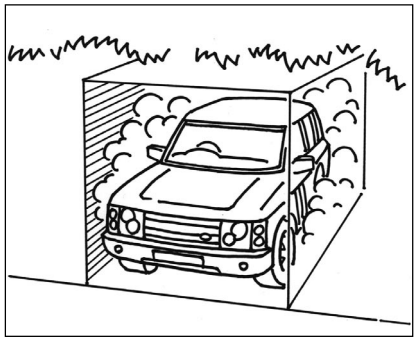
Point 1　お出かけの前に

- 手荷物はシートの高さを越えないようにしましょう。
  - **後方視界をさまたげたり、急ブレーキの時などに荷物が飛び出す恐れがあります。**



排気ガスには十分に気をつけて。

- 排気ガスには無色･無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒の恐れがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。
  - **車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒の恐れがあります。**
- 排気管に穴や亀裂があったり、排気音の異常に気付いたらランドローバー正規ディーラーで点検を受けてください。
  - **排気管の腐食による穴や損傷による亀裂があると車内に排気ガスが侵入する恐れがあります。**



Point 2　お子様のために

ドア、ウィンドウ、サンルーフ、シート等の操作は必ず大人が。

- 手、足、首などをはさまないよう、気をつけてください。
- 必要に応じて後席ウィンドウ ロック スイッチを作動させてください。
- 走行中、一時停止の時など、窓から手や頭、物などを出さないよう、注意してください。
  - **思わぬ障害物で事故の恐れがあります。**

車から離れる時は、お子様も一緒に連れて。

- お子様だけを車内に残さないでください。
  - **炎天下の車内は、命にかかわるほど高温になります。**
  - **お子様のいたずらにより車の発進、火災などの思わぬ事故につながる恐れがあります。**

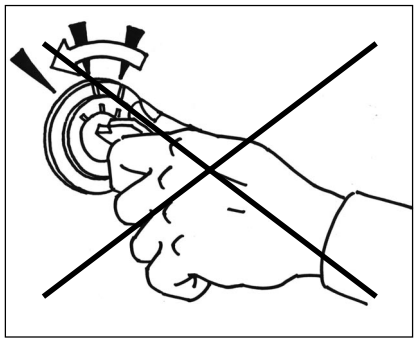
お子様にもシートベルトを。〈27 ページ参照〉

- お子様にもシートベルトを着用させるか、チャイルド シートなどをお使いください。お子様を抱いていても、衝突した時などに支えることができず危険です。
- お子様の首やあごにシートベルトがあたる場合や、腰骨にかからない場合はチャイルド シートなどを使用してください。
  シートベルトをそのまま使うと衝突の時に胸部などに強い圧迫を受ける恐れがあります。

※ 2000 年 4 月 1 日施行された道路交通法の改正により、6 歳未満のお子様にはチャイルド シートの着用が義務化されました。

Point 3　状況に適した運転を

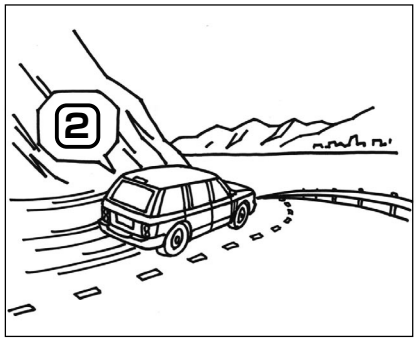
- 走行中ステアリング ホイールの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。
  - **ステアリング操作のさまたげになり大変危険です。**
- 走行中はエンジンを止めないでください。
  - **ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキのききが悪くなります。**
  - **パワー ステアリングのパワー装置が働かなくなり、ステアリング操作が重くなります。**
- 走行中はキーをスイッチから外したり、**「0」**位置にしないでください。
  - **ステアリングがロックされ、かじとり操作ができず大変危険です。**



長い下り坂では [1]エンジン ブレーキを。

- ブレーキ ペダルを踏み続けて走行するとブレーキが過熱して、ききが悪くなることがあります。
- 長い下り坂では走行速度に合わせ、**「2」**を使って、エンジン ブレーキを併用してください。エンジン ブレーキを最大限にかける必要がある時には、**「1」**を使用してください。オフロード走行中は、HDCを常時選択しておくことをお奨めします。<122～123ページ参照>

[1] エンジン ブレーキとは、走行中アクセル ペダルを戻した時にかかる制動力で、低速ギアほどよくききます。



Point 3　状況に適した運転を

雨天時の走行には注意を。

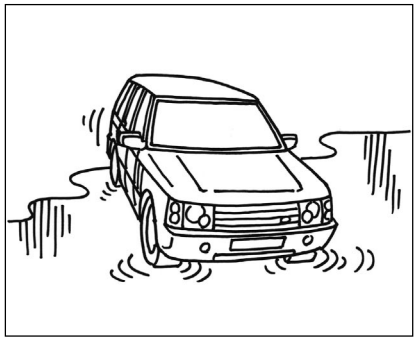
- 雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため、通常より注意深い運転が必要です。
  - **急加速、急ブレーキや急なステアリング操作を避け、スピードを落として安全に心がけてください。**
- わだちなどの水のたまりやすい場所では、[1)]ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

[1)] ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行しようとした時に、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。このような状態になると、ステアリング操作やブレーキがきかなくなり、非常に危険です。

Point 3　状況に適した運転を

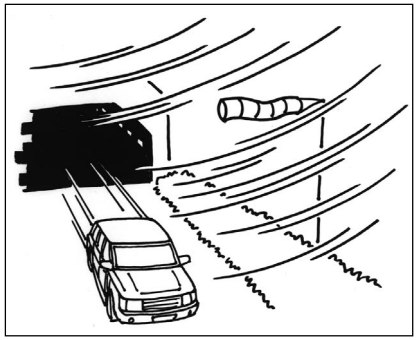
水たまりに入ったあとはブレーキのきき具合を確認。

- 水たまり走行後や洗車後は、ブレーキ ペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。
  - **ぬれたブレーキはききが悪かったり、ぬれていない片側だけがきいてステアリングをとられることがあります。**
- ブレーキのききが悪い時は、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキのききが回復するまで、繰り返しブレーキ ペダルを踏んでください。



横風の強い日は。

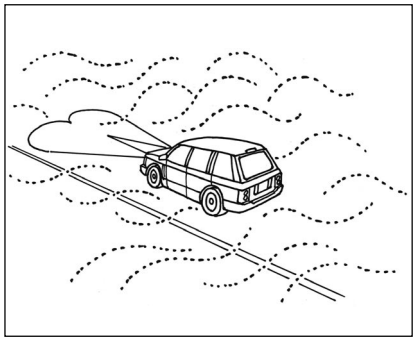
- 横風を受け、車が横に流されるような時は、ステアリングをしっかり握り、スピードを除々に下げて進路を立て直してください。
  - **トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通し、大型トラックを追い越したり、追い越されたりする時などには、特に横風が発生しやすいので十分注意してください。**



Point 3　状況に適した運転を

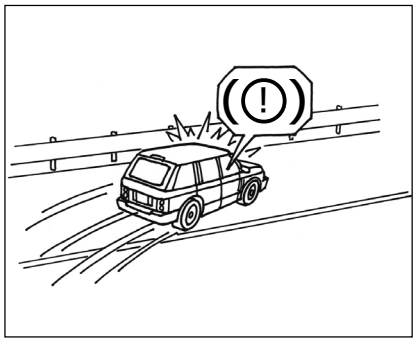
霧が出た時は。

- 霧が出た時は、視界が悪くなりますので、前照灯を早めに点灯します。前照灯は必ず下向きにし、中央線、ガードレールや前の車の尾灯などをめやすにして、速度を落として運転してください。



走行中異常があったら。

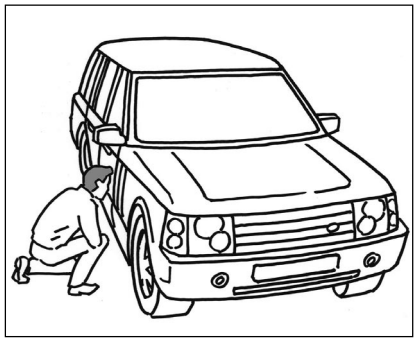
- 警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。〈50 ～ 52 ページ参照〉
  - **点灯したまま走行を続けると、思わぬ事故のもとになったり、エンジンなどを損傷する恐れがあります。**



Point 3　状況に適した運転を

走行中異常があったら。

- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずに、ステアリングをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
  - **急ブレーキや急なステアリング操作は車のコントロールを失うことがあり危険です。**
- 床下に強い衝撃を受けた時は、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。
  - **ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながる恐れがあります。**



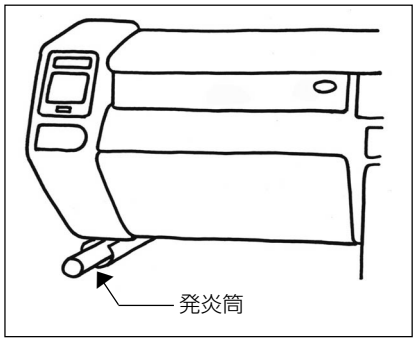
車両故障時における安全確保

- 可能な限り道路の安全と交通事情に合わせて、車両を路側等に寄せて車の流れから外してください。
  高速道路で故障が発生した場合、路側帯に止めてください。
- 非常点滅表示灯を点灯させてください。
- 可能ならば停止表示板または発炎筒を、故障車があることを他の車両に知らせるのに十分な距離に置いてください。
- 他の車両がお客様の車両に衝突されても安全な距離に同乗者を避難させてください。その際、路肩に最も近いドアから、降車するようにしてください。

Point 3　状況に適した運転を

走行中異常があったら。

- 路上で故障した時は、車を路肩に寄せ非常点滅表示灯を点灯させます。
  - **踏切など緊急を要する時は、発炎筒を使用します（助手席足元にあります）。**
    発炎筒に記載されている事項（使用法／発炎時間／有効期限等）をあらかじめ確認しておいてください。



「発炎筒」使用上の注意

- お子様には触らせないでください。
- 使用中に身体に向けないでください。ヤケドの恐れがあります。
- ガソリンなど可燃物のそばで使用しないでください。引火の恐れがあります。
- トンネル内では、使用しないでください。視界を悪くするので危険です。
  非常点滅表示灯を使用してください。

  - **高速道路や自動車専用道路では停止表示義務がありますので、停止表示板などの停止表示器材を置いてください。**

Point 4　オートマチック車の扱いには

オートマチック車は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。「オートマチック ギアボックス」の項もあわせてお読みください（106 ～ 111 ページ参照）。

オートマチック車の特性を正しく理解。

クリープ現象とは

- エンジンがかかっている時、シフト レバーが「P」、「N」以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセル ペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウンとは

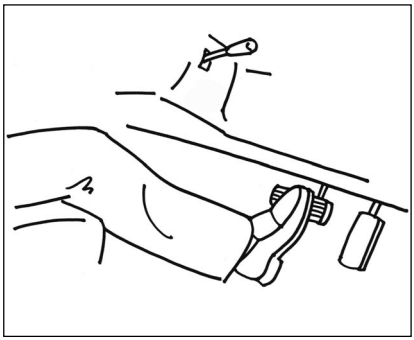
- 「D」で走行中にアクセル ペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に低速ギアに切り換わり、エンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。これをキックダウンといいます。

ブレーキは右足で。

- ブレーキ ペダルは右足で踏む習慣をつけましょう。
  - **不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。**

エンジンをかける前に。

- ペダルの踏みまちがいのないよう、右足でペダルの位置を確認しておきましょう。



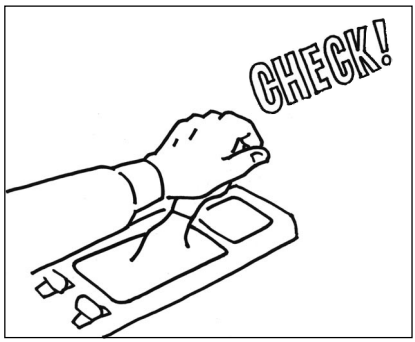
Point 4　オートマチック車の扱いには

エンジンをかける時。

- 正しい運転姿勢をとりましょう。
  - **車外や運転席以外からエンジンをかけないでください。**
- 安全のため、シフトレバーは駆動輪が固定される**「P」**でエンジンをかけましょう。

スタートする時。

- 思いちがいを防ぐため、シフトレバーの位置を目で確認しましょう。
- 発進時のシフトレバーの操作は、右足でブレーキ ペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行いましょう。
  - **アクセル ペダルを踏んだまま、シフトレバーを操作しないでください。**
- 急発進して思わぬ事故のもとになります。

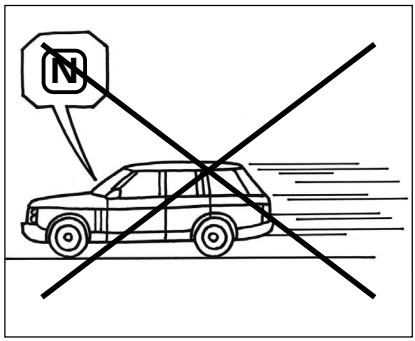


- エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
  - **エアコン作動時も同じです。**

Point 4　オートマチック車の扱いには

走行している時。

- 走行中は、シフトレバーを「N」にしないでください。
  - **エンジン ブレーキが全くきかず、思わぬ事故のもとになります。**



- 上り坂で、速度を保とうとしてアクセルペダルを踏み込んだ時、キックダウンにより、急にエンジン回転が上がり、思ったより速度が出てしまうことがあります。
  アクセルペダルは、慎重に操作してください。
  また、すべりやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダル操作は避けて下さい。

- **下り坂では、エンジンブレーキも使いましょう。**
  - **フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して、ブレーキのききが悪くなる恐れがあります。**

停車している時。

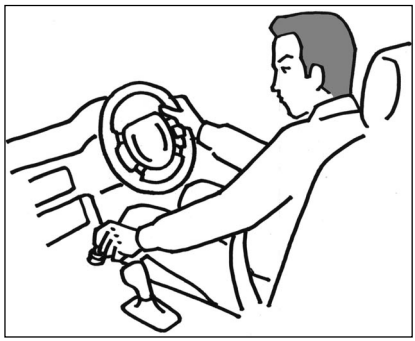
- 車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけましょう。

- **停車中の空ぶかしは、やめましょう。**
  - **万一、シフトレバーが「P」、「N」以外の時、思わぬ急発進のもとになります。**

Point 4　オートマチック車の扱いには

駐車する時。

- 駐車する時は、シフトレバーを「P」に入れ、エンジンを止めましょう。
  - **万一、シフトレバーを「P」、「N」以外に入れていると、クリープ現象で車が動き出したり、乗り込む時に、誤ってアクセルペダルを踏み込んで急発進したりする恐れがあります。**



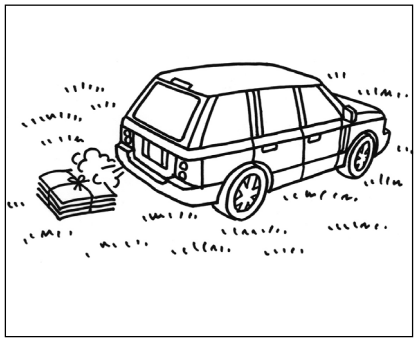
ほかに気をつけたいこと。

- 後退したあとは、すぐ「R」から「N」にもどす習慣をつけましょう。
  - **ちょっと後退した時など、「R」に入れたことを忘れてしまうことがあります。**
- 前進から後退、後退から前進する時は車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーを操作してください。
  - **車が完全に止まらないうちにレバーを操作すると、トランスミッション破損の恐れがあります。**
- 車が完全に止まらないうちに、「P」に入れないでください。
  - **急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッション破損のもとになります。**

Point 5　駐車や停車はしっかりと確実に

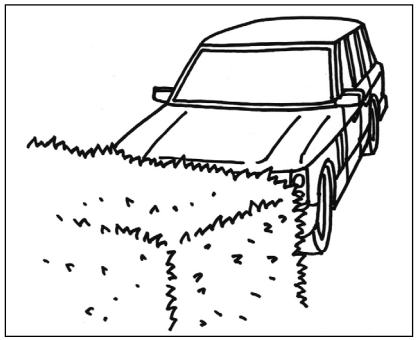
可燃物には注意を。

- 枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、駐停車しないでください。
  - **排気管や排気ガスの熱により、着火する恐れがあります。**



植込みなどにも注意して。

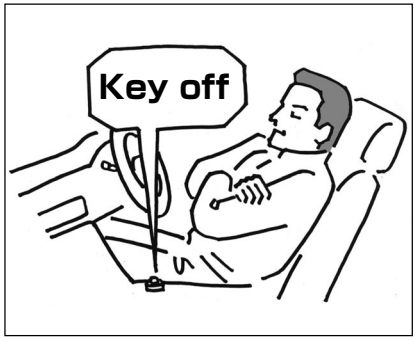
- 植込みなどの近くに駐停車する時には、排気ガスがあたらないように、車の向きを決めましょう。



Point 5　駐車や停車はしっかりと確実に

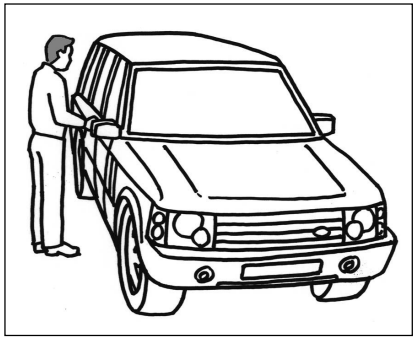
仮眠する時はエンジンを止める。

- エンジンを必ず止めてください。
  - **無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセル ペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こす恐れがあります。**
    また、無意識にアクセル ペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生する恐れがあります。
    さらに風向や周囲の状況等によっては、車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒の恐れもあります。



車から離れる時には施錠を。

- 必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、ドアを施錠してください。
- 車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
- お子様も連れていきましょう。



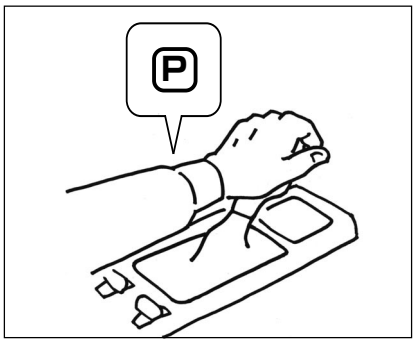
Point 5　駐車や停車はしっかりと確実に

車の移動はエンジンをかけて。

- 車を移動する時は、必ずエンジンをかけてください。
  - **下り坂を利用した移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。**

坂道での駐車は。

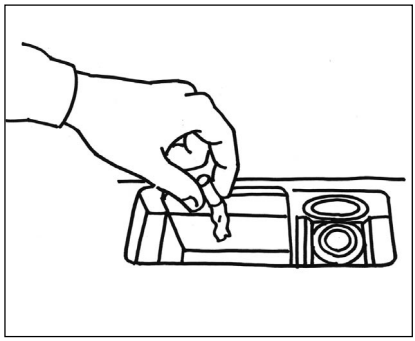
- 駐車ブレーキをかけ、ギアを必ずパーキング「P」に入れてください。
  さらに、タイヤに輪止めすると効果があります。長時間駐車する場合は、必ず輪止めをするようにしてください。



Point 6　こういうことにも気をつけて

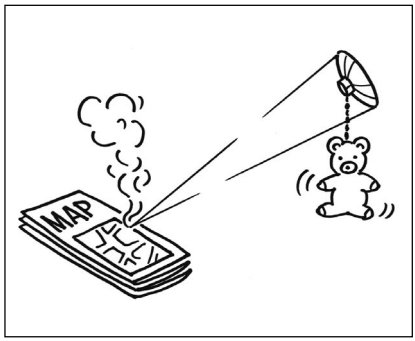
タバコの吸いがらは火を消して。

- タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
- 灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすいものを入れたりしないでください。



アクセサリーの取り付けには注意を。

- ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。
  - **運転をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたり、思わぬ事故のもとになります。**



Point 6　こういうことにも気をつけて

車内にライターや炭酸飲料缶などを放置しないで。

- **炎天下での駐車などで車内温度が上昇すると、ライターなどの可燃物は自然発火したり、缶などは破裂したりする恐れがあります。**

ラジエーター キャップに気をつけて。

- エンジン冷却水が熱い時は、ラジエーター キャップを外さないでください。
  - **蒸気や熱湯が吹き出し危険です。**

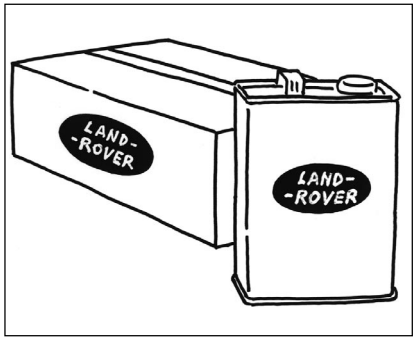
ステアリング ホイールをいっぱいに回した状態をつづけない。

- ステアリングをいっぱいに回した状態から、さらに回そうとする力をかけつづけないでください。
  - **パワー ステアリング ポンプがオイル潤滑不良を起こし、損傷することがあります。**

Point 6　こういうことにも気をつけて

改造はしない。

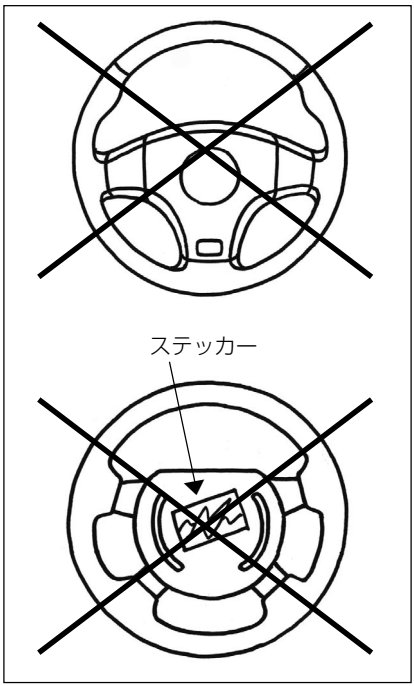
- メーカー純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、使用しないでください。
  - **適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。**
  - **ランドローバーが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。**

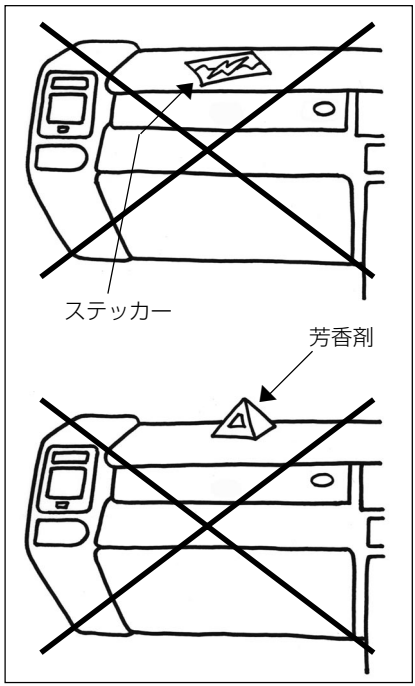


- ホイールは、専用品をご使用ください。
  - **専用品以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすことがあります。**
    ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
- 無線装置や自動車電話などの取り付けの際には、必ずランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
  - **装置や取り付け方法が適切でない場合は、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。**

Point 6　こういうことにも気をつけて

- 各SRSエアバッグ ユニット収納部（ステアリング ホイールのセンター パッド、助手席側ダッシュボード、前席シート左右の背もたれ外側、フロント ピラーからルーフ内張りにかけて）には、ステッカー類やアクセサリー等を取り付けないでください。ステアリング ホイールやシートの交換も行わないでください。
  また、前面ガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。
  - **SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。**
  - **作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。**
  - **次の場合は、必ずランドローバー正規ディーラーにご相談ください。**
    - **① ステアリングまわりの修理**
    - **② センター コンソール付近の修理**
    - **③ オーディオ等用品の修理**
    - **④ ダッシュボード周辺の板金塗装および修理**
    - **⑤ 計器パネルまわりの修理**
    - **⑥ シートの修理**
    - **⑦ フロント ピラー、ルーフ内張りの修理**

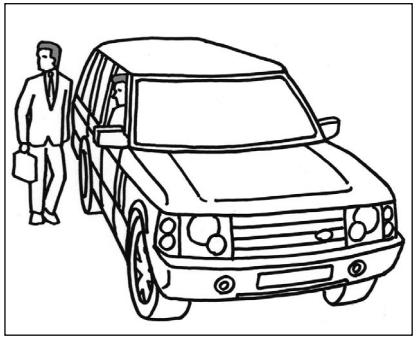




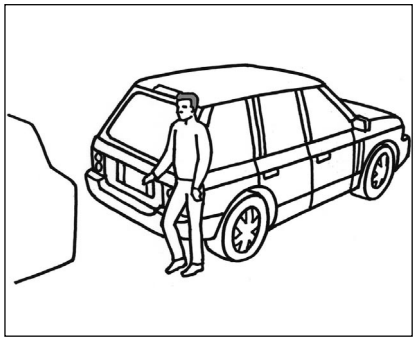
Point 6　こういうことにも気をつけて

発進する時は、まわりの状況に十分注意して。

- 車のまわりには運転席から見えないところ（死角）があります。発進する時は子どもや障害物など車のまわりの状況に十分注意してください。
- 駐車後に発進する時は、車の安全確認を十分に行ってください。

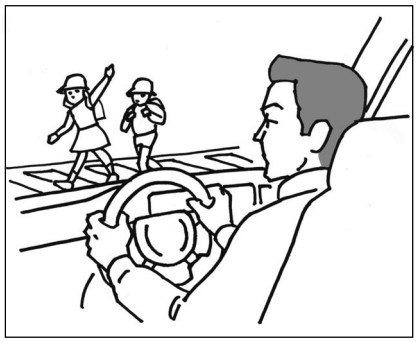


- 後退する時に十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方を確認してください。
  - **バックミラーでは確認しきれない死角（車の直後など）があります。**



Point 6　こういうことにも気をつけて

- 信号待ちなどの停車後に発進する時は、つねにまわりの状況に目を配り、安全確認を十分に行ってください。



装置と計器類

装置と計器類
ダッシュボード. 3
計器パネル 4

ロック
キーおよびハンドセット. 5
ロック システム 6
エンジン始動阻止システム 10
リモート ハンドセットの電池 10
チャイルド ロック 11
テールゲート 12

シート
電動式前席シート 14
折りたたみ式アーム レスト. 18
運転席シート メモリー機能 * 19
後席シートを折りたたむ. 20
ヒーター付きシート * 21

シートベルト
シートベルトの安全な着用方法. 22
シートベルト 23
シートベルト プリテンショナー 24
シートベルトのお手入れ. 26

チャイルド シート
チャイルド シート 27
ISOFIX チャイルド シート 28

SRS エアバッグ
SRS エアバッグ. 30
SRS エアバッグの仕組み. 32
整備情報. 35

ステアリング コラム
ステアリング ホイールの調整 37

ドア ミラー
ドア ミラー 38

計器類
計器パネル 40

トリップ コンピューター
トリップ コンピューターの
機能 / 選択. 42

メッセージ センター
メイン メッセージ センター 43
警告 /
インフォメーション メッセージ 44
整備メッセージ センター 49
ギア位置ディスプレイ. 49

警告灯
計器パネル 50

警告音
警告音 53

照明と方向指示器
メイン照明スイッチ 54
方向指示器 55
フォグ ランプ 56
非常点滅表示灯. 57
計器パネル照明ディマー スイッチ. . . . 57

ワイパーとウォッシャー
操作 58
前面ガラス ワイパー. 58
前面ガラス ウォッシャー 59
前照灯ウォッシャーおよび
ワイパー * 60
後面ガラス ワイパーおよび
ウォッシャー 60

ホーン
ホーン 61

パワー ウィンドウ
パワー ウィンドウ 62

サンルーフ *
サンルーフ作動 * 64

ヒーターと換気
換気 66
オート エアコン. 69
一般的な注意事項. 72
シート ヒーター *. 73
ステアリング ホイール ヒーター * . . . 74

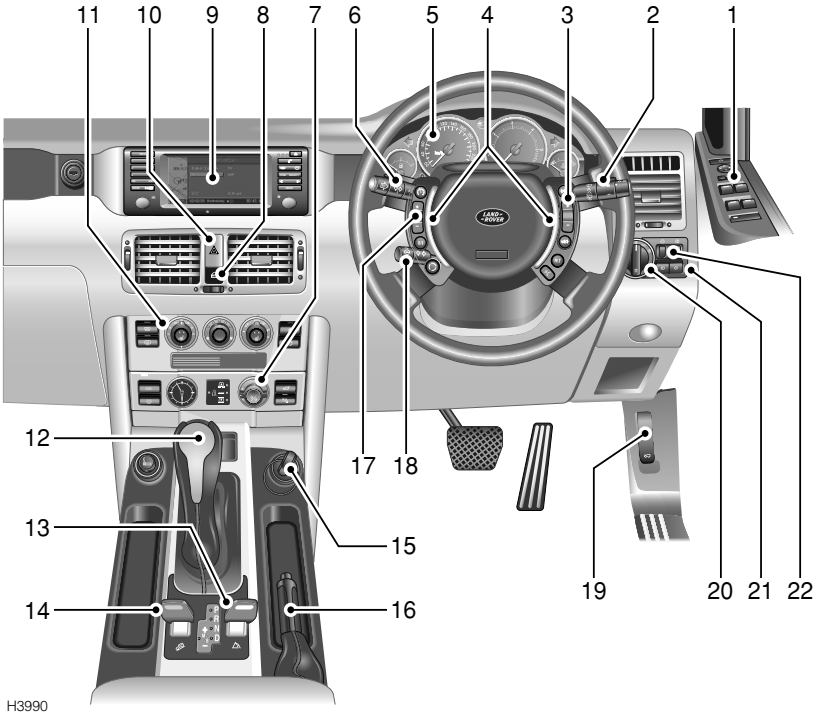
室内装備
室内灯と読書灯 75
減光室内照明 75
グローブ ボックス照明灯 75
アプローチ ライト 76
時計 76
シガー ライター. 77
灰皿 77
シート下の収納ボックス. 78
補助電源ソケット. 79
サングラス ホルダー 80
カップ ホルダー. 80
センター コンソール ボックス 82
サン バイザー
バニティ ミラー照明灯 * 83
ルーム ミラー. 83
グローブ ボックス 83
荷物固定ポイント. 84
荷室アクセス ハッチ 84
荷室の収納エリア. 85

荷室カバー
荷室カバー. 86

携帯電話
携帯電話 88

オーディオ システム
ラジオ アンテナ. 89
オーディオ リモート
コントロール * 89
オーディオ システム 90

ダッシュボード

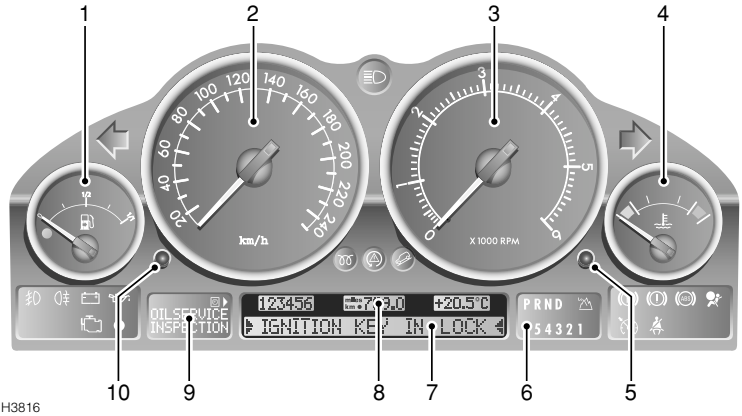


1. パワー ウィンドウ / ミラー / アクセス モード スイッチ
2. ワイパー / ウォッシャー スイッチ
3. オーディオ リモコン スイッチ *
4. ホーン スイッチ
5. 計器パネル
6. パッシング スイッチと方向指示器
7. エア サスペンション スイッチ
8. ドア ロック スイッチ
9. オーディオ システム / ナビゲーション システム *
10. 非常点滅表示灯スイッチ
11. ヒーター / エアコンのコントロール
12. オートマチック ギア シフト レバー
13. トランスファ ギア スイッチ
14. ヒル ディセント コントロール スイッチ
15. イグニッション スイッチ
16. 駐車ブレーキ
17. クルーズ コントロール スイッチ *
18. ステアリング コラム調整レバー
19. ボンネット リリース レバー
20. ライト スイッチ
21. フォグ ランプ スイッチ
22. 計器パネル照明ディマー スイッチ

知識

細部の仕様および装置 / 計器類の位置は、各国の規制やモデルにより異なる場合があります。

計器パネル



H3816

1. **燃料計**
   イグニッション スイッチをオフにすると指針は目盛りの 0 まで戻りますが、イグニッション スイッチを「II」の位置にすると、指針は燃料残量を示します。
2. **スピードメーター**
   走行速度を 1 時間あたりの走行キロ数（km/h）で表示します。
3. **タコメーター**
   1 分間当たりのエンジン回転数（× 1000）を表示します。
4. **水温計**
   冷却水温度が通常の作動温度に達すると、指針は赤い部分と青い部分の中央付近を指します。
5. **システム点検スイッチ**
   イグニッション スイッチをオフにした状態で押し続けると、システムに不具合がないか点検します。
6. **ギア シフトレバー位置表示**
   現在のギア シフトレバー位置を表示します。ロー レンジが選択されたときも表示されます。マニュアル モードでは、現在のギア位置が表示されます。
7. **メッセージ センター**
   車両のシステムからの警告とインフォメーションのメッセージが表示されます（「メイン メッセージ センター」43 ページ）。
8. **オドメーター / トリップ メーター**
   積算走行距離と区間走行距離を表示します。
9. **オイル サービス / 点検表示**
   イグニッション スイッチをオンにした後、次回のオイル サービスまたは点検時期までのおおよその走行距離を表示します。
10. **トリップ メーター リセット ボタン**
    押すとトリップ メーターがゼロにリセットされます。

知識

ここでは計器パネルの構成を簡単に紹介しています。各計器の詳しい説明については、「計器パネル」40 ページを参照してください。

キーおよびハンドセット

お車には、すべてのロックを操作できる一体型キーが付いた 2 個のリモート ハンドセットおよびエマージェンシー キーが 1 個付属しています。エマージェンシー キーでドアを解錠したりエンジンを始動することはできますが、リモコン機能はありません。

知識

エマージェンシー キーは長期間使用することはできません。

お車に付属しているキーには、盗難防止システムがプログラムされています。これらのキーは、再プログラムすることはできません。また、お客様のお車に合わせてプログラムされたキーでなければ、エンジンを始動することはできません。キーを紛失した、あるいは故障した場合、ランドローバー正規ディーラーを通じてのみ代替品を入手できます。

知識

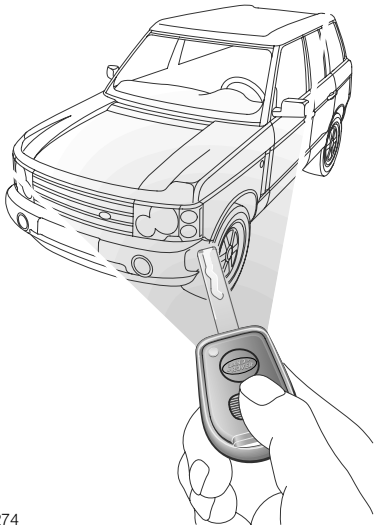
ランドローバー正規ディーラーには、代替キーは在庫していません。代替品が必要な場合、お客様のお車の盗難防止システムに連動させるためのプログラム処理を実施し、販売店に配送する時間を必要とします。

キーを紛失された場合は、ランドローバー正規ディーラーにご連絡ください。紛失したキーを使って不正な操作が行われないよう、紛失したキーのみを無効にできます。キーを発見された場合は、同様にランドローバー正規ディーラーで再度キーを有効にすることができます。

⚠ 注意

エマージェンシー キーおよびスペアのハンドセット キーは、安全な場所に保管してください。車内には放置しないように注意してください。

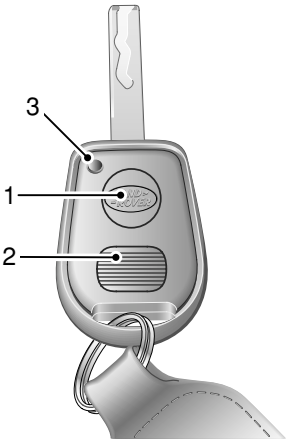
ロック システム



H4274

お客様のお車には精巧なエンジン始動阻止システムが装備されています。さらに様々なロック機能が付いています。最大限の安全性を確保し、不便を最小限にとどめるため、この項をすみずみまでよくお読みになり、これらのシステムを十分にご理解いただきますようお願いいたします。

リモート ハンドセットの使い方



H4273

ハンドセットは車両に向けて操作する必要があります。ただし、特定の距離以内で操作してください。リモコン信号の到達範囲は、ハンドセット内の電池の消耗状態により変化します。また物理的要因により到達範囲が制限されることがありますので注意して下さい。安全のため、車から離れた場所から解除することはお勧めできません。

ハンドセットのボタン

ハンドセットの 2 個のボタンは下記のように使用します。

1. ロック ボタン：このボタンを押すと、すべてのドア（およびテールゲート）にスーパーロックをかけます。

   押し続けると、レイジー ロックが作動します（「レイジー ロックの作動 / 解除」9 ページ を参照）。

2. アンロック ボタン: このボタンを押すと、すべてのドア（およびテールゲート）を解錠します。

   押し続けると、レイジー ロックを解除します（「レイジー ロックの作動 / 解除」9 ページを参照）。

3. ハンドセット表示灯：ボタンを押すたびに作動確認のため点滅します。

施錠

ロック ボタン（ランドローバーのマーク）を 1 回押す、または運転席ドアの鍵穴にキーを差し込んで車両後方に回すと、すべてのドア（およびテールゲート）を施錠します。

- すべてのドア（およびテールゲート）がロックされます（「スーパーロック」7 ページ参照）。
- エンジン始動阻止システムが作動します。

ルーム ミラー下部の警告灯が約 10 秒間点灯します（この警告灯点灯中はアンロック ボタンを押してもドアは解錠されません）。

リモート ハンドセットでの解錠

アンロック ボタン（横線のマーク）を押すと、すべてのドア（およびテールゲート）を解錠します。

室内灯が点灯します。

キーでの解錠

ハンドセットでの施錠後：

運転席ドアの鍵穴にキーを差し込んで車両前方に回すと、すべてのドア（およびテールゲート）が解錠されます。

スーパーロック

> **⚠ 注意**
>
> 安全のため、車内に人がいる場合には、ハンドセットまたはキーでロックをかけないでください。車内からドアを開けられないため、緊急時に脱出できなくなります。

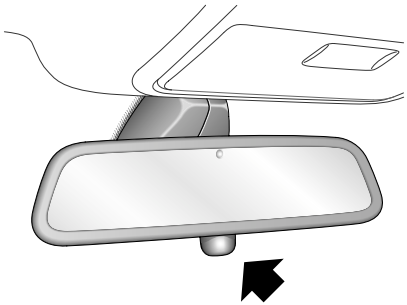
ハンドセットまたはキーを使って車を施錠すると自動的にスーパーロックが作動します。

スーパーロックが作動すると車内ドア ハンドルを使ってドアを開けることはできません。これにより、ウィンドウを割って内側からドア ハンドルを引いて車内に侵入することを防ぎます。

運転席ドアが完全に閉まっていない状態で、ハンドセットのロック ボタンを押すと、閉まっているドアはすべて施錠されますが、運転席ドアは施錠されません。その後運転席ドアを閉めたとき、運転席ドアを施錠するために、もう一度施錠し直さなければなりません。

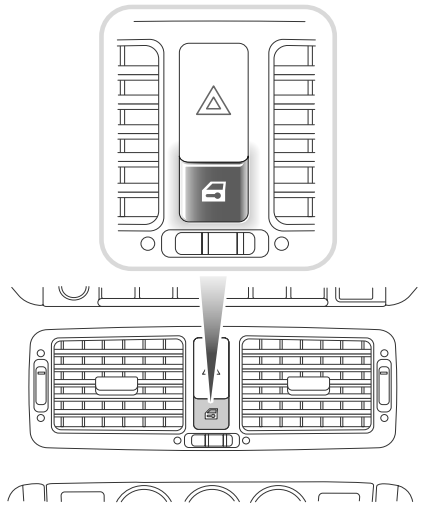
警告灯

ロックをかけるとルーム ミラー下側の警告灯が約 10 秒間点灯します。



H3920

車内ロック スイッチ



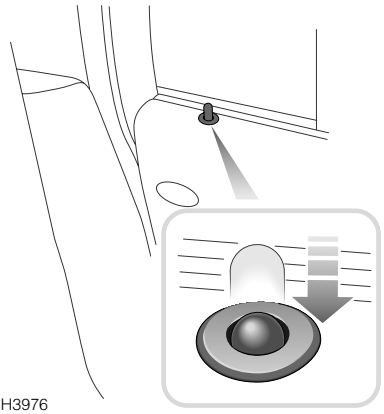
H3969

この機能は、運転者が車内ですべてのドアを施錠（解錠）できるセキュリティ機能です（運転中または停車中）。スイッチを押すと施錠、または解錠されます。

知識

ハンドセットやキーの操作によりすでにスーパーロックが作動している場合、スイッチでロックを解錠することはできません。

車内側ドア ハンドルとドア ロック ボタン



H3976

各ドアに用意されている ドア ロック ボタンを押すと、車内からドアを個別に施錠することができます。

各ドアのロックを個別に解錠する場合は、下記のようにドア ハンドルを操作してください。

- ドア ハンドルを 1 回引くと解錠されます。
- ドア ハンドルをもう 1 度引くと、ドアが開きます。

車内ロック スイッチを押すと、すべてのドア ロック ボタンは自動的に下がるかまたは上がります。

ロック

レイジー ロックの作動 / 解除

⚠ 注意

パワー ウィンドウを閉じるときに、誤って指などを挟んでけがをする恐れがありますので、必ず以下の注意事項を守ってください。

レイジー ロックを作動させる前に、すべての開いているウィンドウやサンルーフが閉まる際に障害になるものがないかどうか確認してください。

ウィンドウを開閉するときは、お子様がウィンドウ ガラスに触れていないことを確認してください。

成人の同乗者全員に、パワー ウィンドウの操作を覚えてもらい、パワー ウィンドウがときには危険であることを理解してもらってください。

知識

レイジー ロック機能の操作がリモート ハンドセットで行えず、キーを使用しなくてはならない地域もあります。

レイジー ロックによって、リモート ハンドセットを使って施錠と同時にウィンドウやサンルーフを閉じることができます。

レイジー ロックの作動

1. すべてのドア、ボンネット、テールゲートが確実に閉まっていることを確認してください。
2. すべてのウィンドウとサンルーフが閉じるまでロック ボタンを押し続けます（または運転席ドアの鍵穴にキーを差し込んで、車両前方に回したまま保持します）。

知識

途中で手を離すと、ウィンドウやサンルーフの動きが中断してしまいます。

レイジーロックの解除

1. ウィンドウとサンルーフが全開位置になるまでリモート ハンドセットのアンロック ボタンを押し続けます（または運転席ドアの鍵穴にキーを差し込んで、車両後方に回したまま保持します）。
2. ウィンドウやサンルーフがお好みに応じて開いたら、ボタンを離します（キーを中立位置に戻して抜きます）。

この機能はランドローバー正規ディーラーで選択または非選択の設定が行えます。

エンジン始動阻止システム

エンジン始動阻止システムは重要な役割を果たす盗難防止システムです。たとえ、利用者がドア ロックをかけ忘れた場合でも、車両を盗難から守ります。エンジン始動阻止システムは、標準装備されているハンドセット キーをイグニッション スイッチに差し込まない限り、エンジンを始動できないようにして車両を盗難から守るシステムで、下記の条件を満たすと自動的に作動します。

- 車両がハンドセットまたはキーにより施錠されたとき。
- イグニッション スイッチをオフにして運転席 ドアを開けてから 3 秒経過したとき。
- イグニッション スイッチからキーを抜いたとき。

知識

正しいハンドセット キーをイグニッション スイッチに差し込み、「I」の位置にすると、エンジン始動阻止状態は自動的に解除されます。

リモート ハンドセットの電池

アドバイス

ハンドセットの電子回路は精密部品です。衝撃を加える、水で濡らす、高温や湿気のある場所に放置する、直射日光にさらす、溶剤やワックス、研磨剤を付着させるといった状況を避け、慎重にお取り扱いください。

ハンドセットの使用状態によっても異なりますが、電池の寿命は約 3 年です。以下のような症状が現れたときは電池を交換する必要があります。

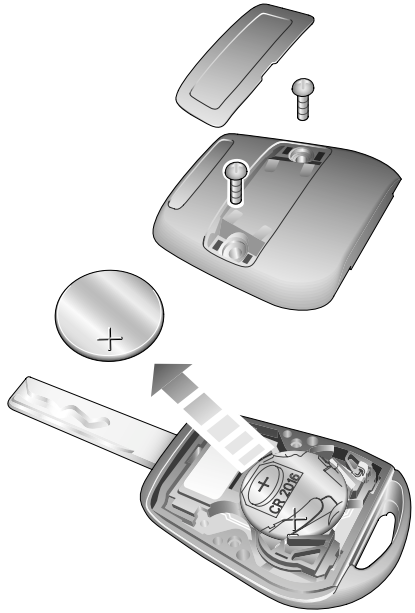
- メッセージ センターに「KEY BATTERY LOW」メッセージが表示されたとき。
- 信号の到達距離が徐々に短くなり、初期の性能が得られなくなったとき。

電池を交換するときは、必ず CR2016 を使用してください。

ハンドセットの電池交換

1. ハンドセットの裏面を上にして、ハンドセット後部の溝に小型のマイナスドライバを差し込んで、ネジカバーをこじ開けてください。
2. 2 個のネジを外して、ハンドセットの裏面を慎重に外してください。
3. 内部の回路基板や電池の接触面に小型ドライバーを触れなさせないように注意をしながら、電池を取り出します（図を参照）。

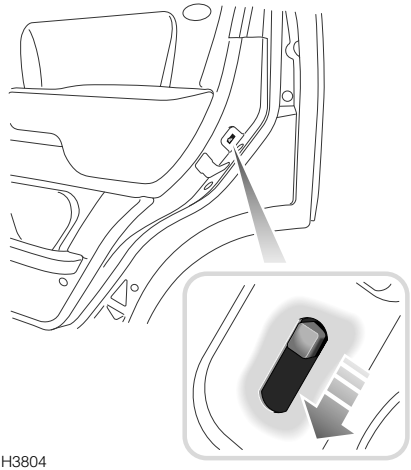
4. 電池の極性が正しいこと（「+」が上向き）を確認し、新品の電池を入れてください。手や指の脂分（指紋など）が付着すると、電池の寿命に悪影響を及ぼします。できるだけ電池の平面部には触れないように注意し、電池を交換するときは、表面の脂分を拭き取ってください。



H3832

ハンドセットの裏面を取り付け、ネジをしっかりと締め、ネジカバーをその上からきつく押し付けます。以上でハンドセットは使用できる状態になります。

チャイルド ロック



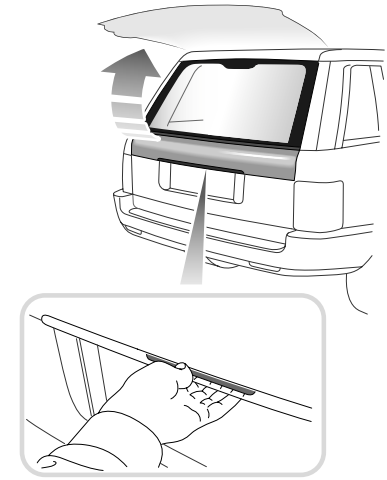
H3804

リア ドアのロック レバーを下げると、チャイルド ロックがかかります。

チャイルド ロックをかけると、後席の車内ハンドルを使ってドアを開くことができなくなります。これにより、走行中に誤ってドアを開けてしまうことを防ぐことができます。

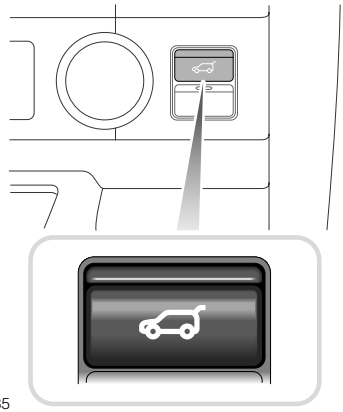
テールゲート

テールゲートを開ける



H3929

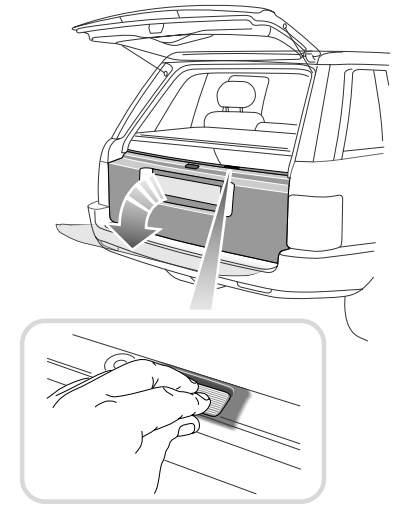
すべてのドアを解錠して上側テールゲートの下端についているスイッチを押し、テールゲートを持ち上げて開けます。



H3935

運転席のみ解錠されている場合は、テールゲート リリース ボタン（上図）を押します。

下側テールゲートを開ける

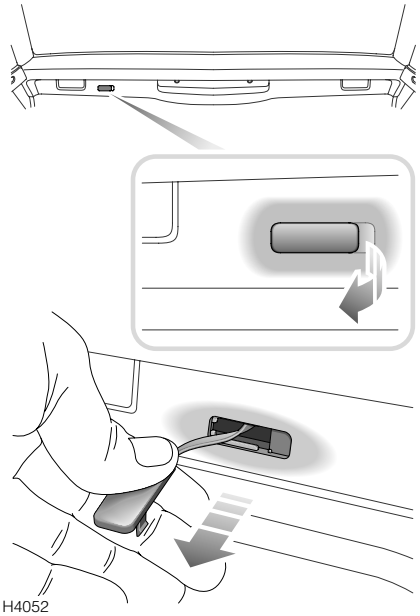


H3930

上側テールゲートを開けた状態で、下側テールゲートの上側に付いているリリース スイッチ（図を参照）押します。その後、テールゲートを開きます。

緊急手動操作

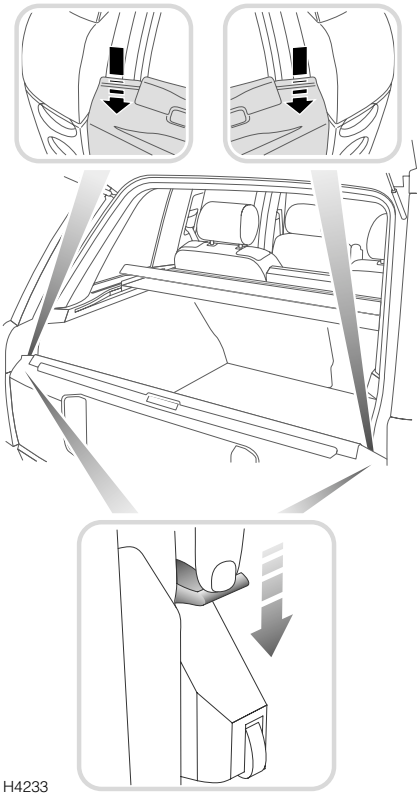
上側テールゲート


H4052

バッテリーの接続が外されているか、放電しているときは、テールゲートは以下のように手動で開けることができます。

- リア荷室カバーを折りたたみます（「荷室カバーを車内から折りたたむ」87 ページを参照）。
- 荷室から、プラスチックのツマミ（図を参照）引き出します。
- ツマミを引っ張って、上側テールゲートを開けます。
- 上側テールゲートを持ち上げます。

下側テールゲート


H4233

上側テールゲートを開けたままの状態で、2個の隠れているレバーを押し下げます。レバーは片側ずつでも、両側一緒でも動かせます。

電動式前席シート

⚠ 警告

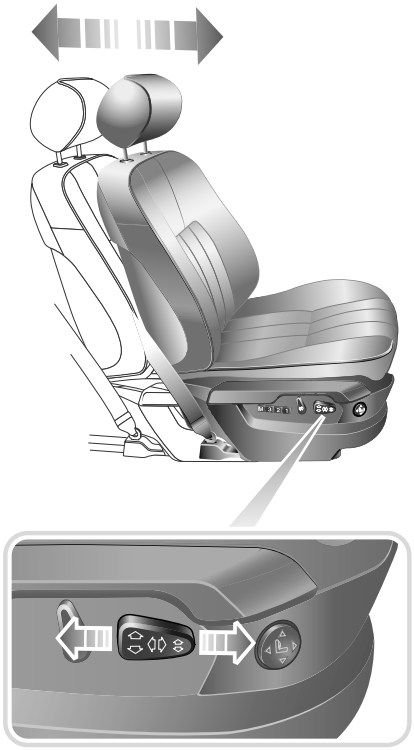
走行中にシートを調整しないでください。ステアリング操作を誤ったり、けがをしたりする恐れがあります。

シート調整スイッチは、シート台座のドア側に取り付けられています。

前席シートは運転操作に支障をきたさない程度後方に調整してください。ステアリングホイールを握ったときに、軽くひじが曲がり、背もたれはできるだけ立てた状態が理想的な位置です。

正しい姿勢がとれ、車の操作に支障がないことを確認してください。シート位置をあまり前方に近づけすぎると、エアバッグが膨張したときにけがをする恐れがあります。シート位置は正しく調整してください。

シートの前後方向の調整

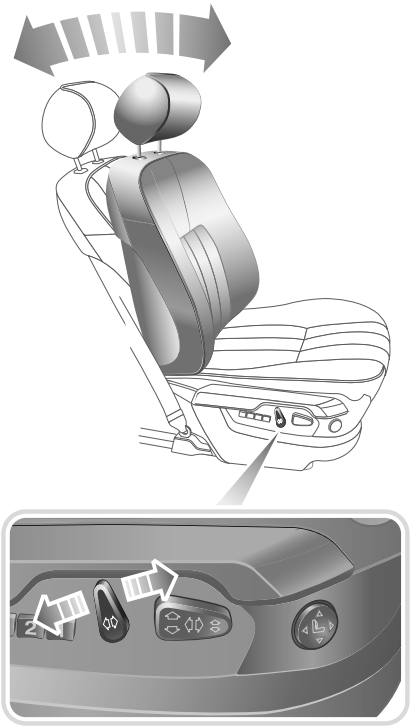


H3850

シートがお好みの位置になるまで、スイッチを押しながら前後に動かしてください。

シート

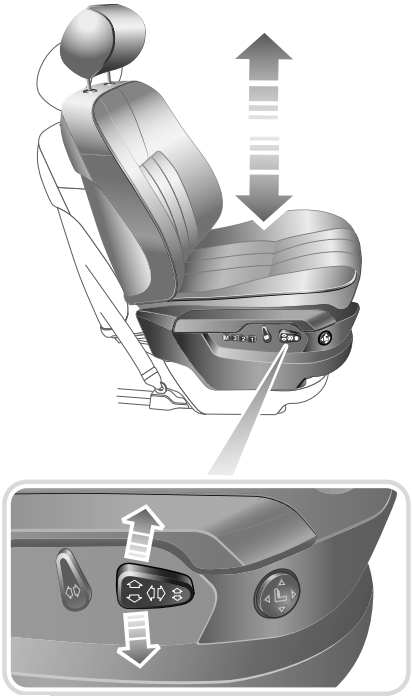
背もたれの調整



H3847

お好みの背もたれの角度になるまで、スイッチを前後にひねってください。

シート クッションの高さ調整（運転席のみ）



H3848

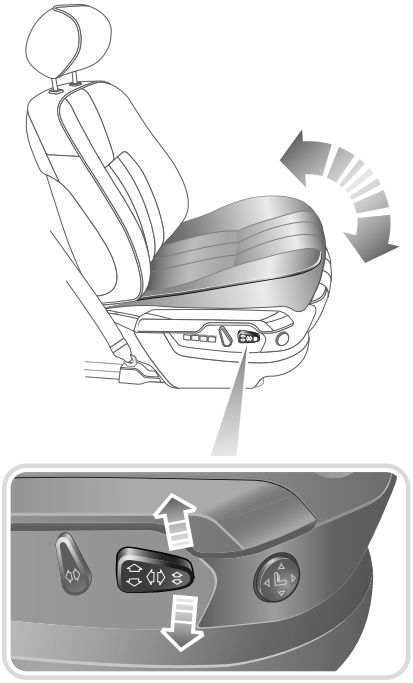
スイッチ後部を上または下に押して、クッションを上下させてください。

⚠ 警告

前席シートの背もたれを極端に寝かせた状態で走行しないでください。背もたれを直立（垂直）の状態から約 25 度寝かせた状態にすると、最適なシートベルト効果を発揮させることができます。

シート

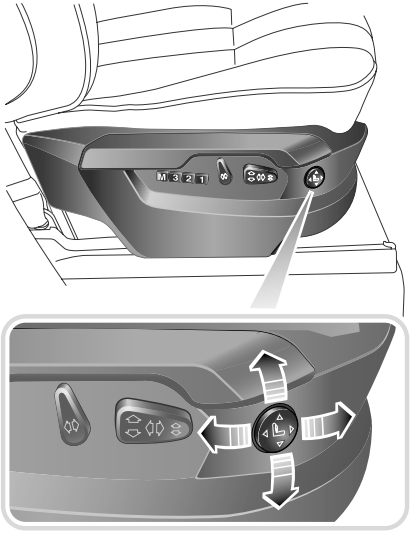
シート クッションの角度調整



H3849

シート クッションがお好みの位置になるよう、スイッチ前部をひねって角度を変えてください。スイッチの前部と後部は独立して作動します。スイッチの前部はクッション前部の角度、後部はクッションの高さを調整できます。

ランバー サポートの調整



H3851

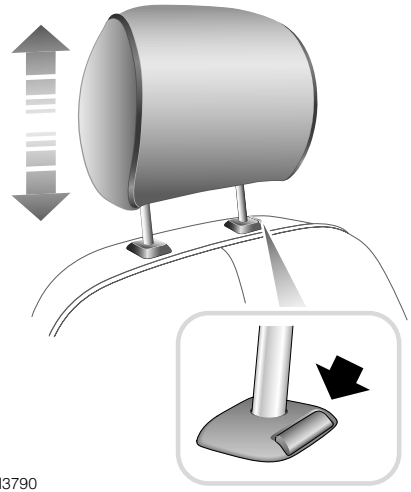
スイッチを前後に押して、腰部のサポート具合を調整してください。スイッチを上下に押すと、背もたれの上下のサポート具合を調整できます。

ヘッド レストの調整

⚠ 警告

ヘッド レストは、クッション部分が後頭部の中央（首ではありません）に当たる位置に調整してください。

ヘッド レストは後頭部を支えるための装備です（首の部分を支えるためのものではありません）。事故の際に頭部が急激に後方に傾くことを防ぐ目的で装備されています。必ず正しい高さに調整してください。



H3790

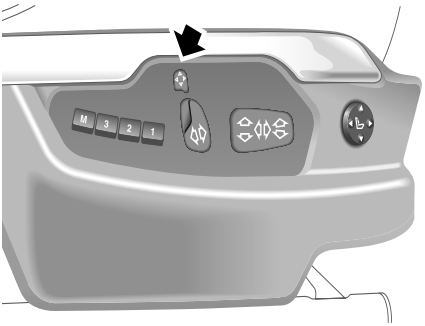
ヘッド レストは、事故や急停止のときに頭部が後方に傾くことを防ぐ目的で装備されています。ヘッド レストを最適に調整することで、首や頭部のけがの危険をかなり減らすことができます。

ヘッド レストを上下させて、高さを調整してください。ボタン（矢印）を押してヘッドレストを押し下げると、一番下まで下がります。

ヘッド レストは角度も調整できます。後頭部に当たるようにヘッド レストを傾けてください。

ヘッド レストを取り外すときは、左側の取り付け部のボタンを押し、ヘッド レストを引っぱり上げてください。

ヘッド レスト調整スイッチが、シート台座のドア側に取り付けられている仕様もあります。

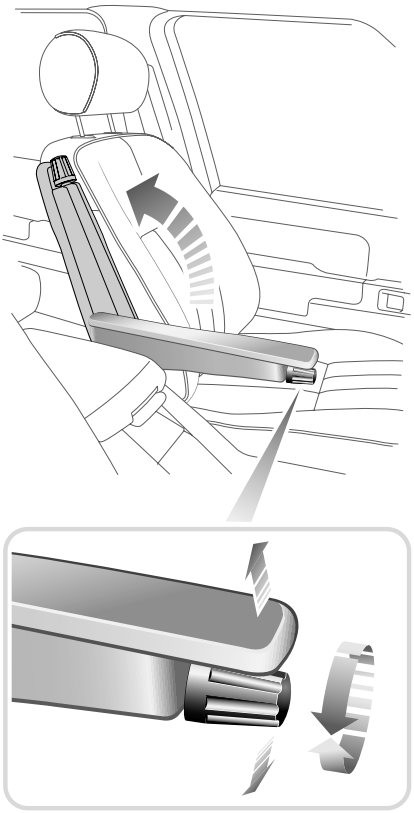


⚠ 警告

乗員のいるシートのヘッド レストを取り外して走行しないでください。事故の際に深刻なけがをする恐れがあります。

折りたたみ式アーム レスト

前席

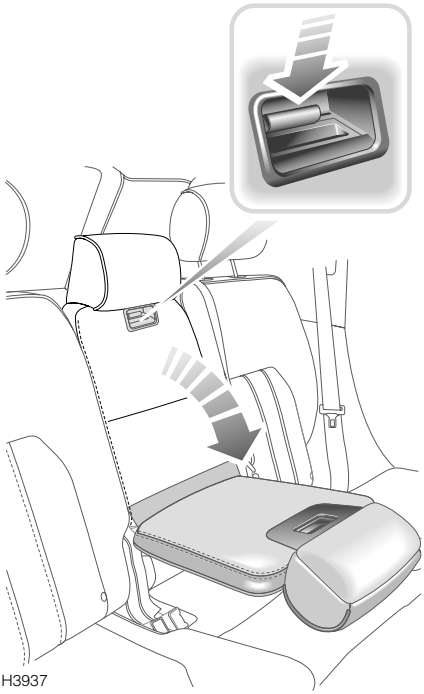


H3791

アーム レストを必要としない場合は、背もたれに沿って垂直方向に折りたたみ、使用する場合は水平方向に倒します。

各アーム レストの高さおよび角度は、アーム レスト先端部のノブを回して調整することができます。ノブを時計回りに回すとアーム レストが上がり、反時計回りに回すと下がります（図を参照）。

後席



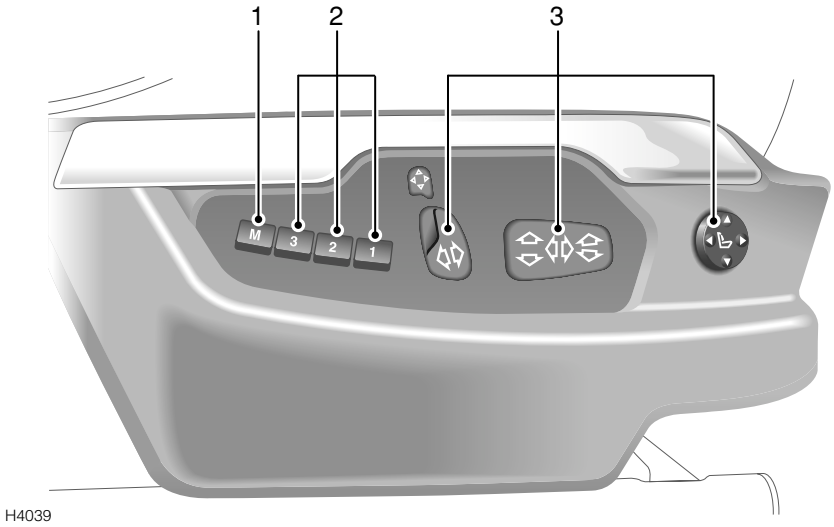
H3937

アーム レストを使用する場合は、中央後席シートのヘッド レスト下にあるキャッチを押します。アーム レストを引き下げ、ヘッド レストを開けると、カップ ホルダーになります（詳細は「カップ ホルダー」80 ページを参照してください）。

知識

中央後席に乗員が座っている場合は、アーム レストはご使用になれません。

運転席シート メモリー機能 *



H4039

図は「コントゥア シート」モデル

アドバイス

シート メモリー機能を作動させる前に、シート周辺に障害物や乗員がいないことを確認してください。

1. メモリー ボタン
2. メモリー プリセット ボタン
3. シート調整スイッチ（詳細は「電動式前席シート」14 ページを参照してください）。

知識

ミラー調整に関する詳細は、「ドア ミラー」38 ページ、ステアリング ホイールの調整は「ステアリング ホイールの調整」37 ページを参照してください。

3 つの異なる運転席シートの位置（ミラー、ステアリング ホイールの位置も同様）を記憶できます。ボタンを押すだけで、それぞれの運転者に合った 3 タイプのシート位置を記憶できます。

メモリー プリセットの設定

シート、ドア ミラー、ステアリング コラムをお好みの位置に調整してください。メモリー ボタン（1）を押し、メモリー機能（スイッチ表示灯が点灯）を作動させます。次に、お好みの番号のプリセット ボタン（2）を押し、シート / ドア ミラー / ステアリング ホイール位置の設定を記憶させます。プリセット ボタンを押す前にもう一度メモリー ボタンを押すと、メモリー機能をキャンセルします（スイッチ表示灯が消灯します）。

メモリー機能が作動してから約 7 秒以内にプリセット ボタンが押されないと、作動がキャンセルされます (スイッチ表示灯が消灯します)。

記憶させたシート位置を呼び出す

運転席ドアを開け、お好みの位置に設定したプリセット ボタンを押し続けるとシート、ドア ミラー、ステアリング コラムは自動的に設定した位置に移動します。

知識

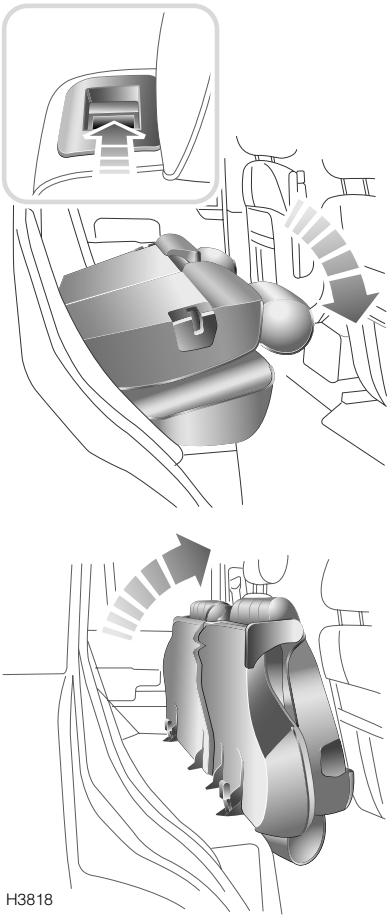
メモリー設定を呼び出し中にシートの移動を止めたいときは、シート調整スイッチを押してください。

レイジー シート *

ハンドセットでドアを解錠すると、そのイグニッション キーが最後に使われたときのシート位置に調整します。それぞれのハンドセットには、各運転者の設定したシート位置を記憶することができます。また、運転席ドアが開いていてもシートを調整できるようプログラムされています。

この機能はランドローバー正規ディーラーで選択または非選択の設定が行えます。

後席シートを折りたたむ



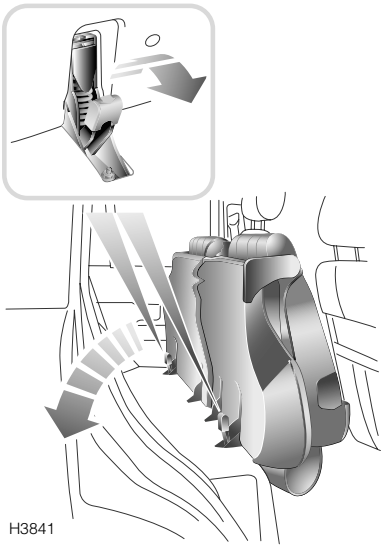
警告

非常に危険ですから、走行中はシートの高さや角度を調整しないでください。

分割式後席シートの片方または両方を折りたたむことによって、シート後部の荷室を広くすることができます。

1. 両側のヘッド レストがいっぱいまで下ろされ、アーム レストが格納されていることを確認してください。
2. 背もたれをたたむには、拡大図で示すレバーを前方に引いて、背もたれをシート クッション上に倒してください。
3. シート クッションを上に持ち上げると、シートは図のように前方へ完全にたたむことができます。

シートの起こし方



リリース レバー（図を参照）を後方へ引き、シート全体を床側に押し戻してください。床側のキャッチがシート クッションの固定部にかみ合います。次に背もたれを起こしてください。

背もたれがなかなか動かない場合は、無理に起こそうとしないでください。背もたれが起こせない場合は、シート クッションの固定部が床のキャッチにしっかりとかみ合っていないことを示しています（シートが床に確実に固定されていないと、背もたれをを起こすことができない仕組みになっています）。

シート クッションを確実に固定すれば、背もたれを起こして、所定の位置に固定することができます（背もたれが正しく固定されると、リリース レバーの赤色マークが見えなくなります）。

⚠ 警告

シートを起こしたら、走行前にラッチ機構を点検し、シートを前後に動かしてみて、ラッチがしっかりかみ合っていることを確認してください。

ヒーター付きシート *

前席および後席シート ヒーターの操作方法については、「シート ヒーター *」73 ページを参照してください。

シートベルト

シートベルトの安全な着用方法

⚠ 警告

前席および後席のシートベルトは、大人の方（または体格的に大人の方）が着用することを前提として設計されています。必ずおひとりで、1 組のシートベルトをご使用ください。

その上で、以下の注意事項を守ってください。

- 短距離のドライブでも、全乗員がシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトは、ベルトがたるまないように着用してください。また走行中にシートベルトをたるませておくことは、絶対におやめください。シートベルトによる乗員拘束効果を正しく発揮させるために、ベルトはできるだけ身体に密着するように長さを調整してください。
- 腰部のベルトは、必ず腰骨にかかるように位置を調整し、腹部にかからないように注意してください。肩掛けベルトは首にかからないように注意して、肩から胸部にかけてベルトが斜めになるように調整してください。
- 事故などで強い衝撃を受けたときに着用していたベルト、あるいはベルト表面がほつれているものは、必ずシートベルト一式を交換してください。
- 万一の事故の際に、荷物が車内に散乱したり、それによって乗員がけがをする恐れがありますので、大きな荷物をシートに積んで運ぶときは、できるだけシートベルトを使用して荷物を固定してください。
- ベルトがねじれていたり、ベルトの動きがさまたげられたままでシートベルトを着用しないでください。
- 前席シートの背もたれを極端に寝かせた状態で走行しないでください。背もたれを直立（垂直）の状態から約 25 度寝かせた状態にすると、最適なシートベルト効果を発揮させることができます。
- 万一の際にベルト ロックが外れる恐れがありますのでシートベルトのバックルに異物（特にお菓子のかすや飲み物）が入り込まないよう注意してください。

SRS エアバッグ システムは、シートベルトの乗員拘束効率を補助するための装置であり、シートベルトの代わりに機能するものではありません。乗車中は、必ず全員がシートベルトを着用してください。

シートベルトは正しく着用してください。正しく着用していないと、万一の事故の際に生命の危険やけがをする危険性が高まります。

シートベルト

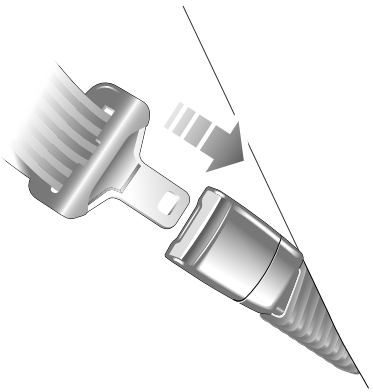
⚠ 警告

万一の事故によるけがを最小限に抑えるために、シートベルトは正しく着用してください。下記の手順、およびシートベルトの安全な着用方法に記載されている注意事項をよくお読みください。

⚠ 警告

シートベルトは骨格部（腰骨、胸骨、肩部）にかかることを前提に設計されていますので、ベルト着用時はシートの背もたれをできるだけ立てた状態（垂直に近い状態）にしてください。前席シートの乗員が背もたれを倒した状態では走行しないでください。

シートベルトの着用の仕方



H3900

前席シート、後席シートのすべてに巻き上げ式シートベルトが装備されています。

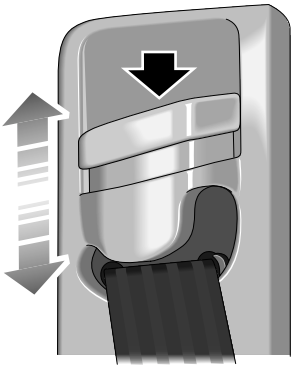
⚠ 警告

ベルトがねじれないように注意しながら、シートベルトを肩から胸にかけてしっかりと引き寄せ、先端部の金属プレートをバックルに差し込んでください。「カチッ」と音がすれば、シートベルトは確実にロックされています。

シートベルトの外し方

シートベルト バックルの赤いボタンを押してください。

上部アンカーの高さ調整



H3803

⚠ 注意

前席と外側後席のシートベルト上部のアンカーの高さを調整することにより、着用時の快適さと安全性を同時に実現できます。ボタン（黒い矢印）を押してキャッチを外し、上下に動かしてアンカーの高さを調整します。安全のため、シートベルト上部が必ず肩と首の間を通るように着用してください。

発進前に、シートベルト アンカーが確実にロックされていることを確認してください。

後席中央シートの乗員も可能な限り座る位置を調整し、ベルトが首にかからないように注意しながら、肩から腰部へと斜めに渡してください。

シートベルト プリテンショナー

⚠ 注意

シートベルト プリテンショナーは、SRS エアバッグ システムと併用することで、激しい正面衝突の際の乗員拘束効果をいっそう高めることができます（「SRS エアバッグの仕組み」32 ページを参照）。プリテンショナーが作動すると、自動的に前席シートのシートベルトを一定の長さだけ引き込みます。これにより、腰部および肩部のベルトのたるみを取り除き、激しい正面衝突の際に乗員が前に移動することを軽減します。

シートベルト プリテンショナーに不具合があると、計器パネルの SRS エアバッグ警告灯が点灯します。

プリテンショナーが作動した後であっても、シートベルト自体は通常の乗員拘束システムとしての機能を維持します。お車が走行可能な状態のときは、必ずシートベルトを着用してください。

知識

シートベルト プリテンショナーは側面からの衝突や後方からの追突、あるいは軽度の正面衝突時には作動しません。

シートベルト

⚠ 警告

シートベルト プリテンショナーは、一度しか作動しませんので、作動後は必ずランドローバー正規ディーラーに交換をご依頼ください。作動したプリテンショナーを交換しないでいると、前席 SRS エアバッグ システムの保護効果が十分に得られません。

万一、前面を衝突したときは、必ずランドローバー正規ディーラーでシートベルトとプリテンショナーの点検を受け、必要であれば交換してください。

安全のため、前席シートとシートベルトの取り外しや交換は、必ずランドローバー正規ディーラーにご依頼ください。

整備情報

⚠ 警告

エアバッグ システムの誤作動の原因となったり、不慮のけがをする恐れがありますので、プリテンショナーおよび SRS エアバッグに関連する部品の修理、交換、改造、変更は絶対におやめください。またプリテンショナーおよび SRS エアバッグ付近の配線には、絶対に手を加えないで下さい。

新車登録日（または プリテンショナーを交換した日）から 15 年が経過した場合、プリテンショナーに関連する特定の部品をランドローバー正規ディーラーにて交換する必要があります（メンテナンス ノートに記載の「シートベルト プリテンショナーの交換」を参照）。

⚠ 注意

下記のような場合には、必ずランドローバー正規ディーラーにご連絡ください。

- エアバッグが作動したとき
- プリテンショナーが作動したとき
- プリテンショナーが作動していなくても、車の前面または側面に損傷を受けたとき

シートベルトのお手入れ

⚠ 警告

シートベルトにほつれや切りきず、摩耗している部分がないかどうか、定期的に点検してください。またシートベルトとボディの固定部やベルト調整箇所の損傷には特に注意してください。

ベルトを漂白したり、染めたりすることは絶対におやめください。またベルトに研磨剤やオイル、化学薬品が付着しないように注意してください（「内装のお手入れ」175 ページを参照）。

巻き上げ式シートベルトのテスト

アドバイス

- シートベルトを着用し、バックルに最も近い位置でベルトを強く引き、バックルが確実に固定されていることを確認してください。
- シートベルトを外し、ベルトを最後まで引き出してください。スムーズに引き出せることを確認したら、ベルトを最後まで巻き取らせてください。
- ベルトを半分ほど引き出し、先端の金属プレートを持って、強く一気に前方へ引いてください。このとき、シートベルト ロック機構が自動的に働いてベルトがロックされ、それ以上ベルトを引き出せなくなることをを確認してください。

これらのテストを実施してシートベルトに不具合があった場合には、ただちにランドローバー正規ディーラーに点検修理をご依頼ください。

⚠ 警告

ベルトがほつれてきた場合や、車両に大きな衝撃が加わった場合は、必ずシートベルト一式を交換してください。

チャイルド シート

⚠ 注意

お車に装備されたシートベルトは、大人や体格の大きなお子様に適した設計となっています。安全のため、幼児や小さなお子様は、年齢、体格に合ったチャイルド シートに座らせてください。お客様のお車への使用を認定されたチャイルド シートは、ランドローバー正規ディーラーでお求めになれます。

チャイルド シートは必ず、お客様のお車への使用を認定されているものを選び、メーカーの取付説明書の記載内容に従ってください。

安全のため、幼児や小さなお子様は必ず後席に座らせてください。やむを得ず、お子様を前席に座らせなければならない場合には、シートをできるだけ後ろに移動させて、前向きタイプのチャイルド シートに座らせてください。後ろ向きタイプのチャイルド シートは使用しないでください。エアバッグが膨張した際に、シートに衝撃が加わり、お子様に重大なけがを負わせる可能性があります。

助手席側 B ピラーに貼られている上記シンボル マークは、助手席に後ろ向きタイプのチャイルド シートを使用しないよう警告するものです。後ろ向きタイプのチャイルド シートを使用すると、エアバッグが作動したときに、お子様が重大なけがを負う恐れがあります。

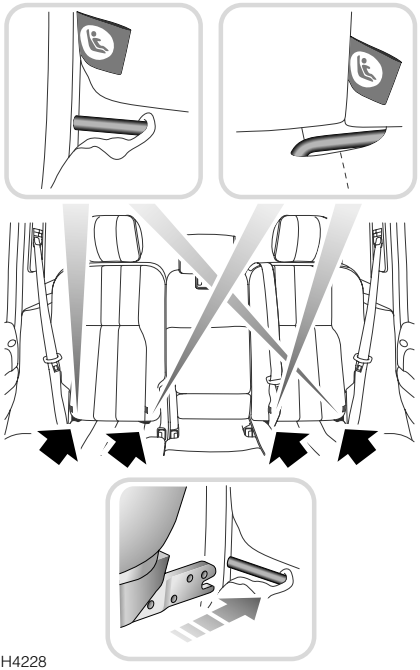
⚠ 危険

後ろ向きタイプのチャイルド シートを助手席に取り付けないでください。エアバッグが作動したときに、お子様が重大なけがを負う、または命にかかわる恐れがあります。

体重グループ **チャイルド シートの梱包に表示**	**シート位置**		
	助手席	後席外側	後席中央
0 = 体重 10 kg 未満（0 ～ 9 ヶ月）	X	U	X
0+ = 体重 13kg 未満（0 ～ 18 ヶ月）	X	U	X
I = 体重 9 - 18 kg（9 ヶ月～ 4 歳）	UF	U	X
II および III = 15 - 36 kg（4 ～ 12 歳）	U	U	X

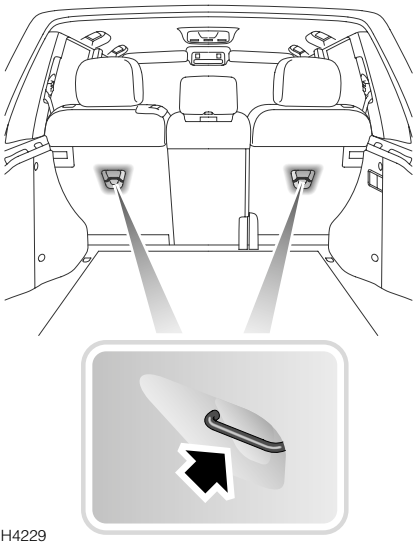
U = 該当する体重グループを認可している「汎用型」のチャイルドシートを使用できます。
UF = 該当する体重グループを認可している前向き取り付け「汎用型」のチャイルドシートを使用できます。
X = この装備位置は該当の体重グループのお子様には適切ではありません。

ISOFIX チャイルド シート



H4228

地域や国によっては、国際標準化機構 (ISO) の規格に適合し、お客様の車両への使用を認定されている ISOFIX チャイルド シートを入手することができます。ISOFIX チャイルド シートを取り付けるためには、チャイルド シート側の金具と連結させるための固定専用バーが、車両側に装備されている必要があります。



H4229

後席の外側シートには、ISOFIX チャイルド シートを取り付けるための固定バーが装備されています。

⚠ 警告

後席中央のシートに ISOFIX チャイルド シートを取り付けないでください。装備されている固定バーは、ISOFIX チャイルド シートを後席中央のシートに取り付けるようには設計されていません。

ISOFIX チャイルド シートを取り付ける

ISOFIX チャイルド シートは、後席の外側シートにのみ取り付けることができます。後席シートのフレーム部分に装備されている固定バー（図の矢印）は、外側シートでのみ ISOFIX チャイルド シートを確実に固定することができます。固定バーの位置は前ページの図に示されています。

さらに、後席シートの裏側に 2 個の固定バーが取り付けられており（前ページ右図）、チャイルド シートを固定ストラップで固定するのに使用します。

⚠ 注意

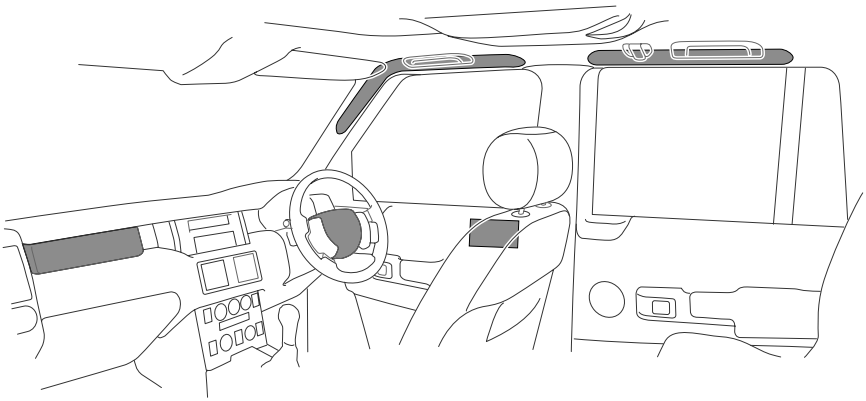
ISOFIX チャイルド シートを取り付ける際は、常にメーカーの取付説明書の記載内容に従ってください。

取り付けが終了したら、ご使用になる前に、取り付け状態を点検されることをお勧めします。チャイルド シートを前後左右にゆすり、ぐらつきがなく、しっかり固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

チャイルド シートがしっかり固定されていないと、衝突または急ブレーキ時に、お子様が重大なけがを負う恐れがあります。

SRS エアバッグ



H3932

SRS エアバッグ

SRS エアバッグ システム（補助的乗員拘束システム）は、フロント ツイン、フロント サイド＆ヘッド エアバッグ、またリア ヘッド エアバッグが装備されています。

⚠ 警告

SRS エアバッグは、衝突の際にシートベルトの乗員拘束効果を補助するための装置であり、シートベルトの代わりに機能するものではありません。

エアバッグは乗員が正しい乗車姿勢で座っており、シートベルトを正しく着用していることを前提として、正面衝突時に前席乗員の胸と顔を、側面衝突時には身体の側面を保護するための補助的な装置です。

ヘッド エアバッグは、衝突の際に前席と後席外側の乗員の側頭部をより確実に保護する装置です。

知識

サイド エアバッグと前席エアバッグの作動（膨張と収縮）は瞬時に完了します。そのため、2 次衝撃に対する保護効果はありません。ヘッド エアバッグは、前席エアバッグよりゆっくり収縮するので、2 次衝撃に対する保護効果があります。

⚠ 警告

乗員がエアバッグ ユニット収納部付近に足、ひざ等の身体を接近させたり、ユニット収納部にアクセサリーなどの器物等を設置するなどしてエアバッグの作動をさまたげないよう注意してください。

⚠ 警告

ルーフ ライニング、フロント ピラー、B ピラー トリム、前席ドア トリム（アーム レストの上）、エアバッグ収納部のカバーとその付近にアクセサリー類を取り付けないでください。エアバッグの作動をさまたげたり、膨張時に車内に散乱してけがの原因となります。

⚠ 危険

エアバッグを確実に作動できるようにするため、エアバッグ収納部と乗員との間に作動をさまたげるような器物を置かないでください。以下に示す例のような状態は、エアバッグの作動をさまたげたり、最悪の場合は人命を危険にさらすことになる恐れがありますのでご注意ください。

- エアバッグ収納部、ルーフ ライニング、フロント ピラー、B ピラー トリム、前席ドアの内側などにアクセサリー類を取り付ける
- 手荷物や器物をエアバッグ収納部の上に載せる
- 足、ひざ、その他の身体の部分をエアバッグ収納部に載せたり、極端に接近させる
- 頭部、腕、その他の身体の部分をサイド エアバッグの収納部に載せたり、極端に接近させる
- 衣類をルーフのハンドルに掛ける

シート位置

エアバッグが膨張したときの不慮のけがを最小限に抑えるために、乗車中は必ずシートベルトを着用してください。さらに、運転者および助手席の乗員がフロント エアバッグ収納部から適切な距離を保つよう、それぞれのシート位置を調整してください。また、前席シートと後席外側シートの乗員は、上体および頭と車両側面の間に障害物がないことを確認し、サイド エアバッグと前席後席のヘッド エアバッグの膨張がさまたげられないようにしてください。

⚠ 注意

エアバッグが膨張したときの不慮のけがを最小限に抑えるために、乗車中は必ずシートベルトを着用してください。さらに、運転者および助手席の乗員がフロント エアバッグ収納部から適切な距離を保つよう、それぞれのシート位置を調整してください。また、前席シートと後席外側シートの乗員は、上体および頭と車両側面の間に障害物がないことを確認し、サイド エアバッグと前席後席のヘッド エアバッグの膨張がさまたげられないようにしてください。

万一の事故の際に最適な保護効果を得るため、エアバッグは一気に膨張させる必要があります。

乗員が極端にエアバッグに接近していると、エアバッグが作動したときに顔などにけがをする恐れがあります。

SRS エアバッグの仕組み

エアバッグ コントロール ユニットは、衝突の際の加速度または減速度をモニターしており、衝突時にエアバッグを作動させる必要があるかどうかを決定します。

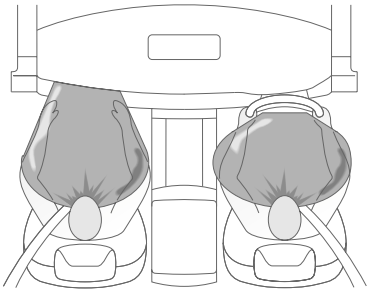
衝突による車室の速度変化の程度に応じて、SRS エアバッグが作動します。衝突時の状況（車速、衝突した角度、対象物の種類や寸法など）が異なると、この速度変化に大きく影響を及ぼします。

知識

SRS エアバッグは、後面衝突、軽度の正面衝突、側面衝突ならびに横転事故では作動しないように設計されています。また、急制動時あるいは悪路走行による振動などでも作動しないよう設計されています。

したがって、外見的に車両が大きく損傷していてもエアバッグが作動しない場合もあれば、逆にあまり変形の度合いが少ないのにエアバッグが作動する場合もあります。

エアバッグの膨張



H3985

知識

エアバッグは、シートベルトの拘束力を補助する必要がある場合にのみ作動します。

激しい正面衝突の場合には、運転席と助手席両方のフロント エアバッグが作動します。激しい側面衝突の場合には、衝突した側のサイド エアバッグとヘッド エアバッグのみ作動します。しかし、衝突状況によっては、片側のサイド エアバッグと前席の両方のフロント エアバッグが同時に作動する場合もあります。また、1 次衝突に続いて 2 次衝突が起きた場合、フロントとサイドのエアバッグが別々に作動することもあります。

⚠ 注意

エアバッグの膨張により、顔に擦り傷などを作ることがあります。そのようなけがを最小限に抑えるため、前席乗員は乗車中必ずシートベルトを着用し、正しい着座姿勢で、できるだけシートを後方に下げてください。

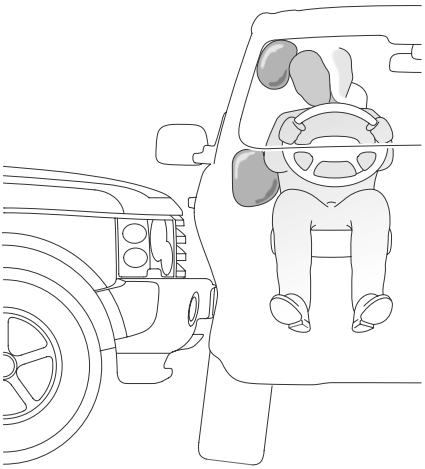
エアバッグは瞬時にかなりの力で膨張し、その際大きな音とかなりの衝撃があります。膨張するエアバッグによるクッション効果とシートベルトによる乗員拘束効果の相乗作用により、乗員の身体が前方に投げ出されることを防ぎ、これにより頭部や上半身にけがを負う可能性を軽減しています。

エアバッグが膨張する際、細かな粉状の物質が発生しますが、これは異状ではありません。ただしこの粉状物質は皮膚に刺激を与える恐れがあります。したがって、もしも眼や切り傷、擦り傷などにこの粉が付着した場合は、水で完全に洗い流してください。フロント エアバッグとサイド エアバッグは作動後、すぐに収縮を始めます（ヘッド エアバッグはゆっくりと収縮します）。そのため、衝撃時には乗員を受け止めるクッションとして働き、作動後は運転者の前方視界をさまたげないようにしています。

知識

作動後のエアバッグ構成部品は、熱を持っている場合があります。しばらくは部品に触れないでください。

サイド エアバッグ



H3984

⚠ 注意

上体と車両側面の間に障害物がないことを確認し、サイド エアバッグの膨張がさまたげられないようにしてください。

サイド エアバッグは胸部を保護するための装置で、激しい側面衝突のときのみ作動します。正面衝突や後面衝突のときには作動しません。

激しい側面衝突の場合には、衝撃を受けた側のサイド エアバッグがドアから瞬時に膨張して前席の乗員と車両側面の間のクッションとなります。衝撃を受けていない側のサイド エアバッグは作動しません。

ヘッド エアバッグ

⚠ 注意

ヘッド エアバッグを正常に作動させるために、ルーフ ライニングとフロント ピラー トリムは損傷がなく、正しく取り付けられていなければいけません。損傷があったり、取り付け方がおかしいと感じたら、必ずランドローバー正規ディーラーでにご相談ください。

ヘッド エアバッグは頭部を保護するための装置で、激しい衝突のときのみ作動します。正面衝突や後面衝突のみのときには作動しません。

ヘッド エアバッグ ユニットは、ルーフ ライニングとフロント ピラー トリムの内側のドアの上に取り付けられています。激しい側面衝突の際、ルーフ ライニングとフロント ピラー トリムの内側から飛び出して膨張します。ヘッド エアバッグは、他のエアバッグよりゆっくり収縮するので、2 次衝撃に対する頭部の保護効果があります。

SRS エアバッグ警告灯

⚠ 注意

計器パネルの SRS エアバッグ警告灯は、エアバッグ システムの不具合を知らせます。下記の症状が見られる場合は、ランドローバー正規ディーラーにて、SRS エアバッグの点検を受けてください。

- イグニッション スイッチを「II」の位置にしても、警告灯が全く点灯しない。
- イグニッション スイッチを「II」の位置にし、約 4 秒が経過しても警告灯が消灯しない。
- エンジン始動後、または走行中に警告灯が点灯する。

整備情報

⚠ 注意

エアバッグ システムの誤作動の原因となったり、不慮のけがをする恐れがありますので、SRS エアバッグに関連する部品の修理、交換、改造、変更は絶対におやめください。また SRS エアバッグ付近の配線には、絶対に手を加えないで下さい。

下記のような場合には、必ずランドローバー正規ディーラーにご連絡ください。

- エアバッグが作動したとき。
- エアバッグが作動していなくても、車の前面または側面に損傷を受けたとき。
- エアバッグ ユニットのカバー部分に損傷や亀裂の痕跡が見られるとき。

新車登録日（または SRS エアバッグ システムを交換した日）から 15 年が経過した場合、エアバッグ システムに関連する特定の部品をランドローバー正規ディーラーにて交換する必要があります（メンテナンス ノートに記載の「エアバッグ ユニット交換」を参照）。

アドバイス

SRS エアバッグ システムの構成部品は電気や物理的な干渉（力や振動など）に敏感です。いずれの作用によっても、システムが損傷し、エアバッグの故障や誤作動の原因となります。

安全のため、下記の作業は必ずランドローバー正規ディーラーにご依頼ください。

- ステアリング ホイール、ステアリング コラム、ドア トリム、ルーフライニング、計器パネル、ダッシュボードを含む SRS エアバッグ付近の配線類、または構成部品の取り外しまたは修理。
- 自動車電話、無線機、カー オーディオなどの電装品の取り付け。
- 車両フロント部または側部（バンパーおよびシャシーを含む）の改造。
- 車両フロント部または側部へのアクセサリー装着

車両を売却または廃車される場合

アドバイス

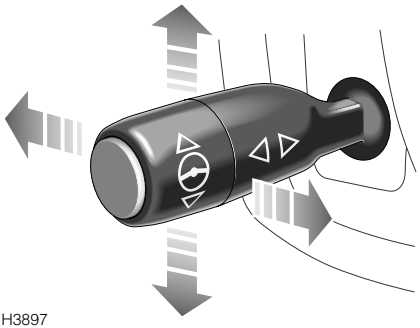
お車を売却なさるときは、必ず次の所有者に SRS エアバッグ装備車であることを伝えてください。またエアバッグ ユニットの交換時期がメンテナンス ノートに記載されていることも伝えてください。

未作動のエアバッグは、放置すると非常に危険です。廃車される場合には、安全な環境で有資格者によりエアバッグを強制作動させなければなりません。エアバッグに関する作業は、どのようなことでもランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

ステアリング ホイールの調整

⚠ 警告

非常に危険ですから、走行中にステアリング ホイールの位置を調整しないでください。



H3897

調整レバーを上下前後 4 方向に操作して、ステアリング ホイールを最適な運転姿勢になる位置に調整することができます。

必ず停車してから、レバーを上下に動かして、ステアリング ホイールの高さを調整してください。

レバーを前後に動かして、ステアリング ホイールと上体との距離を調整してください。

ステアリング ホイールの位置を設定すると、設定時に使用していたイグニッション キーにそのステアリング ホイールの位置が記憶されます。それぞれのキーに異なったステアリング ホイールの位置設定を記憶させることで、それぞれの運転者に最適な位置に簡単に調整することを可能にしています。

知識

運転席シート メモリー機能を装備した車の場合、3 つの異なるステアリング コラムの位置を、シート メモリーに記憶させることができます。これにより、ボタンを押すだけで、運転者に最適なステアリング ホイール位置を呼び出すことができます。詳細は「運転席シート メモリー機能 *」19 ページ を参照してください。

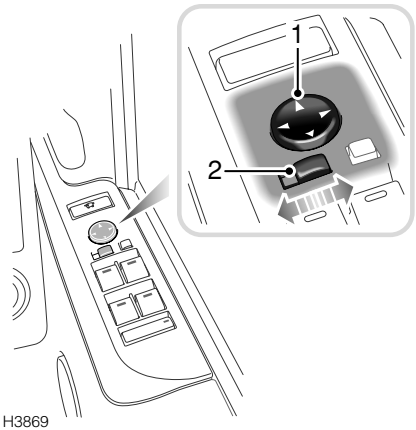
ステアリング ホイールの位置を下/後に調整してある場合イグニッション キーを抜くと、車に乗り降りしやすいようにステアリング ホイールが上/前に移動します。次にイグニッション キーを差し込むとステアリング ホイールは記憶されている位置に戻ります。

ドア ミラー

知識

ドア ミラーに映る像は、実際よりも遠くに感じることがあります。

ドア ミラーの調整



H3869

- スイッチ（2）を左または右に動かして、調整したい側のドア ミラーを選択します。
- イグニッション スイッチを「**II**」の位置にしてください。ミラー調整スイッチ（1）を希望する方向に押して、鏡面部を上下左右に調整してください。

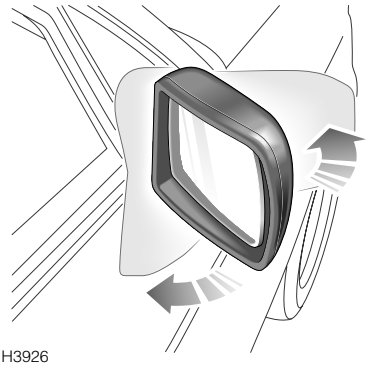
ドア ミラーにはヒーターが内蔵されており、鏡面に付着した氷や曇りを除去することができます。イグニッション スイッチを「**II**」の位置にすると、外気温に応じて、自動的にミラーに内蔵されたヒーターが作動します。

知識

運転席シート メモリー機能を装備した車の場合、3 つの異なるドア ミラーの位置を、シート メモリーに記憶させることができます。ボタンを押すだけで、運転者に最適なドア ミラー位置を呼び出すことができます。詳細は「運転席シート メモリー機能 *」19 ページ を参照してください。

ミラーの格納

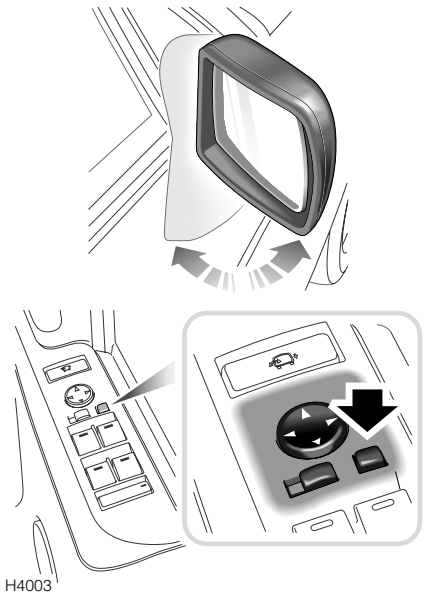
ドア ミラーは、衝撃を受けると、前方または後方に折りたたまれるように設計されています。また、狭い路地の通り抜けや駐車の際に折りたたむことができます。



H3926

手動操作 : お車によっては、ドア ミラーの格納を手動で行えます。ミラーを手で押して、後方に折りたたみます。ミラーを手前に引くと、通常の位置（格納されていない状態）に戻ります。

ドア ミラー



電動操作 : ミラー格納ボタン（図の矢印）を 1 回押すと、ミラーが後方に折りたたまれます。もう一度押すと、ミラーは元の位置に戻ります。

> **⚠ 注意**
>
> 車速が 10 km/h を超える場合は、ミラーを折りたたむことはできません。

何らかの原因で、左右のミラーが連動しない（片方が格納位置で止まってしまった等）ときは、正しく同調するまでスイッチを何度か操作してください。

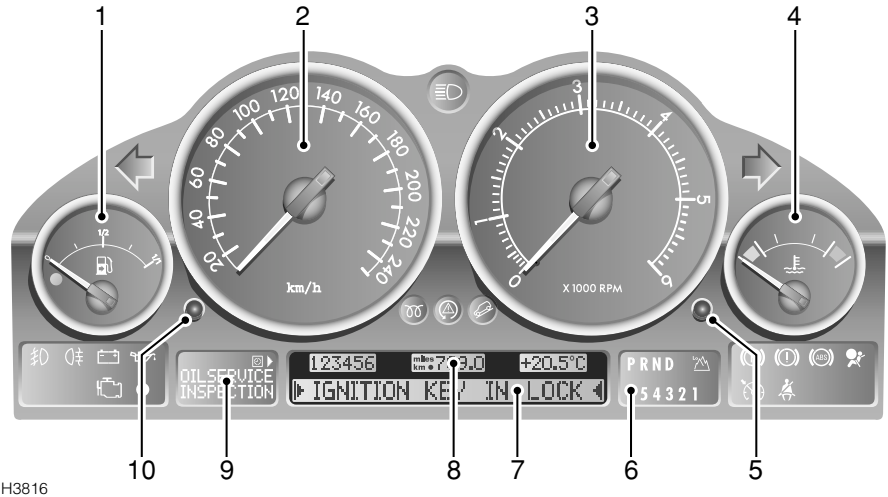
自動防眩機能

ドア ミラーには、自動防眩機能が装備されています。鏡面の反射率を制御して、夜間に後続車のライトで目がくらむのを防ぎます。

リバース連動ミラー機能 *

運転席シート メモリー機能が装備されている車には、ギアをリバースに入れると左側のドア ミラーが自動的に下を向くという機能があらかじめ設定されています。この機能には、ミラー調整スイッチ（前ページの 2）が助手席側にセットされているときのみ作動します。

計器パネル



H3816

1. 燃料計

イグニッション スイッチをオフの位置にすると、指針は 0 に戻ります。イグニッション スイッチを「**II**」の位置にすると、燃料タンク内の燃料の量を表示します。給油後、指針はすばやく上昇し、燃料タンク内の燃料量を表示します。

タンク内の燃料残量が 12 リットルになると、燃料計内の燃料残量警告灯が黄色に点灯します。警告灯が点灯した場合は、できるだけ早く給油を行ってください。

計器パネルのフューエル ポンプのシンボルに見える小さな矢印は、給油口が車のどちら側にあるかを示しています。ガソリン スタンドで給油する際に、車の給油口がどちら側にあるのか確認するのに便利です。

アドバイス

エンジン ミスファイヤ（失火）が発生し、触媒コンバーターを損傷する恐れがありますので、燃料がほとんど残っていない状態では走行しないでください。

2. スピードメーター

走行速度を 1 時間あたりの走行キロ数（km/h）で表示します。

3. タコメーター

1 分間当たりのエンジン回転数（× 1000）を表示します。通常の走行ではエンジンの燃費効率は、エンジン回転数が 2000～3000 rpm のときに最適となります。

4. 水温計

エンジン冷却水の温度が通常の作動温度に達すると、指針は目盛りの赤と青の枠の中央付近を指します（正確な位置は気候条件によって異なります）。

水温計の指針が赤色のマークまで達した場合は、冷却水の温度が非常に高くなっていることを示します。万が一、指針が赤色のマークに達し、水温計内の赤色の警告灯が点灯した場合、エンジンを損傷する恐れがあります（このような場合、エンジンへの負荷を最小限に抑えるため、エアコン システムが停止し、エンジンの出力性能が低下することがあります）。

できるだけ早く安全な場所に停車し、エンジンを停止させ、冷却します。不具合が続く場合は、それ以上走行を続けずに、ランドローバー正規ディーラーに点検をご依頼ください。

5. システム点検スイッチ

イグニッション キーを差し込まずにスイッチを押し続けると、システムに不具合がないか点検します。不具合があると、スイッチから指を離すまで、メッセージ センターに順に不具合が表示されます。不具合がない場合は、「CHECK CONTROL OK」（点検完了）が表示されます。詳細は、「メイン メッセージ センター」43 ページを参照してください。走行中やイグニッション スイッチがオフのときでも、メッセージが表示される場合があります。

6. ギア位置ディスプレイ

現在のシフト レバーの位置と、ロー レンジが選択されている場合はロー レンジ マークを表示します。詳細は、「ギア位置ディスプレイ」49 ページを参照してください。

7. メイン メッセージ センター

車両のシステムからの警告とインフォメーションのメッセージが表示されます。メッセージとメッセージの意味についての詳細は、「メイン メッセージ センター」43 ページを参照してください。

8. オドメーターおよびトリップ メーター

イグニッション スイッチを「**II**」の位置にすると、ディスプレイに積算走行距離と区間走行距離が表示されます。仕様によってはマイルまたはキロメートルの表示切り替えを行うことができます。マイル／キロメートルの単位を切り替えるには、トリップ メーターのリセット ボタンを 2 秒以上押し続けてください。

9. オイル点検ディスプレイ

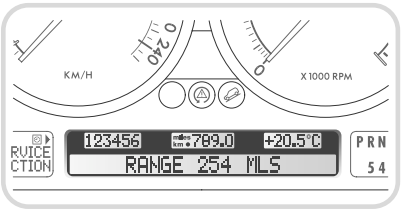
次のオイル点検時期までの残りの距離を表示します。詳細は、「整備メッセージ センター」49 ページを参照してください。

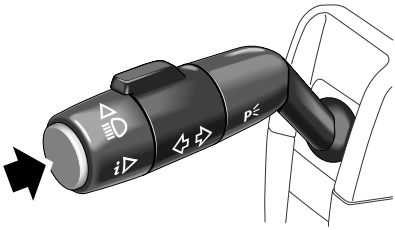
10. トリップ メーター リセット ボタン

トリップ メーター リセット ボタンを短く押すと、トリップ メーターの表示が 0 に戻ります。

トリップ コンピューター

トリップ コンピューターの機能 / 選択





H4076

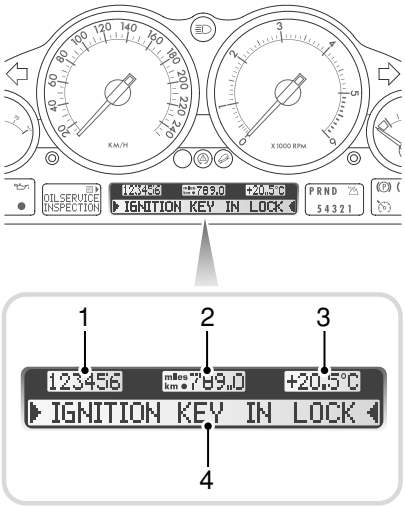
トリップ コンピューターは、計器パネルのメッセージ センターに、燃料消費量、走行時間、走行距離など、運転者に役立つ情報を表示します。

イグニッション スイッチを「**II**」の位置にすると、トリップ コンピューターの計算値が表示され、方向指示器レバーの端にあるボタンを押すごとに表示項目が変わります。表示値の項目は以下のとおりです。

- 現在の時刻
- 平均燃費 1
- 平均燃費 2
- 残燃料による走行可能距離
- 速度警告（リミット）
- 目的地までの残距離
- 予定到着時間
- 平均速度
- 現在の日付
- ストップウォッチ

表示項目の選択や順番は、自由に決めることができます。詳細は、別冊の「オーディオ システム」取扱説明書を参照してください。

メイン メッセージ センター



H3820

1. デジタル オドメーター
   積算走行距離を表示します。
2. トリップ メーター
   区間走行 距離をマイルま たはキロメートルで表示します。
3. 外気温度表示
4. 警告/インフォメーション メッセージ表示

メッ セージ センターに警告とインフォメーション メッセージが表示されます。メッセージにはそれぞれ優先順位があり、以下のカテゴリーに分類されています。

故障が検知されたり、イグニッション スイッチをオフにした場合、メッセージが表示されます。また、システム点検スイッチを押すと、キーを抜いてから 3 分間はメッセージが表示されます。

重大警告メッセージ

警告音とともに重大警告メッ セージが表示され、メッセージの両端にある矢印が点滅します。重大警告メッセージは、イグニッション スイッチがオンになっている間表示され、故障が発生している間表示され続けます。

これらの警告が表示された場合は、ただちにランドローバー正規ディーラーへご相談ください。

警告 / インフォメーション メッセージ

重大警告メッセージほど重大ではありませんが、できるだけ早い機会に対処する必要があります。メッ セージが表示されるごとに、警告音が鳴ります。

これらの警告が表示された場合は、ただちにメッ セージの内容に従ってください。警告メッセージは約 20 秒間表示されます。他の警告メッセージが保留されている場合は、表示時間は約 2 秒間に短縮されます。

インフォ メーション メッセージは随時、イグニッション スイッチのオン / オフにかかわらず表示されます。メッセージが運転者の対処を要求した場合は、できるだけ早い機会に対処してください。

警告 / インフォメーション メッセージ

警告メッセージとインフォメーション メッセージは、優先順位にしたがって表示され、重大警告メッセージが最優先されます。重大警告メッセージの場合は、メッセージの両端にある矢印が点滅します。重大警告メッセージが表示された場合は、できるだけ早い機会に対処してください。

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
ACCESS MAX 40KM/H	クロール モードが選択されています。	車高がクロール モードになっている、または標準モードに戻る途中の場合、車速が 40 km/h を超えないように走行してください。
AIR SUSP.INACTIVE + MAX 60 km/h (交互に表示)	エア サスペンション システムが故障し、一時的に作動を停止しました。	慎重に運転し、エア サスペンション システムの機能が低下していることに気を付けてください。メッセージが 25 分以上続く場合は、ただちにランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。
APPLY HANDBRAKE	シフト レバーが「P」(パーキング) 位置にあり、トランスファ ギア ボックスはニュートラルが選択され、イグニッション スイッチはオフになっているが、駐車ブレーキがかかっていません。	駐車ブレーキをかけるか、4 輪を接地した状態でけん引されている場合はイグニッション スイッチを「**I**」か「**II**」の位置にしてください。
CHECK BRAKE FLUID	ブレーキ液のレベルが低すぎます。	できるだけ早く安全な場所に停車し、ブレーキ液を上限まで補充してください。液漏れがないか、ランドローバー正規ディーラーで点検してください。
CHECK BRAKE PADS	ブレーキ パッドが摩耗限界域に達しています。	慎重に運転し、ランドローバー正規ディーラーにできるだけ早い機会にご相談ください。
CHECK CONTROL OK	車両診断システムによる診断の結果、故障は検知されませんでした。	作業の必要はありません。
CHECK COOLANT LEVEL	エンジン冷却水のレベルが低すぎます。	不凍液と水を正しい割合で混ぜたエンジン冷却水を、できるだけ早い機会に上限まで補充してください。不具合が続く場合は、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
CHECK DIP BEAM LIGHT	下向きビームの電球または電気回路に不具合があります。	電球を点検、交換するかランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

メッセージ センター

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
CHECK ENGINE OIL LEV	エンジン オイルのレベルが最低値に近くなっています。	できるだけ早く安全な場所に停車し、エンジン オイルを正常なレベルまで補充してください。
CHECK FRONT FOGLIGHT	フロント フォグ ランプの電球または電気回路に不具合があります。	電球を点検、交換するかランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
CHECK FRONT LIGHT	フロント ライトの 1 個以上に不具合があります。	不具合のあるフロント ライトを点検し、切れた電球を交換してください。フロント ライトの不具合が続く場合は、ランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。
CHECK FUEL TANK CAP* (一部の国と地域のみ)	給油口キャップがしっかりはまっていません。	キャップを点検し、しっかり締めて取り付けてください。
CHECK MAINBEAM LIGHT	上向きビームの電球または電気回路に不具合があります。	電球を点検、交換するかランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
CHECK NUMPLATE LIGHT	ナンバー プレート ランプの電球または電気回路に不具合があります。	電球を点検、交換するかランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
CHECK REAR FOGLIGHT	リア フォグ ランプの電球または電気回路に不具合があります。	電球を点検、交換するかランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
CHECK REAR LIGHT	リア ライトの 1 個以上に不具合があります。	不具合のあるリア ライトを点検し、切れた電球を交換してください。リア ライトの不具合が続く場合は、ランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。
CHECK REVERSE LIGHT	リバース ランプの電球または電気回路に不具合があります。	電球を点検、交換するかランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
CHECK SIDE LIGHT	車幅灯の電球または電気回路に不具合があります。	電球を点検、交換するかランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
CHECK TAIL LIGHT	尾灯の電球または電気回路に不具合があります。	電球を点検、交換するかランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
CHECK TRAILER LIGHT	トレーラー ランプの電球または電気回路に不具合があります。	電球を点検、交換するかランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

メッセージ センター

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
COOLANT TEMPERATURE	冷却水の温度が高すぎます。	できるだけ早く安全な場所に停車し、エンジンを停止させ、クールダウンさせてください。できるだけ早い機会にランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
DOOR OPEN	ドアが開いています（車を発進させたときに表示されます）。	できるだけ早く安全な場所に停車し、ドアを閉めてください。
DSC INACTIVE	DSC システムで故障が検知されました。	そのまま走行することは可能ですが、慎重に運転してください。できるだけ早い機会にランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
EEPROM LCMC	照明スイッチに不具合があります。	できるだけ早い機会にランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
ENGINE FAILSAFE PROG	エンジン電子装置で故障が検知されました。	そのまま走行することは可能ですが、エンジン回転数とパワーを落としてください。慎重に運転し、ランドローバー正規ディーラーにできるだけ早い機会にご相談ください。エンストを起こしやすくなり、エンジンの始動が困難になりますのでご注意ください。
EXTERNAL TEMP X°C/F	外気温度が 3°C 以下です。	すべてが凍りやすい状態にあるということです。運転前にデフロスターを作動させて除霜してください。また、路面が凍っているかもしれませんので注意してください。
FASTEN SEAT BELTS	運転席または助手席のシートベルトが正しく着用されていません。	シートベルトを着用し、確実にロックしてください。
FUEL INJECT.SYSTEM	燃料噴射システムで故障が検知されました。	ランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。
HDC INACTIVE	ヒル ディセント コントロール（HDC）システムに故障があります。	斜面の走行はおやめください。できるだけ早い機会にランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
HDC TEMP.NOT AVAIL.	ヒル ディセント コントロール（HDC）システムが過熱し、一時的に作動を停止しました。	システムが冷却されるまで（メッセージが消えるまで）、斜面の走行はおやめください。
HEADLIGHT DELAY	前照灯遅延が選択されました。前照灯は自動的に消灯します。	作業の必要はありません。
HIGH RANGE	トランスファ ギアボックスでハイレンジが選択されました。	ハイ レンジにする必要がない場合は、ロー レンジを選択してください。

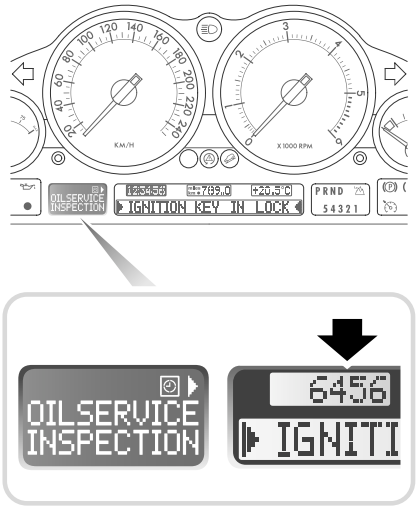
メッセージ センター

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
KEY BATTERY LOW	ハンドセット キーの電池が充電不足です。	ハンドセット キーの電池を交換してください。
KEY IN IGNITION LOCK	イグニッション スイッチにキーが差し込まれたままで、運転席ドアが開いています。	キーをイグニッション スイッチから抜いてください。
LIGHTS ON	イグニッション スイッチからキーが抜かれたが、ライトはつけっぱなしです。	ライトを点灯する必要がない場合は、照明スイッチをオフにしてください。
LOW RANGE	トランスファ ギアボックスで、ロー レンジが選択されました。	ロー レンジにする必要がない場合は、ハイ レンジを選択してください。
LOW SCREEN WASH	ウォッシャー液のレベルが低すぎます。	できるだけ早い機会にウォッシャー液を補充してください。
MANUAL MODE	ギアボックスがマニュアル モードになっています。	マニュアル モードにする必要がない場合は、オートマチック モードに切り替えてください。
NO HDC, SLOW DOWN	車速がヒル ディセント コントロール（HDC）作動可能域（0 ～ 35 km/h）を超えている、または HDC 作動可能域を超える車速で走行中に HDC が選択されました。	35 km/h 以下まで減速してから HDC を使用または選択してください。
OFFROAD MAX 50KM/H	車高がオフロード モードで、車速が 45 km/h を超えています。	オフロード モードで 50 km/h を超えて走行しないでください。そうしないと、車高は標準モードに戻ります。
RELEASE HANDBRAKE	駐車ブレーキがかかっていて、走行ギアが選択されています。	駐車ブレーキを解除してください。
SELECT NEUTRAL	ギアボックスをニュートラル位置にせずに、ギア レンジを切り替えようとしています。	メイン ギアボックスでニュートラルを選択してください。
SLOW DOWN	現在の車速では速すぎて、トランスファ ギアボックスのレンジを切り替えることができません。	レンジを切り替える前に、規定の速度まで車速を落としてください。
SPEED LIMIT	お客様が設定した最大制限速度を超えています。	制限速度以内になるまで車速を落としてください。
SPORT MODE	ギアボックスがスポーツ モードです。	スポーツ モードにする必要がない場合は、オートマチック モードに切り替えてください。

メッセージ センター

メッセージ	メッセージの意味	作業事項
STOP!ENGINE OILPRESS	エンジン オイル圧が低すぎます。	できるだけ早く安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。オイル レベルを点検し、必要であれば補充します。オイル レベルに問題がない場合は、走行前にランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
TAILGATE OPEN	車を発進させたときにテールゲートが開いています。	できるだけ早く安全な場所に停車し、テールゲートを閉めてください。
TRAILER MODE	けん引中にサスペンションの高さ変更の要求が出されました。高さは変わりません。	けん引中には、サスペンションの高さを変えないでください。車高は標準モードのままでなければいけません。
TRANS FAILSAFE PROG	ギアボックスで故障が発生しました。	エンジンの回転数が上がりすぎないよう慎重に運転し、できるだけ早い機会にランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
TRANSFERBOX NEUTRAL	トランスファ ギアボックスがニュートラルの位置になりました。	トランスファをニュートラルにする必要がない場合は、ヒューズ 37 を取り外してください。
TRANSMISS'N OVERHEAT	ギアボックス オイル温度が高すぎます。	メッセージが続く場合は、できるだけ早く安全な場所に停車し、ギアボックスを冷却させます。メッセージが再び表示された場合は、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

整備メッセージ センター



H3821

イグニッション スイッチを「I」の位置にすると、積算走行距離ディスプレイ（上のメイン メッセージ センター図中の矢印）に次回オイル交換時期までの残り距離が表示されます。約 4 秒後、ディスプレイは積算距離表示に戻ります。

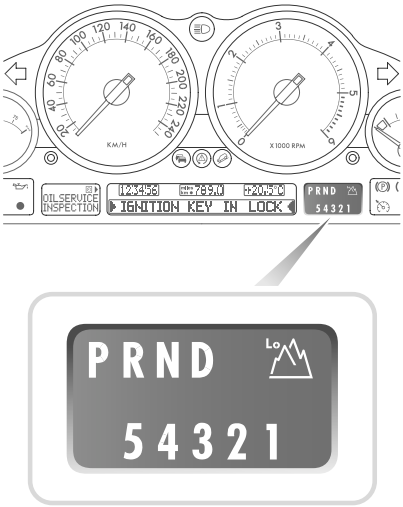
交換までの残り距離は、エンジン マネージメント システムで計算されます。走行の仕方や状況に応じて数値を調整し、いつ頃交換が必要か測定します。

オイル交換と点検の両方とも必要な場合は、ディスプレイに「OIL SERVICE」（オイル交換）または「INSPECTION」（点検）の文字が表示されます。両方のメッセージがディスプレイに表示された場合は、ランドローバー正規ディーラーで必要な点検整備を受けてください。

知識

各整備が完了したら、ランドローバー正規ディーラーによって積算走行距離ディスプレイがリセットされ、次回整備時期までの距離計算が始まります。

ギア位置ディスプレイ



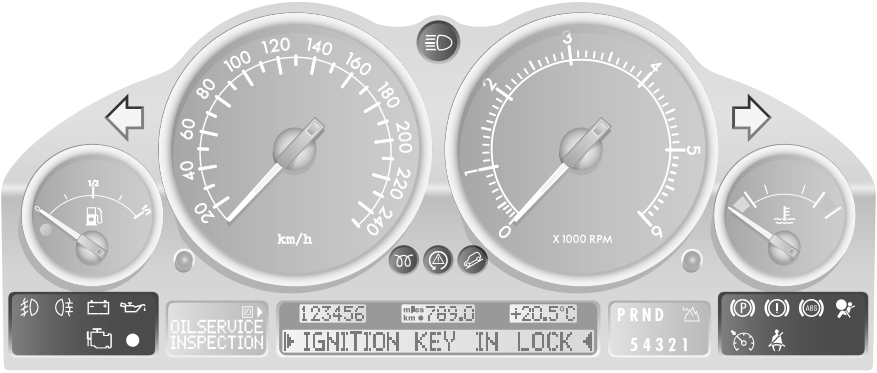
H3822

現在のシフト レバーの位置（「P」「R」「N」「D」）と、ロー レンジが選択されている場合はロー レンジ マークを表示します。さらに、ギアボックスがマニュアル モードの場合は、選択されているギアを表示します（「5」、「4」、「3」、「2」、「1」）。

ロー レンジ マーク（ディスプレイの右上）は、トランスファ ギア ボックスを切り替える間点滅し、ロー レンジに切り替わると点灯し続けます。レンジの変更は、メイン メッセージ センターでも確認できます。

警告灯

計器パネル



H3819

警告灯の位置および仕様は、各国の規制やモデルによって異なる場合があります。

リア フォグ ランプ表示灯（黄色）

リア フォグ ランプ スイッチをオンにすると点灯します。

フロント フォグ ランプ（緑色）

フロント フォグ ランプ スイッチをオンにすると点灯します。

バッテリー充電警告灯（赤色）

イグニッション スイッチを「II」の位置にすると、システムの作動確認のためいったん点灯し、エンジンが始動すると消灯します。エンジン始動後も消灯しない、あるいは走行中に点灯する場合は、バッテリー充電システムに故障が発生していることを示しています。ただちにランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。

油圧低下警告灯（赤色）

イグニッション スイッチを「II」の位置にすると、システムの作動確認のため点灯し、エンジンを始動すると消灯します。エンジン始動後も点灯や点滅を続ける場合、または走行中に点灯する場合は、できるだけ早く安全な場所に停車し、エンジンをただちに停止してください。それ以上走行を続けずに、ランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。この警告灯が点灯した場合は、必ずオイル レベルを点検してください。

エンジン チェック警告灯（黄色）

イグニッション スイッチを「II」の位置にすると、システムの作動確認のため点灯し、エンジンを始動すると消灯します。それ以外のときにこの警告灯が点灯した場合は、エンジンが故障していることを示しています。走行中にこの警告灯が点灯、または点滅した場合は減速して、ただちにランドローバー正規ディーラーで点検を受けてください。

駐車ブレーキ システム警告灯（赤色）

イグニッション スイッチをオンにすると、システムの作動確認のため約 3 秒間点灯します。イグニッション スイッチが「II」の位置にある状態で、駐車ブレーキをかけた場合にも点灯します。

駐車ブレーキが完全に解除すると、警告灯は消灯します。走行中に警告灯が点灯した場合、駐車ブレーキ システムに故障が発生しています。ランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。

ブレーキ システム警告灯（赤色）

この警告灯は、エマージェンシー ブレーキ アシスト システム（EBA）警告灯と同じマークで、同じ位置に表示されます。イグニッション スイッチをオンにするとシステム作動確認のため短時間点灯します（警告灯は、黄色 - 赤色 - 黄色の順に点灯します）。

イグニッション スイッチを「II」の位置にすると、まもなく警告灯が消灯します。警告灯が消えなかったり、走行中に点灯した場合は、ブレーキ システムに故障が発生しています。できるだけ早く安全な場所にゆっくりと停車し、運転を再開する前にランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。

警告灯の点灯とともに、「CHECK BRAKE PADS」（ブレーキ パッドを点検してください）または「CHECK BRAKE FLUID」（ブレーキ液を点検してください）のメッセージが表示されます。「CHECK BRAKE FLUID」が表示された場合は、ブレーキ液レベルを点検し、必要なときは補充してください。ブレーキ液レベルが適正でもなお警告灯が消えない場合は、走行を中止し、ランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。

エマージェンシー ブレーキ アシスト システム（EBA）警告灯（黄色）

この警告灯は、ブレーキ システム警告灯と同じマークで、同じ位置に表示されます。イグニッション スイッチを「II」の位置にするとシステム作動確認のため短時間点灯します（警告灯は、黄色 - 赤色 - 黄色の順に点灯します）。

始動後も警告灯が黄色で点灯、または走行中に警告灯が点灯した場合は、エマージェンシー ブレーキ アシスト システム（EBA）に故障が発生しています。できるだけ早く安全な場所にゆっくりと停車し、運転を再開する前にランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。

電子制御アンチロック ブレーキ システム（ABS）警告灯（黄色）

イグニッション スイッチを「II」の位置にするとシステムの作動確認のため点灯します。警告灯が消えなかったり、走行中に点灯した場合は、ABS システムに故障が発生しています。過度のブレーキの使用を避け、慎重に運転し、ただちにランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。

SRS エアバッグ システム警告灯（赤色）

イグニッション スイッチを「II」の位置にするとシステムの作動確認のためいったん点灯し、約 4 秒後に消灯します。それ以外のときに警告灯が点灯した場合は、システムに故障が発生しています。ただちにランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。

クルーズ コントロール作動警告灯（緑色）*

クルーズ コントロールが作動中に点灯します。

シートベルト警告灯（赤色）

イグニッション スイッチを「II」の位置にすると警告灯が点灯し、運転者がシートベルトを着用しているかどうかに関係なく、約 6 秒後に消灯します。仕様によっては、警告灯の点灯と同時に警告音が鳴ります（「警告音」53 ページを参照）。

⚠ 注意

仕様によっては運転者のシートベルトが正しく着用されるまで警告音が鳴り続けます。

ダイナミック スタビリティー コントロール（DSC）警告灯（黄色）

イグニッション スイッチを「II」の位置にすると、システムの作動確認のため点灯します。また、DSC スイッチが押され、DSC の作動が解除されたときも点灯します（ただし、トラクション コントロールは作動しています）。

DSC システムが作動状態になると点滅し、システム作動の必要がなくなるまで点滅し続けます。

警告灯が点灯し続け、DSC スイッチを押しても消灯しない場合は、システムに故障が発生しています。システムに故障があると DSC は作動しません。慎重に運転し、ただちにランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。

ヒル ディセント コントロール（HDC）情報警告灯（緑色）

イグニッション スイッチを「II」の位置にすると、システムの作動確認のため短時間点灯します。また、HDC を作動させた状態でも点灯します。

HDC が選択され、車速が作動域の 35 km/h 以内で走行している場合、警告灯は点灯し続けます。

HDC が選択され、車速が作動許容範囲を超えて走行すると警告灯が点滅し、「NO HDC - SLOW DOWN」（HDC 作動不可 - 速度を落としてください）のメッセージが表示されます。

また、HDC が「フェード アウト」中も警告灯は点滅します（詳細は「HDC フェード アウト」123 ページを参照）。

HDC システムに故障が発生すると、HDC は「フェード アウト」を起こした後に選択が解除されるか、突然解除されます（故障の種類と、HDC が作動状態であるかどうかによります）。緑色の警告灯が消灯し、メッセージ センターに「HDC INACTIVE」（HDC 非作動）のメッセージが表示されます。

前照灯上向きビーム表示灯（青色）

前照灯を上向きビームにすると、表示灯が点灯します。

方向指示器表示灯（緑色）

方向指示器表示灯は、左または右の方向指示器と連動して点滅します。どちらか一方の方向指示灯が作動しない場合は、該当する側の方向指示器表示灯が点灯しなかったり、点滅速度が通常よりも速くなります。

非常点滅表示灯を作動させた場合は、左右の方向指示器表示灯が同時に点滅します。

警告音

警告音

輸出地域によって警告音は異なります。

ライト消し忘れ

イグニッション スイッチをオフにした後もメイン照明スイッチがオンになっている場合、運転席ドアを開けると警告音が 2 回鳴ります。

電子制御エア サスペンション警告

車速が現在の車高における許容範囲の限界値に達すると、警告音が鳴ります。

ダイナミック スタビリティー コントロール（DSC）警告

DSC システムの故障が検知されると警告音が 1 回鳴り、DSC 警告灯が点灯します。そのまま慎重に走行を続けることは可能ですが、できるだけ早い機会にランドローバー正規ディーラーで点検修理を受けてください。

イグニッション キー抜き忘れ

キーをイグニッション スイッチに差し込んだまま運転席ドアを開くと、警告音が連続して鳴ります。警告音はドアを閉めるか、キーをイグニッション スイッチから抜くと鳴り止みます。

イグニッション キー抜き忘れ警告は、ランドローバー正規ディーラーで作動または解除の設定が行えます。

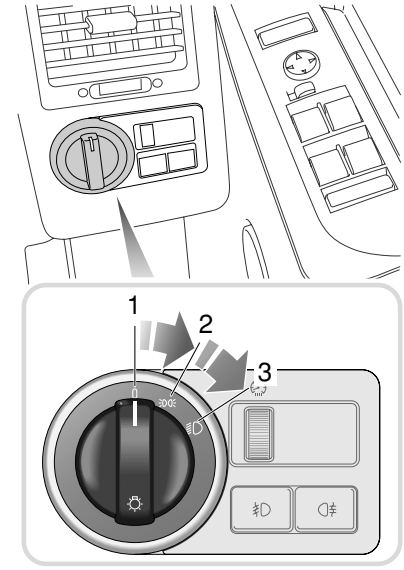
シートベルト締め忘れ

イグニッション スイッチがオンになったときに運転者がシートベルトを着用していないと、警告音が 1 秒間隔で鳴ります。警告音はシートベルト警告灯と連動して作動し、約 6 秒後に鳴り止みます。

外気温度警告

外気温度が 3°C 以下に下がると警告音が鳴り、メッセージ センターに警告メッセージが表示されます。デフロスターを作動させるなどして除霜を行い、路面が凍っていないか注意してください。

メイン照明スイッチ



H3867

1. 消灯
2. 車幅灯、尾灯、計器パネル照明灯が点灯
3. 前照灯が点灯

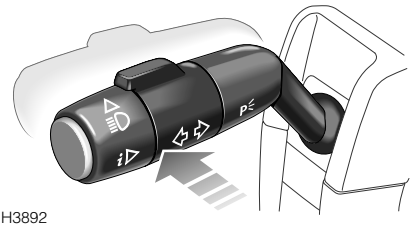
前照灯消灯遅延機能

駐車後、短時間だけ前照灯を点灯したいときは、メイン照明スイッチを「前照灯」も位置にしたままイグニッション スイッチをオフにします（メッセージ センターに「LIGHTS ON」が表示されます）。それからメイン照明スイッチをオフにすると、前照灯は、運転席のドアを閉めてから約 40 秒間点灯し続け、その後自動的に消灯します。

この間、必要であれば、イグニッション スイッチかメイン照明スイッチを一度オンにしてからオフに切り替えると、消灯遅延機能を中止できます。

この機能はランドローバー正規ディーラーで無効にすることができます。また前照灯遅延時間は、お好みの時間に調節できます。

前照灯の上向きビームと下向きビームの切り換え



H3892

レバーを前方に押すと、前照灯が上向きビームに切り替わります（青色の警告灯が点灯します）。レバーをステアリング ホイールに向かって引くと、前照灯が下向きビームに切り替わります。

パッシング シグナル（上向きビームを短く点滅させて合図すること）を出すときは、レバーをステアリング ホイール側に軽く引いて、すぐに放します。

駐車時点灯機能

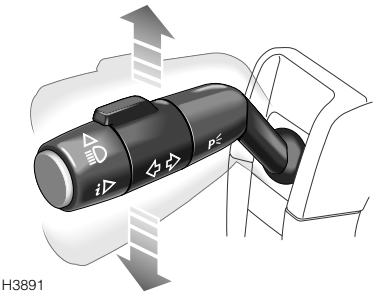
駐車するときに、必要に応じて、左右どちらかの車幅灯と尾灯を低出力でつけっぱなしにしておくことができます。

イグニッション スイッチを「0」の位置にして、レバーをいっぱいに上げると右側の車幅灯と尾灯が点灯し、いっぱいに下げると左側が点灯します。イグニッション キーを抜き、車両を普通に施錠してください。照明は点灯したままになります。

知識

低出力で点灯し続けるので、バッテリー切れを心配する必要はありませんが、あまり長い時間の使用はおやめください。

方向指示器



H3891

左に曲がるときはレバーをいっぱいに下げ、右に曲がるときはレバーをいっぱいに上げてください（計器パネル内の該当する側の方向指示器表示灯が連動して点滅します）。車線変更など短時間の合図には、方向指示器レバーを上または下に軽く止まる位置まで押してください。

フォグ ランプ

フォグ ランプは視界が著しく悪い時のみ使用してください。視界の良好な時に使用すると、他のドライバーの迷惑になります。

H3888

フロント フォグ ランプ

スイッチを押して点灯/消灯します（フォグ ランプ点灯中は計器パネルの表示灯が点灯します）。

フロント フォグ ランプは、イグニッション スイッチが「II」の位置にあり、車幅灯または前照灯を点灯させているときに限って点灯します。車幅灯を消灯するかイグニッション スイッチを「0」の位置にすると、フロント フォグ ランプは自動的に消灯します。次回フォグ ランプを点灯させるときは、スイッチを再度押す必要があります。

視界が良好になったら、すぐにスイッチをオフにしてください。

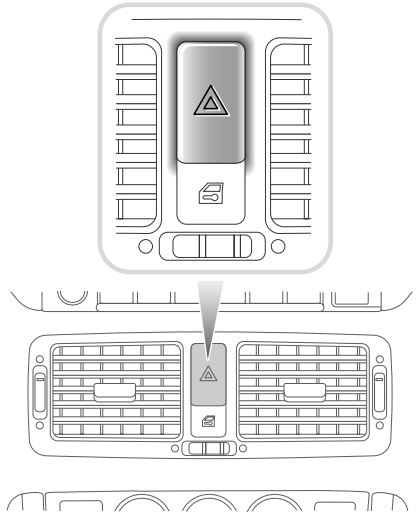
リア フォグ ランプ

スイッチを押して点灯 / 消灯します。リア フォグ ランプ点灯中は、スイッチの表示灯が点灯します。リア フォグ ランプは、イグニッション スイッチが「II」の位置にあり、前照灯またはフロント フォグ ランプを点灯させているときに限って点灯します。前照灯またはフロント フォグ ランプを消灯するか、イグニッション スイッチを「0」の位置にすると、リア フォグ ランプも自動的に消灯します（次回リア フォグ ランプを点灯させるときは、スイッチを再度押す必要があります）。

フォグ ランプは、視界が著しく悪いときにのみ使用してください。視界の良好なときに使用すると、他のドライバーの迷惑になります。

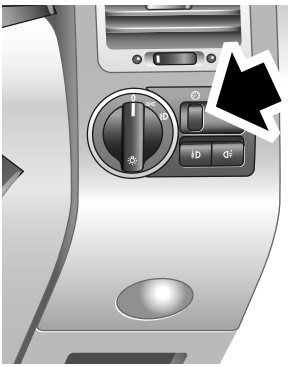
照明と方向指示器

非常点滅表示灯


H3968

ボタンを押すと作動 / 解除します。すべての方向指示器が同時に点滅します。お車が他の交通の邪魔になる恐れがあるとき、または危険な状況にあるような緊急の場合にだけ、他の道路利用者への警告の目的で使用してください。走行を再開するときは、必ずスイッチをオフにしてください。

計器パネル照明ディマー スイッチ



インストルメント パネル（計器類）の照明を、明るくしたり、暗くしたり、調整します。

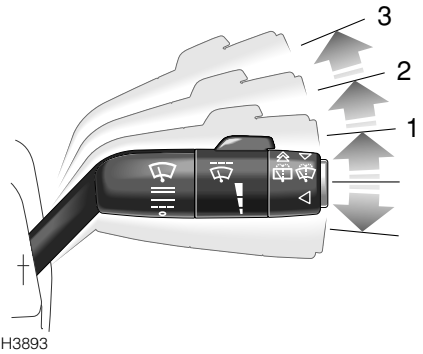
操作

ワイパーとウォッシャーは、イグニッションスイッチが「**I**」または「**II**」の位置にあるときのみ作動します。

アドバイス

- ガラス表面が乾燥している状態でワイパーを作動させないでください。
- 寒冷時や炎天下では、ワイパーを作動させる前にワイパー ブレードが凍り付いていないか、ガラス面に張り付いていないかを確認してください。
- 特に冬期は、ワイパーの拭き取り面やアーム部分、ブレード周辺の雪や氷を取り除いてから作動させてください。

前面ガラス ワイパー



間欠遅延モード

レバーを 1 の位置まで上げます。

標準速作動

レバーを 2 の位置まで上げます。

高速作動

レバーを 3 の位置まで上げます。

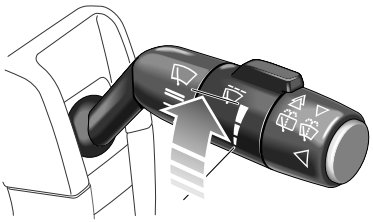
一回作動

レバーを下げて、すぐに放してください。

知識

レバーを下げたまま押さえていると、レバーを放すまでワイパーは標準速度で作動します。

間欠可変遅延モード


H3895

レバーを「1」の位置にして、スイッチを時計回りに回すと間欠作動時の周期が短くなり、反時計回りに回すと周期が長くなります。

車速感応ワイパー

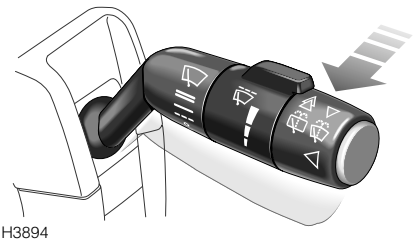
ワイパー作動の周期は、車速に応じて自動的に調整されます。車速が速くなると、それに応じてワイパーの周期も短くなり、視界を良好に保ちます。この操作は自動で行われるので、運転者が操作することはできません。

この機能は、ランドローバー正規ディーラーで解除することができます。

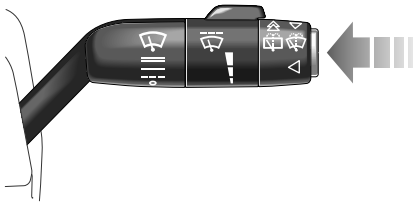
減速機能

ワイパーを作動させたまま車両を停止させるとワイパーの周期は自動的に長くなります。ワイパーが高速作動に設定されているときは、標準速作動に切り替えます。標準速作動に設定されているときは、間欠作動に切り替えます。車両が動き出すと、自動的にもとの設定速度に戻ります。

前面ガラス ウォッシャー


H3894

レバーをステアリング ホイール側へ引いてください（最低 0.5 秒間）。レバーを引き続けると、前面ガラス ウォッシャーと連動してワイパーが作動します。レバーを放した後も、ワイパーはさらに 3 回作動します。


H4056

レバー端のボタンを押しても、ウォッシャーは作動します。

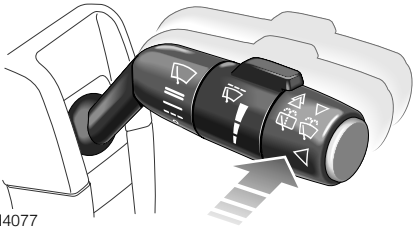
前照灯ウォッシャーおよびワイパー*

イグニッション スイッチがオンになっていて前照灯が点灯しているとき、前照灯ウォッシャーは前面ガラス ウォッシャーと連動して以下のように自動的に作動します。

前面ガラス ウォッシャーが最初に作動するとき、前照灯ワイパーが 4 回作動し、前照灯ウォッシャーはそのうちの始めの 2 回の作動時に連動して作動します。その後は、前面ガラス ウォッシャーを 5 回作動させるごとに 1 回、前照灯ウォッシャーとワイパーがそれぞれ作動します（最後に前照灯ウォッシャーとワイパーが作動してから 3 分以上経過している場合）。

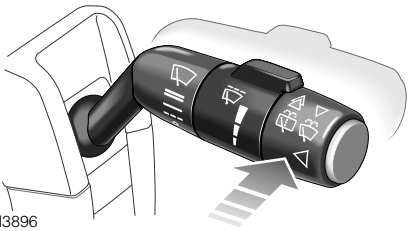
後面ガラス ワイパーおよびウォッシャー

後面ガラス ウォッシャーおよびワイパー


H4077

レバーを前方に 1 段階押して、さらにもう 1 段階前に押し続けると、押している間、後面ガラスウォッシャーが作動し続けます。このとき同時にワイパーも連動して作動します。レバーを放した後も、ワイパーはさらに 3 回作動して停止します。

後面ガラス ワイパー


H3896

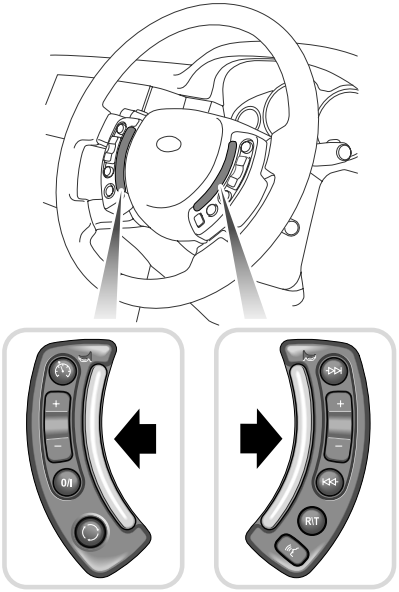
レバーを前方に 1 段階押すと、レバーを元の位置に戻すまでワイパーは間欠作動します。

間欠作動の遅延時間は、運転者が設定することができます。ワイパーをオンにしてからオフにし、お好みの時間（0 ～ 30 秒）オフのままにし、その後、ワイパーを再びオンにしてください。ワイパーをオフにした後すぐにオンにすると、ワイパーは連続して作動します。初期設定された遅延時間は 10.5 秒です。イグニッション スイッチがオフにされるかワイパーが 10 秒以上オフにされると、遅延時間は初期設定値に戻ります。

知識

後面ガラス ワイパーをオンにすると、リバース ギアにシフトしたときに、自動的に連続（間欠ではない）で作動します。

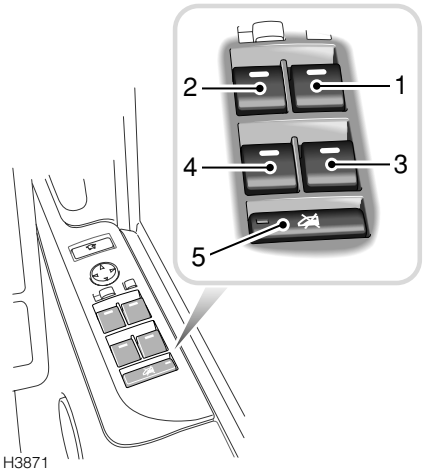
ホーン



H4090

ステアリング ホイールのパッド上にある、左右 2 個のホーン スイッチのどちらかを押してください。

パワー ウィンドウ



H3871

運転席ドアの各スイッチは、以下のドアに対応しています。

1. 前席右側ウィンドウ
2. 前席左側ウィンドウ
3. 後席右側ウィンドウ
4. 後席左側ウィンドウ
5. 後席ウィンドウ ロック スイッチ

知識

後席左右のウィンドウは、後席ドアに装備されたパワー ウィンドウ スイッチで操作することもできます。ただし、後席ウィンドウ ロック スイッチが作動しているときは、後席側のスイッチでは操作できません。

パワー ウィンドウの使用方法

パワー ウィンドウは、イグニッション スイッチが「**I**」または「**II**」の位置にあるときに操作できます。また、イグニッション スイッチを「0」の位置にしてから 16 分間は（その間に前席ドアを開けなければ）、パワー ウィンドウを作動させることができます。

スイッチの上側を軽く押し続けるとウィンドウが下降し、上側を軽く引き続けると上昇します。スイッチから手を放すと、ウィンドウの動作は停止します。

⚠ 警告

パワー ウィンドウを閉じるときに、誤って指、その他の体の部分を挟んでけがをする恐れがあります。常に以下の点に注意してください。

お子様を後席に乗せる場合には、後席ウィンドウ ロック スイッチを作動させてください。

ウィンドウを開閉するときは、お子様がウィンドウガラスに触れていないことを確認してください。

大人の同乗者全員に、パワー ウィンドウの操作を覚えてもらい、パワー ウィンドウがときには危険であることを理解してもらってください。

不意に飛んでくる破片や木の枝などでけがをする恐れがありますので、走行中は危険ですから、ウィンドウ開口部から頭や手などを出さないでください。

お車から離れるときはイグニッション キーを抜いてください。

ワンタッチ作動

スイッチの上側を強めに押して、すぐに放すと、1 回の操作で運転席ドア ウィンドウが全開位置まで開きます。ウィンドウの動作を止めたい場合は、スイッチの上側を軽く押してください。

1 回の操作で運転席ドア ウィンドウを閉じたいときは、スイッチの上側を強めに引いて、すぐに放してください。ウィンドウの動作を止めたい場合は、スイッチの上側を軽く引いてください。

ワンタッチ作動中にウィンドウの動作を止めたい場合は、ウィンドウが作動している向きと反対方向にスイッチを操作してください。

後席ウィンドウ ロック スイッチ

ボタンを押すと、後席ドア ウィンドウ スイッチがロックされ、後席ドアのパワー ウィンドウ スイッチでウィンドウを開閉することができなくなります（スイッチ内の表示灯が点灯します）。再度スイッチを押すと、ロックが解除されます。

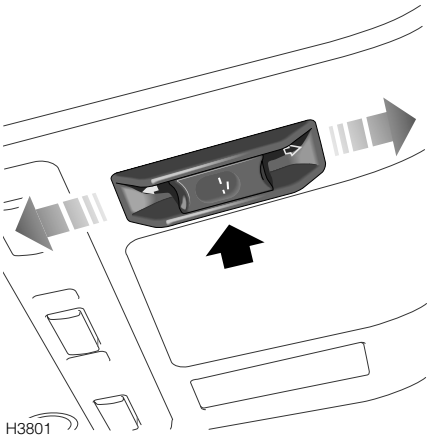
アンチ トラップ（挟み込み防止）機構

アンチ トラップ センサーが、ウィンドウ上昇中に障害物を感知すると、ウィンドウの上昇を停止します。これは、パワー ウィンドウを閉めるときに、誤って身体の一部などの挟み込みを防止するための安全機構です。障害となるものを取り除いてからウィンドウを閉めてください。

何らかの理由で、挟み込み防止機能を解除したい場合は、ウィンドウが完全に上昇するまでパワー ウィンドウ スイッチを引き続けてください。

サンルーフ *

サンルーフ作動 *



電動サンルーフは、イグニッション スイッチが「**I**」または「**II**」の位置にあるときに操作できます。また、イグニッション スイッチをオフにしてから 16 分間は（その間に前席ドアを開けなければ）、電動サンルーフを作動させることができます。

- **チルト アップ（上昇）：**スイッチの中央部を押すと、サンルーフの後端が自動的に完全なチルト位置まで上昇します。
- **サンルーフを開く：**スイッチを 1 段階後方に押すと、サンルーフは指を離すまで後方にスライドします。もう 1 段階後方に押してから指を放すと、サンルーフは全開位置まで開きます。
- **サンルーフを閉じる：**サンルーフが開いた状態、またはチルト位置にある状態でスイッチを 1 段階前方に押すと、サンルーフは指を放すまで閉じます。

  もう 1 段階前方に押してから指を離すと、サンルーフは完全に閉じます。

アンチ トラップ（挟み込み防止）機構

サンルーフが閉じるときに何かを挟み込むと、作動を停止し、わずかに開きます。これは、サンルーフを閉めるときに、誤って身体の一部などの挟み込みを防止するための安全機構です。障害となるものを取り除いてからサンルーフを閉めてください。

⚠ 警告

サンルーフが閉じるときに、誤って指や手、その他の身体の部分を挟んでけがをする恐れがあります。必ず以下の注意事項を守ってください。

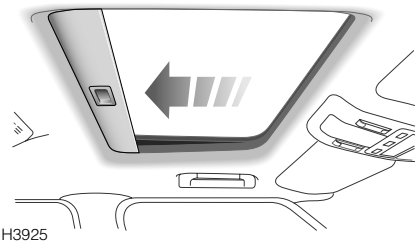
- サンルーフを開閉するときは、開口部付近に障害となるものがないことを確認してください。
- 大人の同乗者全員に電動サンルーフの操作を覚えてもらい、電動サンルーフの誤った操作が、ときには危険を招くこともあることを理解してもらってください。
- 走行中は危険ですから、サンルーフ開口部から頭や手などを出さないでください。不意に飛んでくる破片や木の枝などにより、けがをする恐れがあります。
- お車から全員が離れるときは、必ずサンルーフを閉じてください。

サンルーフを開けて走行する

サンルーフを開けて走行する際に、風が入り過ぎる場合は、ダッシュボードの吹き出し口を開け、風量調節ダイヤルで風量を上げてください。エアコンは作動させないでください。

サンルーフ *

サンルーフ ブラインド



H3925

サンルーフ ブラインドは引いて開閉してください。

知識

サンルーフ ブラインドは手動で開閉できますが、サンルーフが開くときは自動的に格納され、チルト アップするときはわずかに開きます。

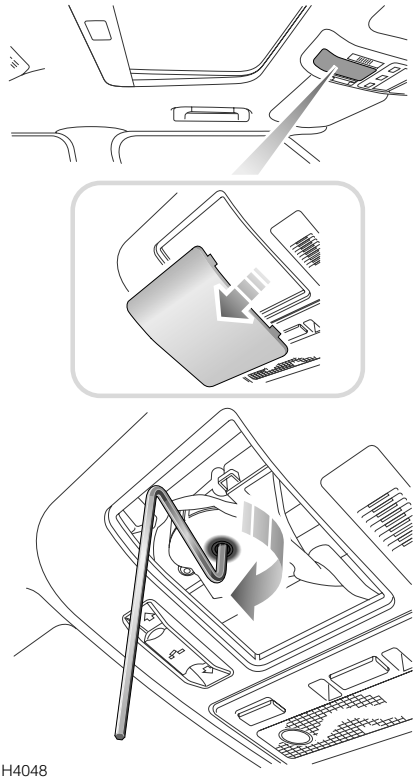
電源遮断後の処置

バッテリーの放電やバッテリーの取外しなどで車の電源が一時的に遮断された場合は、サンルーフの再設定を以下のとおり行ってください。

- 電源復帰後、サンルーフを完全にチルト アップします。
- チルト位置のまま、スイッチを約 20 秒間押し続けます。

これで通常どおりにサンルーフを操作することができます。

緊急手動操作

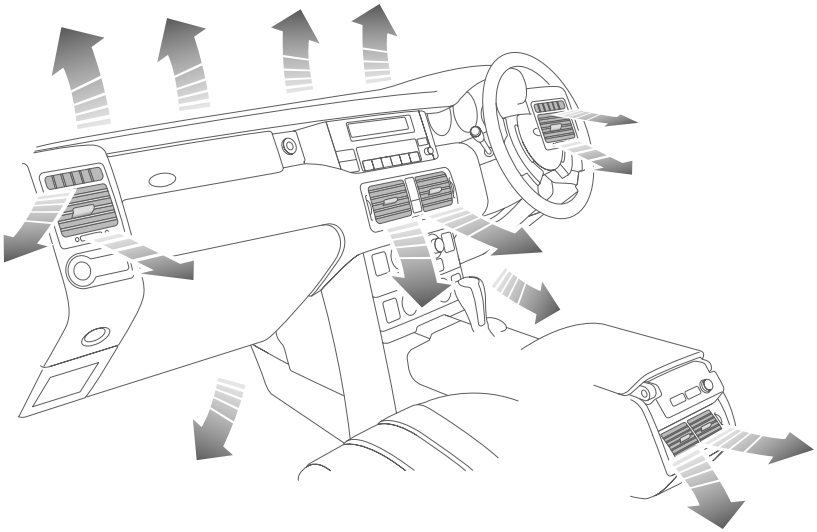


H4048

電気系統の故障や、サンルーフが通常どおりに閉まらない場合は、以下のようにしてサンルーフを手動で閉じることができます。

- 適当な工具を使ってカバー（サンルーフの前方）をこじ開けると、サンルーフの駆動機構があります。
- 車載工具キットに付属のアレン キー（6 角棒レンチ）を駆動機構の開口部に差し込んでください。
- アレン キー（6 角棒レンチ）を回してサンルーフを閉めてください。

換気



H3975

ヒーターと換気システムは、前面ガラスの前方にある吸気口グリルから車内に取り入れた外気または温風を供給します。

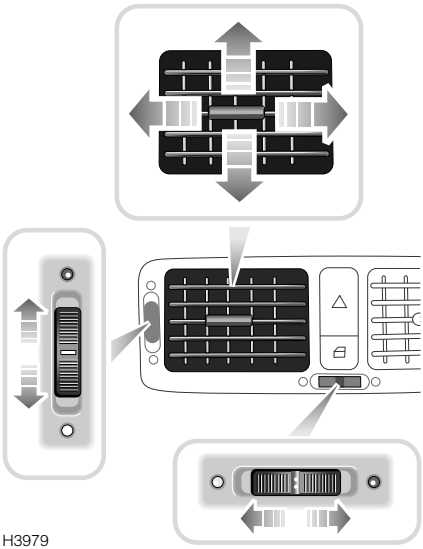
アドバイス

落ち葉、雪、氷などで吸気口グリルが塞がれていないか注意してください。

吹き出し口は、前面ガラス、胸元、足元用があります。それぞれの吹き出し口の位置は上図のとおりです。吹き出し口に供給される空気の温度はヒーターによって制御されます。

冷暖房、換気の操作方法は次ページ以降をご覧ください。

胸元への吹き出し口（中央）



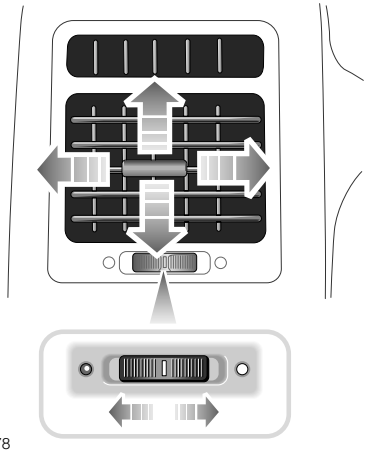
H3979

各吹き出し口はダイヤルを回して開閉することができます。緑色のインジケーターのほうへ回すと吹き出し口が開き、白色のインジケーターのほうへ回すと閉じます。吹き出し口中央のツマミを上下左右に動かすと、送風の向きを調整できます。

胸元への吹き出し口の送風温度は、別々に調節することができます。ダイヤルを左（赤色ゾーンのある方向）に回すと温風になり、右（青色ゾーンのある方向）に回すと冷風になります。

最適な換気を実現し、作動音を抑えるため、エア配分選択スイッチを胸元への吹き出し口に設定している場合は、胸元への吹き出し口を全開にしてください。

胸元への吹き出し口（両端）



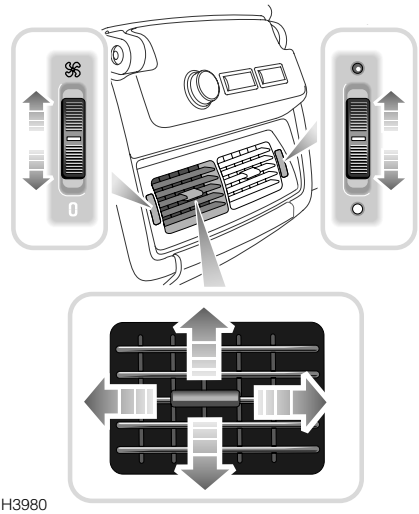
H3978

ダイヤルを左（緑色のインジケーター）に回すと吹き出し口が開き、右（白色のインジケーター）に回すと閉じます。吹き出し口中央のツマミを上下左右に動かすと、送風の向きを調整できます。

両端の吹き出し口の送風温度は、エアコン システムの温度設定で調節されます。

最適な換気を実現し、作動音を抑えるため、エア配分選択スイッチを胸元への吹き出し口に設定している場合は、胸元への吹き出し口を全開にしてください。

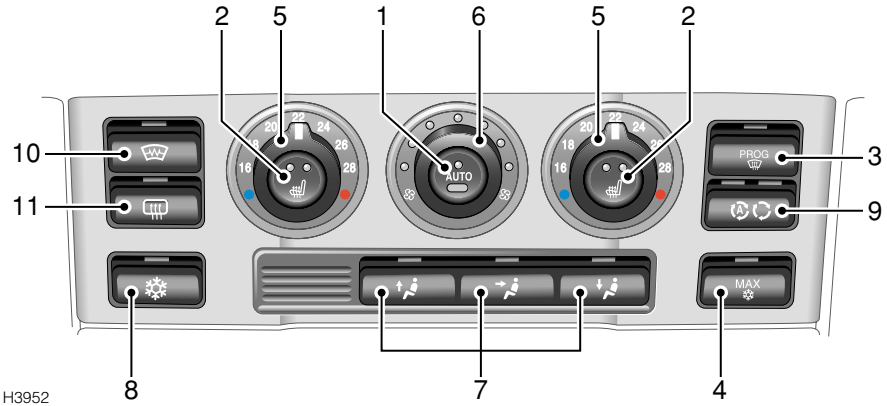
後席吹き出し口のダイヤル



H3980

左側のダイヤルで風量を調節します。ダイヤルを上に回すと風量が上がります。右側のダイヤルで温度を調節します。ダイヤルを上（赤色ゾーンのある方向）に回すと温風になり、下（青色ゾーンのある方向）に回すと冷風になります。

オート エアコン



エア コン システムは、自動温度制御とエア配分制御の機能が内蔵されており、厳しい気候条件であっても車内温度を常に最適な状態に保ちます。

エアコンの各スイッチは、お客様の好みに応じて調整できますが、オート モードをご使用になると、簡単な操作で最適な車内環境をつくり出すことができます。

1. オート モード スイッチ

- 自動作動させる場合は「AUTO」(1) を押してください (スイッチの表示灯が点灯します)。
- 温度調節ダイヤル (5) を回し、設定温度を選択してください。
- その他の設定は自動温度調節システムが行います。

オート モードでは、冷房、エア配分、風量、内気循環は自動調節され、快適な室内環境を作り出し、維持します。

エア配分と風量調節は、自動設定を無視して個別に調節することができます。その場合、「AUTO」スイッチの該当する表示灯が消灯します (まるいランプは風量調節で、細長いランプはエア配分です)。「AUTO」をもう一度押すと自動設定に復帰します。

知識

エア配分および風量を個別に調節した場合、システムが設定された温度に調整できない、または維持できない場合があります。

2. 前席シート ヒーター *

スイッチを 1 回押すと高温で作動し、もう一度押すと低温で作動します。前席および後席シート ヒーターの詳しい操作方法については、「シート ヒーター *」73 ページを参照してください。

3. デフロスト モード スイッチ

前面ガラスが曇ったり氷着した場合は、スイッチを押して自動デフロストプログラムを起動させてください。システムは以下の方法によって、ただちに前面ガラスの曇りや霜を除去します。

- 風量と温度を最大に設定します。
- 前面ガラスにのみエアを送ります。
- 後席への送風を解除します。
- 内気循環機能の作動を解除します。

このモードでは、さらに後面ガラス デフロスターおよび前面ガラス デフロスターがオンになります（すでに各デフロスターのスイッチをオンにしている場合は、作動サイクルが再開されます）。

スイッチをもう一度押すと（または「AUTO」やエア配分選択スイッチのどれかを選択すると）、システムはデフロスト モードを解除してオート モードに復帰します。

4. 急速冷房スイッチ

車内が暑すぎるとき（直射日光を受ける場所に駐車していた場合など）に急速冷房スイッチを押すと、急速に室内を冷やすことができます。急速冷房が作動すると、自動的に冷房と内気循環を作動させ、風量は最大となり、胸元への吹き出し口にエアを配分します。急速冷房にすると、現在の温度設定は無視されます。

5. 温度調節ダイヤル

ダイヤルを回すと、車内の該当する側（左側スイッチは車内左側に、右側スイッチは車内右側に対応しています）の設定温度を変更することができます。

28°C 以上および 16°C 未満の温度は、設定することができません。

ダイヤルまわりに表示されている温度は、該当する側の設定温度のみであり、車内で測定された実際の温度ではありません。

知識

助手席側と運転席側の設定温度の差が± 5°C 以上ある場合は、助手席側の温度を設定温度に調整することはできません。

6. 風量調節ダイヤル

ダイヤルを時計回りに回すと吹き出し口からの風量が増し、反時計回りに回すと風量が減ります。

7. エア配分選択スイッチ

お好みのエア配分のスイッチを押して選択してください。再度押すと解除されます。

足元の吹き出し口

胸元への吹き出し口

前面ガラスおよびサイド ウィンドウ吹き出し口

2 つ以上のスイッチを同時に選択することもできます。

8. 冷房スイッチ

エンジンを始動させてからスイッチを押すと、手動で冷房を作動できます。すでに（手動か自動で）冷房が入っているときにスイッチを押すと、冷房のスイッチはオフになります。

9. 内気循環スイッチ

内気循環機能は車外からの空気の流入を防ぎ、車内の空気を循環させる場合に使用します。これは他の車からの排気ガスの流入を防ぐ場合に有効です。

知識

仕様によっては、ステアリング ホイールにリモコン内気循環スイッチが装備されています。このスイッチは、オン / オフ機能のみのスイッチなので、自動内気循環機能は内蔵されていません。

スイッチを 1 回押すと、自動内気循環機能を作動させます。この機能は、センサーが室内の空気が汚れていることを感知すると、自動的に内気循環機能を作動させるもので、渋滞のときなどに、排気ガスが車内に侵入するのを防ぐことができます。

もう一度スイッチを押すと、内気循環機能を連続で作動させます。

さらにもう一度スイッチを押すと、内気循環機能を解除します。

内気循環機能は、エアコン システムの除湿および冷却性能にも大きな影響を与えます。したがって、オート モードでは内気循環機能を自動調整することにより、エアコン システムの最適な性能を実現します。

アドバイス

内気循環機能を長時間作動させると、ウィンドウが曇ることがあります。

10. 前面ガラス デフロスター スイッチ

スイッチを押すと、前面ガラス デフロスターが作動し、表示灯が点灯します。

11. 後面ガラス デフロスター スイッチ

スイッチを押すと、後面ガラス デフロスターが作動し、表示灯が点灯します。

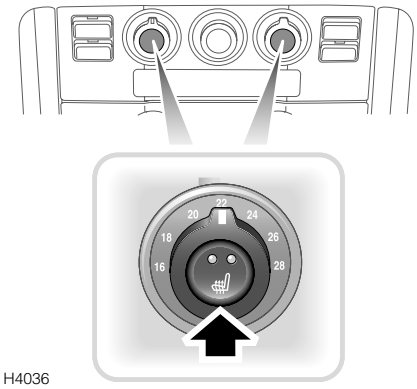
アドバイス

後面ガラス内側を擦ったり、ひっかいたりしないようにしてください。また、熱線部分にステッカーを貼らないでください。

一般的な注意事項

- 作動効率を最適にするために、すべての吹き出し口（後席の吹き出し口も含む）が開いていることを確認してください。
- 自動温度制御システムを効率的に機能させるために、すべてのウィンドウ（およびサンルーフ）を閉め、前面ガラス前方の吸気口グリルに氷雪や落ち葉などの異物がないことを確認してください。
- 湿度が極端に高い場合、エアコン システムのスイッチをオンにしたとき、前面ガラスが少し曇ることがあります。これは、自動車用のエアコンでは普通に発生する現象です。これは故障ではなく、エアコン システムが作動を始めて、数秒後には曇りはなくなります。
- エアコン コンプレッサーは、エンジンが作動していなければ作動しません。
- 除湿の過程で発生した水は、車両下側の排出チューブを通して車外に排出されます。このため、停車中の場合、路上に水がたまる場合がありますが、心配する必要はありません。

シート ヒーター *



H4036

前席シート ヒーター

H4037

後席シート ヒーター

イグニッション スイッチがオンのとき、シート クッションと背もたれを 2 段階の温度で暖めることができます。

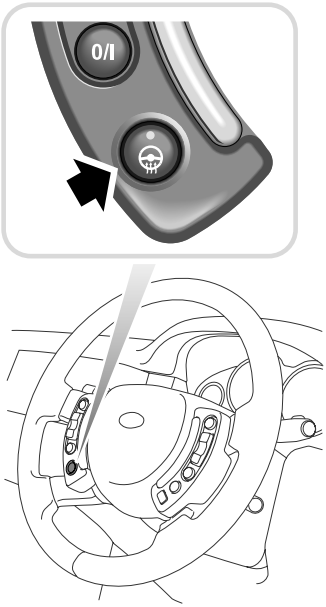
- スイッチを 1 回押すと、高温で作動します（表示灯が 2 つとも点灯）。
- スイッチを 2 回押すと、低温で作動します（表示灯が 1 つ消灯）。
- スイッチを 3 回押すと、ヒーターを手動でオフにすることができます（表示灯が 2 つとも消灯）。

シート ヒーターは自動制御されており、あらかじめ設定されている基準温度を維持するため、断続的に作動します。スイッチの表示灯は、ヒーターを手動でオフにするか、イグニッション スイッチをオフにするまで点灯し続けます。

アドバイス

シート ヒーターをご使用になると、バッテリーが著しく消耗します。そのため、シート ヒーターはエンジン作動時のみ使用するようにしてください。

ステアリング ホイール ヒーター *



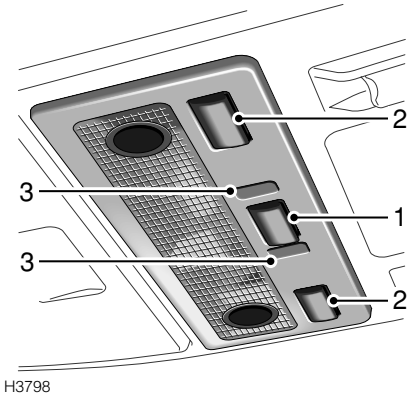
H4093

スイッチを押して、ステアリング ホイール ヒーター エレメントを作動させてください。ヒーターは自動制御されており、あらかじめ設定されている基準温度を維持するため、断続的に作動します（スイッチがオンの場合）。もう一度スイッチを押すと、ヒーターは手動で解除されます。

知識

内気循環リモコン機能やステアリング ホイール ヒーターが装備されてない車の場合、この部分にスイッチはありません。

室内灯と読書灯



フロント室内灯と読書灯

車両のドア ロックを解錠するか、イグニッション スイッチをオフ（車幅灯が 30 秒間点灯）にするか、いずれかのドアまたはテールドアを開くと、室内灯が点灯します。すべてのドアとテールドアを閉じて 20 秒が経過するか、イグニッション スイッチをオンにすると室内灯は消灯します。

走行後、車両を施錠するか、すべてのドアとテールドアを閉めると、室内灯は次第に暗くなって消灯します。

知識

バッテリー上がりを予防するため、ドアまたはテールドアが開いていても、16 分が経過すると室内灯は自動的に消灯します。

手動で室内灯をオンまたはオフにしたいときは、1 のスイッチを押してください。

ドアを開けるときなどに自動点灯機能を解除したい場合は、1 のスイッチを 3 秒間押し続けてください。自動点灯機能を復帰させたいときは一度押して点灯させてから再び押して消灯させてください。

居場所お知らせ機能

混雑した駐車場で停めたお車を探しているときに、リモート ハンドセットのロック ボタンを押すと、室内灯が 8 秒間点灯し、お車の場所を知らせてくれます。

読書灯の操作

読書灯スイッチ（2）を押して、読書灯をオンまたはオフにします。バッテリー上がりを予防するため、16 分が経過すると読書灯は消灯します。

減光室内照明

メイン照明スイッチを車幅灯または前照灯に回すと、室内灯は LED（3）から減光した暗めの光を供給し、同時にドア ポケットとドア ハンドルの照明灯も点灯します。照明の明るさは、計器パネル照明ディマー スイッチで調節できます。

減光した室内照明を使うと、走行中に運転者の視界をさまたげる心配がありません。

グローブ ボックス照明灯

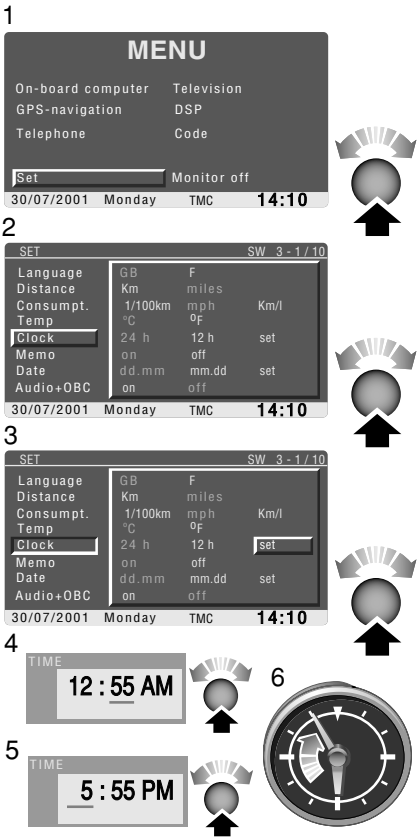
グローブ ボックス照明灯は、グローブ ボックスを開くと自動的に点灯し、閉じると消灯します。バッテリー上がりを予防するため、グローブ ボックスが開いていても、16 分が経過すると照明灯は自動的に消灯します。

アプローチ ライト

それぞれのドア ミラーの底部にアプローチ ライトが装備されていて、車が解錠されると 20 秒間点灯し、ドア付近の足元を照らします。

時計

時刻設定
（ナビゲーション装備車）*



H4088

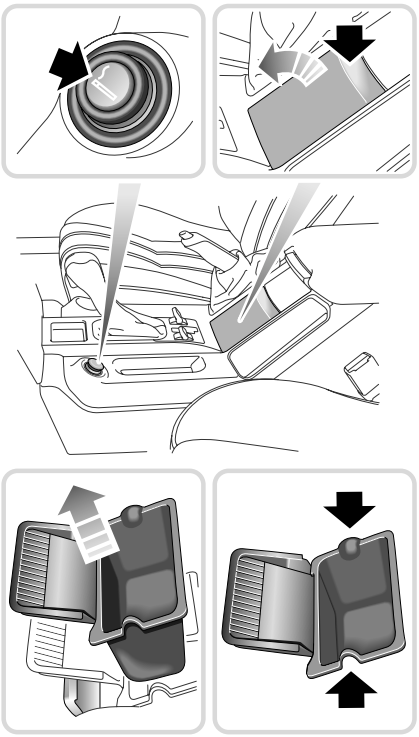
まずナビゲーション ディスプレイのメイン メニューにアクセスし、以下の手順で時刻を設定します。

1. スイッチをひねって「Set」（設定）を選択し、スイッチを押します。
2. もう一度スイッチをひねって、「Set」（設定）メニューから「Clock」（時計）を選択します。
3. 「Clock」（時計）の段の「set」（設定）を選択します。
4. 現在の時刻設定がディスプレイに表示され、「分」表示の下に緑色の線が現れます。スイッチをひねって分を合わせ、スイッチを押して入力します。
5. 緑色の線が「時」表示の下に移ります。スイッチをひねって時を合わせ、スイッチを押して入力します。
6. ナビゲーション システム ディスプレイの時刻が変更され、ダッシュボードのアナログ時計が自動的に新しい時刻に調整されます。

時計の使い方

アナログ時計の内部照明灯は常に点灯しています。また、夜間に車幅灯を点灯すると自動的に減光します。明るさが弱まる度合いは、計器パネル照明ディマー スイッチで調節できます。

シガー ライター



H4075

イグニッション スイッチをオンにした状態で、ライターを押し込むと加熱されます。適温になると自動的に手前に出てきますので、引き出してご使用ください。

- シガー ライターは必ずツマミの部分だけを持つようにしてください。
- ランドローバー認定品を除いて、シガー ライター ソケットからアクセサリー類の電源をとらないでください。

灰皿

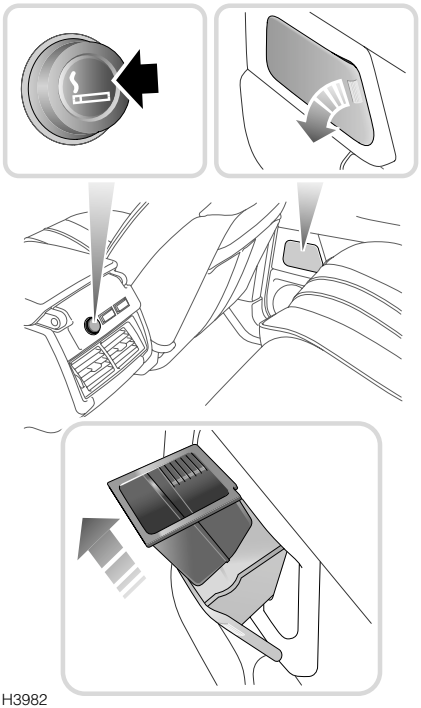
⚠ 注意

火災を起こす恐れがありますので、灰皿にはたばこの吸い殻以外の紙くずや燃えやすいものを入れないでください。

前席用灰皿

灰皿カバーの上部を押すと、灰皿が開きます（上図右）。灰皿を取り外すときは、カバーを完全に開き、両端のつまみを持って灰皿を引っ張り上げます（左下の図の矢印）。灰皿のふたをつまみ上げないでください。

後席用灰皿

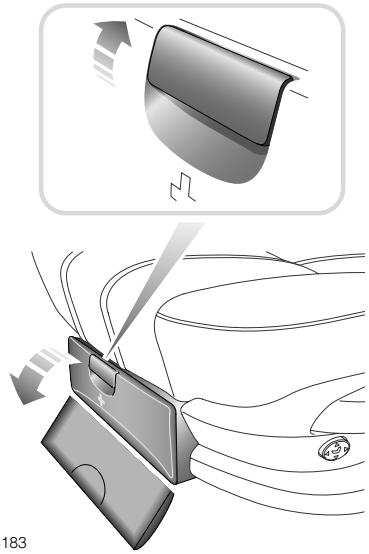


H3982

後席用灰皿は後席ドアに取り付けられています。上図の矢印のように引っ張ってください。灰皿を空にしたいときは、灰皿を開けて内側部分を取り出します。

後席シガー ライターは、前席シートの間のセンター コンソール ボックス後部に取り付けられています。後席シガー ライターの使い方は前席シガー ライターと同じです。

シート下の収納ボックス



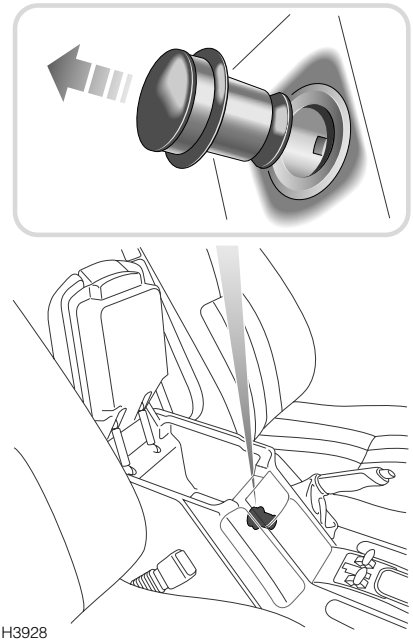
H4183

シート下の収納ボックスは、助手席シートの下にあります。キャッチ（図を参照）を押しながら、ふたを開けてください。

知識

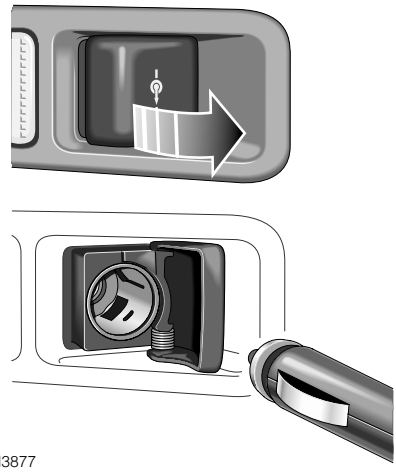
収納ボックスには、救急セットを入れることができます。

補助電源ソケット



センター コンソール ボックスの
電源ソケット

補助電源ソケットは、前席シートの間のセンター コンソール ボックスの中にあります。



荷室電源ソケット

もう 1 つの電源ソケットは、荷室の右側にあります。

電源ソケットの使い方

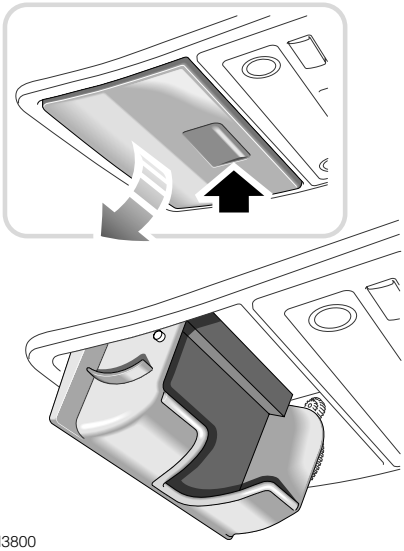
ランドローバー認定アクセサリーの電源として使用できます。容量は最大 180 W です。

バッテリー上がりを防止するため、補助電源を長時間使用する場合は、必ずエンジンをかけてください。

アドバイス

車両の電気システムが損傷を受ける恐れがありますので、補助電源ソケットには、ランドローバー認定品以外のアクセサリーを接続しないでください。

サングラス ホルダー



H3800

図の矢印部分を押して開きます。

カップ ホルダー

⚠ 警告

運転者は運転中に飲み物を飲んだりカップ ホルダーを使用しないでください。

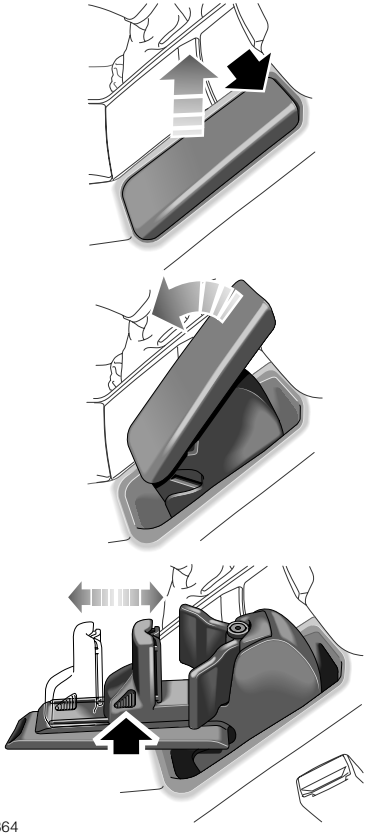
格納式カップ ホルダーは、使わないときはしまっておいてください。

カップ ホルダーに不適切な容器を入れないでください。室内に投げ出され、事故や急なステアリング操作の際に、思わぬけがをする恐れがあります。

蓋のない容器に入った飲み物をカップ ホルダーに入れたまま走行しないでください。熱い飲み物がこぼれて、やけどをする恐れがあります。また、内装、カーペット、電装品を損傷する恐れもあります。

柔らかい材質の容器のみを使用してください。ガラス、陶器、硬質プラスチックなどのカップはご使用にならないでください。事故や急なステアリング操作の際に、それによりけがをする恐れがあります。缶ジュースなどの密封されたままの容器も、硬いのでけがをする恐れがあります。

運転席カップ ホルダー



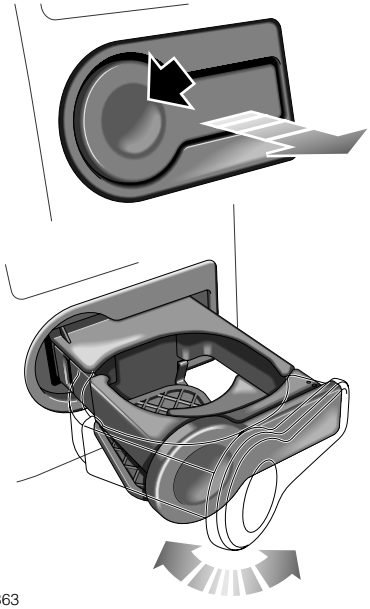
H3864

カバーの上部を押すと開きます（図を参照）。カバーを前に倒すとカップ ホルダーが現れます。キャッチ（下図の黒い矢印）を押してカップ ホルダー固定具をスライドさせ、容器のサイズに合う位置に調節してください。

⚠ 注意

カップ ホルダーをセンター コンソールに収納する前に、必ず固定具を完全に閉じてください。

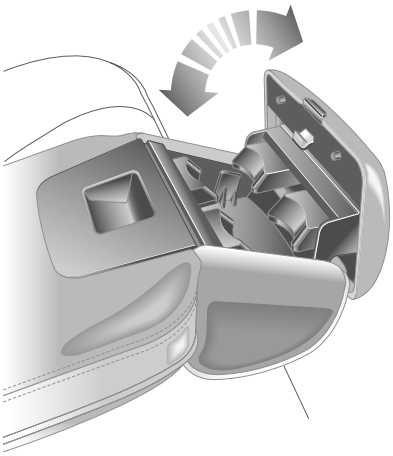
助手席カップ ホルダー



H3863

黒い矢印部分を押すと開きます。カップ ホルダーを開けると、ホルダーの一部が図のように動き、容器のサイズに合わせて調節できます。カップ ホルダーを押すと閉じます。

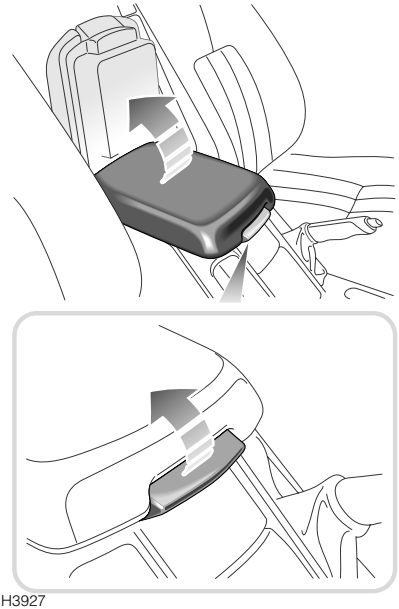
後席カップ ホルダー



H3936

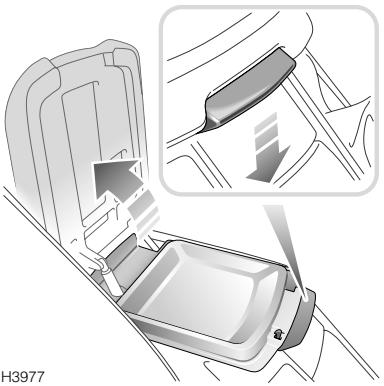
アーム レストを下ろし、リリース キャッチを押し下げると、ダブル カップ ホルダーが現れます（中央シートのヘッド レストの裏に取り付けられています）。

センター コンソール ボックス



H3927

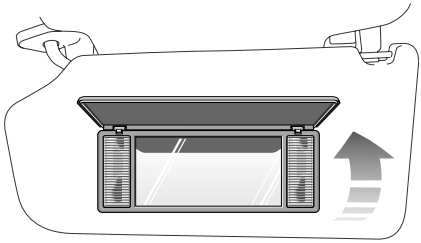
センター コンソール ボックスのふたは、コンソール ボックス前部のキャッチを引き上げて開いてください。



H3977

キャッチを押し下げ、センター コンソール ボックスのふたを持ち上げると、小物入れがあります。

サン バイザー バニティ ミラー照明灯 *

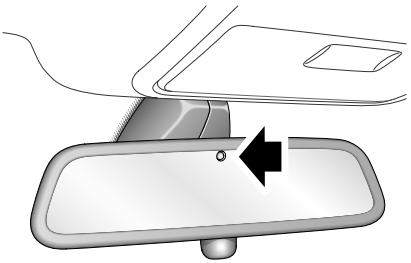


H3797

サン バイザーを下げてバニティ ミラーのカバーを開くと、照明灯が点灯します。カバーを閉じると消灯します。バッテリー上がりを防ぐため、カバーが開いていても、16 分が経過すると照明灯は自動的に消灯します。

ルーム ミラー

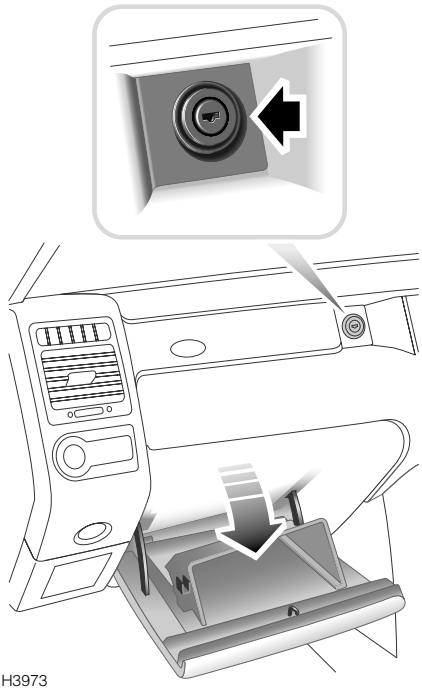
自動防眩ミラー



H3921

自動防眩ミラーは、イグニッション スイッチを「**II**」の位置にすると常に作動します。自動防眩ミラーの作動中は、光センサー（矢印）が光を感知し、夜間走行時にミラーに映る後続車の前照灯のまぶしさを自動的に緩和します。

グローブ ボックス

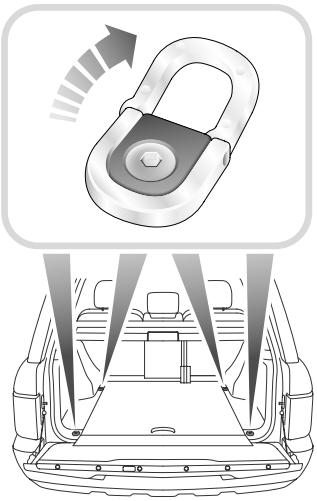


H3973

リリース ボタン（図の矢印）を押すと開きます。

イグニッション キーでグローブ ボックスを施錠するとより安全です。

荷物固定ポイント



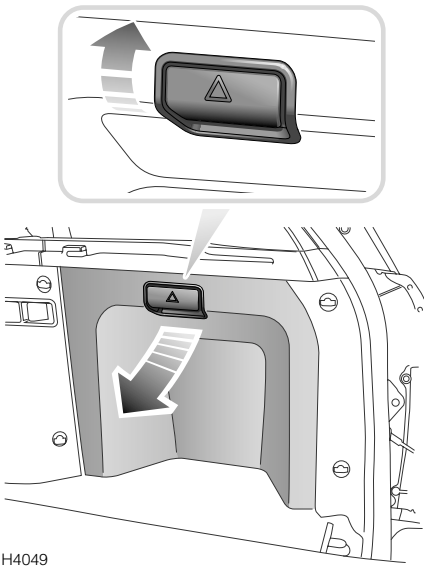
H4185

荷室の床面には荷物の固定ポイントが 4 ヶ所用意されています。大きな荷物を積むときに、積載物を確実に固定するためにご利用ください。ランドローバーは、荷物の固定用に一連の推奨アクセサリーを提供しています。

⚠ 警告

事故や緊急回避動作の際に乗員がけがをする恐れがありますので、オンロード / オフロードを問わず、器具や工具、荷物類を固定しないままで走行しないでください。

荷室アクセス ハッチ



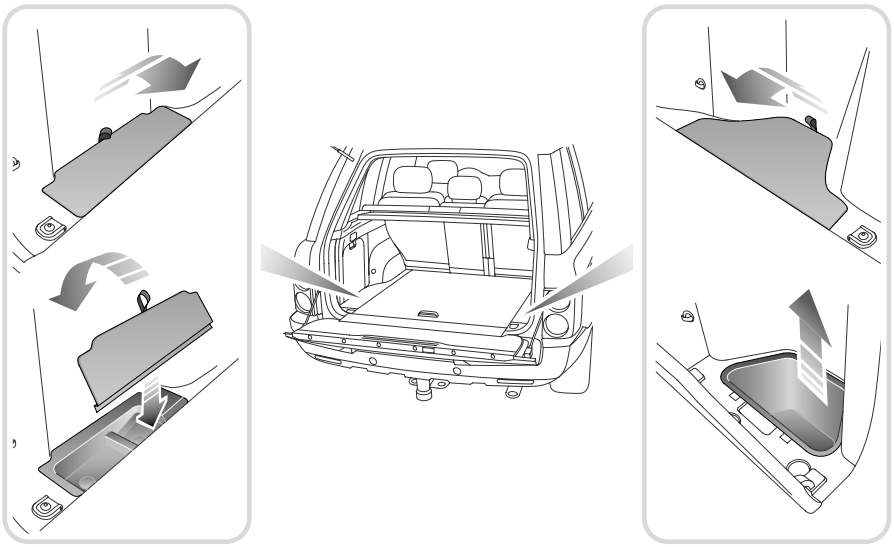
H4049

アクセス ハッチは荷室の右側にあり、中に三角表示板、荷室ヒューズ ボックス、緊急給油口フラップ リリースが入っています。

キャッチを引き上げ（上図）、ハッチを引っ張って取り外してください。

ハッチを取り付ける際は、走行を始める前にしっかり正しく取り付けられているか確認してください。

荷室の収納エリア



H4232

隠し小物入れ

荷室の左側に小さいカバー付きの小物入れがあり、見えない場所に小物を収納することができます。つまみを引っ張ってカバーを外してください。

カバーを取り付ける際は、右側の端から取り付けてください。

取り外し可能収納ボックス *

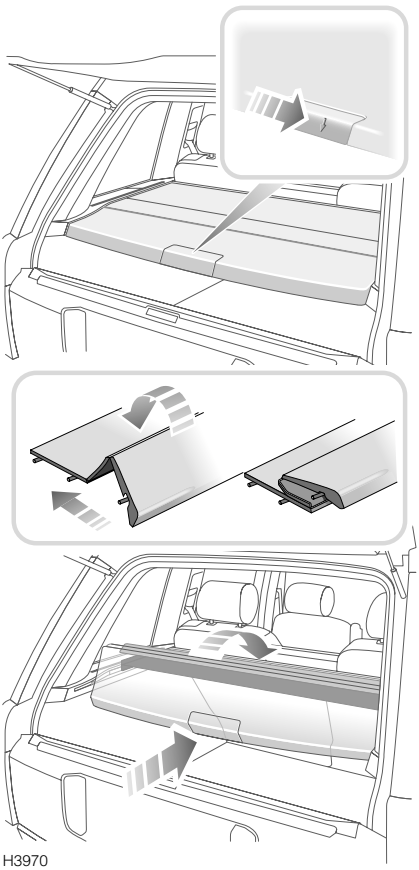
荷室の右側床下に取り外し可能収納ボックスがあります。つまみを引っ張ってカバーを外してください。上に引き出して収納ボックスを取り外してください。

知識

デタッチャブルけん引バーが装備されている車には、取り外し可能収納ボックスがなく、代わりにけん引バー収納エリアがあります。

荷室カバー

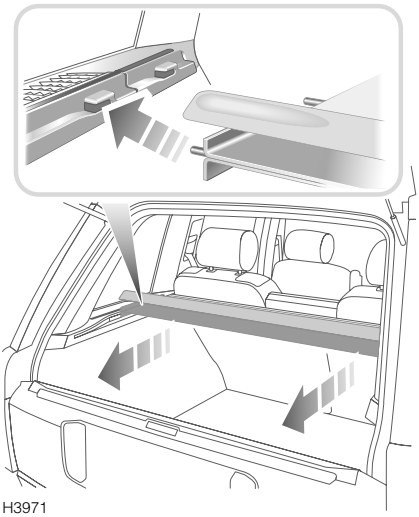
荷室カバー



H3970

カバーの後端部中央を強めの力で下と前に押し（上図矢印）、持ち上げて前方に折りたたんでください。

荷室カバーの取り外し



H3971

カバーを折りたたんだ状態で、カバー全体を後方へ引いて位置決めピンから外し、注意深く車両から取り外してください。

荷室カバーを取り付けるときは、上記の逆の手順で行ってください。

⚠ 注意

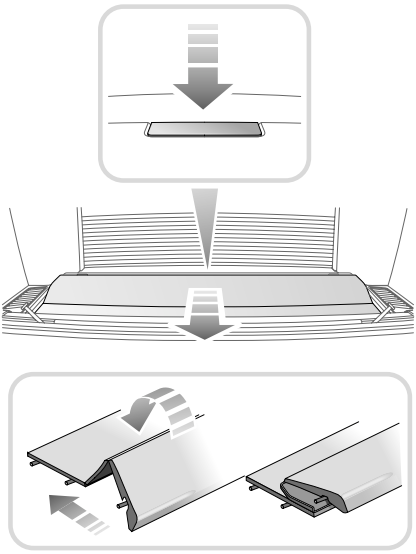
荷室カバーの上に、散乱しやすい小物類を置かないでください。運転者の視界のさまたげとなるほか、急制動時や事故の際に、けがをする原因となります。

事故や急なステアリング操作の際に、運転者と助手席乗員がけがをする恐れがありますので、荷室カバー下にある器物、荷物、工具などは必ずしっかりと固定してください。

荷室カバーは、必ず所定の位置に固定しておくようにしてください。

荷室カバー

荷室カバーを車内から折りたたむ



H4051

荷室カバーを車内から折りたたむ必要があるときは（緊急テールゲート リリース レバーを使うときなど）、後席ヘッド レストを外し、荷室に手が届きやすいようにしてください。後席から、カバーの後端部中央を下方に強く押して（上図矢印）、後席のほうに引いてください。カバーは下図のように折りたたむことができます。

携帯電話

携帯電話

⚠ 注意

アンテナ付きの電話（携帯電話など）を車内で使用しないでください。

快適性、安全性、経済性を最大限に確保するため、お車には多くの電子機器が搭載されています。無許可の移動通信機器を車内でご使用になると、これらの車載電子機器に悪影響を及ぼす恐れがあります。こうした装置をご使用になる場合、必ず車外アンテナをご使用ください。電子システムへの影響が大幅に低減されます。

自動車電話または他の電気装置を車両に取り付けるときは、安全のため以下の注意事項を厳守してください。

- 車外取り付け用のアンテナに添付されている取付キットのみをご使用ください。
- 必ず正規の取り付け方法を遵守してください。
- アンテナ付きの電話（携帯電話など）を車内で使用しないでください。電話の電磁場が車両の電子機器に干渉し、誤動作を起こす恐れがあります。

安全のために

⚠ 警告

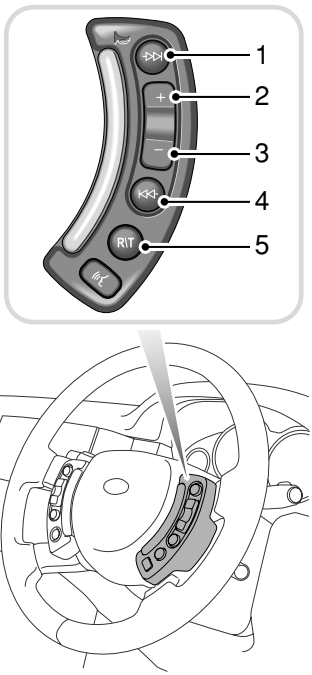
運転中に携帯電話を使用することは法律で禁じられています。電話を使用するときは、必ず安全な場所に停車してからにしてください。また運転中は必ず電話の電源を切っておいてください。

ラジオ アンテナ

アンテナは、左側後席サイド ウィンドウ ガラスの表面にプリントされています。

このアンテナはメンテナンスを行うことはできません。そのため、ガラスの車内側を硬い物で傷付けたり、研磨剤を含んだクリーナーなどを使って損傷しないよう注意してください。

オーディオ リモート コントロール *



H4092

1. 放送局 / トラック選択スイッチ（送り）

スイッチを押すと、次の周波数の放送局を選択します。

カセットまたは CD 再生中にスイッチを押すと、演奏中の次の曲に飛びます。スイッチを繰り返し押すと、数曲先の頭出しができます。

2. ボリューム スイッチ（音量大）

押すと音量が大きくなります。

3. ボリューム スイッチ（音量小）

押すと音量が小さくなります。

4. 放送局 / トラック選択スイッチ（戻り）

スイッチを押すと、前の周波数の放送局を選択します。

カセットまたは CD 再生中にスイッチを押すと、演奏中の曲の頭に戻ります。スイッチを繰り返し押すと、数曲前に戻ります。

5. ラジオ

スイッチを押すと、ラジオから電話に切り替わります（設定車のみ）。

オーディオ システム

オーディオ システム

お車に標準装備されているオーディオ システムの詳しい使用方法は、別冊の「オーディオ システム」取扱説明書を参照してください。

CD チェンジャー（装着車のみ）*

CD オート チェンジャーはグローブボックスに設置されています。詳しい使用方法は、別冊の「オーディオ システム」取扱説明書を参照してください。

⚠ 注意

運転中に CD マガジンの挿入や取り出しはしないでください。

運転操作

エンジンの始動と走行
ステアリング ロック 93
イグニッション スイッチ 93
エンジン始動 94
走行 96
燃費 97
補助動力装置 98
排出ガス浄化装置 98

触媒コンバーター
触媒コンバーター 99

燃料供給システム
ガソリンスタンドでの安全確保 101
燃料給油口 102
燃料の種類 102
給油 103
燃料切れ 103
給油口フラップ緊急リリース 103

パーク ディスタンス コントロール *
パーク ディスタンス コントロール
（PDC）の使い方 * 104

オートマチック ギアボックス
シフト レバー 106
シフト レバー 106
コマンドシフトによる
マニュアル操作 109
オートマチック ギアボックスの
使用. 110
自動選択モード. 111

トランスファ ギアボックス
トランスファ ギアボックス
スイッチ 112
トランスファ ギアボックスの使用. . . 112

クルーズ コントロール *
クルーズ コントロール 114

ブレーキ
ブレーキ システム 116
アンチロック ブレーキ システム
（ABS）. 117
駐車ブレーキ 119

**ダイナミック スタビリティー コントロール
とトラクション コントロール**
ダイナミック スタビリティー
コントロール（DSC）. 120
電子制御トラクション コントロール
（ETC). 121

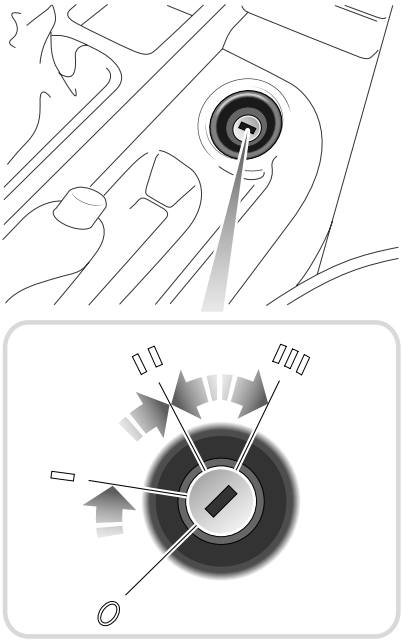
ヒル ディセント コントロール
ヒル ディセント コントロール 122

電子制御エア サスペンション
電子制御エア サスペンション
（EAS). 124
手動操作. 124
ハイウェイ モード 125
オフロード モード 126
アクセス モード 126

けん引
けん引 128
けん引バーの取り付け. 130

荷物の積載
荷物固定ポイント 133
ルーフ ラック **. 133

ステアリング ロック



H3924

イグニッション スイッチとステアリング ロックは、駐車ブレーキ前方のセンター コンソールにあります。

ステアリング ロックを解除する

キーをイグニッション スイッチに差し込みます。

ステアリングをロックする

キーをイグニッション スイッチから抜き取ります。

⚠ 注意

キーを抜き取る前に、シフト レバーを必ず「P」位置にします。

ステアリング ロックがかかると、ステアリング操作ができなくなります。絶対に走行中にキーを抜かないでください。

抜き取ったキーをイグニッション スイッチの近くに放置しないでください。放置したままだと、ステアリングが繰り返しロックされることになり、車両のバッテリー消耗の原因となります。

イグニッション スイッチ

イグニッション スイッチは、イグニッション キーの位置に応じて、次の操作が行えます。

「O」の位置

- キーを抜くと、ステアリング ロックがかかります。
- 車幅灯、前照灯、非常点滅表示灯を含む、ほとんどの照明灯を点灯させることができます。
- 運転席ドアを開けると、シート スイッチとシート メモリー機能が作動します。

「I」の位置

- ステアリング ロックが解除されます。
- ステアリング ホイールを調整し、ドライビング ポジションを設定することができます。
- 時計、オーディオ システム、シガー ライターを使用できます。

「II」の位置

- すべての計器類、表示灯/警告灯および電気回路が作動します。

「III」の位置

- エンジンが始動します。エンジンがクランキングを始めたら直ちにキーを離してください（キーは「**II**」の位置に戻ります）。エンジンは、始動するまで自動的にクランキングし続けます。スターター モーター作動中は、いくつかの電装品が使用できなくなります。

知識

シフト レバーを「P」または「N」の位置にしないと、エンジンを始動できません。

エンジン始動

⚠ 警告

排気ガスには、微量ながら有害な一酸化炭素が含まれており、吸引すると意識不明になったり、最悪の場合、命にかかわる恐れがあります。密閉された屋内（ガレージなど）では、決してエンジンを始動したり、始動したまま放置しないでください。

最初にエンジンを始動し、運転を始める前に、必ず「触媒コンバーター」99 ページに記載されている内容をよくお読みになり、その働きを理解しておいてください。

とくに、エンジンがなかなか始動しないときなどに、スターターを長く作動し続けると、未燃焼の燃料が排出され、触媒コンバーターを損傷する場合があります。

1. 駐車ブレーキがかかっており、シフト レバーが「P」または「N」の位置にあることを確認してください。
2. エアコンを含むすべての不要な電装品のスイッチをオフにしてください。
3. イグニッション スイッチを「**II**」の位置にし、次に「**III**」の位置にしてスターター モーターを作動させます。エンジン始動中はアクセル ペダルを踏み込まないでください。また、エンジンがクランキングを始めたらすぐに手を放してください（エンジンが始動するまで、自動的にクランキングし続けます）。

うまくエンジンがかからないときは、いったんイグニッション スイッチを「**I**」の位置に戻してからやり直してください。「**II**」の位置からエンジンをかけることはできません。

知識

バッテリー充電警告灯、油圧低下警告灯は、エンジン始動後すぐに消灯します。

寒冷時には

気温が非常に低いときは、油圧低下警告灯が消灯するまでに数秒かかることがあります。同様に、エンジンが始動するまでの時間が長くなります。気温が –30°C 程になると、エンジンが始動するまでに 30 秒近くスターター モーターを作動させる必要がある場合もあります。このようなときは、あらかじめ不要な電装品のスイッチを全てオフにしておいてください。

エンジン始動後

エンジン始動後も駐車ブレーキとフット ブレーキは必ずかけたままにし、アクセル ペダルを踏み込まないように注意しながら、シフト レバーを「P」または「N」の位置から走行位置に移動させてください。そうしないと、シフト レバーを走行位置（「D」または「R」）に入れたと同時に車両が急に動き出してしまいます。特にエンジンが冷えている状態のときは、通常よりも高い回転数でアイドリングをすることになるため、この操作は非常に重要です。

⚠ 注意

シフト レバーを「P」または「N」から走行位置に入れる前に、フット ブレーキを踏み込んでください。

走行

⚠ 注意

車両の安定性

レンジローバーは地上高を高めに設定してあり、したがって通常の乗用車に比べて重心が高い位置にあるので、多様なオフロード走行が可能です。地上高が高いと視界が広くなり、運転者がより容易に前方の障害物などを予測することができます。レンジローバーは一般的な乗用車と同じ速度でコーナリングするようには設計されていません。これは、車高の低いスポーツカーがオフロードで満足のいく性能を発揮できないのと同じです。この種の車両の運転経験が浅い方は特に慎重に運転するよう心がけてください。同タイプの他の車両同様、レンジローバーも運転操作を誤ると制御不能に陥ったり、最悪の場合、車両が横転する場合があります。

車高

レンジローバーの車高は、通常の乗用車よりも高くなっています。常にこの車高を意識して、低い入り口を通る前には頭上スペースを確認してください。特に、車両にルーフ ラックを装着していたり、サンルーフがチルトアップしている場合は、車両が通過できる高さであるかを確認することが重要です。

計器類と表示灯 / 警告灯

運転を始める前に、計器類と表示灯／警告灯の機能を十分に理解してください（「計器パネル」40 ページを参照）。

アドバイス

赤色の警告灯は特に重要であり、点灯しているときは何らかの故障が発生していることを示しています。赤色の警告灯が点灯した場合はすぐに安全な場所に停車させて、運転を再開する前にランドローバー正規ディーラーに連絡して状況を説明し、アドバイスを求めてください。

暖機運転

暖機運転は必要ありません。エンジンを暖機させるためにアイドリングしないでください。

不必要な燃料消費を避けるため、エンジン始動後はすぐに走行を開始してください。ただしエンジンが通常の作動温度に達するまでは、急加速をしたりエンジンに過大な負荷をかけるような運転は避けてください。エンジンに損傷を与える可能性があります。

慣らし運転

装置本来の性能を発揮させ、また装置自体の耐用期間を確保するために、適度な慣らし運転が必要です。

特にエンジン、ギアボックス、ブレーキ、タイヤには「慣らし運転」の期間が必要です。最初の 800 km を走行するまでは、以下の注意事項に従って、慣らし運転をしてください。

- 最高車速は 100 km/h 以下、エンジン回転数は 3000 rpm 以下に抑えてください。アクセルをできるだけ踏み込まずに運転するようにし、慣らし運転完了後、徐々にエンジン回転数を上げてください。
- 慣らし運転中はアクセルをいっぱいに踏むことを避け、ギア ポジションに関係なく、エンジンに負荷をかけないように心がけてください。慣らし運転中のスポーツ モードのご使用はお勧めできません。
- 緊急時を除き、急発進や急制動を行わないでください。

燃費

燃料消費量は、主に 2 つの要因の影響を受けます。

- 車両のメンテナンスの状態
- 車両の運転方法（走行スタイル）

最適な燃費を維持するために、ランドローバーが指定する定期点検スケジュールに従って、定期的に点検整備を実施してください。

エア クリーナー エレメント（目詰まりなど）、タイヤ空気圧、ホイール アライメントなどの状態の良否は、燃費に大きく影響を与えます。しかし、それ以上に重要なのは運転者の走行スタイルです。以下のヒントを参考に、燃費を意識した運転を心がけてください。

- 不必要な短距離の走行、発進/停止を頻繁に繰り返すような走行を避ける。
- 急発進を避け、発進時のアクセル操作はゆっくりと滑らかに行うように心がける。
- 必要以上に長い間、低速ギアで走行しない（マニュアル モード時）。
- ゆっくりと減速するように心がけ、できるだけ急制動をしない。
- あらかじめ前方の障害物などを予測しながら運転し、前方の状況によって早めに速度を調整する。

補助動力装置

⚠ 注意

1個のホイールのみを載せて使用する方式の、ローラー式発電機のような補助動力装置はご使用にならないでください。ギアボックス ディファレンシャルを損傷する恐れがあります。

排出ガス浄化装置

⚠ 注意

排気ガスには、微量ながら有害な一酸化炭素が含まれており、多量に吸引すると意識不明になったり、命にかかわる恐れがあります。

- 排気ガスを吸い込まないように注意してください。
- 換気装置のない密閉された場所では、エンジンを作動させたり、エンジンをかけたまま放置したりしないでください。またテールドアを開けたままで走行しないでください。
- 絶対に排気システムを改造しないでください。
- 排気ガスの漏れを発見したら、すぐにランドローバー正規ディーラーで修理してください。
- 車内で排気ガスの臭いがする場合、直ちに原因を突き止め、適切な処置を講じてください。

大気汚染防止のため、ランドローバーの車両には排出ガス浄化装置および燃料蒸発ガス浄化装置が装備されています。

排出ガス浄化装置の取り外しや改造を行うことは法律で禁止されており、これに違反した場合は処罰の対象となります。違法な改造を行うと、車両の所有者、改造を行ったメカニックともに法律によって罰せられます。

ランドローバー正規ディーラーには、お客様のお車の排気ガス浄化装置を適切に調整、修理のできるスタッフ、設備が整っていますので、是非ご利用ください。

触媒コンバーター

大気汚染防止のため、排気システムには触媒コンバーターが装備されており、排気ガス中の有害物質を減少させて環境にできるだけ害を与えないようにしています。

アドバイス

触媒コンバーターは、不適切な燃料を使用したり、取り扱いを誤ると容易に損傷します。触媒コンバーターの損傷を防ぐため、以下の注意事項を必ず守ってください。

燃料

必ず推奨燃料をご使用ください。

エンジン始動

- 始動に 2、3 回失敗したら、スターターを休ませてください（そうしないと、未燃焼の燃料が排気システムに流れ、触媒に悪影響を及ぼす恐れがあります）。ミスファイヤ（失火）を解消するために、アクセル ペダルを踏み込んではいけません。ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
- エンジンにミスファイヤ（失火）が発生している疑いがある場合は、始動操作をしないでください。ミスファイヤ（失火）を解消するためにアクセル ペダルを踏み込まないでください。このようなときは、すぐにランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
- 押しがけや、けん引によりエンジンを始動させようとしないでください。

走行

- エンジンが通常作動温度に達しているにもかかわらず、エンジン ミスファイヤ（失火）の発生を検知した場合や、走行中にエンジン出力が低下したと思えるような場合は、触媒コンバーターの損傷を避けるため低速で走行し、最寄りのランドローバー正規ディーラーに点検をご依頼ください。
- 燃料切れに近い状態では決して走行しないでください。エンジン ミスファイヤ（失火）が起こり、触媒を損傷する恐れがあります。
- 余分なオイルが燃焼していると（排気管から青い煙が出ます）触媒を損傷することにつながります。このようなときは、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
- オフロードを走行するときは、ボディ下に強い衝撃を与えるような運転をしないでください。触媒コンバーターを損傷する恐れがあります。
- エンジンに過大な負荷をかけたり、エンジンの回転数限界域（タコメーターの赤色ゾーン）を使用しないように注意してください。
- 走行中、ギアを走行位置に入れた状態で、イグニッション スイッチをオフにしないでください。

⚠ 注意

排気システムの温度は非常に高くなります。枯れ草や落ち葉、紙屑などの燃えやすいものが排気システムに接触する可能性のある場所には駐車しないでください。空気が乾燥している場合、火災が発生する恐れがあります。

触媒コンバーター

お車のメンテナンス

- エンジンにミスファイヤ（失火）が発生すると、エンジン性能が低下したり、イグニッション スイッチをオフにしてもエンジンが回転し続ける現象が起きたりして、触媒コンバーターに重大な損傷を与える恐れがあります。また専門知識のない方がエンジンに手を加えたりすることはおやめください。お車本来の性能を維持するために、メンテナンス ノートに記載された点検実施内容に基づいて、ランドローバー正規ディーラーで定期的に点検整備を受けて下さい。
- エンジンの点火プラグや点火ケーブルを外したままスターター モーターを回さないでください。また点火プラグに追加するようなアクセサリーなどは使用しないでください。

ガソリンスタンドでの安全確保

⚠ 注意

ガソリンの蒸発ガスは引火しやすく、特に密閉した場所では非常に爆発性が高くなります。

給油時は必ず以下のことに注意してください。

- エンジンを停止する。
- 携帯電話の電源を切る。
- 付近で喫煙したり、裸火を近づけない。
- 燃料をこぼさない。
- 燃料をあふれさせない。

セルフガソリンスタンドでの安全確保

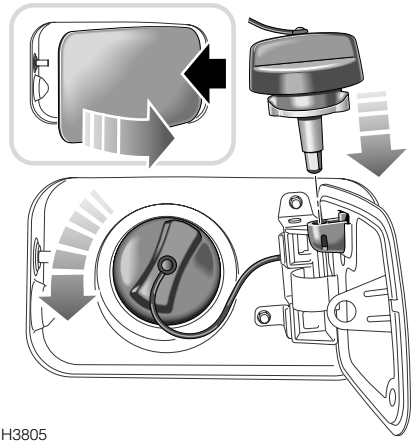
- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど火気を近づけないでください。
- フューエル キャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをする恐れがあります。
- 必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
- フューエル リッド、フューエル キャップを開けるなど給油操作は必ず、お一人で行ってください（複数で行うと静電気が除去できない場合があります）。
- 急激にフューエル キャップを開けないでください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が上がって燃料補給口部から燃料が吹き返す恐れがあります。フューエル キャップから蒸気が出ていたり、“シュー”という音がする場合は、それが止むのを待ってからフューエル キャップをゆっくり開けてください。
- 給油中、再び車内のシートに戻らないでください（座ることで再帯電することがあります）。
- 給油口に他の人を近づけないでください。
- 燃料補給後はフューエル キャップを“カチッ”と音がするまで右に回し、確実に閉っていることを確認してください。
- フューエル キャップは純正品以外は使用しないでください。
- 給油時に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵す恐れがあります。
- 給油時に気化した燃料を吸わないように注意してください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

燃料供給システム

燃料給油口

⚠ 注意

燃料タンク内の残圧が完全に開放されるまで、給油口のキャップは外さないでください。



H3805

給油口は車両後部右側フェンダーにあります。車両全体が解錠された状態で（すべてのドアとテールゲート）、給油口フラップの右側を押すと開きます（図を参照）。

キャップを左に慎重に回して、燃料タンクの圧力を抜いてください。圧力が解放されると、安全にキャップを取り外すことができます。給油するときは、給油口キャップを給油口フラップ裏についているソケットに差し込んでください（図を参照）。

キャップを閉めるときは、給油口キャップのラチェットがカチッと音がするまで、右に回して締め付けてください。

燃料の種類

アドバイス

有鉛ガソリンを使用すると、触媒装置に重大な損傷を与えます。

ガソリン エンジン

- オクタン価 95 RON の無鉛ガソリンを使用してください。もし 95 RON 無鉛ガソリンが入手できない場合は、オクタン価 91 までの無鉛ガソリンなら使用可能です。

市販されているガソリンのオクタン価（RON）や種類（有鉛 / 無鉛）は、国によって異なります。たとえば、ヨーロッパのほとんどの国ではオクタン価 95 RON の無鉛ガソリンが容易に手に入りますが、有鉛ガソリンや低オクタン価の燃料しか入手できない国および地域もあります。推奨されているオクタン価は最低限の要求値であり、安全に走行するにはこの値以上のガソリンを使用してください。

出荷時には、輸出先の地域で一般に市販されている燃料に合わせてエンジンを調整しています。したがって、他の国用に輸出された車両や、旅行先の国でお車を使用される場合は、燃料とエンジンの仕様の不適合が生じる可能性があります。燃料の適合性について、ご不明な点がございましたら、ランドローバー正規ディーラーにお問い合わせください。

オクタン価の低いガソリンを使用すると、継続的な「ノッキング」（エンジンから発生するカリカリ音）を引き起こすことがあります。最悪の場合は、エンジンを損傷する恐れがあります。

推奨されているオクタン価の燃料を使用している場合、または平地で一定速度で走行している間でも深刻なノッキングが確認される場合は、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

知識

加速中や坂道を登っているときには、軽いエンジンのノッキングがある場合もありますが、問題ありません。

給油

注意

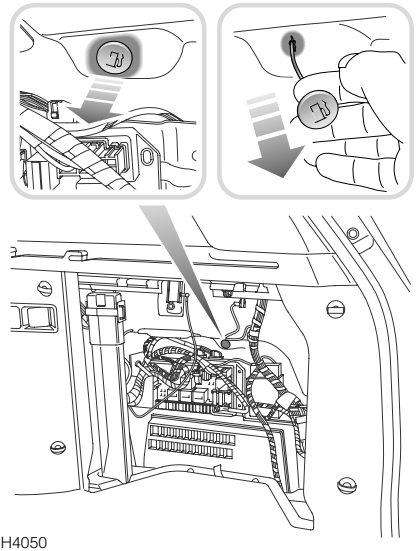
燃料タンクには、規定量以上燃料を給油しないでください。傾斜地に駐車したとき、直射日光を受けたり外気温度が上昇して燃料が膨張したときなどに、燃料があふれる恐れがあります。

ガソリンスタンドの給油ノズルには、燃料の吹きこぼれを防ぐため、自動給油停止用センサーが装備されています。ゆっくりと給油し、給油ノズルが自動的に止まったら給油を止めてください。気候や気温条件によっては、タンク内の燃料が膨張してあふれだす恐れがありますので、それ以上給油しないでください。

燃料切れ

燃料が空の状態でエンジンを作動させると、エンジン ミスファイヤ（失火）が起こり、触媒コンバーターを損傷する恐れがあります。燃料タンクが空になるまで走行を続けないでください。

給油口フラップ緊急リリース

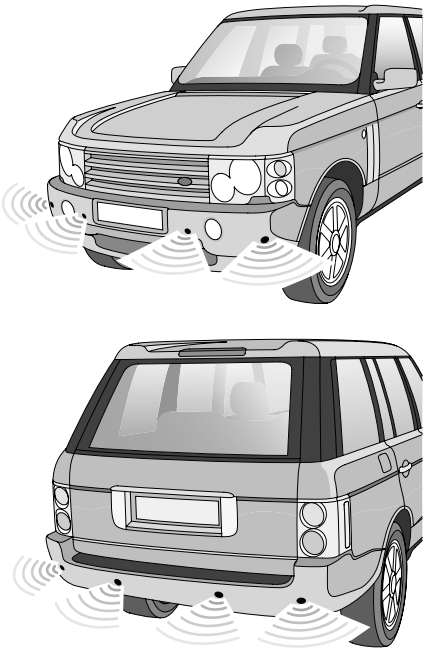


H4050

車両のバッテリーの接続が外れていたり、放電してしまった場合は、給油口フラップを手動で開くことができます。荷室アクセス ハッチを開けます（「荷室アクセス ハッチ」84ページを参照）。緑のリリース ハンドルを引くと（図を参照）、給油口フラップが開きます。

パーク ディスタンス コントロール *

パーク ディスタンス コントロール（PDC）の使い方 *



H3934

パーク ディスタンス コントロール（PDC）は、駐車場や避けるべき障害物がある場所に駐車するときに、運転者を補助するシステムです。

前後のバンパーにそれぞれ 4 個の超音波センサーが取り付けられています。

フロント バンパーの 4 個のセンサーと、リア バンパーの角にある 2 個のセンサーの検知可能範囲は、約 0.6 メートルです。リア バンパー中央にある 2 個のセンサーの検知可能範囲は、約 1.50 メートルです。

⚠ 注意

センサーに泥、雪が付着したり、表面が氷結したりしないよう注意してください。センサーの表面がそういったもので覆われると、センサーの性能が損なわれます。洗車するときは、至近距離から高圧の水をかけないでください。

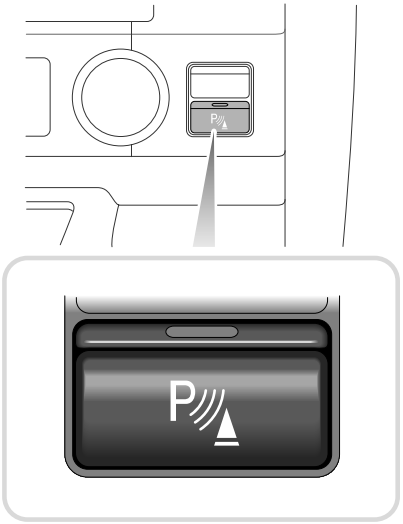
⚠ 注意

パーク ディスタンス コントロールは駐車操作を補助する装置にすぎません。センサーが検知できない障害物もあります（例えば、細い柱、細くて小さいもの、地面すれすれの高さの小さなもの、濃い色のもの、反射しない表面のものなど）。

パーク ディスタンス コントロール *

PDC を起動する

PDC（パーク ディスタンス コントロール）は、ギアをリバース（「R」）に入れると自動的に作動します。イグニッション スイッチをオンにすると、スイッチのランプが点灯し、1 秒後に短い確認音が鳴ります。



H3933

また PDC は、ダッシュボード中央のスイッチ（図を参照）を押して手動で作動させることができます（スイッチのランプが点灯し、短い確認音が鳴ります）。もう一度スイッチを押すと、PDC システムが解除されます。スイッチで PDC を切った場合、もう一度スイッチを押すか、イグニッション スイッチをいったんオフにしてオンにしないと、自動的には作動しません。

⚠ 注意

確認音は、途中でイグニッション スイッチをオフにした場合を除いて、最初に PDC が選択されたとき（ギアを「R」位置に入れるか、スイッチを押す）のみ鳴ります。

PDC 作動中に長く高いトーン音が鳴り、スイッチのランプが点滅している場合は、システムの不具合が検知されています。ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

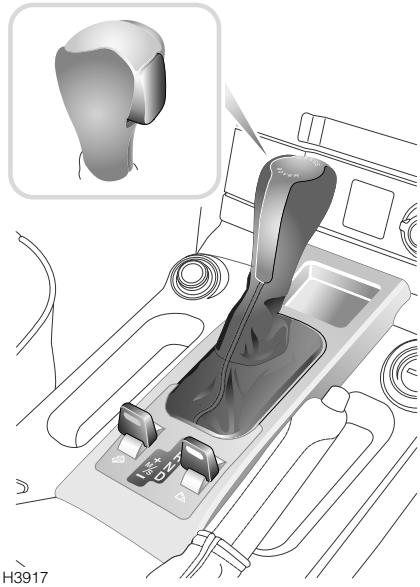
PDC の作動

障害物との距離は、断続的なトーン音（フロント センサーは高い音、リア センサーは低い音）で認識でされます。車両が障害物に近づくにつれ、トーン音が高くなります。

センサーと障害物との距離が約 0.30 m より短くなると、連続音に変わります。

PDC は、車速が 30 km/h を超えたり、50 m 以上進んだりして自動的に解除される場合を除いて、作動し続けます。

シフト レバー



コマンドシフト ギアボックスでは、ギア シフトをする時に、オートマチック操作とマニュアル操作のいずれかを選択することができます。

オートマチック操作

コマンドシフト ギア ボックスは、基本的にはオートマチック ギアボックスです。エンジン始動後は、普通のオートマチック ギアボックス同様、シフト レバーを前後に移動させて、目的のギア位置を選択します。

シフト レバー

シフト レバー リリース ボタン

ギアボックス内にはロック機構があり、前進ギア位置から誤って「P」（パーキング）や「R」（リバース）を選択できないように設計されています。

「P」、「R」にシフトする時、および「P」、「R」位置から他の位置へシフトするときは、シフト レバー リリース ボタン（図を参照）を押しながらレバーを移動させてください。

知識

イグニッション スイッチが「II」の位置にあり、ブレーキ ペダルを踏み込んだ状態でなければ、シフト レバーを走行ギア位置に動かすことはできません。

⚠ 注意

車両走行中にシフト レバーを「P」または「R」の位置に入れないでください。

また同様に後退中は、前進ギア位置に入れないでください。

ギア ボックスの摩耗を防ぐため「R」位置と前進ギア位置の間でシフトする際は、エンジン回転数をできるだけ低くしてください。

キーを抜く前に、シフト レバーは必ず「P」の位置に入れてください。

シフト レバーの位置

選択中のギア位置は、シフト レバー下のディスプレイのほか、計器パネル内のデジタル ディスプレイにも表示されます。

「P」パーク

この位置を選択すると、ギアボックスが機械的にロックされ、車両が動きだすのを防ぎます。エンジンを停止する前には、必ずあらかじめこの位置にシフトしてください。ギアボックスの損傷を防ぐため、必ず車両が完全に止まったことを確認し、駐車ブレーキを引いてから「P」を選択してください。

「P」を選択する、または「P」の位置から他の位置に切り換えるときは、必ずシフト レバー リリース ボタンを押してください。

「R」リバース

車両が停止したことを確認し、ブレーキ ペダルを踏み込んでから、「R」を選択してください。シフト レバーを「R」に入れるときは、必ずシフト レバー リリース ボタンを押します。

シフト レバーが「R」位置にあるときは、ヒル ディセント コントロールを選択することができます（「ヒル ディセント コントロール」122 ページを参照）。

「N」ニュートラル

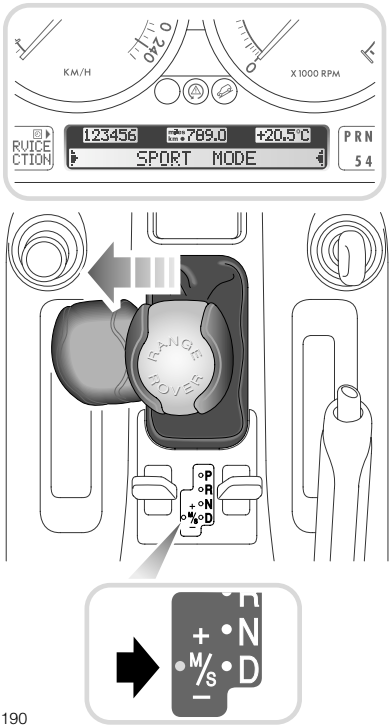
停車中にしばらくの間エンジンをアイドリングする必要のある場合には、「N」を選択します。「N」位置ではギアボックスはロックされません。したがって、「N」を選択しているときは必ず駐車ブレーキをかけてください。

「N」から「R」に切り換える時は、必ずシフト レバー リリース ボタンを押してください。

「D」ドライブ

通常走行時はこの位置を使用してください。車速やアクセル ペダルの踏み加減に応じて、前進 5 段階を自動的に変速します。

スポーツ モード



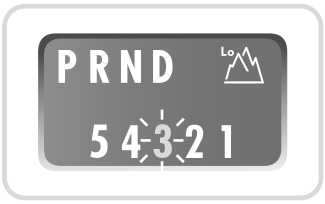
H4190

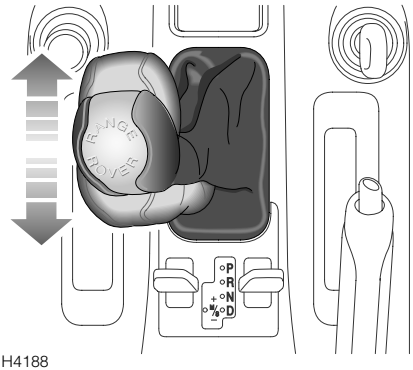
スポーツ モードでも、通常の走行モードと同様にギアは自動的に変速されます。しかし、スポーツ モードを選択すると、通常よりも低いギアを多用することによりホイールに伝えられるパワーが増します。その結果、より長い時間低いギアに入っているために、中速度域の性能が向上します。またスポーツ モードでは、「キックダウン」の性能が向上します。

スポーツ モードを選択するには、シフト レバーを横方向（「D」位置から左方向、図参照）に動かしてください。選択すると、ギアボックス メッセージ センターに「SPORT」の文字が表示され（約 6 秒間）、シフト レバー下のディスプレイ（図を参照）の LED（発光ダイオード）が点灯し、メイン メッセージ センターに「SPORT MODE」の文字が 6 秒間表示されます。

スポーツ モードを解除するには、レバーを「D」の位置に戻してください。この操作はいつでも行うことができます。

コマンドシフトによるマニュアル操作





H4188

コマンドシフト ギアボックスは、通常のオートマチック モードのほかにマニュアル操作することができます。これは急加速時や、コーナーおよび下り坂でのエンジン ブレーキ時に特に有効です。

シフト レバーを前または後ろに動かすだけで、5 段階の各ギアを選択することができます。操作は以下のように行ってください。

1. 「D」（ドライブ）を選択し、シフト レバーを横方向（車両進行方向に向かって左方向）に動かします（スポーツ モードの選択と同じです）。
2. その時点の車速とアクセル ペダルの踏み加減に合ったギアが自動的に選択されます。
3. シフト レバーを前方（+）に 1 回動かすと、ギアボックスは 1 段上のギア位置に切り換わり、レバーを後方（−）に引くと 1 段下のギア位置に切り換わります。希望するギアが選択されるまで、レバーを前方または後方に何度か操作してください。選択されたギアは、計器パネルのデジタル ディスプレイに表示されます（図を参照）。
4. マニュアル モードを解除するには、シフト レバーを横方向に移動させ「D」の位置に戻してください。これで通常のオートマチック モードに戻ります。

> **⚠ 注意**
>
> マニュアル モードでも、加速力を高める「キックダウン」が使えます。詳細は「キックダウン」111 ページを参照してください。

ハイ レンジでのコマンドシフトの使い方

トランスファ ギアボックスがハイ レンジでマニュアル モードを選択したときは、発進時は必ず「1」の位置に入れてください。その後は通常のギア チェンジが可能です。

ロー レンジでのコマンドシフトの使い方

トランスファ ギアボックスがロー レンジでマニュアル モードを選択したときは、「1」「2」「3」いずれの位置からでも車両を発進させることができます。これは、オフロード走行中におけるトラクション向上に特に有効です。詳しくはこの取扱説明書の「オフロード走行」の項を参照してください。

オートマチック ギアボックスの使用

ここではコマンドシフト ギアボックスの扱い方について、重要な情報を記載しています。特にオートマチック車の運転に不慣れな方は、ここに記載された内容をよくお読みになり、内容を理解してください。

始動

エンジンを始動するときは、シフト レバーが「P」（パーク）または「N」（ニュートラル）の位置にあることを確認してください。これ以外の位置ではエンジンを始動できません。

- エンジンを始動する前に駐車ブレーキをかけ、フット ブレーキを踏み込んでください。
- エンジン始動後もブレーキ ペダルを踏み込んだまま、シフト レバーを希望のギアポジションにいれてください（フット ブレーキを踏まないと、シフト レバーを「P」から動かすことはできません）。
- 「D」または「P」の位置にシフトする際、あるいはギア位置にかかわらず停車中はむやみにアクセルを吹かさないで、エンジン回転数を通常のアイドリング回転数に維持してください。
- 発進するまでは、必ずフット ブレーキを踏み込んでおいてください。オートマチック車の特性として、アクセル ペダルを踏まなくても若干の前進力 / 後退力が発生すること（クリープ現象）がありますので注意してください。
- エンジンを作動させ、いずれかの走行ギアを選択した状態で、停車し続けないでください（長時間アイドリングするときは必ず「N」位置にしてください）。

アドバイス

オートマチック車で、押しがけやけん引によるエンジン始動を試みないでください。

「D」またはスポーツ モードでの走行

走行中ギアボックスは、アクセル ペダルの位置と車速、および道路の勾配（上り、下り、平坦）に応じて最適なギア調整されます。

ギア チェンジ速度

「D」位置で走行中は、アクセル ペダルの踏み加減に応じてギア チェンジのタイミングが変化します。アクセルを軽く踏んでいるときは低速でギア チェンジされ、大きく踏み込むと、より強力な加速力を得るために普通より高い速度でギア チェンジを行います。車速に応じてアクセル ペダルを適度に踏み込むと、ギアがシフトダウンし、さらに強い加速力が得られます。

慣れてくると、アクセル ペダルの踏み加減に応じて、さまざまな車速でギア チェンジを行えるようになります。

キックダウン

追い越しをするために加速したいときは、アクセル ペダルをいっぱいまで一気に踏み込んでください（これを「キックダウン」といいます）。アクセル ペダルを通してギアが切り替わったのが感じられるはずです。使用中のギアから低いギアに切り替わり、一定の速度に達するまで強めの加速力が得られます。アクセル ペダルをゆるめると、通常のギア チェンジ（アクセル ペダルの踏み加減と車速に応じたギア チェンジ）に戻ります。

知識

車速に応じてアクセル ペダルを適度に踏み込むと、ギアがシフトダウンします。

マニュアル コマンドシフト モードでの「キックダウン」

マニュアル コマンドシフト モードでキックダウンを行うと、キックダウンがマニュアル ギア選択に優先し、強い加速力が得られます。トランスファ ギアボックスがハイ レンジかロー レンジかにより、キックダウンの作動特性は異なります。

ハイ レンジでマニュアル モードが選択されると、キックダウンした場合、ギアは少なくとも 2 段ダウンシフトします（例：「5」から「3」）。ロー レンジの場合は 1 段だけダウンシフトします（例：「5」から「4」）。

駐車

停車後は、ブレーキ ペダルをゆるめる前に、まず駐車ブレーキをかけ、シフト レバーを「P」の位置にして、その後ブレーキ ペダルを戻してエンジンを停止してください。「P」位置に入れないとキーは抜けません。

自動選択モード

ギアボックス制御システムにより、走行状態に合わせて自動的に以下のギア チェンジ モードが選択されます。

知識

以下の自動選択モードは、運転者が選択することはできません。またスポーツ モードが選択されているときは作動しません。

登り坂 / けん引走行 / 高地モード

登り坂やトレーラーをけん引して走行するときに、頻繁にギア チェンジが行われると動力を損失することになります。この損失を抑えるため、自動的に適切なギア チェンジ パターンが選択されます。高地で走行する場合も、エンジンの駆動力を増大させるため、このパターンが選択されます。

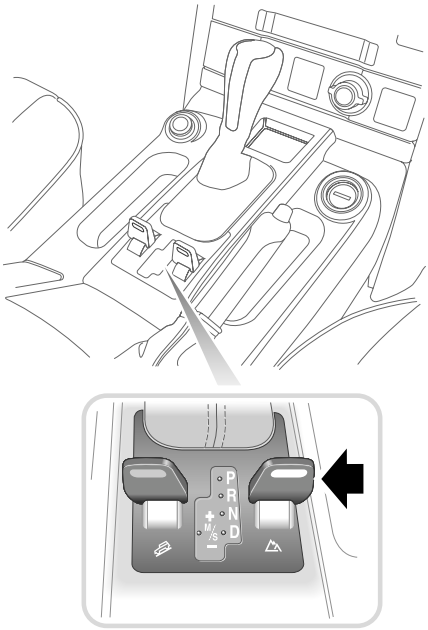
下り坂モード

マニュアル コマンドシフト モードで走行中、下り坂でエンジン ブレーキに最適なギアを選択したら、あとはシフト レバーを「D」位置に入れることができます。ギアボックスは、坂道を下り終えるまでマニュアル モードで選択されたギアを維持し、下り切った時点で自動的に「D」位置にシフトされます。

冷却水高温モード

外気温が高く、かつエンジンへの負荷が非常に大きいような過酷な走行条件では、エンジンおよびギアボックスが過熱する可能性があります。こうした条件下でもギアボックスが正常に作動し続けられるように、一定の温度に達すると、ギアボックスの冷却を助けるようなギア チェンジ パターンが選択されます。

トランスファ ギアボックス スイッチ



H3939

トランスファ ギアボックスは、ギアをハイ レンジまたはロー レンジのいずれかに切り換える際に使用します。

ハイ レンジ（H）

ハイ レンジのギアは、一般の道路を走行する場合にご使用ください。また、オフロードでも、乾燥し、勾配のない路面ではご使用になれます。

ロー レンジ（L）

ロー レンジのギアは、トレーラーを連結した状態で後退させたり、石が転がっているような川床を走行する場合など、低速での走行が必要な場合にのみご使用ください。また、ハイ レンジで走行を続けられないような過酷なオフロードの場合にも、ロー レンジを使用してください。舗装路ではロー レンジを使用しないでください。

トランスファ ギアボックスの使用

車両には電子制御トランスファ ギアボックスが装備されています。トランスファ ギアボックス スイッチの操作には、2 つの方法があります。経験の浅い方にお勧めする「停車中操作」と経験豊富な方のための「走行中操作」です。

停車中操作

車両を停止させ、エンジンをかけた状態でフット ブレーキをかけ、シフト レバーを「N」（ニュートラル）位置に入れてください。その後、トランスファ ギアボックス スイッチ（図の矢印）を手前に引いてください。スイッチは手を放すと、元の位置に戻ります。

走行中のハイ レンジからロー レンジへの切り換え

車速を 16 km/h 以下に減速させ「N」（ニュートラル）にシフトし、トランスファ ギアボックス スイッチを手前に引いてください（手を放すと前方位置に戻ります）。レンジが切り換わる間、シフト レバー ディスプレイのロー レンジ表示ランプが点滅します。レンジ切り換えが終わると、表示ランプが点灯し続け、警告チャイムが鳴り、メッセージ センターに「LOW RANGE（ロー レンジ）」の文字が数秒間表示されます。「D」（ドライブ）位置に入れます。レンジ切り換えが完了するまでの間、シフト インターロックは機能により、ギアは変速されません。

⚠ 注意

レンジ切り換えを行うときに車速が速すぎると、警告チャイムが鳴り、メッセージ センターに「SLOW DOWN（速度落とせ）」の文字が表示されます。

走行中のロー レンジからハイ レンジへの切り換え

車速 48 km/h 以下で「N」（ニュートラル）にシフトし、トランスファ ギアボックス スイッチを手前に引いてください（手を放すと前方位置に戻ります）。レンジが切り換わる間、シフト レバー ディスプレイのロー レンジ表示ランプが点滅します。レンジ切り換えが終わると、表示ランプが消え、警告チャイムが鳴り、メッセージ センターに「HIGH RANGE（ハイ レンジ）」の文字が数秒間表示されます。「D」（ドライブ）位置に入れます。レンジ切り換えが完了するまでの間、シフト インターロック機能により、ギアは変速されません。

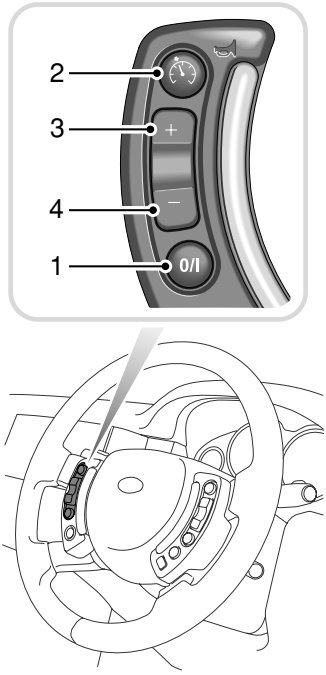
⚠ 注意

レンジ切り換えを行うときに車速が速すぎると、警告チャイムが鳴り、メッセージ センターに「SLOW DOWN（速度落とせ）」の文字が表示されます。

車速 3 km/h 以下で走行中は、停車中と同じ操作でレンジ切り換えを行ってください（フット ブレーキを踏み込み、「N」位置を選択してからトランスファ ギアボックス スイッチを動かす）。この操作を行わないと、インターロック機能によりシフト レバーが「N」位置でロックされます。

クルーズ コントロール *

クルーズ コントロール



H4091

クルーズ コントロールは、アクセル ペダルを操作しなくても一定の車速を保って走行を続けることができる機能です。特に高速道路走行時、または長時間一定速度を維持できるドライブなどには便利です。

クルーズ コントロール システムには、4 個のスイッチがあります。

1. メイン スイッチ
   （オン / 一時停止 / オフ）
2. 復帰スイッチ
3. 加速 / メモリー スイッチ
4. 減速 / メモリー スイッチ

⚠ 注意

クルーズ コントロールを使用するときは、以下の注意事項を必ず守ってください。

- 後退ギア（「R」）で走行しながら、クルーズ コントロールを使用しないでください。
- クルーズ コントロールは、定速走行が困難な状況では使用しないでください。
- クルーズ コントロールは、曲がりくねった道や滑りやすい路面、起伏が激しい道や砂地などのオフロードでは使用しないでください。
- クルーズ コントロールが作動しているときに「スポーツ」モードを使用することはお勧めできません。
- クルーズ コントロールを使用しないときは、クルーズ コントロール メイン スイッチを必ずオフにしてください。

ロー レンジでの走行中に、クルーズ コントロールを使用することはできません。

クルーズ コントロール *

クルーズ コントロールの使い方

1. メイン スイッチ（1）を押してください（計器パネルの警告灯が点灯します）。
2. 好みの巡航速度になるまで加速してください。ただし、クルーズ コントロール システムは、最低 30 km/h 以上の速度で走行していなければ作動しません。
3. 「+」スイッチ（3）または「−」スイッチ（4）を押すと、その時点の速度がシステムに記憶されます。その後はクルーズ コントロールが設定された車速を維持しますので、アクセル ペダルを操作する必要はありません。

クルーズ コントロールが作動している状態でも、アクセル ペダルを踏むと、通常の加速ができます。アクセル ペダルを放せば、最初に設定した速度に戻ります。

設定速度を下げるには

「−」スイッチ（4）を押し続けると、アクセル操作をしなくても自動的に減速します。希望の速度に達したら、スイッチを放してください。「+」スイッチを押すと、新たな速度が設定されます（ただし、クルーズ コントロールは 30 km/h 以下の車速では作動しませんので注意してください）。

「−」スイッチを短く押す操作を繰り返すことでも、設定速度を下げることができます。この場合、スイッチを 1 回押すと、車速が 1 km/h 下がります。

設定速度を上げるには

「+」スイッチを押し続けると、アクセル操作をしなくても自動的に加速します。希望の速度に達したら、スイッチを放してください。

「+」スイッチを短く押す操作を繰り返すことでも、設定速度を上げることができます。この場合、スイッチを 1 回押すと、車速が 1 km/h 上がります。

クルーズ コントロールの解除

シフト レバーを「N」位置にする、ブレーキ ペダルを踏み込む、HDC または DSC を作動させるなどの場合、クルーズ コントロールは自動的に解除されます。また、メイン スイッチ（1）を 1 回押すことでも、解除できます。

クルーズ コントロールを解除した後で、解除前の車速に戻って走行したいときは、復帰スイッチ（2）を押してください。

クルーズ コントロールのシステムをオフにするには、まずメイン スイッチ（1）を 1 回押してクルーズ コントロールを解除し、次に計器パネル内の警告灯が消えるまでスイッチを押し続けてください。

知識

クルーズ コントロール メイン スイッチまたはイグニッション スイッチのいずれかをオフにすると、クルーズ コントロールで設定した車速はキャンセルされます。

ブレーキ システム

走行安全性を確保するため、油圧ブレーキ システムは 2 系統に分けられています。万一、どちらか一方の回路が故障しても、もう一方の回路が機能します。しかしながら、ブレーキが故障した場合は、できるだけ速度を抑え、最寄りのディーラーまでの走行にとどめてください。この場合はブレーキ ペダルを踏むときに通常よりも大きな力が必要になり、停止距離が長くなりますので、十分に注意を払って運転してください。

サーボ アシスタンス（真空式倍力装置）

ブレーキ システムは、サーボによって踏力を補助していますが、この機能はエンジン作動時にのみ機能します。サーボ アシスタンスなしで安全に停止させるには、通常よりも大きなブレーキ踏力が必要となり、結果として停止距離が長くなります。必ず以下の注意事項を守ってください。

- 絶対にエンジンを停止したままで走行しないでください。
- エンジンを停止した状態で他車にけん引してもらうときは、十分に注意してください。
- 走行中に何らかの理由でエンジンが停止した場合、周囲の交通に十分注意しながら、速やかに安全な場所に停車してください。停止するときには、できるだけブレーキ ペダルを繰り返し踏まないようにしてください。サーボ内に残っている補助力を使い切ってしまいます。

ブレーキ パッド

新品のブレーキ パッド（およびライニング）は、慣らし運転が必要です。最初の 800 km を走行するまでは、急ブレーキをかけないように心がけてください。

お車本来の性能と安全性を長期間にわたり最適な状態に保つため、定期的にブレーキ パッドの摩耗点検を行い、必要に応じて交換してください。

⚠ 注意

走行中にブレーキ ペダルに足を乗せたままにしないでください。ブレーキ部品が過熱して、制動力が著しく低下したり、異状摩耗の原因になります。

ブレーキ サーボの補助が働かなくなりますので、エンジンを停止した状態では決して走行しないでください。エンジンが停止しているときは、ブレーキ機能は働きますが、ブレーキ ペダルをいつもより強く踏む必要があります。

走行中にブレーキ システム警告灯が点灯した場合、周囲の交通に十分注意しながら、速やかに安全な場所に停車してください。それ以上走行を続けずに、ランドローバー正規ディーラーに点検をご依頼ください。停止するときには、できるだけブレーキ ペダルを繰り返して踏まないようにしてください。サーボ内に残っている補助力を使い切ってしまいます。

路面が濡れているとき

水たまりや激しい雨の中での走行は、ブレーキの効きが悪くなります。このようなときは、周囲の安全を確かめて、前後の車間距離を十分とった上で、ブレーキを数回軽く踏んでブレーキ摺動面に付着した水分を取り除いてください。

アンチロック ブレーキ システム（ABS）

⚠ 注意

ABS は、極端に短い距離での制動、高速でのコーナリング、ハイドロプレーニング現象（タイヤと路面の間に薄い水の層が生じて適切な摩擦抵抗が得られなくなる現象）などの物理的な限界を克服することはできません。

ABS 装備車であっても、運転者自身や他の道路利用者の安全を脅かすような危険な運転は絶対におやめください。いかなる場合も運転者には、刻々と変化する路面状況、天候、交通状況に常に気を配りながら、安全な走行をする責任があります。

運転者は、常に前方の路面状況に注意することを怠らないでください。また ABS 装備車と非装備車では、ブレーキ ペダルの感触や反応が異なることを理解しておいてください。

ABS は、制動中のホイール ロックを防ぎます。そのため、運転者はステアリング操作により車両のコントロールを維持できます。

通常の制動状態（路面との摩擦力が十分にあり、ホイールをロックさせずに減速できる状態）では、ABS は作動しません。しかし、制動力がタイヤと路面間の摩擦力を上回るような状況では、ABS が自動的に作動します。ABS の作動中は、ブレーキ ペダルに小刻みな振動を感じます。

一般道路上で、緊急時などに急制動をかける必要がある場合には、ブレーキ ペダルを踏み込んでください。ABS システムは、常に各ホイールの回転速度をモニターし、個々のホイールがその時々で得られる駆動力に応じて最適なブレーキ圧に調整してホイールのロックを防止します。

ブレーキ ペダルを短く繰り返し踏む操作（ポンピング）はしないでください。ABS の作動が中断されて、かえって制動距離が長くなります。

⚠ 注意

ブレーキ ペダルの下にフロア マットを追加したり、ブレーキ操作の障害になるものを置かないでください。ブレーキ ペダルの動きのさまたげになり、正しく踏み込めないばかりでなく、必要な制動力を発揮させることができなくなる恐れがあります。

バッテリーの放電やバッテリーの取外しなどで車両の電源が一時的に遮断された場合、電源が復帰しても ABS は機能を停止しています。短距離を走らせるか、停車させた状態でエンジンを止めずに、ステアリング ホイールをまず左右どちらかいっぱいに回し、次に反対側いっぱいまで回すと、ABS 機能を再開します。システムが機能を再開すると、ABS 警告灯は消灯します。

ABS 警告灯

ABS システムに故障が発生すると、黄色の ABS 警告灯が点灯します。その場合、ブレーキを強く踏み込んだり、ABS まかせの運転をしないよう注意してください。ABS 警告灯に関する詳細は「エマージェンシー ブレーキ アシスト システム（EBA）警告灯（黄色）」51 ページを参照。

オフロード走行

ABS はオフロード走行でも効果的に作動するように設計されていますが、路面状況によっては ABS を全面的に信頼してはいけない場合があることも覚えておいてください。通常、ABS はホイールが滑り始めてから作動するという事実を忘れないでください。オフロード走行のような困難な状況下では、運転者の操作ミスや経験不足までを ABS でカバーすることはできません。

以下の注意事項を必ず守ってください。

- 粉雪、砂、砂利などで覆われたやわらかく、ホイールが深く沈み込むような路面や悪路では、ABS 装備車の方が制動時の安定性やステアリングの操作性は改善されるものの、ABS 非装備車よりも制動距離が長くなる場合があります。こういった状況では、ABS 非装備車ではホイールがロックして、タイヤの前面に押し出される雪や砂がくさび状に固まり、車を止めるのを助けるためです。
- 路面の摩擦力が小さい急勾配の下り坂などで停車すると、ホイールがロックしたまま車両が滑り出してしまう恐れがあります。これは ABS が事前にホイールが回転している状態を検知していないために、走行中ではないと判断したため起こる現象です。このような場合、一瞬ブレーキをゆるめ、わずかに車輪を回転させてもう一度ブレーキをかけると、ABS による制御が働きます。
- オフロード走行にお出かけになる前に、この取扱説明書の「オフロード走行」の部分をよくお読みになり、しっかりと内容を理解しておくようにしてください。

コーナーリング ブレーキ コントロール（CBC）

コーナーリング ブレーキ コントロール（CBC）は、ABS のさらに進歩したシステムで、高速でのコーナリングや車線変更時にブレーキをかけた場合、車両の安定性と操舵性を維持します。

エマージェンシー ブレーキ アシスト（EBA）

ブレーキ ペダルが急激に踏み込まれると、EBA は自動的に制動力を最大にまで上げ、可能な限り短い制動距離で車両を停止させるよう補助します。ブレーキ ペダルをゆっくり、ただし、両フロント ホイールに ABS を作動させるだけのブレーキ圧がかかるように踏んだ場合、EBA は自動的に制動力を増加させ、すべての ABS が最適に作動するよう調整します。

制動中は、必ずブレーキ ペダルを踏み続けてください。ブレーキ ペダルから足を離すと、EBA の作動は停止します。

EBA システムに故障が発生すると、黄色のブレーキ警告灯が点灯します。警告灯が点灯した場合は、できるだけ早い機会にランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

電子制御ブレーキ ディストリビューション システム（EBD）

お客様のお車には電子制御ブレーキ ディストリビューション システム（EBD）が装備されており、前後のブレーキ力配分を制御し、あらゆる負荷条件下で最大限の制動効率を維持します。

例えば積荷が軽い場合、EBD はリア ブレーキの制動力を減少させ、車両の安定性を維持します。逆に、けん引時や重量のある荷物を積んでいる場合は、リア ブレーキの制動力を最大に高めます。

EBD システムに故障が発生すると、赤色のブレーキ警告灯が点灯します。警告灯が点灯し続け、停車中も消灯しない場合、システムに故障が発生しています。安全な場所にできる限り早く停車し、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

駐車ブレーキ

駐車ブレーキをかけるときは、レバーをいっぱいに引き上げてください（駐車ブレーキ警告灯が点灯します）。

解除するときは、レバーを少し引き上げながら、ボタンを押してレバーをいっぱいに下げてください（駐車ブレーキ警告灯が消灯します）。

駐車する場合は、必ず駐車ブレーキをいっぱいに引いてください。

坂道に駐車する場合は、駐車ブレーキだけでなく、車が動かないようにシフト レバーを「P」（パーキング）位置に入れてください。

ブレーキ ペダルを慎重に離すと、車がわずかに動いて「P」位置に入ります。これによりギア ボックスのパーキング用のツメが完全にかみ合ったことを確認します。この作業は、ロー レンジが選択されている場合は特に重要です。

⚠ 注意

緊急時に駐車ブレーキを減速または停止させるのにお使いになる場合は、レバーを強く引き上げすぎないでください。常にレバーのボタンを押し続けてください。

駐車ブレーキを必要以上に強く引き上げすぎると、リア ホイールにブレーキがかかりすぎ、横滑りの原因となります。

車両が泥や水に浸かった場合、駐車ブレーキが十分に機能しないことがあります（「オフロード走行」参照）。

知識

駐車ブレーキをかけてもブレーキ ランプは点灯しません。

ダイナミック スタビリティー コントロール（DSC）

⚠ 注意

ダイナミック スタビリティー コントロール（DSC）は運転者の判断ミスを補うものではありません。どんな運転状況でも適切な運転をするのは運転者の責任です。危険とは DSC システムだけでは補いきれないものです。

DSC は、厳しい運転状況においても、走行中の安定性を維持します。このシステムは加速時や始動時に、動的安定性を制御します。さらに、アンダーステアリングやオーバーステアリングのような不安定な走行状態を検知して、エンジン出力を制御したり、ホイールごとにブレーキをかけたりして、車体を安定させます。ブレーキ ペダルを踏み込むときに、作動音が聞こえることがあります。エンジンが始動すると、システムは作動できる状態になります。

警告灯

イグニッション スイッチを「II」の位置に回すと、システムの動作確認のために警告灯が点灯します。エンジンを始動すると消灯します。

DSC が働いてエンジン出力と制動力が制御されると、警告灯が点滅します。

エンジン始動時に警告灯が消灯しない、または走行中に点灯する場合、システムに故障が発生したか、DSC が手動で解除されたかのどちらかです。そのまま走行を続けることは可能ですが、厳しい運転状況においてはお車の運転特性が変わることがあるので注意してください。

DSC の作動を解除する

通常の運転状況では DSC を作動状態にしておくことをお勧めします。

ただし、以下のような前輪の摩擦力を最大にしたい場合は、DSC の作動を解除したほうがよい場合もあります。

- くぼみや、柔らかい地面から脱出するとき
- 雪深い地面や、柔らかい地面から発進するとき
- 深い砂地での走行
- 深く長いわだちのある路面の走行
- 深いぬかるみでの走行

DSC の作動を解除するには、ダッシュボード上の DSC スイッチを押してください（DSC 警告灯は点灯し続けます）。DSC の作動を解除してもトラクション コントロールは作動し続けます。

⚠ 注意

DSC の作動を解除したまま走行すると、ブレーキによけいな負荷がかかってしまいます。できる限り DSC スイッチをオンにして走行してください。

DSC を再作動させる

DSC を再び作動させるには、ダッシュボード上の DSC スイッチを押してください。エンジンを始動させると、DSC は自動的に作動します。

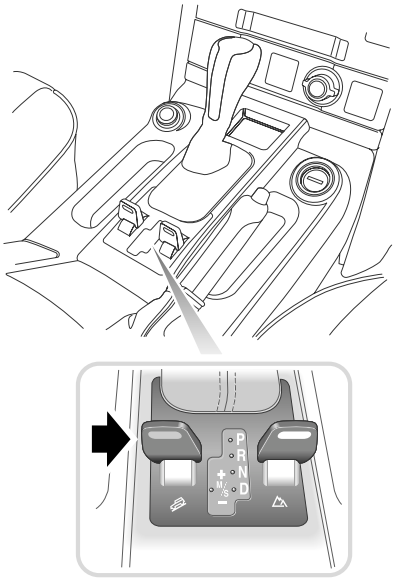
⚠ 注意

バッテリーの放電やバッテリーの取外しなどで車両の電源が一時的に遮断された場合、DSC 警告灯と ABS 警告灯が点灯し続け、システムが作動していないことを知らせます。DSC システムを再び作動させるには、カーブで短距離を走らせるか、停車した状態でエンジンを止めずに、ステアリング ホイールをまず左右どちらかいっぱいに回し、次に反対側いっぱいまで回してください。システムが再作動すると警告灯は消灯します。

電子制御トラクション コントロール（ETC）

電子制御トラクション コントロールは一輪以上が空転して、他で十分なグリップがあるような状況に駆動力が得られるようにすることを目的としています。システムは、DSC システムと連動して作動します。ETC システムは、空転しているホイールがグリップ力を回復するまでそのホイールに自動的にブレーキをかけ、その他のホイールに駆動力を分配します。ブレーキ ペダルを踏み込むときに、作動音が聞こえることがあります。

ヒル ディセント コントロール



H4096

ヒル ディセント コントロール（HDC）は、ABS と連動して、オフロード走行時の、特に急勾配を下る場合の操縦性を確保します。

HDC を選択する

HDC は、トランスファ ギアボックスがローレンジに入っているときは、いつでも選択できますが、ハイ レンジのときは、車速が 35 km/h 未満の場合に限ります。計器パネルの HDC「情報」警告灯は、HDC が完全に選択されると点灯します。

スイッチ（矢印）を手前に引くと、HDC が選択されます。

HDC が選択されても走行速度が速すぎると、メッセージ センターに「NO HDC - SLOWDOWN」（HDC 作動せず - 速度落とせ）の文字が表示され、スイッチから手を放すと HDC 警告灯は消灯します。

HDC 選択を解除するには、再度スイッチを手前に引きます（警告灯は消灯します）。HDC が作動中に HDC を解除すると、警告灯が点滅し、システムは徐々に作動を解除（フェード アウト）します。その結果、車速は徐々に上がっていきます。

ロー レンジで選択された場合、HDC はより積極的に車速を制御します。急勾配の坂道を下るときにはロー レンジを使用してください。

> **⚠ 注意**
>
> ハイ レンジで、車速が 60 km/h を超える場合、HDC は自動的に解除されます（警告灯は消灯します）。また、イグニッション スイッチが 6 時間以上オフになっていた場合も、HDC は自動的に解除されます。

ヒル ディセント コントロールの作動

HDC は、ギアボックスが「コマンドシフト」モードや、「R」（リバース）「D」（ドライブ）位置に入っていても使用できます。シフト レバーが「D」位置に入っている場合、最適なギアを自動的に選択します。

急な坂道を下るときなど、エンジン ブレーキだけでは十分に減速できないことがあります。あらかじめ HDC を選択しておけば、このような場合、HDC は選択されたギアとアクセル ペダルの踏み込み量に対応する車速を維持しながら、必要に応じて自動的にブレーキをかけます。

オフロード走行中に常時 HDC を選択したままにしておけば、自動的に HDC が作動します。HDC の作動中であっても、ABS およびトラクション コントロールは通常と同様に機能し、必要に応じて走行をサポートします。

知識

HDC 選択時でも、ギア チェンジは通常通りに行えます。

HDC 作動中にブレーキ ペダルを踏み込むと、HDC は一時的に解除され、通常のブレーキ操作が可能です（このときブレーキ ペダルから小刻みな振動を感じることがあります）。ブレーキ ペダルを開放すると、HDC が減速状態で再作動します。

過酷な条件下では、HDC システムが長時間作動することによって、ブレーキ温度が規定の限界値を超えてしまうことがあります。その場合、メッセージ センターに「HDC TEMP. NOT AVAIL.」（HDC 高温作動不能）の文字が表示されます。その後 HDC はフェード アウト（警告灯が点滅）し、一時的に作動不能となります。ブレーキ温度が規定の限界値内に戻ると、メッセージ センターの警告メッセージは消え、HDC は要求に応じて再作動します。

HDC システムに故障が検知された場合、「HDC INACTIVE」（HDC 作動不能）の文字がディスプレイに表示されます。HDC が使用できないときは、急斜面を下らないでください。故障が検知された場合、お早めにランドローバー正規ディーラーへご相談ください。

HDC フェード アウト

HDC のフェード アウトが起きると、HDC によるブレーキ制御の頻度が徐々に減少します。この場合、坂を下る際の車速は徐々に増していきます。フェード アウトが終わるまで、HDC 情報表示灯が点滅します。下り坂が終わると HDC は完全に作動を停止します。

必要に応じて（たとえば、勾配の角度が急になだらかになった場合など）意図的に HDC をフェード アウトさせることもできます。そのためには、システム作動中に HDC を解除します。

HDC に故障が発生するか、あるいは過酷な条件下でブレーキ温度が規定の限界値を超えた場合、HDC は自動的にフェード アウトします。

警告灯

HDC 情報表示灯（緑色）

HDC 情報表示灯は、イグニッション スイッチを「**II**」の位置にするか HDC を選択すると、システムの作動確認のため短時間点灯します。

HDC が選択され、作動基準が適合すると表示灯が点灯します。

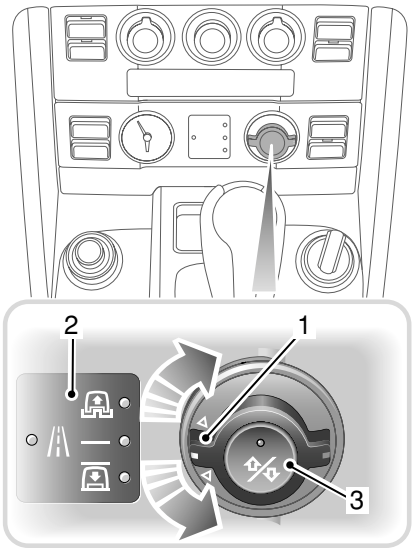
HDC が作動しているときに表示灯が点滅する場合、HDC の正常な機能が停止して、HDC「フェード アウト」が起こる場合があります。

電子制御エア サスペンション（EAS）

エンジン作動中、電子制御エア サスペンション（EAS）は自動的に作動し、車両の積載量に関係なく車高を維持したり、水平に維持したりします。

積載量の増加（トレーラーをけん引する場合など）によって車高が低くなると、EAS システムは自動的にスプリングへの空気圧を増加させ、追加重量や車両の位置変化を補正します。同様に、車両から積荷が取り除かれて車高が高くなると、システムは空気圧を減少させて車高を元の状態に戻します。

手動操作



H3943

お車には電子制御エア サスペンション システム（EAS）が装備されていて、「アクセス モード」を含む 4 種類の車高を選択することができます。この設定を選ぶことにより、全高と地上高を運転状況に応じて上下させることができます。

- オフロード モード
- 標準モード
- ハイウェイ モード
  （運転者は選択できません）
- アクセス モード

それぞれの車高設定については、この項の関連ページを参照してください。

EAS を作動させる前に

すべてのドアが閉まっていないと、車高調整を選択しても車高は変化しませんので注意してください。

⚠ 注意

頻繁に車高を変えると、コンプレッサーがオーバーヒートを起こす原因となります。オーバーヒートした場合は、数分たってコンプレッサーが冷えてから、EAS は完全に作動可能になります。

1. 車高調整スイッチ

スイッチを時計方向または反時計方向にひねると、車高が設定された高さに上昇または下降します。

2. 車高表示パネル

現在車高が選択されている車高モードの表示灯が点灯します。新しい車高を選択すると、現在の車高モードの表示灯が点灯したままに、新しい車高の表示灯が点滅を始めます。この点滅は、車高の変更が完了すると点灯に変わり、以前の車高の表示灯は消灯します。新しい車高を選択したときに現在の車高表示灯が点滅した場合、車高は変更されません。

3. 抑制スイッチ

スイッチを押すと、抑制モードが選択されます（オフロード モードでは作動しません）。スイッチの表示灯が点灯します。これによって自動または手動での車高調整を抑制します。もう一度スイッチを押すと、抑制モードが解除されます。

アクセス モード スイッチ

スイッチを押すと、乗り降りや荷物の積み降ろしに最適な高さに車高を下げます。詳細については、「アクセス モード」126 ページをお読みください。

ハイウェイ モード

高速で走行中、サスペンションは自動的にハイウェイ モードの車高まで下がり、高速道路走行での乗り心地や操縦性が向上します。ハイウェイ モードの車高設定は、標準車高設定より約 25 mm 下です。

電子制御エア サスペンション システムが 100 km/h 以上の車速を 30 秒以上検知すると、自動的にハイウェイ モードに調整されます。

電子制御エア サスペンション システムが 70 km/h 以下の車速を 1 分以上検知すると、自動的に車高が標準モードの位置まで上がります。ハイウェイ モードのまま停止しても、車高は必ずしも上がりません。

ハイウェイ モードのときに抑制スイッチを押すと、車速が落ちても、標準モードの車高に自動的には戻りません。抑制スイッチをしばらく押し続けると、ハイウェイ モードは解除され、通常の車高自動調整機能が回復します。

ハイウェイ モードの選択は完全に自動で行われており、運転者が手動で選択することはできません。

車高調整スイッチを時計方向にひねると、ハイウェイ モードから標準モードに手動で切り換えることができます。車速 25 km/h 以下で走行中に車高調整スイッチを反時計方向にひねると、車高はアクセス モードの位置まで下がります。

オフロード モード

オフロード モードは低速で走行中に、車高を上げて地上高を確保することができます。

⚠ 注意

舗装道路を走行する場合やサスペンションが標準車高よりも下げられている場合は、オフロード モードを選択しないでください。車高や車両の位置が不意に変化することにより、経験の浅い運転者が車両のコントロールを失ったり、車両の負荷 / 重量のバランスが崩れる恐れがあります。

けん引中にオフロード モードを選択しないでください。

オフロード モードを選択するときは、まず車速が 50 km/h 以下であることを確認し、次に車高調整スイッチを時計方向にひねります。車高は標準モードより 50 mm 上がり、車高表示パネルに「オフロード」の表示灯が点灯します。

知識

前軸は後軸にくらべ 10 mm 高くなります。

オフロード モードの車高は、車高調整スイッチで標準モードが選択されるか車速が 50 km/h を超えるまで維持されます。

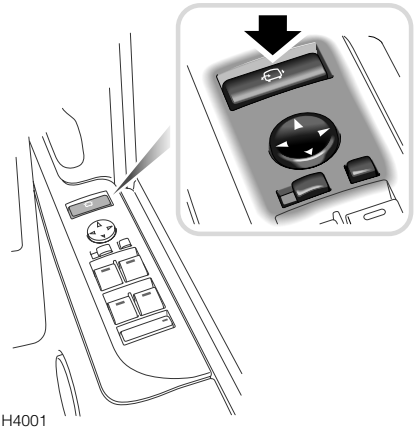
オフロード モードを選択しても車速が速い場合、標準モード表示灯が点滅し、要求が実行されなかったことを知らせます。車速を 50 km/h 以下に落としてから、再度オフロード モードを選択してください。

⚠ 注意

抑制スイッチがオンになっていると、オフロード モードを選択できません。また逆に、オフロード モードのときに抑制モードを選択することもできません。

アクセス モード

アクセス モードは標準モードより 45 mm 低い車高で、乗り降りや荷物の積み降ろしを容易にします。



H4001

アクセス モードは、どの車高位置からでも選択できます。標準モードやハイウェイ モードのときに車高調整スイッチを反時計方向

にひねる、あるいは運転席ドア スイッチ パネルのアクセス モード スイッチ（図の矢印）を押すと、アクセス モードが選択されます。

車速が 80 km/h 以下に落ちると、アクセス モード車高を選択することができます。アクセス モード表示灯が点滅し始めますが、車速が 25 km/h 以下に落ちるまで車高はアクセス モード位置へ下がりません。アクセス モードを選択してから 65 秒以内に車両が停止しない、または車速が 80 km/h を超えた場合、アクセス モード要求は中止され、表示灯の点滅が止まります。必要であれば、再度アクセス モードを選択してください。

⚠ 注意

アクセス モードのときに車速が 30 km/h を超えると、EAS は自動的に標準モードの車高に戻ります。

アクセス モードが選択されていて車速が 80 km/h を超えると、標準モード表示灯が点滅し、要求が実行されなかったことをお知らせします。

アクセス モードの選択はサスペンションへのストレスを避けるために、走行中（低速）に行ってください。やむを得ない状況により、車両を停止中にアクセス モードを選択しなければならない場合は、シフト レバーを「N」（ニュートラル）に入れ、駐車ブレーキをかけてください。サスペンションから振動を伴った作動音が聞こえることがあります。

クロール モード

高さ制限のある場所を走行しなければならない場合は、以下の手順でクロール モードを選択してください。

- アクセス モードを選択し、走行中の場合は車両を停止させます。そうしないと、アクセス モードが実行されません。
- 抑制スイッチを押してください。

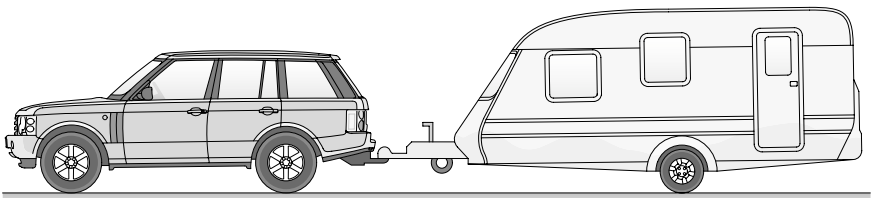
⚠ 注意

車高がアクセス モードの位置に下がり始める前（すなわち車速が 25 km/h 以下になる前）に抑制スイッチを押すと、アクセス モード要求が中止され、標準モードの車高に戻ります。

クロール モードのときに車速が 40 km/h を超えると、クロール モードは中止され、標準モードの車高に戻ります。このとき車両が高さ制限のある場所を走行している場合、車に深刻な損傷を与える恐れがあります。

これで車両はクロール モードとなり、車速が 40 km/h を超えない限り、すべての手動、自動による車高の変更が抑制されます。

車速が 30 km/h を超えると、警告チャイムが鳴り、メッセージ センターに車速を落とすよう警告するメッセージが表示されます。



H3770

けん引

ランドローバー エンジンの優れたトルク特性により、最大限に積載した場合でも、車両を停止状態から滑らかに発進させ、また坂道や悪路におけるギア チェンジ回数を低減させることができます。トレーラー重量が 2000 kg を超える場合でも、まずロー レンジにし、動き出したらハイ レンジに移行することにより、滑らかに走行することが可能です。

けん引ソケットが使用されると、サスペンションは自動的に車高を標準モードになります。重いトレーラーをけん引している場合でも、車両のバランスや乗り心地を損なわずに作動するよう設計されています。

アドバイス

けん引用アクセサリーは、必ずランドローバー認定品をご使用ください。

お車に重大な損傷を招く恐れがありますので、トレーラーをけん引するときに、車両前後の緊急用けん引フックを使用しないでください。

車両とトレーラー / キャンピング カーが安定して走行できるように荷物を積載し、バランスをとることは運転者の責任です。トレーラーのけん引の準備をするときは、トレーラー メーカーの指示事項を遵守するとともに、以下の注意事項を守ってください。

車両とトレーラーのバランスの確保

安定性を最大限に確保するため、けん引する車両とトレーラーはバランス レベルがとれていることが大切です。言い換えると、トレーラーが地面に対して水平で、けん引ヒッチとトレーラーのけん引バーが同じ高さになっていなければなりません（上図参照）。このことは、2 軸式トレーラーをけん引する際に特に重要です。

- トレーラーは、積荷を積載した状態で地面に対して水平になっている必要があります。
- けん引バーのヒッチ ポイントの高さは、荷物を積載した車両に連結した車両に連結したときにトレーラーが水平になるよう設定する必要があります。

注意事項

- トレーラーの積載重量を計算するときには、積み荷の重量にトレーラーの重量を加えることを忘れないようご注意ください。
- 推奨されるトレーラーのノーズ ウェイトに車両の積載エリアと後席シートの乗員を加えた重量は、決して最大後軸荷重を超えてはなりません（「けん引重量」 223 ページを参照）。
- 積み荷をけん引車両とトレーラーに分けて積む場合は、一般にけん引する車両に多くの積み荷を積載した方が、連結車

両の安定性が向上します。しかしながら、車両総重量と後軸荷重の制限を越えることは許されませんし、トレーラーが水平姿勢を保つように注意する必要もあります。

- けん引に関する規定は国によって異なります。けん引重量と速度制限に関する国別規定を順守してください（詳細は関連する国別の自動車関連公的機関にお問い合わせください）。車両の最大許容けん引重量は、車両の設計上の上限値であり、各国 / 地域の制限には準拠していません（「けん引重量」223 ページを参照）。

知識

けん引時の最高速度は 100 km/h です。

ギアの選択

ギアボックスのオーバーヒートを防止するため、重いトレーラーを 32 km/h 未満の速度でハイ レンジでメイン ギアボックスを使用してけん引することはお勧めできません。ロー レンジを使用してください。

車両重量

車両に積載限度（車両総重量の限界値）まで積載するときは、空車重量と荷重の配分に注意して、軸荷重が許容値を超えないように注意してください。最大軸荷重および車両総重量を超えないように積載重量を管理するのは運転者の責任です。

アドバイス

安全のため、車両総重量、最大後軸荷重、最大許容けん引重量、けん引バー重量（いわゆるノーズ ウェイト）を超えないようにしてください。

トレーラー ソケット

エンジンが作動しているときは、トレーラー ソケットからの出力は 5 A（アンペア）を超えないようにしてください。

5 A（アンペア）以上必要な場合は、13 ピン アクセサリー キットを、ランドローバー正規ディーラーでお求めください。出力が 15 A（アンペア）に増加します。

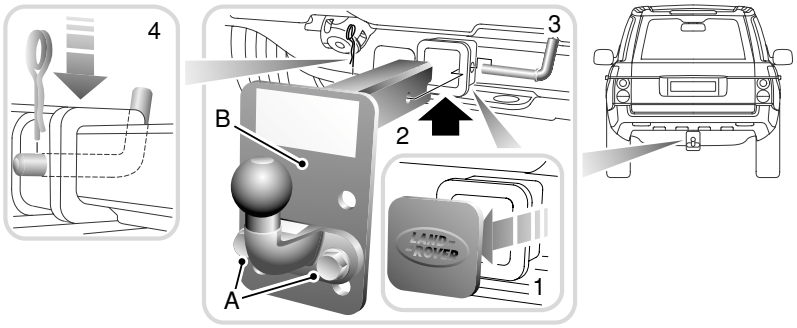
けん引時の必須点検項目

タイヤの空気圧：	けん引する車両後部の空気圧を 20 kPa ～ 30 kPa 増加させてください。また、トレーラー／キャンピング カーのタイヤ空気圧が推奨値にあることを確認してください。
積載：	トレーラーの積み荷はしっかりと固定し、床面に低く平らに積むようにし、可能ならばトレーラーの車軸のすぐ上かすぐ近くに載せてください。けん引車両の最大軸荷重および車両総重量を超えないようにしてください。
ノーズ ウェイト：	最大車両総重量積載時、ノーズ ウェイトは 150 kg 以下でなければなりません。ノーズ ウェイトがさらに必要な場合は（最大 250 kg）、最大車両総重量と最大後軸荷重を超えないよう、車両積載量を調整してください。詳細は「けん引重量」223 ページをお読みください。
ヒッチの高さ：	エンジン作動中のけん引車両に接続したとき、キャンピング カー／トレーラーが水平になるよう調整する必要があります。

けん引バーの取り付け

お車に取り付けられるけん引バーは 2 種類あります。以降のページに、それぞれのけん引バーの脱着手順を記載してあります。

ドロップ プレート式けん引バー *



H3901

1. けん引バー取り付け口から、プラスチックの保護カバー（Land Rover のロゴ付き）を取り外します。
2. けん引バー セットを取り付け口に差し込みます。
3. 車両側取り付け口の穴とけん引バー セットの穴を通るように固定用の棒を差し込み、固定してください。
4. 固定ピンのまっすぐな部分を、固定用バーに差し込みます。

けん引バーを取り外すときは、上記の逆の手順で行います。けん引バーを取り外したら、必ず保護ケースに入れ、走行中に車内を移動することがないようにしてください。車両のけん引バー取り付け口にプラスチック保護カバーを取り付けるのを忘れないでください。

ドロップ プレートの高さ調整

けん引バーとドロップ プレート（B）を固定している 2 個のボルト（A）を外します。

けん引バーを他の 2 ヶ所の高さ設定位置のどちらかに合わせ、2 個のボルトで固定します。ボルトを規定のトルク値 170 Nm で締め付けます。

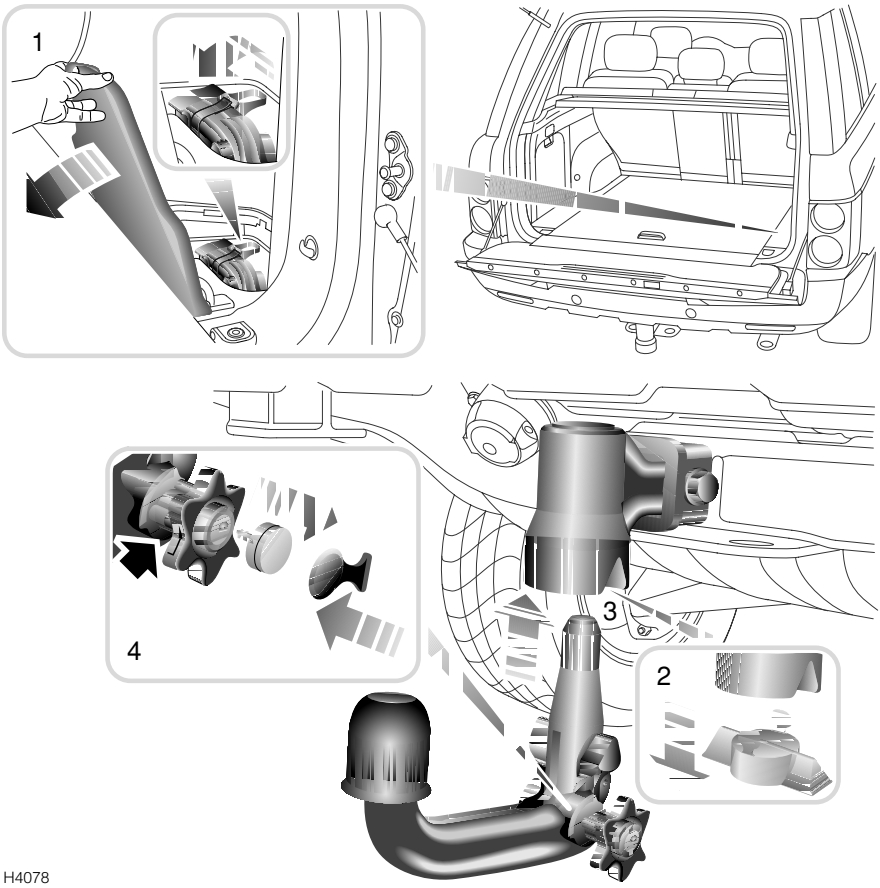
⚠ 注意

けん引するときは、常に固定ピンが固定用の棒にしっかり固定されていることを確認してください。

絶対に、けん引バーが車内で移動することがないようにしてください。急ブレーキや事故の際に、不意に飛んできてけがをする恐れがあります。

ドロップ プレート式けん引バーは、バッグに収納し、荷室の荷物固定ポイントに結び付けて固定してください。

デタッチャブルけん引バー *



デタッチャブルけん引バーは、荷室アクセスハッチ下の右側に収納できます。

1. 荷室アクセス ハッチを開け、ベルクロを外して、けん引バーを取り出してください。
2. プラスチック保護カバーを、けん引バー取り付け口から取り外してください。

知識

けん引バー使用中は、保護カバーをけん引バー収納スペースに収納できます。

必ず、けん引バーがロック解除位置にあるようにしてください。これはツマミの赤色の印がけん引バー本体の緑色の線に合っていることで確認できます（図 4 の矢印）。緑色の印が緑色の線と合っている場合は、以下の「けん引バーを取り外す」に記載されているけん引バーのロック解除手順をお読みください。けん引バーはロックが解除されていないと、取り付けることはできません。

3. けん引バー ボルトを取り付け口に差し込み、けん引バーがロックされるまで押し込んでください。けん引バーがロックされると、ツマミの緑色の印がけん引バーの緑色の線と合わさります。
4. キーを反時計方向に回して、ツマミをロックしてください。その後、キーを抜き、保護カバーをツマミのキー穴に取り付けます。

⚠ 注意

キーはなくさないよう、けん引バー収納スペースに収納してください。

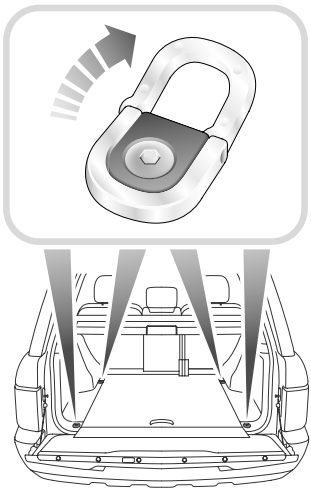
けん引バーを取り外す

ツマミのキー穴から保護カバーを取り外し、キーを差し込み、時計方向に回します。

ツマミを使って、けん引バーのロックを解除します。ツマミを引き出し、カチッと音がするまで時計方向に回します。ツマミの赤色の印が、緑色の線と合っているはずです。けん引バーのロックが解除されました。

けん引バーを慎重に引き下げ、ツマミのキー穴に保護カバーを取り付けます。荷室の収納スペースにけん引バーをベルクロでしっかり固定してください。赤いプラスチック保護カバーをけん引バー取り付け口に必ず取り付けてください。

荷物固定ポイント



H4185

荷室の床面には、荷物の固定ポイントが 4 ヶ所用意されています。大きな荷物を積むときに、積載物を確実に固定するためにご利用ください。ランドローバーは、荷物の固定用に一連の推奨アクセサリーを提供しています。

⚠ 注意

事故や緊急回避動作の際に乗員がけがをする恐れがありますので、オンロード / オフロード走行にかかわらず、器具、工具、荷物類を固定しないままで走行しないでください。

ルーフ ラック *

ルーフ ラック システムは、ランドローバー認定品をご使用ください。お客様のお車に使用が認められているルーフ ラック、お客様の目的に合ったルーフ ラックの種類についての詳細は、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

⚠ 注意

ルーフ ラックを使用するときは、以下の注意事項を必ず守ってください。

- ランドローバー認定ルーフ ラックに積載できる**最大**積載重量は、オンロード走行時で 100 kg、オフロード走行時で 50 kg です。上記の積載重量には、ルーフ ラック システムの重量も含まれます。
- お客様のお車用に設計されたルーフ ラックのみをご使用ください。疑問点がございましたら、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
- ルーフ ラックに荷物を積載すると、車両の安定性に影響が出ます。特にカーブを曲がるときや横風を受けたときは危険な場合があります。
- 荷物は両端に分散させて、ルーフ ラック システムの前方に重量がかかるように積載してください。
- 荷物がルーフ ラックからはみ出さないように、しっかりと固定されているか確認してください。

⚠ 注意

- 走行を開始した後も、50 km を走行するごとに、ルーフ ラックと荷物に異常がないか点検してください。
- ルーフ ラックに荷物を積載した状態でオフロードを走行することはお勧めできません。オフロード走行時にルーフ ラックに荷物を積載する必要がある場合は、斜面の横断を始める前にルーフ上の荷物をすべて下ろしてください。

オフロード走行

オフロード走行
走行する前に 137
オフロード走行の
　基本的なテクニック 137
オフロード走行後 140
点検の必要性 140
フロント ビブ スポイラーの
　取り外し 141

走行テクニック
柔らかい地面や乾いた砂地の走行 . . . 142
滑りやすい路面の走行
　（氷、雪、泥、濡れた草） 142
でこぼこ道での走行 142
急斜面を登る 143
急斜面を下る 144
斜面を横切る 145
V 字形の谷をまたいでの走行 145
わだちのある路面の走行 145
尾根を横切る 146
溝を横切る 146
渡河走行 147

走行する前に

オフロード走行にお出かけになる前に、オフロード走行の経験の浅い方は、この車両の操縦方法、特に トランスファ ギア スイッチ、ヒル ディセント コントロール（HDC）の扱いに精通するとともに、以下数ページにわたるオフロード走行テクニックについての説明をじっくりとお読みになることが極めて重要です。

⚠ 警告

オフロード走行には危険が伴います。

- 不要な危険は冒さないようにし、常に緊急事態に備えておいてください。
- お客様ご自身と車両および同乗者に及ぶ危険を最小限にするために、ここでお勧めする走行テクニックを身につけてください。

アドバイス

- オフロード走行中に限らず、どんなときでも、安全のため必ずシートベルトを着用してください。
- 燃料が少ないときは、オフロード走行をしないでください。地面の激しい起伏や急勾配などでは、エンジンに燃料が供給できないことがあり、触媒コンバーターに重大な損傷を引き起こす恐れがあります。

アドバイス

- 誤って走行中に紛失しないよう、オフロード走行をする前に、けん引フック カバーとフロント スポイラーを取り外すことをお勧めします（「けん引フック」194 ページを参照）。
- 損傷を避け、デパーチャー アングルを向上させるため、けん引装置は取り外し、しまっておくことをお勧めします。「けん引バーの取り付け」130 ページ を参照してください。

オフロード走行の基本的なテクニック

ここで説明するのは、オフロード走行の基礎となる基本テクニックです。オフロード走行中にリカバリーなどの、オフロード走行中に遭遇するさまざまな状況に対処するための具体的なテクニックは、ここでは取り上げていません。

頻繁にオフロード走行をする場合は、できるだけ多くの追加情報を集め、実地経験を積むことを強く推奨します。

⚠ 注意

オフロード走行にお出かけになる前に、ホイールおよびタイヤの状態を点検し、タイヤ空気圧が適正であることを確認してください。タイヤの摩耗、不適切なタイヤ空気圧は、車両の性能、安定性、安全性に悪影響を及ぼします。

ギアの選択

オートマチック車はシフト レバーを「D」の位置にしておけば、たいていのオフロード条件においてギアボックスが適切なギアを自動的に選択します。ギア選択でもっと自在に車両をコントロールしたい場合は、マニュアル「コマンドシフト」モードをお勧めします。

可能な限りハイ レンジ ギアを使用し、難しい条件の地形を走行する場合にのみロー レンジを選択するようにしてください。

制動

可能な限り、最適なギアを選択し、HDC によって、車速をコントロールしてください。ブレーキ ペダルはできるだけ踏まないようにします。事実、適切なギアを選択し、HDC を作動させていれば、ブレーキをかける必要はほとんど生じません。

HDC の作動中にブレーキ ペダルを踏むと、一時的に HDC がキャンセルされ、通常通りブレーキが作動します。その後ブレーキ ペダルから足を放すと、HDC が減速して再作動します。

エンジン ブレーキの使用

急な斜面を下る際は、斜面の手前で少なくとも車両の全長分の余裕を残していったん停車し、ロー レンジにシフトしてから HDC を選択してください。トランスミッションをロー ギアに制限するマニュアル コマンドシフトを使うと、エンジン ブレーキ力がアップします。斜面によって、ロー レンジにシフトしてから「1」または「2」を選択してください。

斜面を下っているときは（前進ギア、「R」ギアとも）、HDC とエンジン ブレーキだけでも十分車の制御が可能で、フット ブレーキを踏まない方が良いことを念頭に入れておいてください。

加速

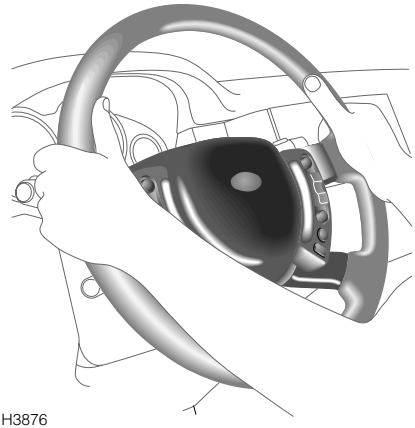
アクセル ペダルを踏むときは慎重に行ってください。急加速をするとホイールが空転して、不要にトラクション コントロールの作動を招くことになったり、最悪の場合は車両のコントロールを失う恐れもあります。

走行前の路面状態の点検

⚠ 注意

難しい条件の地形を走行するときは、事前にコースを歩いて路面を点検しておくようにしてください。これにより、予期できないトラブルを未然に防止することができます。

ステアリング



H3876

⚠ 注意

親指をホイールの中に入れて、ステアリング ホイールを握らないでください。わだちや石を踏んだときなどに、急激にステアリング ホイールが回転して親指を負傷する恐れがあります。起伏の激しい地面を横切るときは、必ずホイールの外側を握るように心がけてください（図を参照）。

最低地上高

サスペンション構成部品の下側、およびフロント バンパーとリア バンパー下の地上高を確保するよう注意してください。他にも地面と接触する恐れのある構成部品がありますので、ボディ下面を地面に接触させないように注意しながら走行してください。

とりわけ地上高に注意しなければならない場面は、急勾配を下りきったとき、深いわだちを走行するとき、傾斜が急に変化する場所などです。

ボディ下面に当たりそうな障害物を見つけたときは、必ず回避してください。

電子制御エア サスペンション

オフロード モードを選択すると、アプローチ / デパーチャー アングルと地上高が増加します（「電子制御エア サスペンション(EAS)」124 ページを参照）。

トラクションを失ったとき

アドバイス

トラクション（路面のグリップ）を失い、車両が動けなくなった場合には、以下の注意点を守ってください。

- 障害物がある場合は、無理に乗り越えようとせずに、できれば取り除いてください。
- タイヤの溝に入り込んだ石やゴミを取り除いてください。
- 車両を可能な限り後退させ、助走速度を上げてからアプローチしてみてください。
- 木の枝や麻袋などをタイヤの前に置くと、タイヤのグリップが回復することがあります。

CD チェンジャー *

アドバイス

険しいコースを走行中は、CD を演奏しながら走行しないでください。車両から伝わる激しい衝撃のため、CD チェンジャーの動きがさまたげられ、音飛びを起こします。

オフロード走行後

アドバイス

公道に戻る前、または 40 km/h を超える車速で走行する前に、次の注意点を守ってください。

- ホイールとタイヤに付着した泥をよく落とし、損傷を受けていないかを点検してください。
- ホイールとタイヤをきれいな状態にしておかないと、ホイール、タイヤ、ブレーキ システム、サスペンション構成部品などを損傷する恐れがあります。
- ブレーキ ディスクとキャリパーを点検し、ブレーキ性能に影響しかねない石や砂を取り除いてください。
- ボディの下側、特にサスペンション エア スプリングとダンパーに損傷がないか点検します。
- 塗装、保護コーティングが損傷したときは、できるだけ早い機会にランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

車両を損傷している疑いがあるときは、ランドローバー正規ディーラーに点検をご依頼ください。

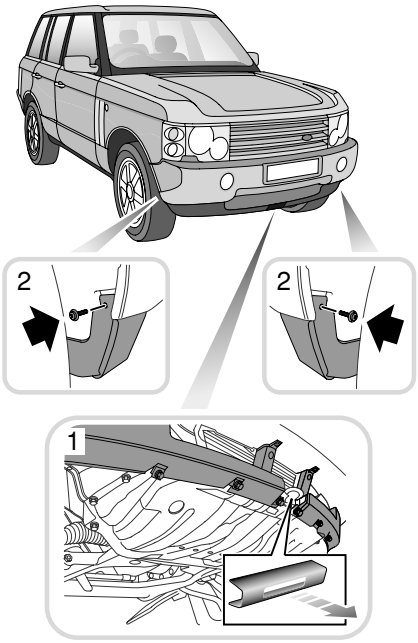
点検の必要性

過酷な条件のオフロード（特に埃っぽい場所、泥の中、湿地など）を走行したとき、または渡河走行を行った場合には、通常の走行をしているときよりも点検回数を増やす必要があります。「日常点検」151 ページをよくお読みの上、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

塩水に浸かったり、砂浜を走行した後は、車両下周りの部品や露出しているボディ パネルなどを流水で洗い流してください。これにより、外装を保護することができます。

フロント ビブ スポイラーの取り外し

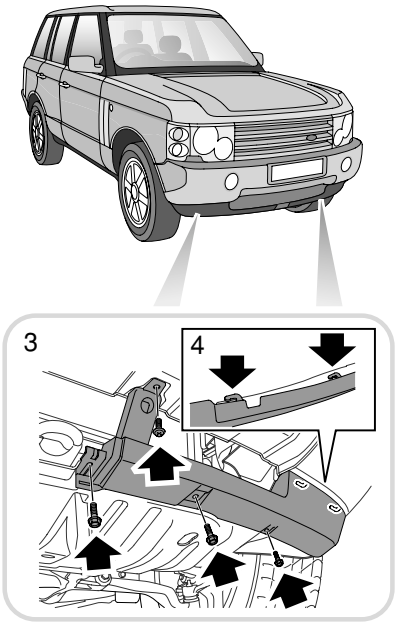
オフロード走行性能を向上させるため、フロント ビブ スポイラーを取り外すことができます。また、取り外すことによってスポイラーの損傷も防げます。



H4218

1. けん引フック カバーを取り外します（「けん引フック」194 ページを参照）。

2. ホイール アーチの内側から、ホイール アーチ ライナーとスポイラーを固定しているボルトとワッシャーを外します。反対側でも同じ作業を行います。ボルトとワッシャーをなくさないように保管してください。



H4219

3. 片側のスポイラーで、3 組のボルトとワッシャー、バンパーに固定している 1 組のスクリューとワッシャーを取り外します。ボルト、スクリュー、ワッシャーをなくさないように保管してください。

4. 片側のスポイラーを、横方向に滑らせて取り外します。

もう片側のスポイラーで、3 と 4 を繰り返します。

スポイラーを取り付けるときは、上記の逆の手順で行います。

スポイラーとけん引フック カバーを車両にしっかり固定して収納したことを確認してください。事故やとっさの回避操作時に飛び出してくる恐れがあります。

柔らかい地面や乾いた砂地の走行

柔らかい砂地では、できるだけ車両を止めないように動かし続けることを心がけてください。こうした地面では、ホイールに思いのほか大きな抵抗が加わりますので、わずかな失速でも、それがきっかけとなって車両がスタック（立ち往生）してしまいます。

DSC の作動を解除し(「ダイナミック スタビリティー コントロール（DSC）」120 ページを参照)、「D」（ドライブ）を選んで、硬い路面に出るまで、そのギアを維持してください。このような地形を走行する場合、通常はロー レンジ ギアのご使用をお勧めします。ロー レンジ ギアを使用すると、悪路でも車両を加速することができ、再発進できなくなる危険性が減少します。

柔らかい地面、砂地、傾斜地での停車

このような地面で停車するときは、次の点に注意してください。

- 斜面（上り坂）や柔らかい地面、砂地での発進は非常に難しいものです。停車するときは、必ず固くて平坦な地面の場所を選ぶか、傾斜地では谷側にフロントを向けるようにしてください。
- ホイールの空転を避けるため、「D」（ドライブ）の位置を選択し、アクセル ペダルの踏み込み量は必要最小限にしてください。
- 車が前進しなくなったときは、むやみにアクセル ペダルを踏み込まないように注意してください。アクセルを開けすぎると砂地に深くはまってしまいます。このような場合はタイヤの周りの砂をかきわけ、ボディが砂地に接していないことを確認してから、再発進を試みてください。
- ホイールが砂にはまった場合には、エアバッグ形ジャッキまたはオフロード車用のハイリフト ジャッキを使って車両を持ち上げ、ホイールの下に砂を入れて車両を地面の高さまで戻してください。それでも再発進できないときは、ホイールの下に砂袋または梯子を敷き込み、脱出を試みてください。

滑りやすい路面の走行（氷、雪、泥、濡れた草）

- ロー レンジの「D」（ドライブ）を選択してください。
- アクセルの踏み込み量は最小限にしてください。
- 常に低速で走行するようにし、ブレーキはなるべく使わず、急ハンドル操作も避けてください。

でこぼこ道での走行

凸凹のある荒れた道路は、時には通常の走行方法で通り抜けることもできますが、凸凹が激しい道では、ブレーキ ペダルを頻繁に使用しないよう心がけ、トランスファ ギアボックスをロー レンジに入れて低速で安定した走行を維持してください。

急斜面を登る

⚠ 警告

必ず以下の手順を守ってください。そうしないと、車両が転倒する恐れがあります。

斜面を走行するときは、必ず斜面に対してまっすぐに登るようにしてください。斜めに登ると横滑りをしやすくなります。

通常、急な斜面を登るときにはロー レンジで、コマンドシフトで「3」か「4」を選択してください。障害物を回避するために、坂をバックで下るときは、HDC を作動させてください。地面がゆるい場合や滑りやすい場合は、DSC の作動を解除し、できるだけ高いギアであらかじめ十分に加速し、勢いをつけて一気に登るようにします。ただし、こぶの多い斜面を登るときに車速を上げすぎると、ホイールが浮き上がり、安定性を失うことがあります。そうした場合は、車速を少し落としてみてください。車両が停止しそうになったときに一瞬アクセル ペダルをゆるめ、トラクションを回復させて走行を続けるという方法もあります。

⚠ 警告

斜面を登りきれなかったときに、斜面の途中で方向転換することは避けてください。次の手順に従って、斜面の下まで車両を後退させてください。

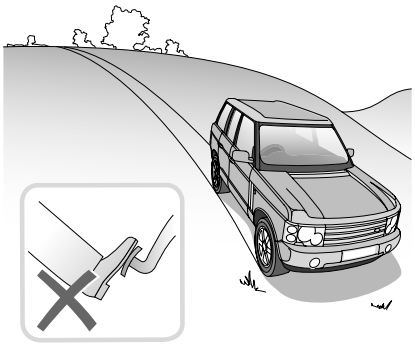
1. フット ブレーキと駐車ブレーキの両方を使って車両を停止させます。
2. 必要に応じてエンジンを再始動させます。
3. シフト レバーを「N」(ニュートラル)、ロー レンジ、「R」(リバース) の順に入れます。
4. ヒル ディセント コントロール (HDC) を作動させます。
5. 駐車ブレーキを解除してください。次にブレーキ ペダルを徐々にゆるめ、エンジン ブレーキと HDC で速度をコントロールしながら、バックで坂を下ります。
6. 障害物を避けるため停車する必要がある場合を除き、坂を下っている途中でブレーキ ペダルを踏まないでください。わずかに踏み込むだけでも前輪がロックし、ステアリングが不安定になります。
7. 車両が滑り始めたら、アクセルを少しだけ踏んで加速させ、タイヤのグリップを回復させます。

坂の下の平地まで下り切り、危険がないようだったら、前回よりも車速を上げてもう一度登坂走行を試みてください。ただし、この場合も無用な危険を冒す必要はありません。斜面の登坂があまりに難しいときは、迂回ルートを探してください。

⚠ 警告

坂をバックで下るときは、必ずエンジンを作動させ、シフト レバーを「R」(リバース) に入れてください。そうしないと、HDC が働かず、エンジン ブレーキも効きません。

急斜面を下る



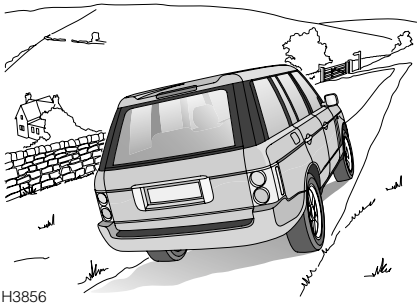
H3855

⚠ 警告

必ず以下の手順を守ってください。そうしないと、車両が転倒する恐れがあります。

- 車両を減速させ、トランスファ ギアボックスでロー レンジを選択します。
- トランスミッションをマニュアル コマンドシフト モードに切り換えた場合、斜面の手前で、少なくとも車両の全長分の余裕を残していったん停車し、斜面のきつさに応じてギアを「1」か「2」にシフトダウンします。
- ヒル ディセント コントロール（HDC）を作動させます。
- 障害物を避けるため停車する必要がある場合を除き、坂を下っている途中で**ブレーキ ペダルを踏まないで**ください。エンジン ブレーキと HDC が車速をコントロールし、前輪が回転しているかぎり、車両は完璧にコントロールすることができます。
- 車両が滑り始めたら、路面グリップの限界です。選択されたギアに対応する最低速度を、それ以上維持することは困難です。このような場合は、方向安定性を維持するのに十分な速度に達するまで、HDC が自動的に加速するのにまかせます。アクセルやブレーキを使ったり、ギア　チェンジを行ってはいけません。HDC は、それが可能な状況になれば、ただちに再び車速を減速させます。
- 斜面を下り始めたら、メイン ギアボックスで「D」を選択してください。HDC は作動し続け、それまでマニュアル モードで選択していたギア位置が傾斜を下り切るまで維持されます。
- 平地まで下ったら、ギア ボックスは次の状況に適した「D」位置を自動的に選択します。

斜面を横切る


H3856

⚠ 警告

必ず以下の手順を守ってください。そうしないと、車両が転倒する恐れがあります。

斜面を横切る前に、必ず次の注意事項を確認してください。

- 地面がしっかりしていて、滑りにくいことを確認します。
- 谷側の車輪がくぼみに落ちないように注意してください。また、山側の車輪が岩や木の根などに乗り上げて、車両の傾きが急に増したりしないように注意してください。
- 同乗者の体重が均等に配分されていること、ルーフ ラックに荷物が積まれていないこと、すべての荷物ができるだけ低い位置で確実に固定されていることを確認します。荷重が急に移動すると、車両が横転する恐れがあります。
- 後席の同乗者はできるだけ山側に座らせてください。非常に状況が厳しい場合は、安全に走行できる場所にたどり着くまで、同乗者には車両から降りてもらってください。

V 字形の谷をまたいでの走行

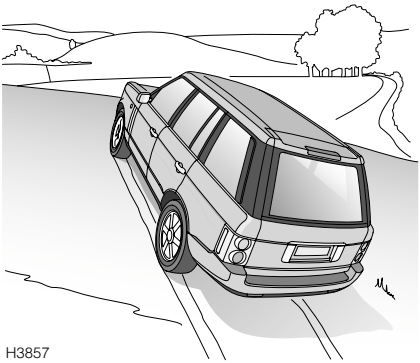
ここでは最大限の注意が必要です。左右いずれかの車輪を V 字型の谷の片側の壁に上げた状態で走行すると、反対側の壁に車両側面が接触し、身動きがとれなくなることがありますので注意してください。

わだちのある路面の走行

できるだけわだちに沿って走行するようにします。その間はステアリング ホイールを軽く握り、勝手に回転しないようにします。深いわだちの場合、DSC は作動させないほうがいいでしょう。

特に路面が濡れているときに、ステアリング ホイールを勝手に回転させると、車両がわだちに沿って直進しているように見えても、(路面が濡れているためにトラクションが失われ)、それと気づかないうちに前輪が左右どちらかいっぱいを向いているということもあり得ます。そのような状態で平坦な路面に戻ったとき、またはタイヤが乾いた路面に乗った瞬間にトラクションが回復し、車両が急に横を向く恐れがあります。

尾根を横切る



H3857

尾根に対して直角に入り、左右の前輪がそろって尾根を越えるように走行します。尾根に対して斜めに入ると、先に稜線を越えた前輪と、その対角にある後輪が同時に宙に浮いてしまう恐れがあります。

溝を横切る

H3858

溝に対して斜めに入るようにすれば、たとえ 1 つのホイールが溝に落ちても、残る 3 つのホイールは常に地面との接触を維持できます。溝に対して直角にはいると、左右の前輪が同時に溝に落ち、ボディやフロント バンパーが溝の向かい側の壁にぶつかって身動きできなくなる恐れがあります。過酷な地形のため車両が身動きできなくなったときは、電子制御エア サスペンションを「オフロード モード」に選択し、地上と車両腹部とのすき間を増やすと、脱出に役立つことがあります。

渡河走行

H3859

アドバイス

走行可能な水深は 50 cm までです。常に走行可能水深を超えるような場合、渡河走行はお勧めできません。

時間の長短にかかわらず、水位がドアシルを超えるような状況で車両を停止すると、電気系統に深刻な損傷を招く恐れがあります。

渡河走行を始める前に、電子制御エア サスペンションが「オフロード モード」になっているか確認してください。

水深が 50 cm を超える場合は、次の注意事項を守ってください。

- ラジエーター グリルの前に防水シートを取り付け、エンジンへの浸水とラジエーターへの泥詰まりを防止します。
- 水底の沈泥に障害物がなく、車両の重量を支え、十分なトラクションが得られるだけの固さがあることをあらかじめ確認しておきます。
- エンジンの空気吸入口が水中に没しないことを確認します。
- ゆっくり進入し、車両前面に波が立つ程度の速度まで上げ、その速度を保ちます。

ドアは必ず完全に閉めておいてください。

アドバイス

日常的に深い水路を走行する場合は、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

渡河走行の後にすること

- 少しの間走行して、フット ブレーキが完全に作動することを確かめてください。
- ブレーキが完全に乾くまでは、停車している間は、駐車ブレーキだけに頼らず、シフト レバーを「P」位置に入れておきます。
- ラジエーター グリルから防水シートを取り外します。
- 泥水の中を走行した後は、オーバーヒートの原因になる コンデンサーとラジエーターに詰まった泥や木の葉を取り除きます。
- 日常的に深い水路を走行する場合は、すべてのオイルに水が混入していないか点検してください。オイルに水が混入すると、オイルが白濁します。さらに、エアフィルター エレメントに水が入っていないかを点検し、濡れている場合は交換してください。必要に応じて、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。
- 頻繁に塩水に進入する場合は、ボディ下周りの部品と露出しているボディ パネルを入念に真水で洗ってください。

アドバイス

頻繁に水路走行をする車両、深い水路を走行する車両については、点検頻度を増やす必要があります。ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

点検整備

点検整備
定期点検 151
日常点検 151
ガレージ内での安全について 152
排出ガス浄化装置 154
シャシー ダイナモ（台上試験機）による
走行シミュレーション テスト 154

ボンネットの開け方
ボンネットの開け方 155

エンジン ルーム
ガソリン エンジン 156

エンジン オイル
点検と補充 157

冷却システム
エンジン冷却水の点検と補充 159
不凍液 160

ブレーキ
ブレーキ液 161

パワー ステアリング
パワー ステアリング液 163

ウォッシャー
ウォッシャー液の補充. 165
ウォッシャー ノズル. 166
前照灯ウォッシャー * 166

ワイパー ブレード
ワイパー ブレードの交換 167

バッテリー
バッテリーの安全性 168
バッテリーのメンテナンス 168

タイヤ
タイヤのお手入れ 170
スノー チェーン 172

車の清掃とお手入れ
洗車 173
内装のお手入れ. 175

パーツとアクセサリー
パーツとアクセサリー. 176
アフター セールス サービス 177

定期点検

お車の信頼性と性能を末永く維持するためには、定期的に点検整備を行うことが重要です。

お車の点検整備は、原則的に使用者がご自分の責任において実施するものであり、通常ご自身で行うべき点検整備、オイル交換、定期点検、ブレーキ液およびエンジン冷却水の交換は、必要な時期に必ず実行してください。

お車の定期点検に関する項目は、メンテナンス ノートに記載されています。点検整備作業の多くは専門的知識や専門機器を必要とします。ランドローバー正規ディーラーにご依頼ください。

メンテナンス ノート

メンテナンス ノートには、お車に実施した点検整備の記録簿があり、すべての点検履歴を記録しておくことができます。メンテナンス ノートにはその他に、ランドローバー正規ディーラーで実施するブレーキ液交換、エアバッグ ユニットの交換に関する情報も記録されます。

オイル交換および定期点検が終了した後は、必ず記録簿にランドローバー正規ディーラーの担当者名の記入とスタンプがあることを確認してください。

ブレーキ液 / ブレーキ部品の交換

ブレーキ液は、走行距離にかかわらず３年ごとに交換しなければなりません。

エンジン冷却水の交換

エンジン冷却水（不凍液入り冷却水）は走行距離にかかわらず 4 年ごとに交換しなければなりません。ランドローバー正規ディーラーでは、定期点検時に冷却水を交換します。

日常点検

これまでに述べたような専門的な定期点検整備に加え、よりに日常的に、かつ簡単に行える日常点検項目があります。こうした点検は、後述の説明を参考にして、使用者がご自身で行えます。

いずれかの液レベルが著しくまたは急激に減少しているとき、またはタイヤが偏摩耗しているときは、すぐにランドローバー正規ディーラーにご連絡ください。

毎日の点検

- 照明灯、ホーン、方向指示器、ワイパー、ウォッシャー、表示灯 / 警告灯の作動
- シート ベルトとブレーキの作動
- 車両下に液漏れを示す痕跡がないかどうかの点検

週ごとの点検

- エンジン オイル レベル
- エンジン冷却水レベル
- ブレーキ液レベル
- パワー ステアリング液レベル
- ウィンドウ ウォッシャー液レベル
- タイヤの空気圧と状態
  （外観、傷、摩耗状態など）
- エアコンの作動 *

アドバイス

長時間にわたり高速走行する場合は、こまめにエンジン オイル レベルを点検してください。

各オイル / 液の仕様と容量については「潤滑剤とフルード」219 ページの項を参照してください。

特殊な使用環境

アドバイス

特殊な使用環境

極めて過酷な条件で日常的にお車を使用する場合には、必要な点検整備項目について、よりいっそうこまめに注意を払ってください。

たとえば、深い水路を走行する場合は、車両の安全性と信頼性にかかわる機能が正しく作動することを、日常点検の一環として確認していただく必要があります。

過酷な走行条件とは以下のとおりです。

- 短い距離（8 km 以下）の繰り返し走行、発進、停止が多い走行、長時間にわたるアイドリング運転
- 埃や砂の多い場所での走行
- 荒地、泥道の走行、水路走行
- 酷暑地での走行
- トレーラーけん引または山道での走行

詳しくは、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

ガレージ内での安全について

⚠ 警告

エンジン冷却ファンは、イグニッション スイッチをオフにした後も、数分間そのまま作動し続けることがあります。エンジン温度が高くなっている場合は、イグニッション スイッチをオフにした後で、エンジン冷却ファンが回転し始める場合もあります。このような場合、冷却ファンは最長 10 分間作動し続けます。エンジン ルーム内の作業を行う場合には、エンジン冷却ファン付近に近づかないように注意してください。

ご自身で点検整備を実施する必要がある場合には、必ず以下の安全上の注意事項を守ってください。

- 手、工具、衣類などをエンジン周りの駆動ベルトやプーリに近づけないでください。
- 走行直後は、エンジンが完全に冷えるまで、排気システムや冷却システムの構成部品に手を触れないでください。
- エンジン作動中、またはイグニッション スイッチがオンになっている時は、電気配線や電気部品に触れないでください。
- 排気ガスには微量ながら人体に有害な物質が含まれており、危険ですから換気の悪い場所では絶対にエンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ 警告

- 絶対に車載のジャッキだけで車をリフトアップしたまま、車の下で作業をしないでください。
- 火花や裸火をエンジン ルームに近づけないようにしてください。
- できる限り作業用の防護服や耐熱性の保護手袋を着用してください。
- エンジン ルーム内の作業をする前に、金属製のリスト バンドや腕時計、貴金属類を外してください。
- 絶対に工具や金属性の部品を、バッテリー ケーブルやターミナルに接触させないように注意してください。

適切な自動車整備士の資格を持つ人を除いて、状況のいかんを問わず燃料供給システムを分解したり、交換しないでください。適切な知識、技能を持たずにこれらのシステムに手を加えると、燃料漏れを誘発し、火災を招く恐れがあります。

有毒な液体について

⚠ 警告

自動車に使われている液体類には有毒な物質を含むものがあります。絶対にこれらを口に含んだり、傷口に付着させたりしないように注意してください。ここでいう液体類とは、バッテリー液、不凍液（エンジン冷却水）、ブレーキ液、パワー ステアリング液、ガソリン、エンジン オイル、ウィンドウ ウォッシャー液などです。

安全のため、必ず製品の容器やラベルに記載されている指示に従ってください。

使用済みエンジン オイル

⚠ 警告

エンジン オイルが皮膚に付着したまま長時間放置すると、皮膚炎や皮膚癌などの重い皮膚病の原因となります。エンジン オイルに触れた後は念入りに洗い流してください。

下水、用水路、土壌を汚染することは違法行為です。使用済みオイル、有毒化学物質を含む液体を処分するときは、そのための施設を持つ認定廃棄物処理場または業者に委託してください。

排出ガス浄化装置

⚠ 警告

お車には、日本の法規に適合するよう設計された排気ガスおよび燃料蒸発ガス浄化装置が取り付けられています。ご自身で、あるいは正規の資格のない修理業者によるこれら装置の交換、改造および変更は違法行為にあたり、処罰の対象となりますので、ご注意ください。

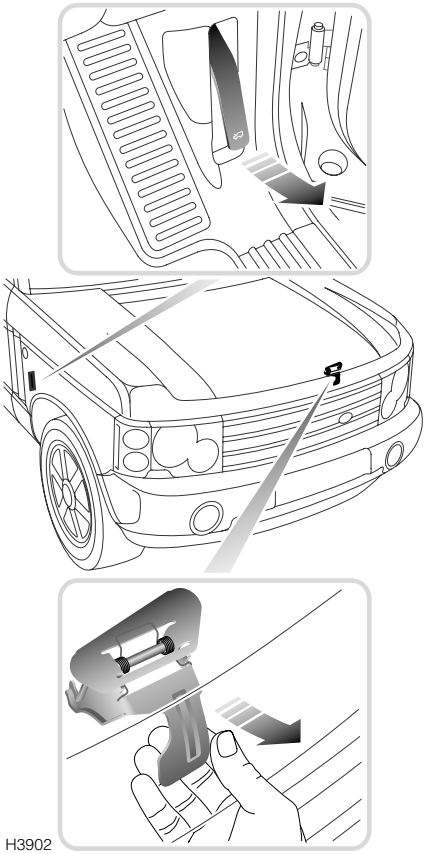
また絶対にエンジンの設定を変更しないでください。レンジローバーのエンジンは、厳しい排出ガス規制に適合するように精密に設定されています。エンジンの設定をむやみに変更すると、排気ガス中の有害成分量やエンジン性能、燃料消費量に悪影響を及ぼす恐れがあります。またエンジンの作動温度制御が正常に機能しなくなり、触媒コンバーターや車両を損傷する原因となります。

シャシー ダイナモ（台上試験機）による走行シミュレーション テスト

お車には、アンチ ロック ブレーキ システム（ABS）とパーマネント4WD が装備されていますので、シャシー ダイナモ テストはランドローバー正規ディーラーのテスト実施手順、安全手続きに精通した有資格メカニックによって実施される必要があります。詳しくは、ランドローバー正規ディーラーにお問い合わせください。

ボンネットの開け方

ボンネットの開け方



1. 車内の運転席側にあるボンネット リリース レバー（上図を参照）を引きます。
2. ボンネット セーフティ キャッチ レバー（下図）を押し上げて、ボンネットを上げます。

ボンネットの閉め方

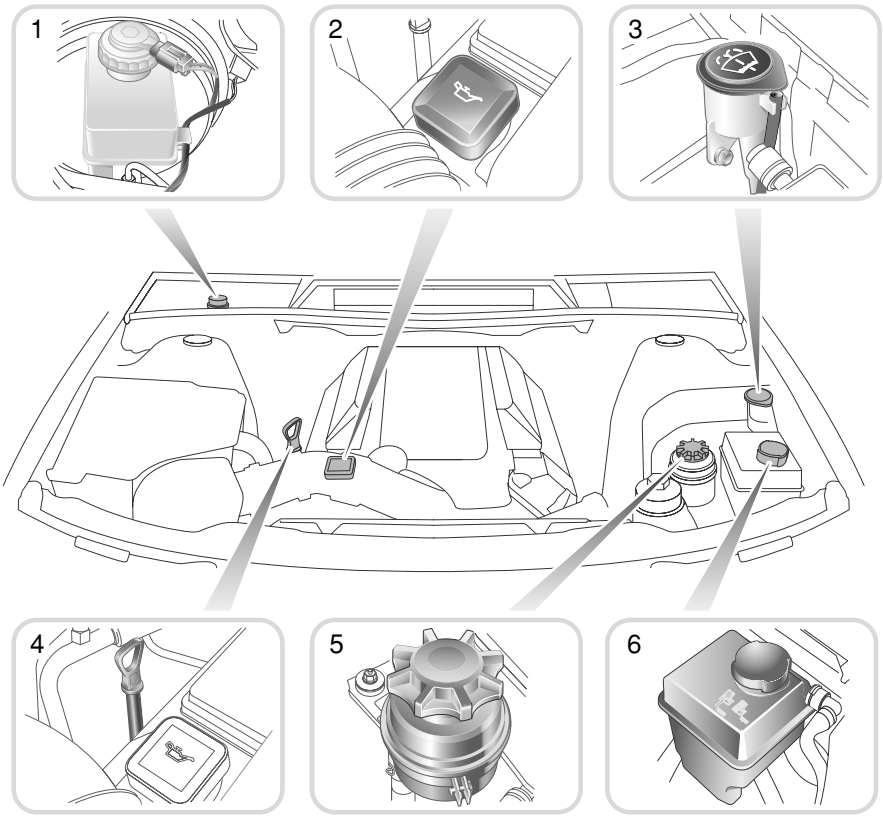
⚠ 警告

ボンネットが完全にロックされていない（セーフティ キャッチだけがかかった）状態で走行しないでください。

ボンネットを閉めた後で、ボンネットの前端部を持ち上げてみて、ロックが完全にかかっていることを確認してください。まったく動かなければ、きちんとロックされています。

エンジン ルーム

ガソリン エンジン



H3906

1. ブレーキ液リザーブ タンク
2. エンジン オイル注入口
3. ウォッシャー液リザーブ タンク
4. エンジン オイル レベル ゲージ
5. パワー ステアリング液リザーブ タンク
6. 冷却水リザーブ タンク

⚠ 警告

エンジン ルームの作業を行う時には、前述のガレージ内での安全に記載された安全上の注意事項を必ず守ってください。

点検と補充

エンジン オイルのレベルは、少なくとも走行 400 km に 1 回は次の手順で点検してください。点検は水平な場所に停車した状態で、エンジンが冷えているときに行います。

知識

エンジンが熱いときにオイル レベルを点検する必要がある場合は、イグニッションをオフにしてからオイルがオイルパンに戻るまで 5 分間待ってください。エンジンを始動させないでください。

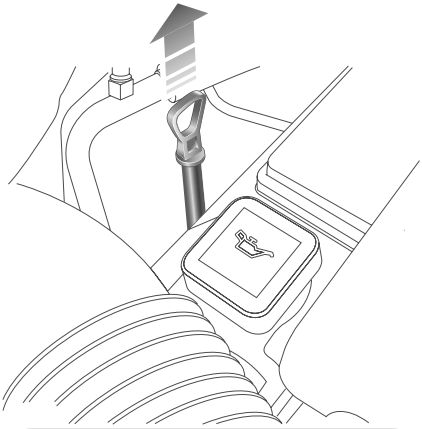
レベル ゲージの点検による補充の目安

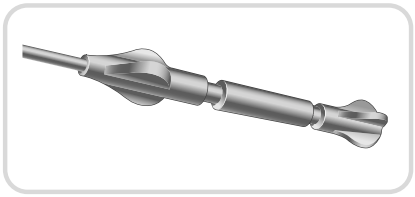
- 下限マークよりも上限マークの方に近いときは、オイルを補充する必要はありません。
- 上限マークよりも下限マークに近いときは、オイルを 0.5 リットル補充してください。
- 下限マーク位置にあるかそれ以下のときは、オイルを 1 リットル補充し、さらに 5 分後にオイル レベルを再点検します。

オイルの仕様

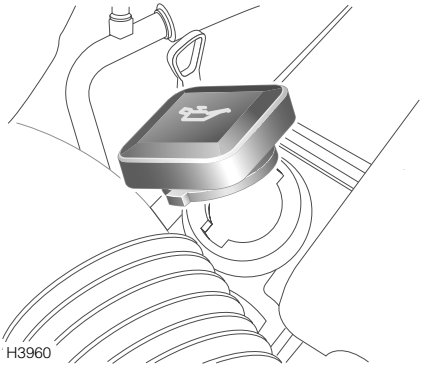
車を使用する気候条件に適したオイルを使用することが大切です。正しい仕様は「潤滑剤とフルード」219 ページの項に記載されています。疑問な点はランドローバー正規ディーラーまたは指定工場にお問い合わせください。

ガソリン エンジン





H3961



H3960

1. レベル ゲージを抜き取り、ブレードに付いているオイルを拭き取ります。
2. もう一度ゆっくりとレベル ゲージを挿入、抜き取ります。ブレードに付着したオイルでレベルを点検します。このとき、オイル レベルは必ず下限マークより上になければなりません。
3. オイルを補充するときは、オイル注入口のキャップを取り外し、オイルがレベル ゲージの上限マークと下限マークの中間にくるまで補充します。

   エンジン オイルを入れすぎないように注意してください。

エンジン冷却水の点検と補充

⚠ 警告

エンジン冷却システムが熱いうちは、絶対に冷却水タンクの注入口キャップを外さないでください。高温の蒸気または熱くなった冷却水が吹き出して、火傷を負うことがあります。

キャップをゆっくりとゆるめ、冷却システム内部の圧力を少しずつ逃がしてからキャップを外してください。

エンジン冷却水が入っていない状態で絶対にエンジンを作動させないでください。

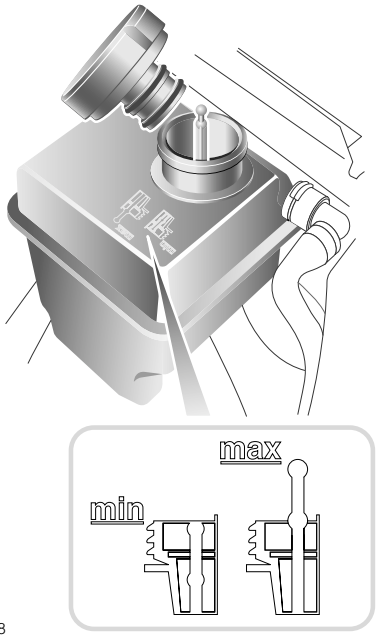
冷却水に含まれている不凍液は塗装面に損傷を与えます。冷却水をこぼした場合は、ただちに吸水性の高い布で吸い取り、水で薄めた自動車用洗剤（カーシャンプーなど）で洗い流してください。

塩水はけっして補充しないでください。水道水に塩分が含まれる土地を旅するときも、補充用にいつも真水（雨水か蒸留水）を携帯するように心掛けてください。

発火する恐れがありますので、まだ熱いエンジン本体に不凍液をこぼさないように注意してください。

エンジン冷却水リザーブ タンク内の冷却水レベルは、少なくとも週ごとに点検してください（長距離走行時や過酷な走行条件でご使用なさる場合は、さらに頻繁に点検する必要があります）。点検するときは、エンジンを停止して冷却システムが冷えている状態で、水平な場所に停車して行ってください。

冷却システムが完全に冷える前に注入口キャップを開ける必要がある場合には、キャップをゆっくりとゆるめ、冷却システム内の圧力を徐々に逃してからキャップを外します。



H3908

不凍液と冷却水を 1:1（50%）の割合で混合した溶液を補充してください。図のようにフロートが注入口よりわずかに突き出したら補充は完了です。**エンジン冷却水を入れすぎないように注意してください。**

冷却水を上限（MAX）まで補充した後は、必ずしっかりとキャップを閉めてください。

エンジン冷却水レベルが短期間に著しく低下する場合には、冷却回路の漏れ、またはエンジン オーバーヒートの恐れがありますので、最寄りのランドローバー正規ディーラーに点検を依頼してください。

不凍液

⚠ 警告

不凍液は有毒で、誤って口にすると命にかかわることがあります。補充後の容器はしっかりと蓋を閉じ、幼児の手の届かないところに保管してください。万一誤って飲んでしまったと思われる場合には、ただちに医師の指示を仰いでください。

不凍液が皮膚や目に付着しないように注意してください。万一付着した場合は、ただちに大量の流水で洗い流してください。

不凍液には防腐剤が含まれています。冷却水の不凍液濃度は、年間を通じて 50% ± 5% を維持するようにしてください（寒冷期のみに限らず）エンジン冷却水の防錆効果を維持するため、不凍液の濃度は 1 年ごとに点検し、走行 80,000 km または 48ヶ月ごと（いずれか早い時期）冷却水を完全に交換してください。これを怠ると、ラジエーターまたはエンジン構成部品に錆が発生する恐れがあります。

濃度 50 %、温度 20°C の不凍液の比重は 1.075 で、–36 °C までの凍結防止効果があります。

推奨エンジン冷却水

水と Texaco AFC クーラントを 1：1 の割合で混合した溶液を使用してください。入手できない場合は、必ず水と他の珪酸系 / 非燐酸系防錆剤入りエチレン グリコール系不凍液（メタノールを含有しないもの）を 1：1 で混合した溶液を使用してください。

緊急の場合で、しかも推奨タイプの不凍液が入手できない場合には、冷却システムの上限まで水道水を補充できますが、凍結時の膨張分だけ水量を減らすのを忘れないでください。また上記仕様と異なる配合の不凍液を、補充または注入しないでください。ご不明な点がございましたら、ランドローバー正規ディーラーにお問い合わせください。

ブレーキ液

⚠ 警告

ブレーキ液には、極めて有毒な物質が含まれています。補充後の容器はしっかりと蓋を閉じ、幼児の手の届かないところに保管してください。万一誤って飲んでしまったと思われる場合は、ただちに医師の指示を仰いでください。

ブレーキ液が皮膚や目に付着しないように注意してください。万一付着した場合は、ただちに多量の流水で洗い流してください。

発火する恐れがありますので、まだ熱いエンジン本体にブレーキ液をこぼさないように注意してください。

アドバイス

ブレーキ液レベルが「MIN」マーク以下になっているときは、補充するまで絶対に走行しないでください。

ブレーキ液は塗装面に損傷を与えます。ブレーキ液をこぼした場合は、ただちに吸水性の高い布で吸い取り、水で薄めた自動車用洗剤（カーシャンプーなど）で洗い流してください。

点検

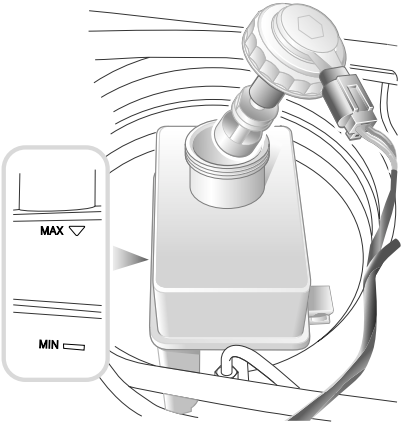
ブレーキ液リザーブ タンクのレベルは、ブレーキ パッドが摩耗するに従い徐々に低下しますので、時々点検し、「MIN」マークよりも下がらないように必要に応じて補充してください。ブレーキ液が多量に減っている場合は、漏れが原因になっていることが多いため車を運転せず、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

アドバイス

ブレーキ ペダルの踏みしろが極端に増えたとき、あるいはブレーキ液レベルが短期間に著しく低下したときは、最寄りのランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

ブレーキ液レベルの点検は、平地に車両を停止して行ってください。また少なくとも週に 1 回の割合で液レベルを点検してください（長距離走行時や過酷な走行条件でご使用なさる場合は、さらに頻繁に点検する必要があります）。ブレーキ液レベルを点検するときは、リザーブ タンクの側面から目視によって行います。このとき、注入口キャップを開ける必要はありません。

補充



注入口キャップは開ける前にキャップとその周囲の汚れを拭き取って、ブレーキ液リザーブ タンク内に汚れが入らないようにしてください。キャップを回して外し、リザーブ タンクの「MAX」マークまで補充してください。

必ず密閉された容器に入った新品のブレーキ液を使用してください（密閉されていない容器に入ったものや、古いブレーキ液、一度抜き取ったブレーキ液は湿気を含んでおり、ブレーキ性能に悪影響を及ぼすため、絶対に使用しないでください）。**ブレーキ液を入れすぎないように注意してください。**

ブレーキ液は 36 ヵ月ごと、または 60,000 km 走行ごと（いずれか早い時期）に交換する必要があります。

パワー ステアリング液

⚠ 警告

パワー ステアリング液には、極めて有毒な物質が含まれています。補充後の容器はしっかりと蓋を閉じ、幼児の手の届かないところに保管してください。万一誤って飲んでしまったと思われる場合は、ただちに医師の指示を仰いでください。

パワー ステアリング液が皮膚や目に付着しないように注意してください。万一付着した場合は、ただちに多量の流水で洗い流してください。

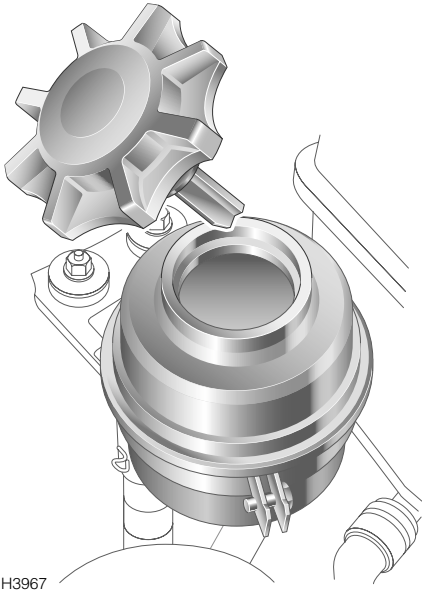
発火する恐れがありますので、まだ熱いエンジン本体にパワー ステアリング液をこぼさないように注意してください。

アドバイス

パワー ステアリング液は塗装面に損傷を与えます。パワー ステアリング液をこぼした場合は、ただちに吸水性の高い布で吸い取り、水で薄めた自動車用洗剤（カーシャンプーなど）で洗い流してください。

点検と補充

パワー ステアリング液レベルの点検と補充は、必ずエンジンを停止して、冷却システムが冷えているときに行ってください。また、必ず前輪を直進方向にしてからエンジンを停止し、その後で液レベルを点検してください。



H3967

注入口キャップは汚れを拭き取り、パワー ステアリング液リザーブ タンク内に汚れが入らないようにします。注入口キャップを開け、布でレベル ゲージを拭き取ります。もう一度ゆっくりと注入口キャップを閉めてから開けます。レベル ゲージに付着した液でレベルを点検します。パワー ステアリング液がレベル ゲージの上限マークと下限マークの間にくるように補充します。**レベル ゲージの上限マークを超えないようにしてください。**

⚠ 注意

パワー ステアリング液が下限マークよりも低下している場合は、エンジンを始動しないでください。液量が少ないまま使用していると、ステアリングの油圧ポンプを損傷する恐れがあります。

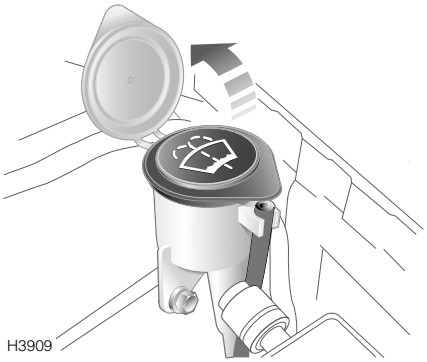
緊急操作

パワー ステアリング液レベルが著しく低下した、あるいは急激に損失した場合には、ランドローバー正規ディーラーに点検をご依頼ください。

時間をかけて徐々に液レベルが低下している場合には、推奨パワー ステアリング液をタンクの上限マークまで補充すれば、点検のため最寄りのランドローバー正規ディーラーまで走行することは可能です。

パワー ステアリング液が下限マークよりも低下している場合は、エンジンを始動する前に上限マークまで推奨パワー ステアリング液を補充してください。液量が少ないまま使用していると、ステアリングの油圧ポンプを損傷する恐れがあります。

ウォッシャー液の補充



ウォッシャー液リザーブ タンクは、前面ガラス ウォッシャー ノズルと後面ガラス ウォッシャー ノズル、前照灯ウォッシャー ノズル * にウォッシャー液を供給します。

少なくとも週に 1 度は、タンク内のレベルを点検し、水とスクリーン ウォッシャー剤を混合した液を補充してください。補充する前に、別の容器を使って規定量の水とウォッシャー液を混ぜてから補充してください。凍結防止のため、認定のスクリーン ウォッシャー剤を使用してください。

定期的にウォッシャーを作動させ、ノズルが詰まっていないか、噴射の向きが正しいかを点検してください。

⚠ 警告

一部のウォッシャー液には引火性があり、高濃度または原液のまま使用する場合は、特に引火しやすくなります。ウォッシャー液に裸火や火花を近づけないように注意してください。

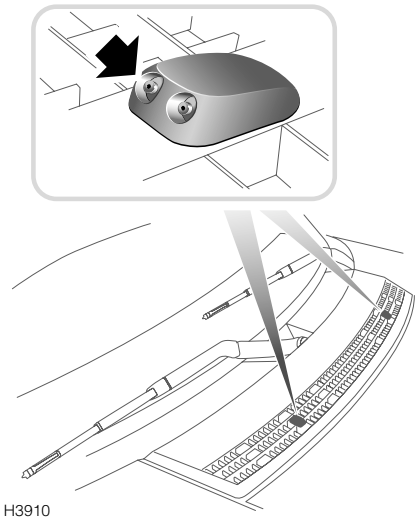
アドバイス

ウォッシャー液リザーブ タンクには、不凍液や酢と水を混ぜた溶液を入れないでください。不凍液は塗装面を損傷し、酢はウォッシャー液ポンプを損傷する原因となります。

ボディ パネルにウォッシャー液が付着すると、変色することがありますので十分に注意してください。特に原液または高濃度のウォッシャー液を扱うときは、こぼさないように注意してください。万一こぼしてしまった場合は、ただちに水で洗い流してください。

ウォッシャー ノズル

ウォッシャー ノズルは工場出荷時に調整済みです。通常は調整の必要はありません。調整が必要になった場合には、ノズル先端に針を挿入し、慎重にノズルの向きを動かして、前面ガラスの中心に向かって直接噴射されるように合わせてください。



H3910

後面ガラス ウォッシャー ノズルは、ワイパー アームに組み込まれているため、調整の必要はありません。

ノズルが詰まった場合には、針かワイヤを細くねじったものをノズル先端に差し込んで、異物を取り除いてください。

前照灯ウォッシャー *

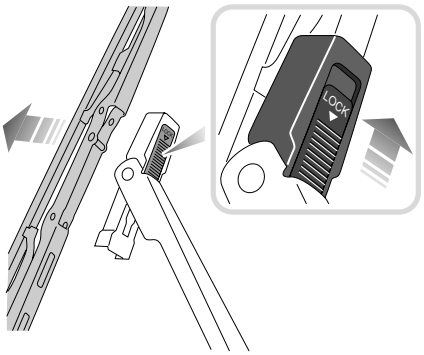
ウォッシャー ノズルは工場出荷時に調整済みです。通常は調整の必要はありません。

アドバイス

凍結防止のため、ウォッシャー リザーブ タンクには認定のスクリーン ウォッシャー剤を使用するようにしてください。

ワイパー ブレードの交換

前面ガラスのワイパー ブレード



H3912

前面ガラスからワイパー アームを起こしてください。ロック タブ（図参照）をアンロック位置に押して、ブレードを外してください。

交換用ブレードの取付けはこれと逆の順序で行ってください。ワイパー アームを倒す前に、ブレードがしっかりとロックされていることを確認してください。

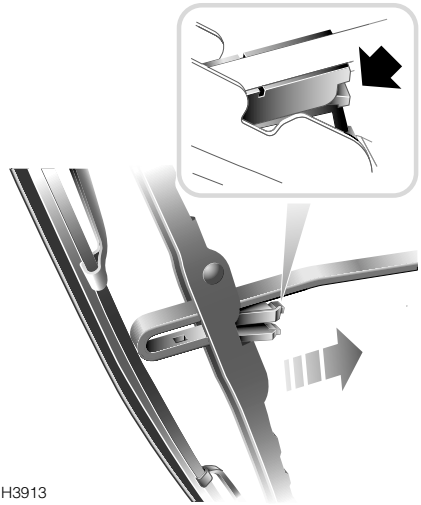
必ず純正品と同じ仕様のワイパー ブレードを取り付けてください。

グリース、シリコン、ガソリン系の成分がブレードに付着すると、ブレードの拭払性能が損なわれます。ワイパー ブレードはぬるま湯に石鹸水を混ぜた溶液で洗浄し、定期的に状態を点検してください。

ブレードのゴムが硬化していたり、亀裂が見られるとき、あるいはワイパーを作動させたときにガラス面に線状の跡や拭き残しが生じるようになったら、ワイパー ブレードを交換してください。

前面ガラスは推奨ガラス クリーナーで清掃し、ワイパー ブレードを交換する前は特に念入りに清掃してください。

後面ガラスのワイパー ブレード



H3913

ワイパーを作動させ、ワイパー アームがほぼ垂直の位置に来たときにイグニッションをオフにしてワイパーをその位置で停止させます。ワイパー アームを後面ガラスからいっぱいに起こし、ブレードを縦向きにします。タブ（図の矢印）を押してブレードをゆるめ、そのままスライドさせてワイパー アームから取り外します。ブレードを外したアームは、慎重にガラス面まで戻しておきます。

交換用ブレードの中央にある開口部とワイパー アーム先端部の位置を合わせ、カチッとロックされるまでブレードを押し込んでください。

前照灯のワイパー ブレード *

前照灯のワイパー ブレードとワイパー アームは一体型ユニットです。交換の際は、ランドローバー正規ディーラーにご依頼ください。

バッテリー

バッテリーの安全性

⚠ 警告

バッテリーには強い腐食性と毒性を持つ希硫酸が充填されています。万一漏れているバッテリー液に触れてしまったときは、以下の指示に従って対処してください。

- 衣服または皮膚に付着したとき：バッテリー液が付着している衣服をただちに脱ぎ、多量の流水で皮膚を洗い流し、すぐに医師の指示を仰いでください。
- 目に入ったとき：ただちにきれいな水で 15 分以上洗い流し、すぐに医師の指示を仰いでください。

誤ってバッテリー液を飲んだとき：迅速に対処しないと命にかかわることがあります。すぐに医師の指示を仰いでください。

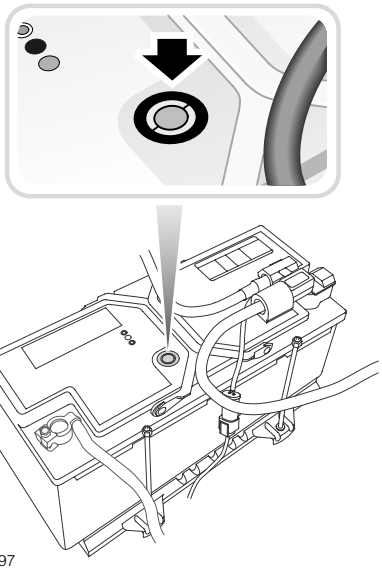
通常の状態でも、バッテリーからは爆発性のある水素ガスが発生します。エンジン ルーム内に火花や裸火を近づけないでください。

安全のため、エンジン ルーム内の作業をするときは、金属製のリストバンドや腕時計、貴金属類は外してください。バッテリー端子や接続ケーブルに工具や金属製部品が接触しないように注意してください。

バッテリーのメンテナンス

バッテリーはメンテナンス フリー タイプです。バッテリー液を補充する必要はありません。バッテリーの上部にはバッテリーの状態を点検するための点検窓（図の矢印）があります。バッテリーの状態を点検するため、定期的にこの点検窓から確認してください。バッテリーの状態は以下の色別で判断できます。

- 緑色：バッテリーの充電状態は良好
- 暗色（黒に近い状態も含む）：充電の必要あり
- 透明（または薄い黄色）：バッテリー交換の必要あり この状態でバッテリーを充電したり、他車からの救援始動を試みないでください。



H3997

知識

必要に応じて、点検窓がはっきりと見えるようにバッテリー上部を清掃してください。

点検窓から見える色が透明または黄色になっていたら、念のためドライバーの柄の部分などで点検窓を軽くたたき、気泡を散らしてください。それでも色が変化しない場合、バッテリーを交換する必要があります。

バッテリーの充電、取り外しと交換

バッテリーの充電、交換の際は、必ずランドローバー正規ディーラーにご依頼ください。

タイヤのお手入れ

⚠ 警告

損傷しているタイヤで走行するのは非常に危険です。いずれかのタイヤに損傷、著しい摩耗が見られたり、空気圧が不適正な状態のまま走行しないでください。

運転する際は、常にタイヤの状態に気を配り、タイヤの溝やタイヤ側面をまめに点検し、変形（隆起）、切り傷、摩耗がないか確認してください。

タイヤの損傷は通常、次のような原因で発生します。

- タイヤを縁石にぶつける
- 空気圧不足または空気圧過剰のタイヤで走行する

アドバイス

タイヤには、できるだけオイル、グリース、燃料、その他の液類を付着させないようにしてください。

タイヤ空気圧

タイヤの空気圧が適正でないと、タイヤの寿命、乗り心地、燃費、操縦性のすべてに悪影響を及ぼします。

空気圧不足のタイヤは摩耗が早くなり、操縦性や燃費に悪影響を及ぼすばかりでなく、タイヤを損傷する可能性が高くなります。またタイヤの空気圧が高すぎると、乗り心地が悪化し、偏摩耗するために、タイヤを損傷する可能性が高くなります。

空気圧の点検は、一般の舗装道路を走行するときは少なくとも週に 1 度、オフロード走行をするときは毎日行ってください。

空気圧の点検は、スペア タイヤも含め、タイヤが冷えてから行ってください。たとえ 2 km 程度の短距離を走行しただけでも、タイヤは暖まり、空気圧に影響が出ますので注意が必要です。

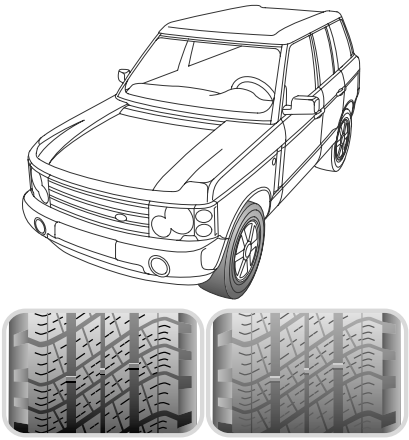
タイヤが暖まると、空気圧は自然に高くなります。タイヤが暖まっているときに（しばらく走行した後に）、空気圧を点検する必要がある場合には、冷えているときに比べ空気圧が 30 kPa ～ 40 kPa 高くなることに注意してください。このような場合、規定空気圧に合わせるために空気圧を下げないように注意してください。

⚠ 注意

直射日光を受けている場所に駐車した後や、外気温度が高い日に走行した後で空気圧を点検する場合は、規定空気圧より高くなっていてもタイヤ空気圧を下げようとしないでください。このような条件のときは、車両を日陰に移動し、タイヤが冷えてから空気圧を点検してください。

冷えた状態のタイヤ規定空気圧は、巻末の「ホイールとタイヤ」222 ページを参照してください。

タイヤの摩耗



H3831

新車購入時に装着されているタイヤには、走行面（トレッド）に摩耗インジケーターが埋め込まれています。タイヤの溝の深さが 1.6 mm になると、トレッド面のインジケーターが、トレッド面の溝を横切る線として現われ、摩耗限界に達していることを示します。

安全のため、タイヤ摩耗インジケーターの線が現われたら、ただちにタイヤを交換してください。

タイヤの溝の深さは、定期的に（点検時またはそれよりも頻繁に）点検してください。タイヤの溝の深さが 1.6 mm に達する前に必ず交換してください。摩耗限界まで達したタイヤを装着したままで走行しないでください。車両と乗員の安全を脅かす原因となります。

アドバイス

オフロード走行後は、タイヤにこぶや膨らみがなく、タイヤ内部の繊維層が露出していないことを確認してください。

バルブ

タイヤの空気注入バルブに異物が入るのを防ぐため、バルブのキャップは必ずしっかりと閉めてください。タイヤ空気圧を点検するときは、バルブから漏れがないか点検してください（シューという音がしていたら漏れています）。

タイヤのパンク

お車にはチューブレス タイヤが装着されています。万一鋭利なものが突き刺さっても、そのままタイヤの中に留まっていれば、空気漏れを起こすことはありません。タイヤに何か異物が刺さっていることに気付いた場合は、周囲の交通に注意しながら、慎重に減速し、スペアタイヤに交換してください。

この種の刺し傷はタイヤの空気圧を徐々に低下させる原因となります。こうした事情から、タイヤ空気圧はこまめに点検するよう推奨しています。パンクまたは損傷したタイヤは、できるだけ早く正常な状態に修理するか、または交換してください。パンクしたタイヤで走行を続けるのことは、危険ですから絶対におやめください。

タイヤの交換

ホイールとタイヤは、車の操縦特性を考慮して決められています。安全のため、タイヤを交換する際は、本書の巻末にある「ホイールとタイヤ」222 ページ）の項に記載されている仕様と同じタイヤを使用してください。また、タイヤを購入する際は、念のため各タイヤの側面に刻印されている定格負荷、定格速度等を確認し、新車購入時に装着されていたタイヤと同じかどうかを確認してくださ

い。タイヤに関するあらゆるご相談は、最寄りのランドローバー正規ディーラーにお問い合わせください。

⚠ 注意

4 輪とも、必ず同じメーカー製で同一仕様のラジアル タイヤを装着してください。バイアス タイヤは装着しないでください。前後輪でサイズの違うタイヤを装着して走行すると火災の恐れがあります。前輪のタイヤを後輪のタイヤに入れ換えないでください。

お車には、チューブレス タイヤ専用のホイールが装着されています。チューブ付きタイヤは装着しないでください。

ランドローバー純正品以外のホイールは使用しないでください。純正仕様のホイールとタイヤはオフロード走行にもオンロード走行にも使用できるように設計されており、車両の操縦性にきわめて大きな影響を及ぼします。工場出荷時に装着されていたものと仕様の異なるホイールは装着しないでください。

ホイールやタイヤを交換した後は、必ずホイール バランス調整を行ってください。

スノー チェーン

スノー チェーンは、積雪のある舗装道路を走行することを目的に設計されています。オフロードでの使用はお勧めできません。スノー チェーンを装着するときは、必ず以下の注意事項を守ってください。

- **前輪:** お車に 235/65 R18 タイヤが装着されている場合を除き、スノー チェーンは前輪に装着しないでください。
- **後輪：** 本書の巻末にある「ホイールとタイヤ」222 ページの項に記載されている仕様のホイールとタイヤを装着しているときは、後輪にスノー チェーンを装着することができます。
- スノー チェーンを後輪だけに装着するか、4 輪すべてに装着するかに関係なく、必ずランドローバー認定スノー チェーンをご使用ください。ランドローバー認定スノー チェーンは、レンジローバーに合わせて、車両の他の構成部品に損傷を与えないように設計されています。認定スノー チェーンの詳細については、ランドローバー正規ディーラーにお問い合わせください。
- スノー チェーンの装着および保持に関する注意事項を守り、常に路面状況に合わせた制限速度を遵守してください。チェーン装着時は 50 km/h 以上の速度で走行しないでください。
- スノー チェーンは必ず両輪に装着してください。
- 積雪のない路面に出た場合は、タイヤの損傷を防止するため、すぐにチェーンを外してください。

⚠ 注意

認定されていないスノー チェーンを装着することはおやめください。タイヤ、ホイール、サスペンション、ブレーキ システムの構成部品などに損傷を与え、その結果、車両のボディも損傷することがあります。

洗車

H3854

アドバイス

一部の高圧洗浄機は、高圧の水流がドアやウィンドウなどのシールを貫通し、ゴム製シールやロック機構を損傷することあります。ボンネット上の空気取り入れ口、ボディ、サンルーフのシール部など、損傷を受けやすい部分に直接水流を当てないように注意してください。

車体は、スポンジなどを使用して、自動車用洗剤（カーシャンプーなど）を水またはぬるま湯と適量混合した溶液で洗ってください。洗車後はきれいな水で洗剤を洗い流し、セーム革で水分を拭き取ってください。

- 熱湯は使わないでください。
- 家庭用の界面活性剤入り洗剤や食器洗い用液体洗剤は使わないでください。
- 炎天下の直射日光の当たる場所で洗車しないでください。

ボディ下回りの清掃

ボディ下周り部品には、凍結防止用に路面に撒かれる腐食性物質（塩など）が付着します。それを放置しておくと、腐食が進行します。時折、ホースを使ってボディ下周りを水で洗い流してください。特に泥や汚れが堆積しやすい場所（ホイール アーチやパネル接合部など）は入念に洗ってください。

オフロード走行や渡河走行で泥や塩水をかぶった後は、ボディ下周りの部品とその他の露出している部品をホースの水でていねいに洗い流してください。

ホースを使用して洗車する場合は、ボンネット上の空気取り入れ口、およびホイール開口部からのブレーキ構成部品に直接水をかけないでください。また、ドアやウィンドウ、サンルーフのシール部にホースで直接水をかけないでください。強い水流によって、シール部を貫通する恐れがあります。

ボディ下回りに損傷や腐蝕が見つかった場合は、できるだけ早い機会にランドローバー正規ディーラーに点検をご依頼ください。

タール跡の除去

塗装面に付いたタールの跡や頑固な油汚れは、アルコールなどを使って取り除いてください。汚れを落とした後はすぐに石鹸水でアルコールを洗い流してください。

車体の保護

洗車後は、塗装面に傷が付いていないか点検してください。車体表面の飛び石の跡、割れ、深いかき傷は速やかに補修する必要があります。金属の地肌が露出していると、その部分はすぐに腐食し、放置しておくと多額の費用をかけて補修する必要が生じます。お客様の車体外側のパネルの一部には、通常スチールのようには腐蝕しないアルミニウムが使用されています。しかしながら、損傷が見つかった場合には、ただちに修理が必要です。塗装の小さな欠けや浅いかき傷は、ランドローバー正規ディーラーより入手可能なタッチアップ ペイントで補修できます。傷が大きい場合は、専門的な補修が必要ですので、すぐに最寄りのランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

塗装のつや出し

塗装面は、次のような特性を持つ認定つや出し剤で時々お手入れをしてください。

塗装面を損傷せずに表面の汚れを落とすためには、粒子の細かい研磨剤入り製品を使用してください。

ひっかき傷を補修して目立たなくするには、コンパウンドを塗布してください。

ワックスをかけると、塗装面の上に保護膜を作ることができます。

アドバイス

つや出し剤を塗装されていない部分に使用しないでください、つや出し剤の粒子が仕上げ表面に染み込んでしまいます。

窓ガラスとミラー

後面ガラス内側の熱線部分（後面ガラス デフロスター）を損傷しないように、柔らかい布を使って後面ガラスを清掃してください。この熱線部分は損傷しやすいので、硬いものでこすったり、研磨剤入りクリーナーで清掃しないでください。

特にミラーは壊れやすくなっていますので、石鹸水で洗い流してください。研磨剤入りクリーナーや金属製スクレーパーは使用しないでください。

内装のお手入れ

プラスチック素材

プラスチック表面や布製表皮部分は、薄めた内装用クリーナーを使って清掃し、最後に柔らかい布で拭いてください。

アドバイス

ダッシュボードに装着されている部品（エア吹き出し口など）には、つや出しをしないでください。光の乱反射を抑えるため、これらの部品はもともとつや消し処理されています。

レザー

レザーシート、レザー ステアリング ホイール、レザー トリムは、薄めていない内装用洗剤で、湿らせた布を使って拭いてください。5 分おいてから、次に水で湿らせた布で拭きますが、濡らしすぎないでください。その後、清潔で糸屑のでない布で乾拭きし、つやを出してください。

ガソリン、合成洗剤、家具用クリームやつや出し剤を使用しないでください。

カーペットと布地

ナイロン製内装用のクリーナーを薄めたものを使って汚れを落としてください。内装用クリーナーを使う前に、まず目立たない場所で試し拭きをしてください。

計器パネル、時計、オーディオ システム

乾いた布で拭くだけにしてください。洗剤やスプレーは使用しないでください。

シート ベルト

ベルトを引き出し、ぬるま湯に中性洗剤を溶かした溶液を含ませた布で汚れを落としてください。清掃後は自然乾燥させ、完全に乾くまでは、巻き戻さないでください。完全に乾くまでの間、お車の使用も見合わせてください。

エアバッグ ユニットのカバー

SRS エアバッグ ユニットに損傷を与えないようにするため、ステアリング ホイールのセンター パッドとダッシュボードの助手席エアバッグ収納部の清掃は、水で薄めた内装用クリーナーの溶液を少量含ませた布で軽く拭く程度にとどめてください。

エアバッグ収納部付近に液体をこぼさないでください。また、ガソリン、合成洗剤、家具用クリームやつや出し剤を使用しないでください。

パーツとアクセサリー

⚠ 警告

ランドローバーが認定していないパーツやアクセサリーを装着したり、認定されていない変更または改造をしないでください。本来の性能を損ねる危険性があり、お車や乗員の安全に影響を及ぼす恐れがあります。また、こうした改造により、お車の保証条件が無効になります。

レンジローバーはさまざまな条件のオフロード走行に対応できるように設計、製造、テストされています。オフロード走行時には、操縦関連の構成部品に非常に大きな負担が加わることもあります。このため、交換用パーツとアクセサリーも、新車購入時に装着されている構成部品と同一の厳しい基準に従って開発、テストが実行され、お車の信頼性、安全性と性能を末永く維持できるよう配慮されています。

レンジローバー本来のすばらしい性能をさらに向上させる目的で、ランドローバー グループが認定した各種パーツとアクセサリーを取りそろえております。お車をより多様な目的のために、より便利に、より安全にお使いいただけるようご活用ください。

ランドローバーの純正部品は、標準装備品と同じ規格に従って製造されており、ランドローバー グループの設計部門が認定した唯一の部品です。ひとつひとつの部品が、開発、組立てと同じ技術陣によって細部まで検査されています。ランドローバー純正パーツとアクセサリーには、走行距離数に関係なく、12 ヵ月の保証が適用されます。

アクセサリー全製品のカタログや詳しい説明が必要な場合には、最寄りのランドローバー正規ディーラーにお申し付けください。

電装品

⚠ 注意

電気システムや燃料供給システムを分解したり、これらシステムへの直接作業を伴うパーツやアクセサリーの取り付けは非常に危険です。

アクセサリー類を装着する前に必ずランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

ランドローバーが認定していないパーツやアクセサリーを装着することにより、本来の性能を損ねる危険性があり、お車の保証期間、保証条件が無効になることがあります。

パーツやアクセサリーを取り付ける前に、ランドローバー正規ディーラーまたは指定サービス工場にパーツやアクセサリーの適合性、取り付け方法および使用法についてご相談ください。

アフター セールス サービス

部品販売は、お車の信頼性と安全性、性能を維持する上で、極めて重要です。

ランドローバー グループは世界の 100ヵ国以上で純正部品を提供するフランチャイズを展開し、日本においてもコンピュータによる迅速な発注システムを整えております。

ランドローバー正規ディーラーでは、ランドローバーの安全性と耐久性、性能に関する厳しい基準に適合し、豊富な認定パーツおよびアクセサリーをご用意しております。

海外調達

市販のパーツは、取り付けると違法になる場合があります。

海外からアクセサリーを調達するときは、日本の法的基準に適合するかどうかを確認してください。

緊急時の情報

タイヤ交換
工具キット 181
タイヤ交換の安全性 182
スペア タイヤの取り外し 184
タイヤ交換 186

緊急時のエンジン始動
バッテリー上がりの際の
エンジン始動. 189
ブースター ケーブルの使用. 190
救援される場合. 191
救援する場合 192

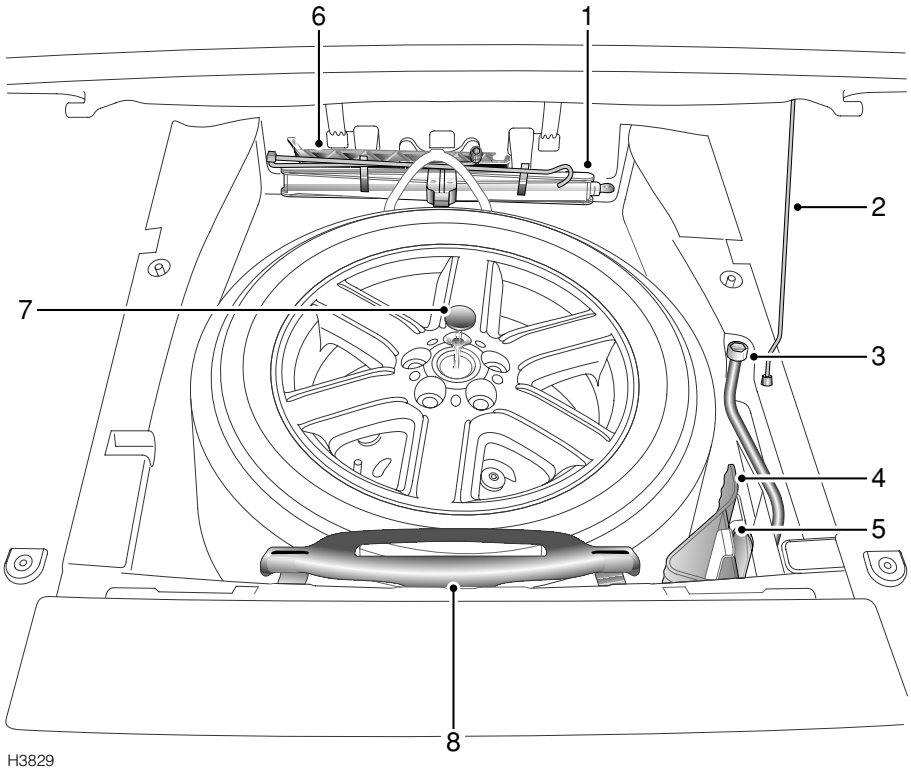
非常時のけん引
けん引フック 194
非常時のけん引. 195
トレーラーまたは陸送車への固定 . . . 197

ヒューズ
ヒューズ. 198
車室内ヒューズ ボックス 199
荷室のヒューズ ボックス 203

電球の交換

電球の交換 204
前照灯上向きビーム（ハロゲン）. . . . 205
前照灯下向きビーム（ハロゲン）. . . . 206
フロント方向指示灯 207
リア ランプ ユニット（尾灯、
方向指示灯、フォグ ランプ）. 208
後退灯 209
ナンバー プレート ランプ. 210
側面方向指示灯. 210
フロント フォグ ランプ 211
ドア / パドル / 下部足元ランプ. 212
グローブ ボックス照明灯 212
上部足元ランプ. 213
荷室灯 213
テールゲート ランプ. 214
マップ ランプ. 214
バニティ ミラー照明灯 215

工具キット



H3829

タイヤ交換用の工具キットは荷室アクセスハッチの下のスペア タイヤの収納場所に収納されています。

1. タイヤ交換用ジャッキ
2. スペア タイヤ アクセス支持用ステー
3. ホイール ナット レンチ
4. 輪止め
5. 工具袋
6. テールゲート ヒンジ止め *
7. スペア タイヤ固定ボルト
8. スペア タイヤ リフト ストラップ ハンドル *

ジャッキの取り扱い

ジャッキは時折点検し、可動部（特にネジ山）を掃除してグリースを塗布し、腐蝕を防いでください。

使用していないとき、ジャッキは必ず折りたたんでください。

アドバイス

タイヤ交換が終了したら、工具、輪止め、ジャッキ、スペア タイヤを常にそれぞれの収納場所に戻すようにしてください。

タイヤ交換の安全性

タイヤ交換をするときは、できれば主要幹線道路を離れ、通行の邪魔にならない安全な場所を選んで停車してください。タイヤ交換中は、必ず乗員全員を車から降ろし、往来から離れた安全な場所で待機してもらいます。

知識

タイヤ交換をするときは後続車に注意を促すため、非常点滅灯を作動させ、さらに非常停止表示板 * を後続車から良く見える位置に設置してください。

タイヤを交換する前に、前輪を直進方向に向け、駐車ブレーキをかけ、シフト レバーを「P」の位置に入れ、トランスファ ギアボックスを「L」(ロー) の位置に入れてください。

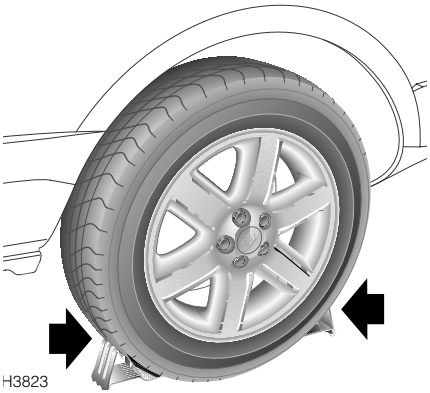
イグニッション スイッチをオフにしてキーを抜き取り、ステアリングをロックします。その上で､以下の注意事項を守ってください。

- ジャッキは堅くて水平な地面に置いてください｡柔らかい地面、鉄格子、マンホールのふたなどの上には絶対に置かないでください。ジャッキが安定しなくなる恐れがありますので、ジャッキと地面の間には何も挟まないでください。
- 車内に乗員を乗せたままで、またはキャンピング カーやトレーラーを連結したままで絶対にジャッキを使用しないでください。

輪止めの使用

⚠ 注意

車を持ち上げる前に、必ずホイールを2ヶ所輪止めで止めてください。



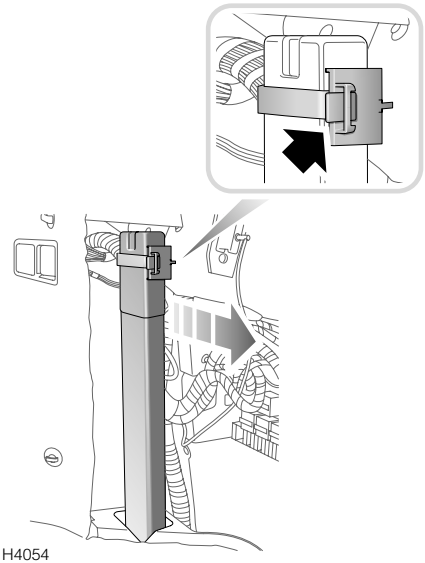
H3823

可能であれば車両を水平な場所に停止させて、取り外すホイールの対角線上で反対側にあるタイヤの前後に輪止めをしてください。

やむを得ず傾斜のある場所でジャッキを使う必要があるときは、必ず取り外すホイールの対角線上にあるタイヤの谷側に輪止めをしてください。

輪止めは、「工具キット」181 ページに記載のスペア タイヤ収納場所に収納されています。

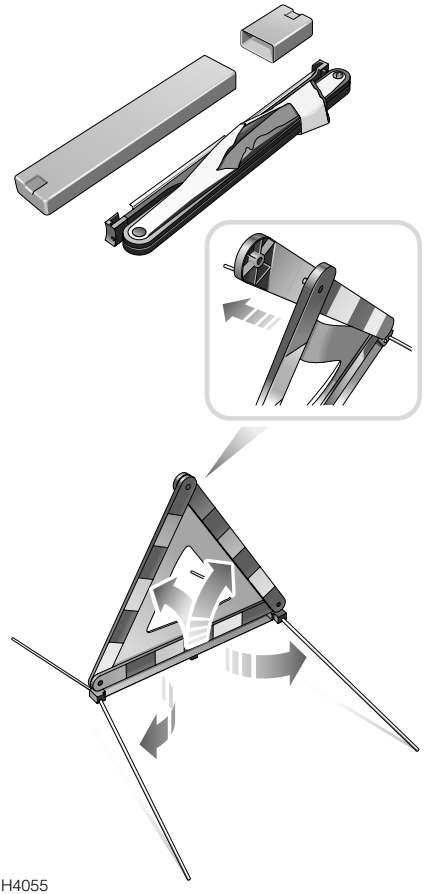
非常停止表示板の使用



H4054

非常停止表示板は荷室アクセス ハッチの裏側に備え付けられています。荷室アクセス ハッチの開け方については「荷室アクセス ハッチ」84 ページを参照してください。

荷室アクセス ハッチを開けたら、タブ（図の矢印）を押してセーフティ ストラップをゆるめ、非常停止表示板ケースを取り外します。ケースを開けて非常停止表示板を取り出します。



H4055

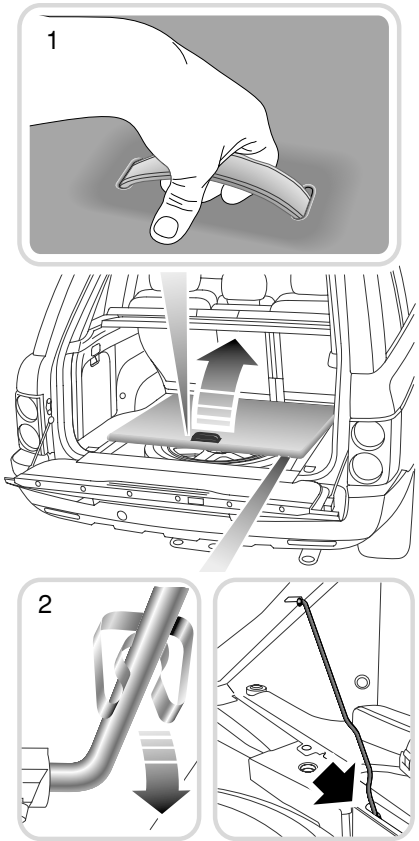
折りたたまれている金属製の 4 本の足を広げてから、三角形になるように組み立てます（図を参照）。三角形の頂点をスタッドで固定します（図を参照）。

非常停止表示板を後続車から良く見える位置に設置します。

スペア タイヤの取り外し

フル サイズ スペア タイヤ

> **⚠ 注意**
>
> ホイールはたいへん重いものです。ホイールを持ち上げるとき、特に荷室からスペア タイヤを取り外す ときは十分注意してください。



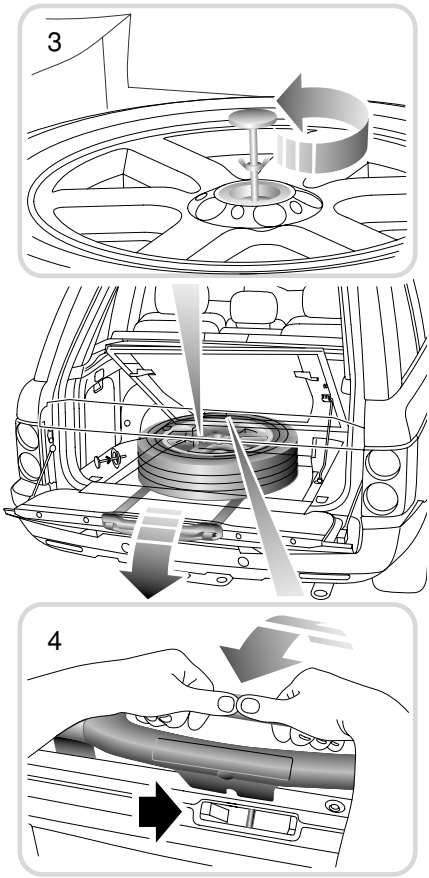
H3824

スペア タイヤの収納場所を開けるには、まず荷室カバーを前方に押し上げて折りたたみます（詳細は「荷室カバー」86 ページを参照）。

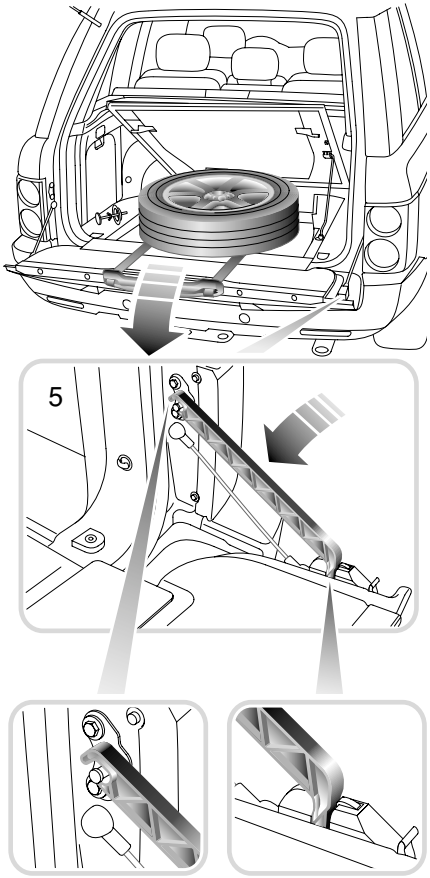
テールゲートを開けた状態で

1. スペア タイヤ アクセス ハッチのハンドルを持ち上げ、ハッチを開けます。
2. ハッチの下から支持ステーを外し、スペア タイヤ収納場所の横にある穴にステーの端部を挿入し（図の黒矢印）、アクセス ハッチを持ち上げた状態で固定します。

   タイヤ交換用ジャッキを固定しているストラップをゆるめ、ジャッキとテールゲート ヒンジ ストップを取り外します。輪止めとホイール ナット レンチを取り外します（「工具キット」181 ページを参照）。
3. スペア タイヤ固定ボルトのウィング ナットをゆるめ、スペア タイヤ固定ボルトを取り外します。ロア テールゲートを閉じます。



H3825



H3826

4. スペア タイヤ リフト ストラップ ハンドルを持ち上げてロア テールゲートの最上部に取り付け（図 4）、ハンドルの 2 個の突出部をテールゲート最上部の開口部にしっかりとはめ込みます。ハンドルが正しく取り付けられるとテールゲートのロックが自動的に外れます。テールゲートを開けます。スペア タイヤ リフト ストラップによって、スペア タイヤがロア テールゲートまで自動的に持ち上がります。

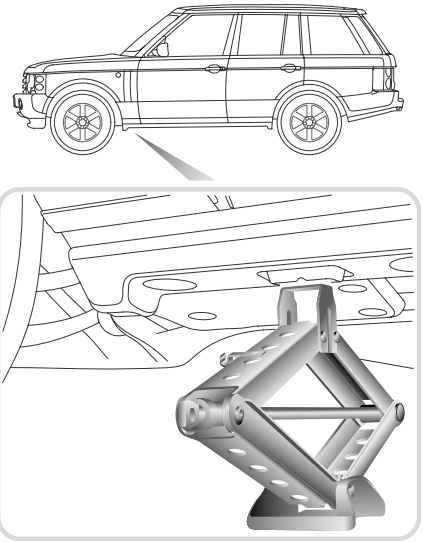
5. スペア タイヤがロア テールゲートの上まで持ち上がったら、ヒンジ ストップを取り付け、テールゲートが閉まるのを防ぎます。スペア タイヤを荷室から下ろします。

タイヤ交換

ジャッキを取り付ける位置

⚠ 警告

車載ジャッキだけで車両を支える場合、絶対に車の下に入って作業をしないでください。車載のジャッキはホイール交換用としてのみご使用ください。

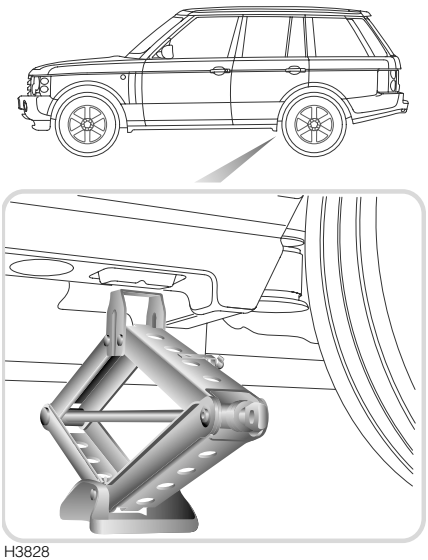


H3827

フロント ジャッキ アップ ポイント

ジャッキは常にジャッキ アップ ポイントとほぼ平行な位置に置いてください。ジャッキは固くて水平な地面に置いてください。

ジャッキの頭部が前または後ろのシル トリムのくぼみにはまるように、リア タイヤのすぐ前またはフロント タイヤのすぐ後ろにジャッキを置いてください。



H3828

リア ジャッキ アップ ポイント

⚠ 注意

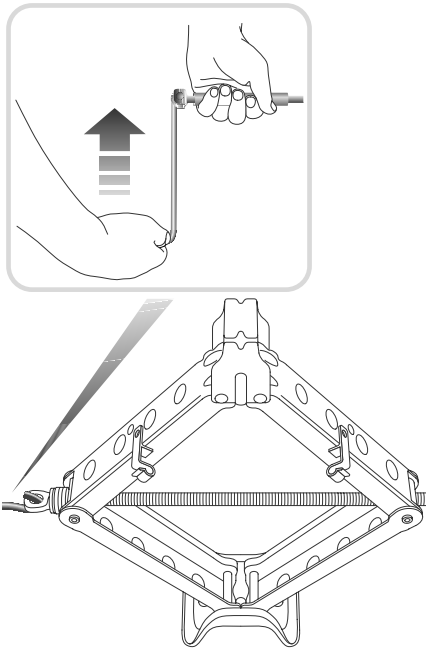
不慮の事故をやけがを最小限にするため、必ずジャッキ レバーにジャッキ ハンドルをつなげて使用してください。

アドバイス

決められたジャッキ アップ ポイント以外にジャッキを取り付けて使用しないでください。車両に損傷を与える原因になります。

タイヤ交換

ジャッキ操作



H4110

ジャッキをジャッキ アップ ポイントの真下に設置し、ジャッキ ハンドルを取り付けます。ジャッキ ハンドルを時計回りに回してジャッキを上げ、ジャッキの支持部をジャッキ ポイントにきちんとはめ込みます。ジャッキの底部が地面にしっかり接触していることを確認してください。

タイヤ交換

1. 車両を持ち上げる前に、ホイール ナット レンチを使用して各ホイール ナットを反時計回りに半回転ゆるめます。
2. タイヤが地面から離れるまで車両を持ち上げます。
3. ホイール ナットを外し、紛失しないよう 1ヶ所にまとめておきます。
4. ホイールを取り外します。

アドバイス

ホイール表面を損傷することがありますので、ホイールを地面に置くときは、表面を上向きにしておいてください。

5. アロイ ホイール装着車の場合、推奨固着・かじり防止剤をホイール マウント ボアに少量塗布します。こうすることで、ホイールとマウント ボアの固着・かじりを最小限に抑えることができます。

   ブレーキ システム構成部品とホイールのマウント面には、固着・かじり防止剤を付着させないように注意してください。

   緊急時にこの処理を行うのが難しければ、とりあえず省略してかまいませんが、その後できるだけ早い機会にホイールを取り外し、固着・かじり防止処理を行ってください。

6. スペア タイヤを取り付け、ホイール ナットを軽く締め、ナットが奥まで締め込まれていることを確認します。タイヤが地面から浮いている間はナットを完全には締め付けないでください。

アドバイス

タイヤを装着する場合は、ハブとホイールとの接触面に錆等がなくきれいな状態であることを確認してください。錆や泥が堆積しているとホイール ナットがゆるむ原因となります。

7. 車両の下側と周囲に障害物がないことを確認してから、車両を下ろし、ジャッキと輪止めを取り外します。

8. 対角線の順にホイール ナットをすべて完全に締め付けます。ホイール ナット レンチに足をのせて締め付けたり、エクステンション バーを使って過度に締め付けないでください。ホイール ナットに過大な負荷が加わる恐れがあります。できるだけ早い機会にホイール ナット締め付けトルクを確認してください（数値は「ホイールとタイヤ」222 ページの項参照）。

9. 適当な先のとがっていない工具を使用して、交換したホイールのセンター キャップを軽く押して取り外します。センター キャップを新しく取り付けたホイールに手で取り付けます。使用した工具、輪止め、ジャッキ、交換したタイヤをそれぞれの収納場所に戻します。

アドバイス

フル サイズ スペア タイヤの収納手順については、取り外し手順を逆に行ってください。

10. 運転前にトランスファ ギアボックスを「H」（ハイ レンジ）に変更してください。

11. 最後にタイヤの空気圧を点検してください（「ホイールとタイヤ」222 ページの項参照）。

バッテリー上がりの際のエンジン始動

バッテリーが上がったときは、救援用バッテリーまたは救援車両のバッテリーをブースター ケーブル（ジャンプ ケーブル）で接続して、救援始動をすることができます。この手順はバッテリーの充電手順とは異なります。バッテリーを車両に接続したままで充電しないでください。

押しがけや、けん引によるエンジン始動はおやめください。

⚠ 警告

通常の使用条件においても、バッテリーからは爆発性のある水素ガスが発生しています。水素ガスは引火すると一気に爆発し、最悪の場合は大けがをすることもあります。エンジン ルーム付近には、火花や裸火を近づけないでください。

バッテリー内の電解液が凍結していると思われるときは、エンジンを始動しないでください。

救援車両と救援を受ける車両のバッテリー電圧が同じ（12V）ことを確認し、使用するブースター ケーブルに 12V 用絶縁クリップが付いていることを確認してください。

放電したからといって、バッテリーの接続を外さないでください。

プラス（+）端子とマイナス（−）端子を接続しないでください。ブースター ケーブルは、エンジン ルーム内のすべての可動部分から十分に離してください。

⚠ 警告

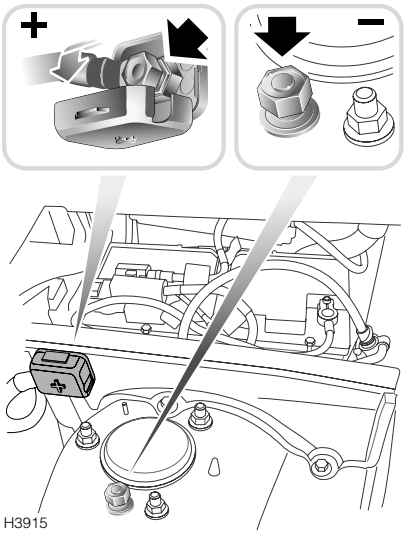
エンジンの回転部分の近くで作業するときは十分に注意してください。

救援車両のバッテリーを使用する場合は、互いのバッテリーが近づくように 2 台の車両を停車させてください。このとき、車両同士が接触しないように注意してください。

両方の車両とも駐車ブレーキをかけ、ギアを「P」位置に入れます。

2 台ともイグニッション スイッチおよび電装品のスイッチをすべてオフにして、以下の接続手順に従ってください。

ブースター ケーブルの使用



⚠ 警告

常に指定の接続ポイントを使用してください。

ブースター ケーブルをバッテリーのプラス（+）端子へ接続しないでください。プラス端子には衝突の際に安全予防措置としてバッテリーの接続を遮断する点火装置が装備されています。ブースター ケーブルをプラス 端子に接触させないでください。不慮の火災を起こし、怪我や死亡事故を引き起こし、お車を損傷する恐れがあります。

ブースター ケーブルは確実に接続してください。何らかの原因でクリップが滑ったり、接続ポイントから引き離されたりすると、放電により火花が発生し、火災や爆発を引き起こす恐れがあります。

ブースター ケーブルの接続

ブースター ケーブルの接続ポイントはマイナス（−）とプラス（+）の両方とも、エンジン ルーム内のバッテリーから離れた場所にあります。これらの接続ポイントはブースターを使用しての始動をより安全に行うために取り付けられています。

プラス（+）の接続ポイントは左側の図に示されています。カバーで保護されており、不慮の接触や汚染から保護されています。ブースター ケーブルを接続する前にカバーを開けてください。

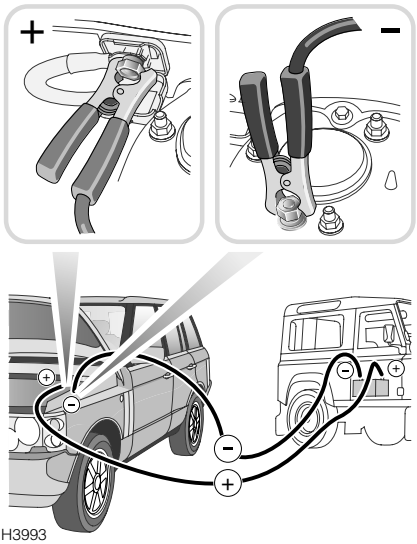
マイナス（−）の接続ポイントはストラットハウスに取り付けられた特殊ナットです（図を参照）。

ブースター ケーブルを接続するときは、常にこれらの接続ポイントを使用し、エンジン ルーム内のすべての可動部分から十分に離してください。

緊急時のエンジン始動

救援される場合

ブースター ケーブルの接続



救援始動は必ず以下の手順に従って行ってください。

1. 赤色のブースター ケーブルの一端を、救援車両のプラス（+）端子またはプラス（+）接続ポイントに接続します。
2. 赤色のブースター ケーブルのもう一端をレンジローバーのエンジン ルーム内のプラス（+）接続ポイント（図を参照）に接続します。
3. 黒色のブースター ケーブルの一端を救援車両のバッテリーのマイナス（−）端子またはマイナス（−）接続ポイントに接続します。
4. 黒色のブースター ケーブルのもう一端をレンジローバーのエンジン ルーム内のマイナス（−）接続ポイント（図を参照）に接続します。

アドバイス

ブースター ケーブルを使用する前に、必ず「バッテリー上がりの際のエンジン始動」189 ページおよび「ブースター ケーブルの使用」190 ページに記載されている内容をよく読んで理解しておいてください。

⚠ 警告

黒色のブースター ケーブルを放電したバッテリーのマイナス（−）端子に接続しないでください。常にマイナス（−）の接続ポイントをご使用ください。ご不明な点がありましたら、ランドローバー正規ディーラーにお問い合わせください。

⚠ 警告

ブースター ケーブルは確実に接続してください。何らかの原因でクリップが滑ったり、接続ポイント / バッテリー端子から引き離されたりすると、放電により火花が発生し、火災や爆発を引き起こす恐れがあります。

ブースター ケーブルが 2 台の車両のエンジンの可動部分から十分に離れていることを確認した後に、救援車両のエンジンを始動し、数分間アイドリングさせます。

次にバッテリーが放電している車両のエンジンを始動します。両方の車両のエンジンが正常に作動したら 2 分間アイドリングさせ、その後に救援車両のエンジンを停止します。

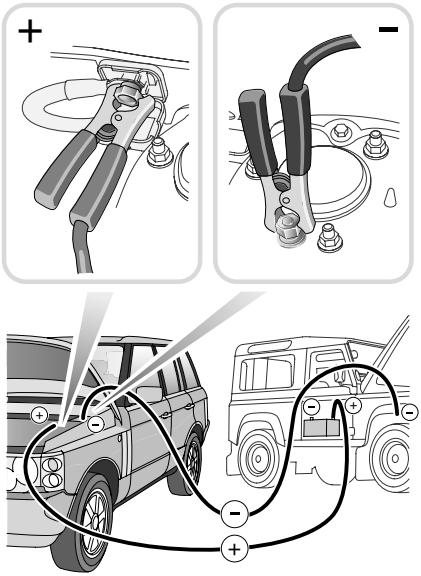
ブースター ケーブルを外し終わるまでは、救援された車両の電装品のスイッチをオンにしないでください。

ブースター ケーブルの接続を外す場合、必ず接続したときと逆の順序で外してください。最初にレンジローバーのマイナス（−）接続ポイントから黒色ケーブルの接続を外してください。

バッテリー上がりによって車両電源が一時遮断されていた場合、ABS と DSC が作動しません（各警告灯が点灯します）。これらの機能は、短い距離を走行するか、車両は停止し、エンジンは作動させた状態でハンドルをまず左右どちらかいっぱいに回し、次に反対側いっぱいまで回すことによって再び作動させることができます。ABS および DSC 警告灯はシステムが作動すると消灯します。

救援する場合

ブースター ケーブルの接続



H3995

アドバイス

ブースター ケーブルを使用する前に、必ず「バッテリー上がりの際のエンジン始動」189 ページおよび「ブースター ケーブルの使用」190 ページ）に記載されている内容をよく読んで理解しておいてください。

⚠ 警告

黒色のブースター ケーブルを放電したバッテリーのマイナス（−）端子に接続しないでください。ご不明な点がありましたら、ランドローバー正規ディーラーにお問い合わせください。

緊急時のエンジン始動

救援始動は必ず以下の手順に従って行ってください。

1. 赤色のブースター ケーブルの一端を、救援車両のプラス（+）端子またはプラス（+）接続ポイントに接続します。
2. 赤色のブースター ケーブルのもう一端を救援される車両の放電したバッテリーのプラス（+）接続ポイント（装着されている場合)または放電したバッテリーのプラス（+）端子に接続します。
3. 黒色のブースター ケーブルの一端をバッテリーのマイナス（−）接続ポイント（図を参照）に接続します。
4. 黒色のブースター ケーブルのもう一端を救援される車両のマイナス（−）接続ポイント（装着されている場合）または良好なアース ポイント（エンジンのマウント部やその他も塗装されていない金属部）に接続します。このときのアース ポイントは、救援される車両のバッテリーから少なくとも 0.5m 離れており、燃料ラインおよびブレーキラインから十分に離れた場所を選んでください。

⚠ 警告

ブースター ケーブルは確実に接続してください。何らかの原因でクリップが滑ったり、接続ポイント / バッテリー端子から引き離されたりすると、放電により火花が発生し、火災や爆発を引き起こす恐れがあります。

ブースター ケーブルが 2 台の車両のエンジンの可動部分から十分に離れていることを確認した後に、救援車両のエンジンを始動し、数分間アイドリングします。

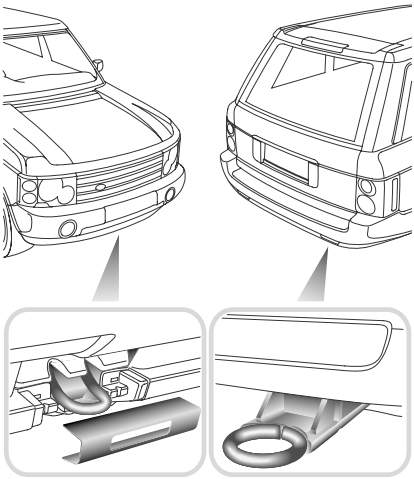
次に、バッテリーが放電している車両のエンジンを始動します。両方の車両のエンジンが正常に作動したら、2 分間アイドリングさせ、その後に救援車両のエンジンを停止します。

ブースター ケーブルを外し終わるまでは、被救援車両の電装品のスイッチをオンにしないでください。

ブースター ケーブルの接続を外す場合、必ず接続したときと逆の順序で外してください。最初に救援される車両のマイナス（−）接続ポイントから黒色のケーブルの接続を外してください。

非常時のけん引

けん引フック



H3899

アドバイス

車両の前後に用意されているけん引フックは、非常時のけん引にのみ使用する目的で設計されています。絶対にトレーラーやキャンピング カーのけん引には使用しないでください。

フロント

フロント スポイラーの取り外し可能パネルの下にあるけん引フックは、4 輪を接地した状態でけん引してもらうだけの目的のために用意されています。

オフロード ドライブの前には、誤って紛失しないようにパネルをスポイラーから取り外してください。

パネルを外す：両手で、けん引フックのカバーの両側をつまんで取り外してください。カバーを戻すときはしっかりと押しこんでください。

リア

車両のリアには、けん引フックが付いています。これらのフックは他車をけん引するのにも、また、他車にけん引してもらうためにも使用することができます。

非常時のけん引

車両をけん引する場合、たいていの専門業者は故障車両をトレーラーに積んで回収します。もし 4 輪とも接地した状態でけん引する必要がある場合には、以下の手順を守ってください。

4 輪とも接地した状態でのけん引

⚠ 注意

もし 4 輪とも接地した状態でけん引する必要がある場合には、以下の手順を守ってください。手順を守らない場合、車両が不意に動いたり、不測の状態に陥ることがあります。

けん引される車両の駐車ブレーキをかけ、以下の手順でトランスファ ギアボックスをニュートラルの位置にしてください。

アドバイス

お客様のお車はパーマネント4輪駆動で、ステアリング ロックが装備されています。お車の損傷を防ぐため、以下の手順を守ってください。

イグニッション スイッチを「I」または「II」の位置に入れたまま長時間放置するとバッテリーが放電します。

1. けん引アタッチメントを回収車両後部と被回収車両前部のけん引フックに確実に取り付けてください（「けん引フック」194 ページ を参照）。
2. 駐車ブレーキをかけ、イグニッション キーを挿入し、「II」の位置にしてください。
3. シフト レバーを「N」（ニュートラル）の位置に入れてください。
4. イグニッション スイッチを「0」の位置に入れてください。
5. ヒューズ（5A）を車内ヒューズ ボックスの 37 位置に差し込んでください（「車室内ヒューズ ボックス」199 ページを参照）。
6. イグニッション スイッチを「II」位置にします。トランスファ ギアボックスは自動的にニュートラルを選択します。メッセージ センターに「TRANSFER NEUTRAL」と表示されるまで待ってください。
7. シフト レバーを「P」（パーキング）の位置に入れてください。
8. イグニッション スイッチを「I」の位置にします（「0」の位置にしないでください）。

アドバイス

トランスファ ギアボックスはニュートラルに入り、ステアリング ホイールのロックは解除されます。4 輪を接地した状態でけん引されている間、この状態を維持してください。

9. 必要であれば、イグニッション スイッチを「II」の位置にして、制動灯、方向指示灯を点灯させてください（「車室内ヒューズ ボックス」199 ページを参照）。

10. 駐車ブレーキを解除してからけん引してください。

⚠ 注意

絶対に走行中にキーを抜いたり、イグニッション スイッチを「0」位置にしないでください。

知識

エンジンが作動していないときは、ブレーキ倍力装置やパワー ステアリング ポンプが作動しません。したがって、ブレーキ ペダルやステアリング ホイールの操作に、通常よりも大きな力が必要となります。また制動距離も通常よりも長くなります。

アドバイス

上記の条件を満たしていれば、車両は時速 80 km/h 以下で 6 時間までけん引することが可能です。

何らかの理由で（バッテリーを接続するのが安全でない場合など）トランスファ ギアボックスがニュートラルに入らない場合でも、車両は時速 30 km/h で 3時間までけん引することが可能です。

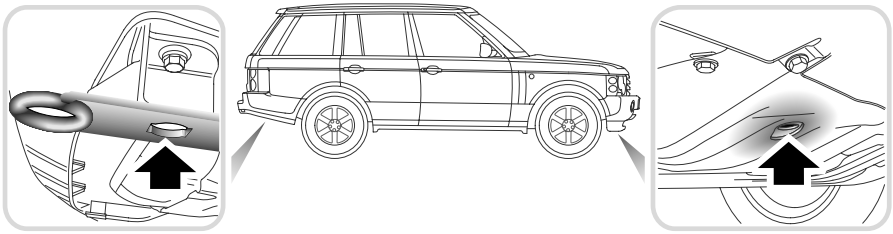
メイン ギアボックスがニュートラルに入らないときは、いかなる状況であっても車両をけん引しないでください。

4 輪とも接地した状態でけん引した後

けん引後にトランスファ ギアボックスを締結するために、以下の手順を行ってください。

1. 駐車ブレーキをかけ、メイン ギアボックスで「N」（ニュートラル）が選択されていることを確認してください。
2. イグニッション スイッチを「0」位置にします。
3. ヒューズを車内ヒューズボックスの 37 位置から取り外してください。
4. イグニッション スイッチを「II」位置にします。トランスファ ギアボックスが締結され、「TRANSFER NEUTRAL」の表示がメッセージ センターから消えます。トランスファ ギアボックス スイッチを操作して、ハイ レンジまたはロー レンジを選んでください。
5. メイン ギアボックスで「P」（パーキング）を選びます。
6. イグニッション スイッチを「0」にしてください。

トレーラーまたは陸送車への固定



H3986

ボディ下側の車両フロント（前輪の前方）と車両リア（後輪の後方）に固定箇所があります。トレーラー固定具を車両のほかの部品に固定しないでください。

アドバイス

フロントおよびリアの固定箇所は固定するためにのみ使用し、けん引には使用しないでください。

車両をトレーラーに載せ、電装品が作動する場合、電子制御エア サスペンション（EAS）をアクセス モードに設定しなければなりません。この作業は車両をトレーラーに固定する前に行ってください。

ヒューズ

ヒューズは単純な回路遮断器で、電気回路に過大な負荷がかかるのを防ぎ、車両の電装品を保護しています。

ヒューズが保護している電装品が作動しなくなった場合、たいていはその電装品の回路を保護しているヒューズが切れているはずです。

ヒューズは容量別に色分けされています。

ヒューズの色

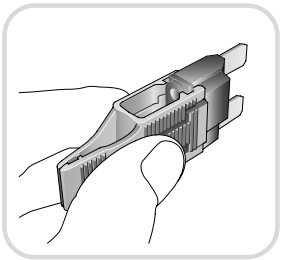
紫色	3 アンペア
黄褐色	5 アンペア
茶色	7.5 アンペア
赤色	10 アンペア
青色	15 アンペア
黄色	20 アンペア
白色	25 アンペア
緑色	30 アンペア
オレンジ色	40 アンペア

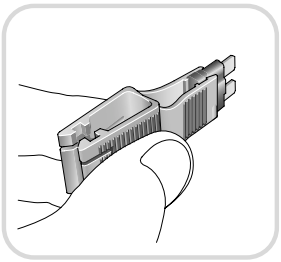
ヒューズの点検と交換

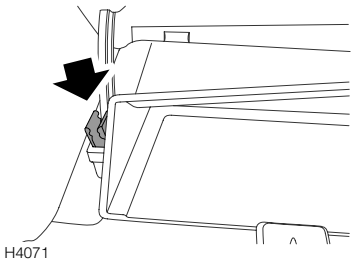
ヒューズを取り外すときは、必ずイグニッション スイッチを「0」の位置に回し、関係する電気回路のスイッチをオフにします。

アドバイス

交換ヒューズは必ず同一定格、同一タイプのものを使用します。ヒューズを交換する前に、ヒューズ切れの原因を確認します。原因が不明な場合は、ランドローバー正規ディーラーに点検をご依頼ください。



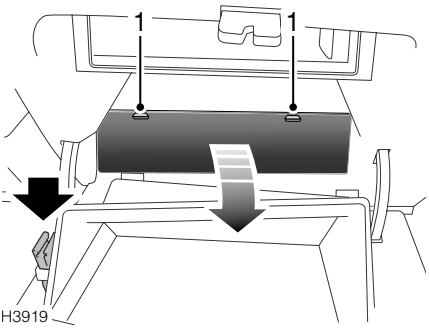




ヒューズ取り外し用のピンセットがグローブボックス（図の矢印）に備え付けられています。取り外すには、不具合が疑われるヒューズの頭に取り外し用の頭を押し込んで（図のように）、引き抜きます。ヒューズが切れていれば、ヒューズ内の細いワイヤーが断線しているはずですので、その場合は交換する必要があります。

ヒューズを交換するときは、必ず元のヒューズと同じ定格値（容量）のものを使用してください。ヒューズを交換してもすぐに切れてしまう場合、何か別の故障原因が考えられますので、ランドローバー正規ディーラーに点検をご依頼ください。

車室内ヒューズ ボックス

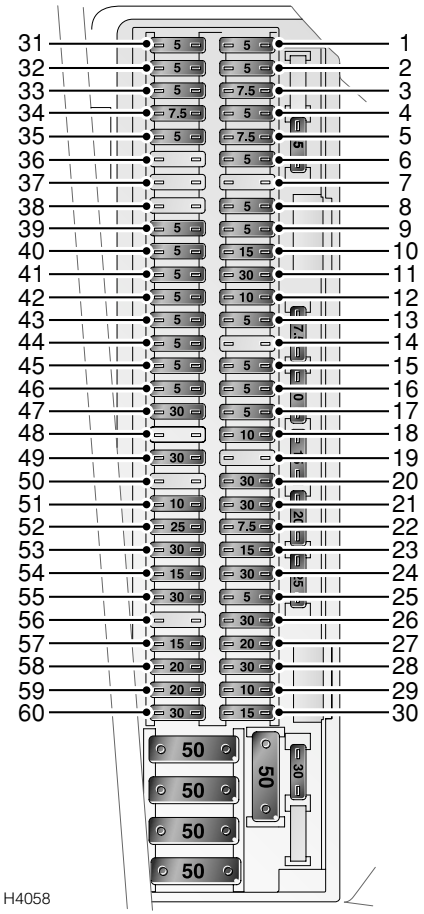


車室内ヒューズ ボックスはグローブ ボックス内にあります。ヒューズ ボックスを開くには、まずグローブ ボックスを開けてください。次にヒューズ ボックス上部にある 2 個のタブ（1）を押しながら、カバーを取り外してください。図の黒い矢印ははヒューズ取り外し用の道具の収納場所を示しています。

アドバイス

ヒューズ ボックス内にはいくつかの交換用ヒューズが入っています（ヒューズ ボックスのラベルをご覧ください）。

ヒューズ ボックス カバーのラベルには、ヒューズが保護する電気回路とヒューズの容量、およびその位置が表示されています。また本項にもヒューズのリストがあります。



ヒューズ

ヒューズ一覧表

ヒューズ番号	定格（アンペア）	保護される回路
1	5	計器類
2	5	熱線リア ウィンドウ リア エアコン ブロワー ヒーター付きシート – 後席 * トレーラー ソケット
3	–	–
4	5	ライト
5	7.5	エンジン マネージメント / 診断
6	5	ルーム ミラー パーク ディスタンス コントロール *
7	–	–
8	5	オンボード コンピューター オーディオ システム 電話 *
9	5	制動灯 ランプ モジュール スピード コントロール
10	15	ホーン
11	30	集中ドア ロッキング ドア ミラー フロント パワー ウィンドウ
12	10	エアコンディショナー ヒーター付きシート – 前席 *
13	5	アンチロック ブレーキ システム ダイナミック スタビリティ コントロール トランスミッション
14	–	–
15	5	集中ドア ロッキング 診断 フロント パワー ウィンドウ
16	–	–
17	5	ドア ミラー 室内灯
18	10	エンジン始動阻止システム
19	–	–

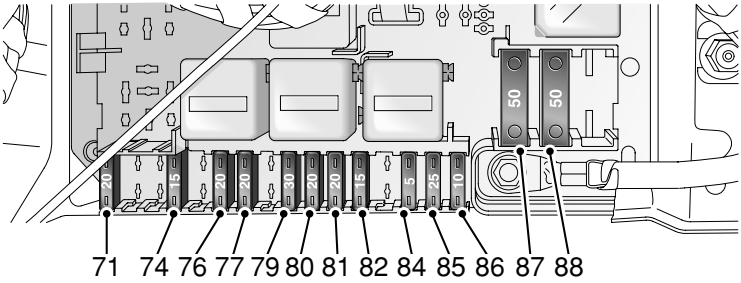
ヒューズ

ヒューズ番号	定格（アンペア）	保護される回路
20	30	運転席 ステアリング コラム
21	30	助手席
22	7.5	電話 *
23	15	ステアリング コラム
24	30	集中ドア ロック ドア ミラー フロント パワー ウィンドウ
25	5	エンジン始動阻止システム
26	30	前面ガラス ワイパー
27	20	グローブ ボックス ランプ 室内灯 前面ガラス ウォッシャー
28	30	前照灯ウォッシャー *
29	10	ヒーター付きステアリング ホイール *
30	15	電子制御ダンパー コントロール
31	5	エンジン マネージメント エンジン始動阻止システム
32	–	–
33	5	トランスミッション
34	7.5	エアコンディショナー 暖房用送風ファン
35	5	アンチロック ブレーキ システム ダイナミック スタビリティ コントロール
36	–	–
37	5	トランスファ ニュートラル – 4 輪接地けん引時に挿入
38	–	–
39	5	エンジン始動阻止システム
40	5	CD チェンジャー *
41	5	後面ガラス ウォッシャー / ワイパー
42	5	バニティ ミラー ライト *
43	5	アラーム
44	5	**SRS エアバッグ（取り外し禁止）**
45	5	計器類

ヒューズ

ヒューズ番号	定格（アンペア）	保護される回路
46	5	計器類
47	30	デフロスター付き前面ガラス ウォッシャー 前面ガラス デフロスター
48	–	–
49	30	ナビゲーション システム * オンボード コンピューター * オンボード モニター *、 オーディオ システム
50	–	–
51	10	アンチロック ブレーキ システム ダイナミック スタビリティ コントロール 燃料ポンプ エア ポンプ
52	25	ヒーター付きシート – 前席 *
53	30	エンジン マネージメント
54	15	トランスミッション
55	30	アンチロック ブレーキ システム、 ダイナミック スタビリティ コントロール
56	–	–
57	15	エア サスペンション
58	20	サンルーフ
59	–	–
60	30	集中ドア ロック リア パワー ウィンドウ

荷室のヒューズ ボックス



荷室のヒューズ ボックスは荷室アクセス ハッチ奥の荷室右側に取り付けられています。ハンドルを引き上げて荷室カバーを開けてください(「荷室アクセス ハッチ」84 ページを参照)。

ここに記載されているヒューズ以外のヒュージブル リンクやリレー(ヒューズ ボックス カバー裏面に MF(1-3)、R(1-10)と表示されているもの)は取り外したり、交換したりしないでください。これらに関する故障は、すべて専門の資格を持つ技術者にお任せください。

ヒューズ一覧表

ヒューズ番号	定格(アンペア)	保護される回路
71	20	シガー ライター / ソケット
72	–	–
73	–	–
74	15	トレーラー ソケット
75	–	–
76	20	トレーラー ソケット
77	20	補助電源ソケット(荷室)
78	–	–
79	30	後面ガラス デフロスター
80	20	後面ガラス ウォッシャー / ワイパー
81	20	ヒーター付き後席シート *
82	15	リア エアコン ブロワー
83	–	–
84	5	リモート ハンドセット
85	25	燃料ポンプ
86	10	集中ドア ロック システム、テールゲート
87	50	トレーラー ソケット
88	50	トレーラー ソケット
89	–	–

電球の交換

走行を開始する前に、すべての外部照明等の作動状態を点検してください。

アドバイス

電球を交換するときは、ショートによる回路の損傷を避けるため、イグニッション スイッチをオフにし、交換する照明灯のスイッチもオフにしてください。必ず同一タイプ、同一仕様の電球と交換してください。

交換電球一覧表

アドバイス

電球は必ず定格電圧 12 V用をご使用ください。

電球	ワット
前照灯下向きビーム（ハロゲン）	55（H7）
前照灯上向きビーム	55（H7）
フロント車幅灯	5
フロント方向指示灯	21
フロント フォグ ランプ	55（H7）
側面方向指示灯	5
後退灯	6（H6）
リア フォグ ランプ	21
尾灯	5
ナンバー プレート ランプ	5
ドア/ バドル ランプ	5
室内灯	6
荷室/ 足元ランプ	5
荷室/ テールゲート ランプ	6
グローブ ボックス灯	5
バニティ ミラー灯	1.2

知識

地域によっては、電球不良時のための交換用電球を携帯することが法律で定められています。交換電球キットはランドローバー正規ディーラーでご購入になれます。

ハロゲン電球

ハロゲン電球は、前照灯の下向き / 上向きビーム、補助走行灯、フロント フォグ ランプに使用されています。電球のガラス面には手を触れないように注意して、必ず布などで持つようにしてください。必要であれば、清潔な布にメチルアルコールを含ませて汚れを拭き取ってください。

キセノン ランプ ユニット *

車両によっては、キセノン下向きビーム ヘッドランプ ユニットが取り付けられています。キセノン ランプは、とりわけ厳しい天候や運転条件において優れた視界を提供します。

キセノン ランプの寿命は、従来の電球やハロゲン電球に比べかなり長くなっています。しかしながら、ガスと点灯に必要な気体の金属を発火させるために高電圧が必要なため大怪我につながることがあります。キセノン ランプの交換および点検整備はランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

使用済みキセノン ランプ ユニットには水銀が含まれているため、人体に有害で、健康に悪影響を及ぼす恐れがあります。キセノン ライトの廃棄についてはランドローバー正規ディーラーにお問い合わせください。

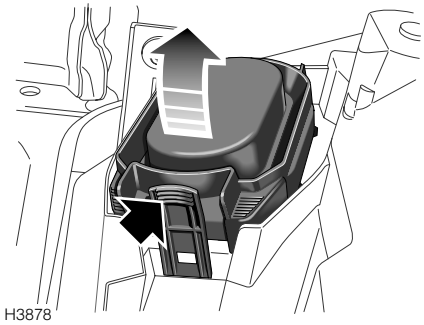
発光ダイオード（LED）

車室内の装置や計器類、ディスプレイなどには光源として、カバーの裏に、発光ダイオード（LED）が使用されています。これらの発光ダイオードは従来のレーザーと似ており、「1 級発光ダイオード」に分類されます。発光ダイオードの交換は、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

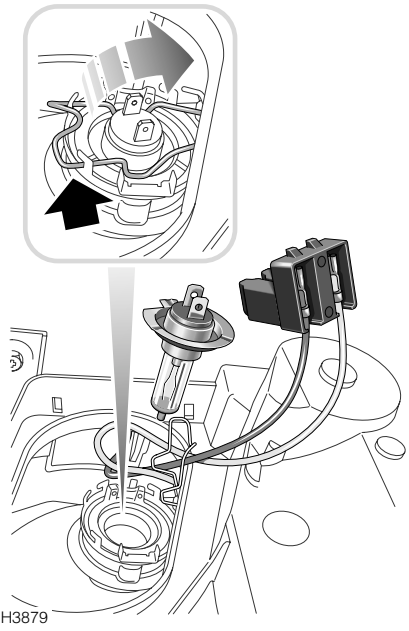
⚠ 注意

長時間、カバーを取り外したり、光源を直接見たりすることはおやめください。目の虹彩に異常がおこります。

前照灯上向きビーム（ハロゲン）



エンジン ルームの内側からタブ（黒い矢印）を押して、カバーを開けてください。

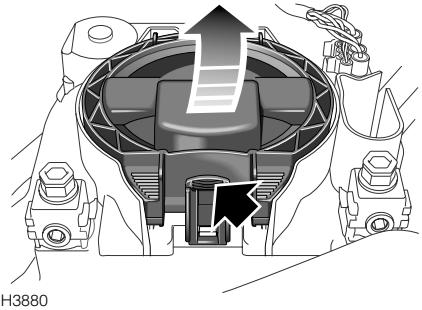


コネクタの接続を外し、スプリング クリップを外してください。電球を抜き取ってください。

アドバイス

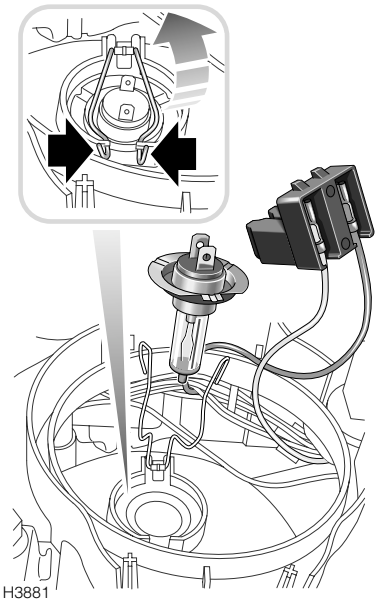
指が電球のガラス面に触れないようにしてください。必要であれば、清潔な布にメチルアルコールを含ませて汚れを拭き取ってください。

前照灯下向きビーム（ハロゲン）



H3880

エンジン ルームの内側からタブ（黒い矢印）を押して、カバーを開けてください。



H3881

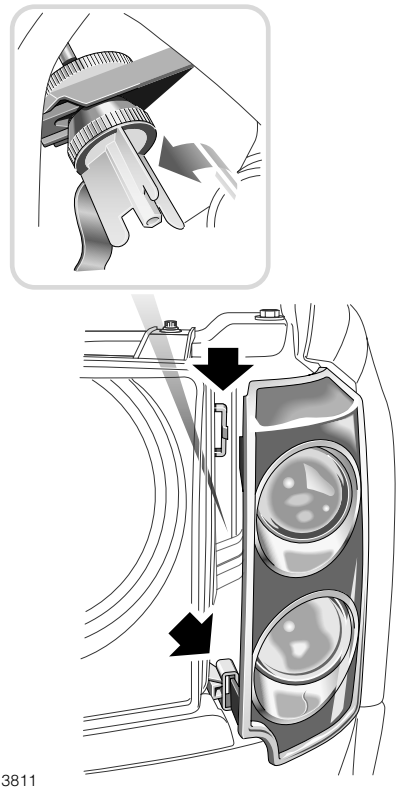
コネクタの接続を外して、スプリング クリップを外してください（図を参照）。電球を抜き取ってください。

アドバイス

指が電球のガラス面に触れないようにしてください。必要であれば、清潔な布にメチルアルコールを含ませて汚れを拭き取ってください。

フロント方向指示灯

ランプ ユニットの取り外し

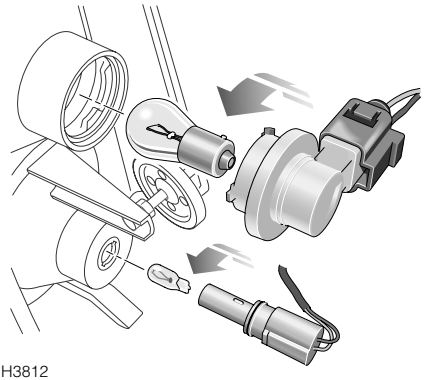


H3811

エンジン ルームの内側からナットをゆるめ（反時計回り）、ランプ ユニットを取り外してください（図を参照）。ナットには安全ストラップが取り付けられており、ナットがエンジン ルームに落ちるのを防いでいます。

ランプ ユニットを押さえて、2 個の位置決めピン（矢印）を外して、車両ボディからランプ ユニットを取り外してください。

電球の交換



H3812

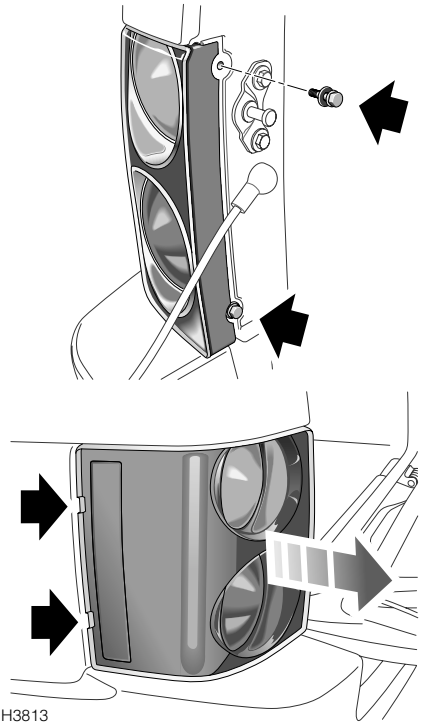
2 個の電球のうちの上の電球が方向指示灯、下の電球が車幅灯です。取り外し手順は両電球とも同様です。

ランプ ユニットをフェンダーから外し、電球ホルダーを 90° 反時計回りに回して取り外します。電球をひねって取り外します。

ランプ ユニットの取り付け

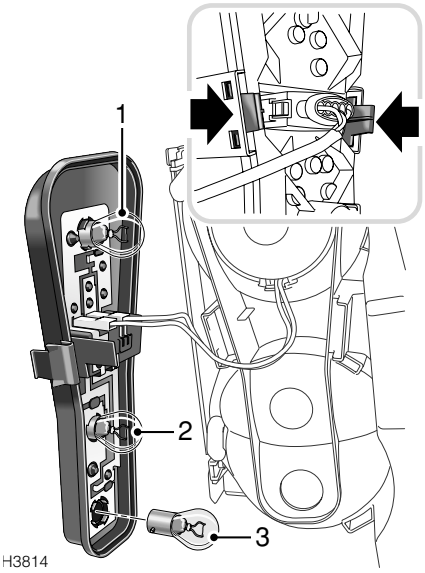
ランプ ユニットを取り付ける場合、ランプ ユニットを押しこむ前に、2 個の小さい突起の位置をあわせます。こうすることによって、固定ボルトがツマミに正しく並びます。ナットを締め（時計方向に回す）、ユニットを所定の位置に固定します。

リア ランプ ユニット（尾灯、方向指示灯、フォグ ランプ）


H3813

テールゲートを全開にし、車両外側から 2 個の固定ネジを外します（図を参照）。車両横から、適当な工具を使ってユニットを注意深くこじり出します。

塗装を傷つけないように注意 してください。使用する工具は布で覆い、弱い一定の力がかかるようにしてこじり出してください。過度の力をかけないでください。ご不明な点は、最寄りのランドローバー正規ディーラーまでご相談ください。



H3814

2 個のタブ（図の矢印）を同時に押してランプ ユニットをレンズ アッセンブリから取り外します。電球をひねり、取り外してください。

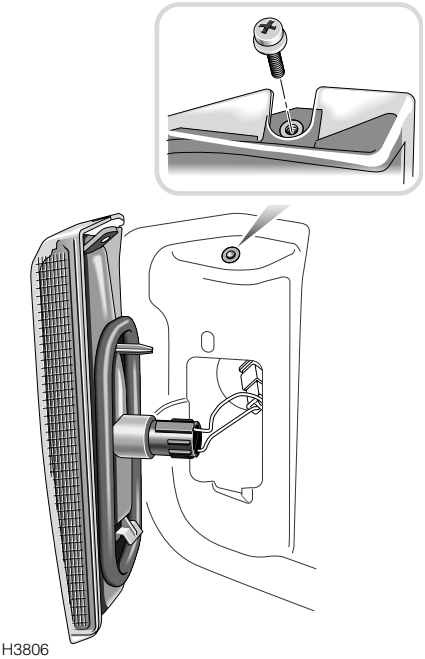
電球は以下のように並んでいます。

1. リア方向指示灯電球
2. 尾灯電球
3. リア フォグ ランプ電球

アドバイス

お客様のお車に装備されている制動灯とハイマウント ストップ ランプは LED（発光ダイオード）ランプです。交換の際は、ランドローバー正規ディーラーにご相談ください。

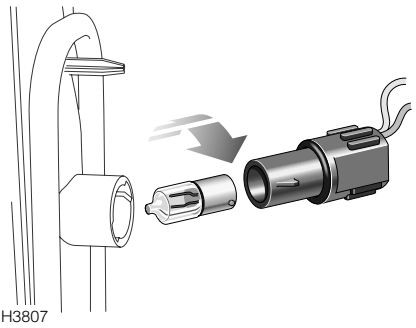
後退灯



H3806

後退灯はロア テールゲートのリア ナンバープレート両側に取り付けられています。

アッパ テールゲートを上げて、ネジを取り外し（図を参照）、テールゲートからランプユニットを取り外します。



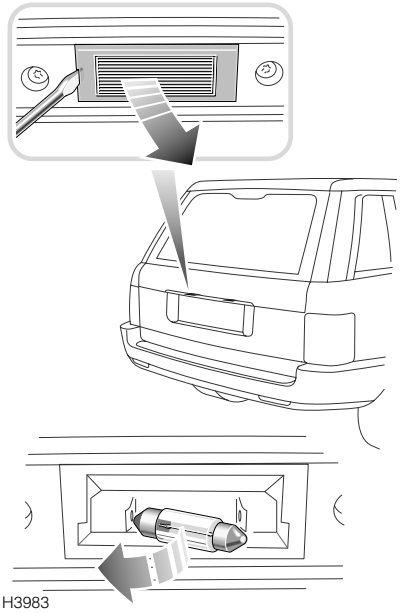
H3807

電球ホルダーを反時計方向に回して、ランプユニットから引き抜きます。次に電球を回してホルダーから外します。

アドバイス

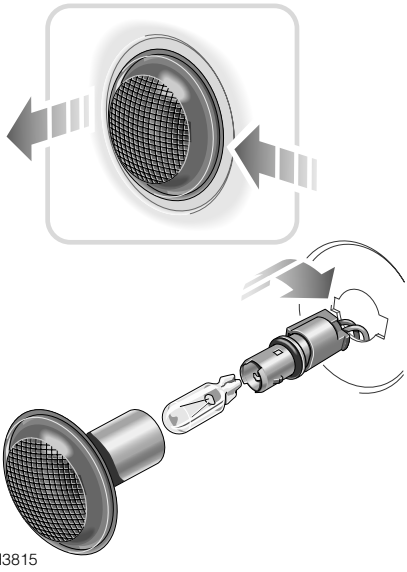
指が電球のガラス面に触れないようにしてください。必要であれば、清潔な布にメチルアルコールを含ませて汚れを拭き取ってください。

ナンバー プレート ランプ



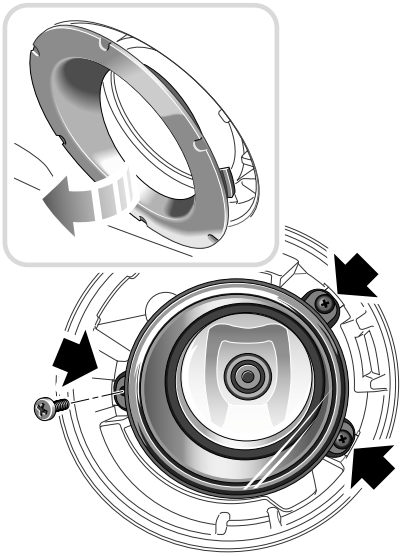
アッパ テールゲートを開け、適当な工具を使用して、テールゲートからレンズをこじり出してください（図を参照）。電球を引き抜いてください。

側面方向指示灯



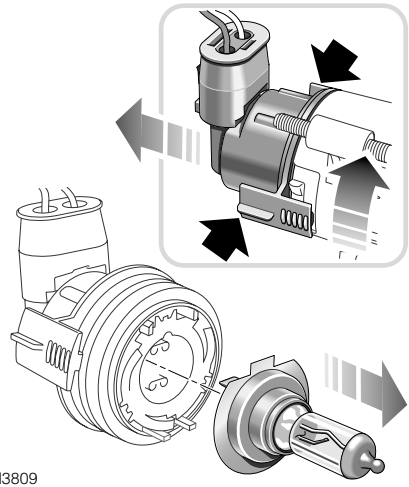
側面方向指示灯のレンズを左側に押しながら、ランプ ユニットを手前に引いてフェンダーから外してください。電球ホルダーを回してランプ ユニットから取り外し、電球をソケットから抜き取ってください。

フロント フォグ ランプ



H3808

適当な工具を使って、フォグ ランプを囲んでいるパネルをフロント バンパーからこじり出してください。3 個の固定ネジを取り外し、ランプ ユニットをゆるめます。ユニットをフロント バンパーから取り外します。



H3809

2 個のキャッチ（上図の黒矢印）を押して、バルブ ホルダーをレンズ アッセンブリからねじって引き抜いてください。ホルダーから電球を引き出して取り外してください。

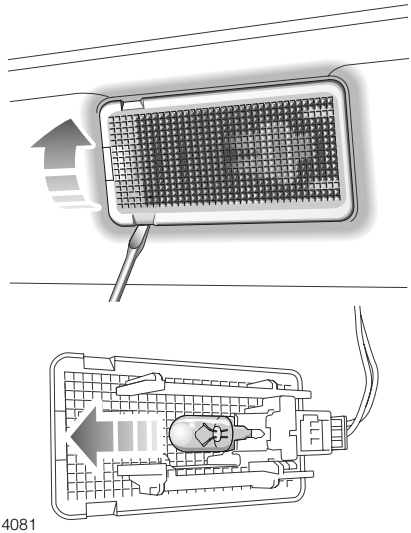
交換電球を取り付ける前に、バルブ取り付けフランジの平坦部とタブを確認してください。タブによってランプ ユニット内の適正な位置に電球を位置させることが可能になっています。

アドバイス

指が電球のガラス面に触れないようにしてください。必要であれば、清潔な布にメチルアルコールを含ませて汚れを拭き取ってください。

電球の交換

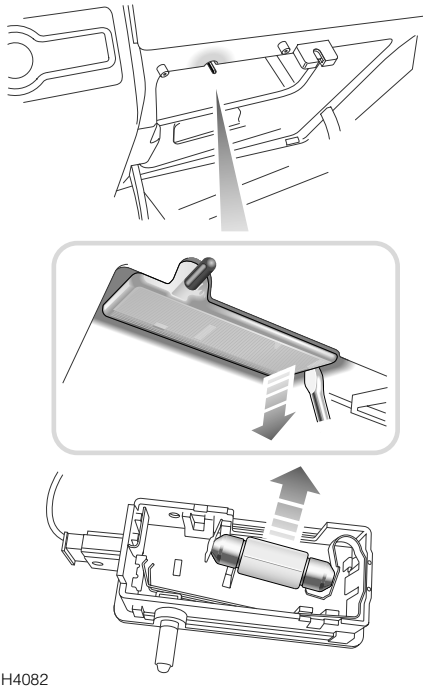
ドア / パドル / 下部足元ランプ



H4081

ドアを開け、レンズの前端部の下に小型のマイナス スクリュー ドライバーを挿入し、ランプ ユニットをドアからこじり出してください。電球を抜き取ってください。

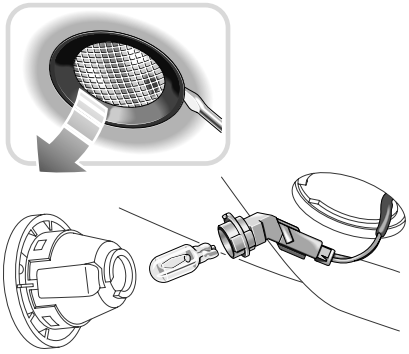
グローブ ボックス照明灯



H4082

小型のマイナス ドライバーをレンズ側部の凹部（図を参照）に挿入し、グローブ ボックスから慎重にこじり出してください。電球をクリップから取り外してください。

上部足元ランプ

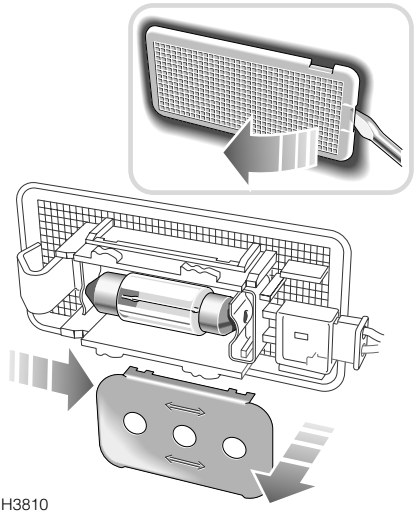


H3884

小型のマイナス スクリュー ドライバーをランプ ユニット側部の下に挿入し、ユニットを足元部から慎重にこじり出します。

電球ホルダーをひねって取り外し、次に電球を引き抜きます。

荷室灯



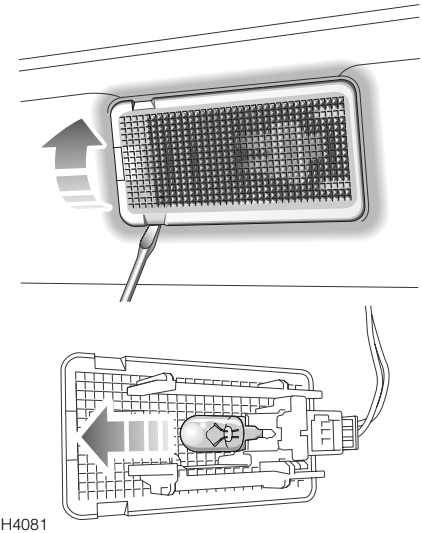
H3810

小型のマイナス ドライバーをレンズ側部の凹部に挿入し、ランプ ユニットから慎重にこじり出してください（図を参照）。

金属プレートを右側にスライドさせ、ランプ ユニットから取り外します（図を参照）。電球を引き出してください。

電球の交換

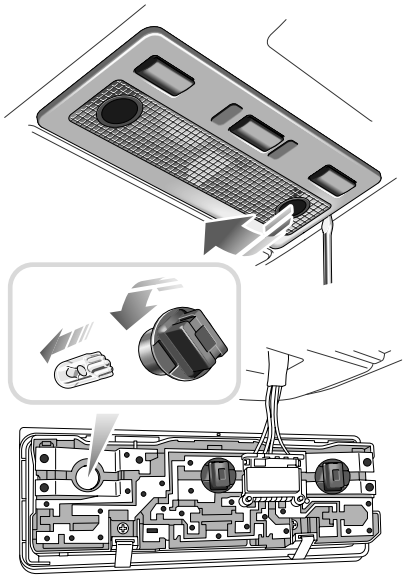
テールゲート ランプ



H4081

小型のマイナス スクリュー ドライバーを挿入し、ライト ユニットからレンズを慎重にこじり出し、次に電球を引き抜きます。電球を引き出してください。

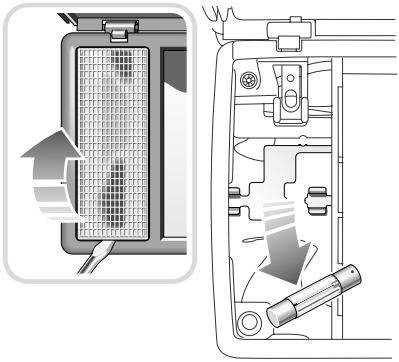
マップ ランプ



H3883

小型のマイナス スクリュー ドライバーをレンズ側部にある凹部に挿入し（図のように）、ライト ユニットからレンズをこじり出し、次に電球をクリップから引き抜きます。電球ホルダーを反時計方向に回して、ランプ ユニットから外し、次に電球を回してホルダーから外します。

バニティ ミラー照明灯



H3882

バニティ ミラーのカバーを開け、小型のマイナス スクリュー ドライバーをテコに（挿入図を参照）、ランプ ユニットからレンズとミラーをこじり出します。電球を引き出してください。

電球の交換

テクニカル データ

テクニカル データ
潤滑剤とフルード 219
容量 220
エンジン 220
電気系統 221
ステアリング 221
ホイールとタイヤ 222
車両重量 223
けん引重量 223
寸法 224
けん引バー寸法 225
燃料消費率 227

サービス データ
型式 228
かじ取り装置 228
制動装置 228
走行装置 228
動力伝達装置 229
電気装置 229
原動機 229

潤滑剤とフルード

様々な気候条件における推薦オイル

エンジン オイル

以下に準拠している 5W/30、5W/40、5W/50、10W/30、10W/40、10W/50 または 10W/60 オイルを使用してください。ACEA　A1 および気候条件に適合する粘度のもの。

知識

ACEA A2 オイルも適合しています。

メイン ギアボックス

交換不用 Esso ATF LT71141 を使用してください。
代替品は使用しないでください。

トランスファ ギアボックス

Burmah-Castrol BOT26FMB 1 75W-90 synthetic − 代替品は使用しないでください。

ディファレンシャル

Castrol SAF-XO Final Drive Lubricant 75W/90 または API GL5 に準拠しているもの。

パワー ステアリング

Texaco Cold Climate PAS フルード 14315

ブレーキ フルード

最低沸点が 260°C で、FMVSS 116 DOT4 に準拠しているもの。

前面ガラス ウォッシャー

ウォッシャー液

エンジン冷却システム

Texaco AFC クーラントを使用。入手できない場合は、他の珪酸系 / 非燐酸系防錆剤入りエチレン グリコール系不凍液（メタノールを含有しないもの）を必ず使用してください。–36°C までの凍結防止のため、不凍液と水を 1:1 でお使いください。

エアコン コンプレッサー オイル

デンソー ND-8、または Unipart ND-8

慣性リール シート ベルト

潤滑剤は使用しないでください。これらの構成部品は、製造時に寿命分だけ注油されています。

容量

以下に示すオイル容量は近似値ですので、目安としてご参照してください。
オイルは全て、適切なレベルゲージまたはレベル プラグで設定するようにしてください。

燃料タンク	100 リットル
エンジン オイル（およびフィルター）交換時	8.9 リットル
オートマチック（メイン）ギアボックス	6.0 リットル
トランスファ ギアボックス	0.95 リットル
フロント ディファレンシャル	0.75 リットル
リア ディファレンシャル	1.0 リットル
ウォッシャー液リザーブ タンク	5.0 リットル
冷却システム（交換時）	13 リットル

エンジン

V8 ガソリン

燃料	無鉛 95 RON
排気量	4398 cm^3
点火順序	1-5-4-8-6-3-7-2
ボア	92.0 mm
ストローク	82.7 mm
気筒数	8
圧縮比	10:1
点火プラグ	NGK BKR6EQUP
点火プラグ ギャップ	調整不能

テクニカル データ

電気系統

バッテリーのタイプ	メンテナンス フリー タイプ
バッテリー定格容量	110 Ah
電圧と極性	12V、マイナス（−）側アース
充電システム	オルタネーター

ステアリング

ステアリング ホイール最大回転数	3.4
最小回転直径	11.4 m
キャンバ角	0°10’ ± 20’
キャスタ角	6°40’ ± 30’
キング ピン傾き	11°45’ ± 30’
フロント ホイール トーアウト	0° ± 1

ホイールとタイヤ

ホイールのサイズとタイプ

タイプ	サイズ
アロイ ホイール	7.5J × 18
ホイール ナット締付けトルク	140 Nm

ホイール データ

ホイール サイズ	オフセット	PCD
7.5J × 18"	53	120
8.0J × 19"	57	120

タイヤ仕様

ホイール サイズ	タイヤ
7.5J × 18	255/60 R18 H - All terrain tyre

タイヤ空気圧

負荷条件		タイヤ空気圧 (kPa)
通常走行時	フロント	230
	リア	250
最大車両総重量積載時	フロント	250
	リア	300

車両重量

車両重量（空車時）	
前軸重	1230 kg
後軸重	1190 kg
車両重量	2420 kg

乗員定員	5 人

車両総重量（積車時）	
前軸重	1235 kg
後軸重	1460 kg
車両総重量	2695 kg

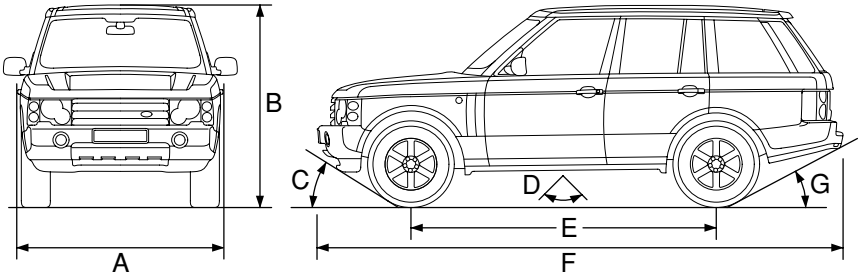
けん引重量

最大許容けん引重量	オン ロード	オフ ロード
ブレーキ非装着トレーラー	750 kg	500 kg
オーバーラン ブレーキ装着トレーラー	3500 kg	1000 kg
ルーフ ラック荷重（ルーフ ラックの重量を含む）	100 kg	100 kg

アドバイス

全ての数値は規制の対象となり ます。けん引規制に適合しているかどうかは、ドライバーご自身の責任でご確認ください。

寸法



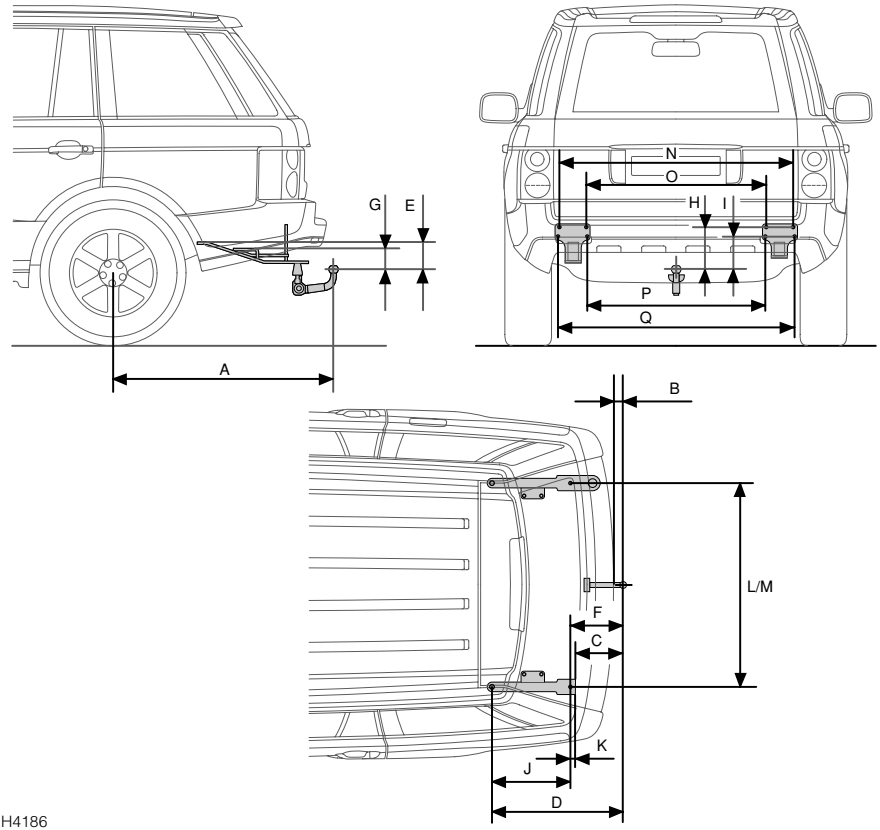
H3769

A	全幅	1955 mm
B	全高	1865 mm
E	ホイールベース	2880 mm
F	全長	4950 mm
	トレッド - フロント - リア	 1630 mm 1625 mm

オフ ロード性能

C	アプローチ アングル	35°
D	最大ブレークオーバー アングル	30°
G	デパーチャー アングル（けん引バーなし）	29°

けん引バー寸法



A	ホイール中心からトウボール中心	1235 mm
B	バンパーの後端からトウボールの中心まで （トウボール オーバーハング）	40 mm
C	外側アタッチメント ポイント中心からトウボール中心まで	253 mm
D	リア内側アタッチメント ポイント中心からトウボール中心まで （水平）	714 mm
E	リア内側アタッチメント ポイントからトウボール中心まで（垂直）	153 mm
F	内側アタッチメント中心からトウボール中心まで（水平）	286 mm

G	内側アタッチメント中心からトウボール中心まで（垂直）	138 mm
H	外側 No.1 および No.2 アタッチメント中心からトウボール中心まで	236 mm
I	外側 No.3 および No.4 アタッチメント中心からトウボール中心まで	184 mm
J	内側アタッチメント中心からトウボール中心まで	428 mm
K	内側アタッチメント中心から外側アタッチメント中心まで	33 mm
L	リア内側アタッチメント間の距離	1092 mm
M	内側アタッチメント間の距離	1092 mm
N	外側 No. 1 アタッチメント間の距離	1231 mm
O	外側 No. 2 アタッチメント間の距離	953 mm
P	外側 No. 3 アタッチメント間の距離	940 mm
Q	外側 No. 4 アタッチメント間の距離	1244 mm

燃料消費率

以下に示された燃料消費値率は、標準テスト要領（99/116/EC 指令の新 EC テスト要領）を用いて計算され、1996 年の乗用車燃料消費（改訂）命令に準拠しています。通常の走行における車両の実際の燃料消費率は、運転技術、道路と交通条件、環境要因、車両の負荷と条件により、テスト要領で得られた数値とは異なることがあります。

燃料消費率

市街地	郊外	混合
km/ ℓ	km/ ℓ	km/ ℓ
4.5	7.9	6.2

市街地走行

市街でのテスト走行はエンジンが冷えた状態から始動して、一連の加速、減速、定速運転とエンジン アイドリングで構成されています。テスト走行中の最高速度は 50 km/h、平均速度は 19 km/h です。

郊外での走行

郊外でのテスト走行は市街地テストの直後に実施されます。テストのほぼ半分は定速走行で構成され、残りは一連の加速、減速、エンジン アイドリングで構成されています。テスト走行中の最高速度は 120 km/h、平均速度は63 km/h です。このテストは 7 km 以上の距離で実施されます。

市街地 / 郊外走行の混合

市街地 / 郊外走行の混合テストでは、市街地と郊外テスト走行の両方のテスト結果における走行距離の違いを考慮した平均値になっています。

知識

これらの値は、従前要求されていた 1983 年の乗用車燃料消費規則の ECE/EEC 要領に基づいて作成された値と比較することはできません。テスト要領が変更されたため、同一車両が両方のテストを受けたとしても、市街地走行での数値は違ったものになります。

サービス データ

型式

4.4 リッター ガソリン車 GH-LM44

かじ取り装置

ステアリング

遊び

遊びは直進状態にてホイール外周で . . . . . 20 ～ 30 mm

ホイール アライメント

トーイン . . . . . 0° ± 1

キャンバー . . . . . 0°10’ ± 20’

キャスター . . . . . 6°40’ ± 30’

制動装置

ブレーキ ペダル

遊び . . . . . 1 ～ 5 mm

床板とのすき間

踏力 40 kg で踏込時床板とのすき間 . . . . . 80 mm 以上

ブレーキのきき具合

左右和 . . . . . 検査時軸重の 10 % 以上（後軸）

左右差 . . . . . 検査軸重の 8 % 以下

総和 . . . . . 検査時車両重量の 50 % 以上

駐車ブレーキ レバー

引きしろ

操作力 20 kg の時　引きしろ. . . . . 3 ノッチ

駐車ブレーキのきき具合

制動力 . . . . . 検査時車両重量の 20 % 以上

リザーバー タンク

液量 . . . . . 液面レベルの「**MAX**」と「**MIN**」の間にあること

パッドの摩耗

使用限度. . . . . 前輪 3.0 mm

後輪 3.0 mm

ディスクの摩耗

使用限度. . . . . 前輪 28.4 mm

後輪 10.4 mm

走行装置

タイヤ サイズ 255/60 R18

タイヤの空気圧

前輪 . . . . . 2.3 kgf/cm^2
後輪 . . . . . 2.5 kgf/cm^2

タイヤの荷重値 . . . . . 1120 kg
最大荷重空気圧 . . . . . 250 kPa
タイヤの溝の深さ . . . . . 残溝 1.6 mm

ホイール

ホイール ナットの締付トルク . . . . . 140 Nm
ホイール サイズ . . . . . 7.5J × 18
ホイール ベアリングの締付トルク . . . . . 420 Nm

アドバイス

運転による温度の上昇で、タイヤの空気圧は約 20 kPa ほど高くなりますので、タイヤ空気圧を調べる場合は、タイヤが冷えてから実施してください。直射日光や高温の場所に駐車していた場合は、タイヤ空気圧を下げずに、車を日陰に移動し、タイヤが冷えるのを待って点検を行うようにしてください。

動力伝達装置

トランスミッション

油量 . . . . . レベル ゲージの上限と下限の間にあること

ディファレンシャル

油量 . . . . . フィラー ボルト穴下面と同一レベルにあること

電気装置

点火装置

プラグ ギャップ . . . . . 無調整
点火時期 . . . . . 自動調整

バッテリー

液量 . . . . . メンテナンス フリー タイプ
※インジケーターを定期的に確認すること（「**バッテリー**」の項参照）。

原動機

潤滑装置

油量 . . . . . レベル ゲージの上限と下限の間にあること

冷却装置

冷却水量 . . . . . リザーバー タンクの上限と下限の間にあること

さく引

I

ISOFIX チャイルド シート 28

S

SRS エアバッグ
- 安全性 30
- 位置 30
- 警告灯 34
- サイド エアバッグ 33
- 整備 35
- 操作 32
- 注意事項 35
- 売却または廃車 36
- ヘッド エアバッグ 34
- 膨張 32

V

VIN（車両識別番号） v

あ

アース ポイント 190
アーム レスト
- 前席 18
- リア 18

アクセサリー 176
アクセス モード 126
足元ランプ
- 電球の交換 212, 213

アプローチ ライト 76
アラーム 6
安全に関する表示 v
アンチロック ブレーキ システム（ABS） 117
アンテナ 89

い

イグニッション スイッチ 93
一般データ 219
インフォメーション ラベル vi

う

ウィンドウ 62
ウォッシャー
- 前面ガラス
  - 操作 59

ウォッシャー ノズル
- 前面ガラス 166

え

エア コンディショナー 69
エア サスペンション
- アクセス モード 126
- オフロード モード 126
- クロール モード 127
- ハイウェイ モード 125

エア サスペンション（EAS） 124
エア配分選択スイッチ 70
エアバッグ
- 清掃 175

エマージェンシー ブレーキ アシスト（EBA） 118
エンジン
- エンジン ルーム 156
- 始動 94
- 暖機運転 96
- データ 220
- 慣らし運転 97

エンジン オイル
- 仕様 157
- 点検と補充 157
- 廃棄処分（使用済みエンジン オイル） . . . 153

エンジン冷却水
- 交換 151
- 点検と補充 159

お

オイル（エンジン）
- 仕様 157, 219
- 点検と補充 157

オーディオ システム 90
オーディオ リモート コントロール . . 89
オートマチック ギアボックス 106
- 始動 110
- 自動選択モード 111

お手入れ（内装） 175
オドメーター（積算走行距離） 41

さく引

オフロード サスペンション
コントロール 124
オフロード走行 118, 137
V 字形の谷をまたいでの走行 . . . 145
エア サスペンション 139
エンジン ブレーキ 138
尾根を横切る 146
オフロード走行後 140
加速 138
ギアの選択 138
急斜面（下る） 144
急斜面（登る） 143
最低地上高 139
斜面を横切る 145
ステアリング 139
滑りやすい路面 142
制動 138
テクニック 137
でこぼこ道 142
点検の必要性 140
渡河走行 147
渡河走行の後にすること 147
トラクションを失ったとき 139
フロント ビブ スポイラーの
取り外し 141
溝を横切る 146
柔らかい地面や
乾いた砂地の走行 142
路面状態の点検 138
わだち 145
温度調節ダイヤル 70

か

カーペット（清掃） 175
ガソリンスタンドでの安全確保 101
カップ ホルダー 80
運転席 81
後席 82
助手席 81
下部足元ランプ
電球の交換 212
ガラス デフロスター スイッチ
後面 71
前面 71
ガレージ内での安全について 152
換気 66
間欠可変遅延モード 59
寒冷時には
エンジン始動 95

き

ギア位置ディスプレイ 49
ギア選択
キックダウン 111
コマンドシフトによる
マニュアル操作 109
スポーツ モード 108
ギアボックス
オイルの仕様 219
オートマチック操作 106
自動選択モード 111
トランスファ ギアボックス 112
キー 5
キー / ハンドセット ナンバー 5
キセノン ランプ ユニット 204
キックダウン 111
給油口フラップ緊急リリース 103
緊急時のエンジン始動 189

く

クーラント液
仕様 219
クルーズ コントロール 114
グローブ ボックス 83
グローブ ボックス照明灯
操作 75
電球の交換 212

け

計器パネル 4
計器類 40
警告灯 50
清掃 175
計器パネル照明ディマー スイッチ . . . 57
計器パネル照明灯
操作 54
計器類
水温計 41
スピードメーター 40
タコメーター 40
燃料計 40
警告音 53

さく引

警告灯 8
SRS エアバッグ 34
SRS エアバッグ システム 51
エマージェンシー ブレーキ アシスト システム（EBA） 51
エンジン チェック 50
クルーズ コントロール作動 52
シートベルト 52
前照灯上向きビーム 52
ダイナミック スタビリティー コントロール（DSC） 52
駐車ブレーキ システム 51
電子制御アンチロック ブレーキ システム（ABS） 51
バッテリー充電 50
ヒル ディセント コントロール（HDC）情報 52
ブレーキ システム 51
フロント フォグ ランプ 50
方向指示器 52
油圧低下 50
リア フォグ ランプ 50
警告ラベル vi
携帯電話 88
けん引 . . . . . 128，195
けん引バー寸法 225
固定箇所 197
重量 . . . . . 129，223
デタッチャブルけん引バー 131
トレーラー ソケット 129
ドロップ プレート式 けん引バー 130
けん引重量 223
ノーズ ウエイト 223
けん引バー 130
寸法 225
デタッチャブルけん引バー 131
取り付け 130
ドロップ プレート式けん引バー 130
けん引バーにかかる荷重（ノーズウエイト） 223
けん引フック 194

こ

工具キット 181
後席シート 20
折りたたみ方 20
後退灯
電球の交換 209
後面ガラス ウォッシャー 60
後面ガラス ワイパー 60
コーナーリング ブレーキ コントロール 118
固定箇所 197
固定ポイント（荷物） 84
コマンドシフト操作 109
コマンドシフトによる マニュアル操作 109
小物入れ 85

さ

サービス データ 228
サーボ アシスタンス（ブレーキ） . . . 116
最低地上高 139
サイド エアバッグ 33
サン バイザー 83
サングラス ホルダー 80
サンルーフ
緊急操作 65
電動操作 64
ブラインド 65

し

シート
遠隔作動 20
後席 20
シート メモリー機能 19
手動によるヘッド レストの調整 . . 17
前席（電動） 14
チャイルド シート 27
電動によるクッションの角度調整 . 16
電動による背もたれの調整 15
電動による シートの前後方向の調整 14
電動による高さ調整 15
電動による ランバー サポートの調整 16
ヒーター付き 21
シート位置 31
シート下の収納ボックス 78
シート ヒーター
後席 73
前席 . . . . . 69，73

さく引

シートベルト
安全性 22
お手入れ 26
清掃 175
操作 23
チャイルド シート 27
調整 24
テスト 26
プリテンショナー 24
シートベルト プリテンショナー
整備 25
シート メモリー 19
シガー ライター 77
軸荷重 223
システム点検スイッチ 41
室内灯
操作 75
始動 110
エンジン 94
寒冷時には 95
緊急 189
触媒 99
暖機運転 96
始動阻止 10
シフト レバー 106
位置 107
シフト レバー リリース ボタン 106
車高 96
シャシー ダイナモ（台上試験機） . . . 154
車速感応ワイパー 59
ジャッキ（タイヤ交換） 181
ジャッキ操作 187
ジャッキを取り付ける位置 186
車幅灯
操作 54
電球の交換 207
車両識別番号（VIN） v
車両重量 223
ジャンプ ケーブル 190
ジャンプ スタート
救援される場合 191
救援する場合 192
収納
サングラス 80
シート下 78
荷室 85
収納エリア 85
収納ボックス 85
シート下 78
重量（車両） 223
潤滑剤
仕様 219
上部足元ランプ
電球の交換 213
照明
前照灯消灯遅延機能 54
駐車時 55
照明（外部）
車幅灯 54
前照灯 54
非常点滅表示灯 57
尾灯 54
フロント フォグ ランプ 56
方向指示器 55
リア フォグ ランプ 56
照明（室内）
グローブ ボックス 75
室内灯 75
読書灯 75
触媒コンバーター 99

す

水温計 41
スーパーロック 7
スタビリティー コントロール 120
ステアリング コラム
ロック 93
ステアリング データ 221
ステアリング ホイール
調整 37
ヒーター 74
ステアリング ホイール ヒーター 74
スノー チェーン 172
スピードメーター 40
スポイラー
取り外し（フロント） 141
スポーツ モード 108, 110
寸法
けん引バー 225
車両（外側） 224

さく引

せ

清掃（外部）. 173
整備メッセージ センター 49
施錠 6
前 / 後面ガラス ウォッシャー 165
　ウォッシャー液の補充 165
　補充 165
前面ガラス ウォッシャー
　液仕様 219
洗車（車体）. 173
前照灯
　消灯遅延機能 54
　操作 54
　電球の交換 205
　ワイパー ブレードの交換 167
前照灯上向きビーム
　電球の交換 205
前照灯ウォッシャー 166
前照灯ウォッシャーおよびワイパー . . 60
前照灯下向きビーム
　電球の交換 206
センター コンソール ボックス 82
前面ガラス ウォッシャー
　操作 59
前面ガラス ワイパー 58
　間欠可変遅延モード 59

そ

走行 96, 99
　スポーツ モード 110
走行シミュレーション テスト 154
総重量 223
側面方向指示灯
　電球の交換 210

た

ダイナミック スタビリティー
　コントロール 120
タイヤ
　お手入れ 170
　空気圧 170, 222
　空気注入バルブ 171
　交換 171
　仕様 222
　スノー チェーン 172
　パンク 171
　摩耗インジケータ 171
タイヤ交換 182, 187
　工具キット 181
　ジャッキ操作 187
　ジャッキを取り付ける位置 186
　非常停止表示板 183
　輪止め 182
タイヤ摩耗 171
タコメーター 40
ダッシュボード 3
暖機運転
　エンジン 96

ち

チャイルド シート 27
　ISOFIX 28
チャイルド ロック 11
駐車時点灯機能 55
駐車ブレーキ 119

て

定期点検 151
テールゲート
　開ける 12
　緊急の開け方 13
テールゲート ランプ
　電球の交換 214
テクニカル データ 219
デタッチャブルけん引バー 131
電球の交換 204
　足元ランプ 213
　下部足元ランプ 212
　キセノン ランプ 204
　グローブ ボックス照明灯 212
　後退灯 209
　車幅灯 207
　上部足元ランプ 213
　前照灯上向きビーム 205
　前照灯下向きビーム 206
　側面方向指示灯 210
　テール ランプ 208
　テールゲート ランプ 214
　ドア ランプ 212
　ナンバー プレート ランプ 210
　荷室灯 213

さく引

パドル ランプ 212
バニティ ミラー照明灯 215
ハロゲン電球 204
フロント フォグ ランプ 211
方向指示灯 207
マップ ランプ 214
リア フォグ ランプ 208
リア方向指示灯 208
点検スイッチ 41
点検整備
ガレージ内での安全について ... 152
週ごとの点検 151
定期点検 151
特殊な使用環境 152
日常点検 151
排出ガス浄化装置 154
毎日の点検 151
有毒な液体について 153
電源ソケット 79
電子制御エア サスペンション（EAS） 124
電子制御トラクション コントロール 121
電子制御ブレーキ ディストリビューション システム（EBD） 119
電装品 176
電話 88

と

ドア ハンドル
車内側 8
ドア ミラー 38
折りたたみ 38
調整 38
ドア ランプ
電球の交換 212
ドア ロック ボタン
車内側 8
盗難防止アラーム 6
渡河走行 147
読書灯
操作 75
時計 76
時刻設定 76
塗装のつや出し（車体） 174
トラクション コントロール 121
トランスファ ギアボックス 112
操作 112
ハイ レンジ 112
ロー レンジ 112
トランスミッション
スポーツ モード 108
トリップ コンピューター 42
トリップ メーター 41
トリップ メーター リセット ボタン .. 41
トレーラーまたは陸送車への固定 .. 197
ドロップ プレート式けん引バー ... 130

な

内気循環スイッチ 71
内装（お手入れ） 175
慣らし運転 97
ナンバー プレート ランプ
電球の交換 210

に

荷室アクセス ハッチ 84
荷室カバー 86
荷室灯
電球の交換 213
荷室のヒューズ ボックス 203
日常点検 151
荷物固定ポイント 84, 133
荷物の積載
荷物固定ポイント 133
ルーフ ラック 133

ね

燃費 97
燃料
安全性 101
空のタンク 103
経済性 97
仕様 102
消費率 227
タンク容量 220
燃費 97
燃料給油口 102
燃料切れ 103
補給 103
燃料計 40

さく引

は

パーキング エイド 104
パーク ディスタンス コントロール（PDC）. 104
パーツとアクセサリー 176
ハイ レンジ ギア 112
灰皿 77
　後席 78
　前席 77
排出ガス浄化装置 . . . . . 98，154
発光ダイオード（LED）. 205
バッテリー
　安全性 168
　ジャンプ スタート 189
　充電 169
　仕様 221
　取り外しと交換 169
　メンテナンス 168
パドル ランプ
　電球の交換 212
バニティ ミラー（照明灯）. 83
バニティ ミラー照明灯
　電球の交換 215
ハロゲン電球 204
パワー ウィンドウ 62
パワー ステアリング
　緊急操作 163
パワー ステアリング液
　仕様 219
　点検と補充 163
ハンドセット
　交換 5
　操作 6
　電池交換 10

ひ

非常時のけん引 . . . . . 194，195
非常停止表示板 183
非常点滅表示灯 57
尾灯
　操作 54
　電球の交換 208
ヒューズ 198
　荷室 203
ヒューズ ボックス
　荷室 203
ヒューズ ボックス メイン（車室内）. 199
ヒューズ メイン ヒューズ ボックス . 199
表示板
　非常停止 183
ヒル ディセント コントロール（HDC）
　HDC 情報表示灯 / 故障警告灯 . . 123
　操作 122

ふ

ブースター ケーブル 190
　接続ポイント 190
ブースター始動
　救援される場合 191
　救援する場合 192
風量調節ダイヤル 70
フォグ ランプ
　電球の交換 208
フォグ ランプ（リア）
　操作 56
吹き出し口 67
　後席 68
不凍液 160
プリテンショナー 24
　整備 25
フルード
　仕様 219
ブレーキ
　アンチロック ブレーキ システム（ABS）. 117
　エマージェンシー ブレーキ アシスト（EBA）. 118
　オフロード走行 118
　警告灯（ABS）. 118
　コーナーリング コントロール . . 118
　サーボ アシスタンス 116
　駐車ブレーキ 119
　電子制御ブレーキ ディストリビューション システム（EBD）. 119
　ブレーキ システム 116
　ブレーキ パッド 116
　ブレーキ液の点検と補充 161
ブレーキ フルード
　仕様 219

さく引

ブレーキ液
交換 151
仕様 162
点検と補充 161
フロント フォグ ランプ
操作 56
電球の交換 211

へ

ヘッド エアバッグ 34
ヘッド レスト
手動調整 17

ほ

ホイール
サイズとタイプ 222
方向指示器
操作 55
方向指示灯
電球の交換 207, 208
フロント
電球の交換 207
リア
電球の交換 208
ホーン 61
補助電源ソケット 79
補助動力装置 98
ボディ下回りの清掃 173
ボンネットの開け方 155

ま

マップ ランプ
電球の交換 214

み

ミラー（車内） 83
ミラー（外側）
清掃 174

む

胸元への吹き出し口 67

め

メイン ヒューズ ボックス 199
メッセージ 43
メッセージ センター
インフォメーション 44
ギア位置ディスプレイ 49
警告メッセージ 44
重大警告 44
整備 49
メイン 43
メンテナンス ノート 151

ゆ

有毒な液体について 153

よ

容量 220

ら

ライト
アプローチ 76
ラジオ アンテナ 89
ラジオ / カセット プレーヤー 90
CD チェンジャー 90
アンテナ 89
リモート コントロール 89
ラベル vi
ランバー サポートの調整 16

り

リア フォグ ランプ
電球の交換 208
リモート ハンドセットの電池 10

る

ルーフ ラック 133
ルーム ミラー 83

れ

冷却システム 159
冷却水
仕様 160
レイジー シート 20
冷房スイッチ 71

ろ

ロー レンジ ギア 112
ロック 11
ロック スイッチ（車内）. 8

わ

ワイパー ブレードの交換 167
　後面ガラス 167
　前照灯 167
　前面ガラス 167
輪止め 182

メ モ

メ モ

BY APPOINTMENT
TO HM THE QUEEN
MANUFACTURERS OF
LAND ROVER VEHICLES
LAND ROVER, WARWICK

BY APPOINTMENT
TO HRH THE DUKE OF EDINBURGH
MANUFACTURERS OF
LAND ROVER VEHICLES
LAND ROVER, WARWICK

BY APPOINTMENT
TO HM QUEEN ELIZABETH THE QUEEN MOTHER
MANUFACTURERS OF
LAND ROVER VEHICLES
LAND ROVER, WARWICK

BY APPOINTMENT
TO HRH THE PRINCE OF WALES
MANUFACTURERS OF
LAND ROVER VEHICLES
LAND ROVER, WARWICK